

門真市地域防災計画改定業務

市民事業者アンケート報告書

平成 27 年 9 月

門 真 市

目 次

I	市民事業者アンケート実施概要	1
1.	アンケート実施概要	1
1-1	目的	1
1-2	対象者及び配布枚数	1
1-3	実施期間	2
1-4	アンケートの内容・設問設定	2
2.	アンケート回収結果	9
2-1	回収結果	9
2-2	回収率の検証	9
3.	アンケート解析概要	11
3-1	解析概要	11
3-2	クロス集計項目	11
4.	アンケート解析結果	15
4-1	市民用	16
4-2	事業所・施設用	123
4-3	自治会用	169
II	防災談話で実施したアンケート（市実施）	228
1.	アンケート実施概要	228
1-1	目的	228
1-2	対象者及び回収枚数	228
1-3	アンケートの内容・設問設定	228
2.	主なアンケート結果概要	229
III	資料編	231
(1)	市民用アンケート調査票	231
(2)	事業所・施設用アンケート調査票	247
(3)	自治会用アンケート調査票	261
(4)	送付用封筒印刷見本	272
(5)	返信用封筒印刷見本	273
(6)	御礼兼督促用はがき記載内容	274

I 市民事業者アンケート実施概要

1. アンケート実施概要

1-1 目的

今回実施するアンケートは、改定する地域防災計画に市民等の意見を反映するとともに、市民等が防災・減災等に関してどのような意識を持っているのか把握することを目的として実施した。

1-2 対象者及び配布枚数

アンケートは「市民用」、「事業所・施設用」、「自治会用」の3種類作成し、以下の対象者に対して配布した。

なお、対象者の抽出は発注者が実施し、その抽出結果を用いてアンケートの発送を行った。

表-1 アンケート対象者及び配布枚数一覧

アンケート名称	対象者	配布枚数								
市民用	無作為に抽出した市内在住の 18 歳以上の男女 ※男女比については、50 : 50 となるよう調整 ※年齢構成比については、市民の年齢構成比と同等となるよう調整 ※居住先については、市民の行政区別人口比と動となるよう調整するとともに、1 行政区あたり最低 1 通は配布	2,458 通								
事業所・施設用	① 守口門真商工会議所 H P 掲載 会員企業一覧市内事業所より抽出 A～C 各 20 社 60 社 <table><tr><td></td><td>従業員数</td></tr><tr><td>A</td><td>20 人未満</td></tr><tr><td>B</td><td>20 人以上 300 人未満</td></tr><tr><td>C</td><td>300 人以上</td></tr></table> ② 高齢者福祉施設 17 社 ③ 私立幼稚園・保育園 22 園 ④ 障がい者児通所デイサービス 6 団体 ⑤ 障がい者施設等 19 施設		従業員数	A	20 人未満	B	20 人以上 300 人未満	C	300 人以上	124 通
	従業員数									
A	20 人未満									
B	20 人以上 300 人未満									
C	300 人以上									
自治会用	自治会連合会に ① 加入自治会 105 団体 ② 未加入自治会 13 団体	118 通								
合 計		2,700 通								

1－3 実施期間

アンケートについては、下表の期間において配布・回収を行った。

また、回答の御礼と未回答への催促を兼ねたはがきの投函を行った。

なお、回収期限後に返送されたアンケートについても、告知したアンケート回収期限以降の平成 26 年 10 月 7 日（水）到着分までについて、解析を行った（10 月 7 日以降の到着分なし）。

表-2 アンケート実施期間等

項目	実施日
アンケート配布	平成 26 年 9 月 1 日（月）
御礼兼督促用はがき投函	平成 26 年 9 月 9 日（火）
告知したアンケート回収期限	平成 26 年 9 月 16 日（火）
実際のアンケート回収期限	平成 26 年 10 月 7 日（水）

1－4 アンケートの内容・設問設定

アンケートの設問の内容については、以下の①～②の内容についての調査を考慮し設定した。

- ① 防災・減災対策・備蓄など各対象者が災害発生前に準備すべき内容の状況
- ② 災害発生後に行政に求める支援と提供可能な支援等

設定した設問は表-3～表-5のとおり。

アンケート調査票については、資料編に添付した。

表-3 市民用アンケート設定設問

設問番号	設問内容
防災に関する意識	
Q 1	自然災害によってもたらされる次の被害について、あなたやご家族が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
Q 2	あなたは、住んでいる地域で不安に思う災害はありますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 3	あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、ご家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどの話し合いを行ったことがありますか。それともありませんか。
Q 3-1	話し合った内容について、あてはまるものを全てあげてください。
Q 4	あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 5	災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。
Q 6	東日本大震災以降、地震に対する国や府の被害想定が見直され、南海トラフ地震の想定もされています。府の想定では、市域でも震度6弱程度の想定がされていますが、巨大地震災害で被災することについてどのように感じていますか。
Q 6-1	被災した場合、どのような危険があると思いますか。
被害軽減策の実施状況	
Q 7	過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがありますか。
Q 7-1	参加しなかった理由は何ですか。
Q 7-2	防災訓練が実施された場合もしくは実施を知った場合は参加すると思いますか。
Q 8	あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 9	地震で火災が多く発生した場合には、消防隊が不足することも考えられます。到着が遅れる場合に、地震火災による被害を最小限に抑えるために必要だと思うことは何ですか。
Q10	市では古い住宅の耐震診断の助成をしています。利用していますか。
非常時持出品、備蓄物資の準備状況	
Q11	あなたの家では災害時のために、持出品の準備や備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q11-1	ご自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせると思いますか。
Q11-2	ご自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。ご家族1人あたり1日3リットルで計算してください。

設問番号	設問内容
行政に求める支援策、情報提供	
Q12	あなたは、普段防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいと思いますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q13	あなたがお住まいになっている地域で、普段災害の危険性に関する情報や災害対策に役立つ情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q14	あなたがお住まいの地域で、災害時に提供される情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q15	あなたは、現在、防災全般に関する知識や情報を何によって入手していますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q16	地域の自主防災力を高めるためには、何が最も重要だと考えますか。
Q17	地域で大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要になった場合、あなたなら何ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q18	避難行動要支援者に対する支援について、災害時の市による活動のほかに、重要な活動主体は何だと思えますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q19	災害時に避難する際、近所に避難行動要支援者がいた場合に、その方の避難を手助けすることができると思えますか。
Q19-1	避難の手助けの具体的な内容を教えてください。
良好な避難所生活環境の確保に向けた方策	
Q20	あなたは、避難する一時避難地、避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。
Q21	自宅に大きな被害がない場合や避難指示区域に指定されていない場合、避難所に避難しますか。
Q21-1	避難所へ避難しない理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q22	市は被災者がどこの避難所にも避難できるように、避難先を固定していないことについてどう思いますか。
Q23	避難先から自宅に戻ると考える最大のきっかけは何ですか。
Q24	避難所において最も充実してほしいことは何ですか。
防災行政無線について	
Q25	市では、市内40箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。
Q25-1	防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

表-4 事業所・施設用アンケート設定設問

設問番号	設問内容
防災に関する意識	
Q 1	自然災害によってもたらされる次の被害のうち、貴事業所等が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
Q 2	災害に対する貴事業所全体の意識として、以下の①～④のそれぞれについて、最も当てはまる番号を1つずつ○で囲んでください。
被害軽減策の実施状況	
Q 3	貴事業所は、災害発生時の対応などを取り決めた、文書化された防災計画（法定の防火計画を除く）または文書化された行動マニュアル（災害発生時の社員の行動指針や役割分担を取り決めたもの）を策定していますか。
Q 3-1	防災計画または行動マニュアルの策定に際し、想定した災害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 4	貴事業所ではどのような防災対策を実施しましたか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 5	貴事業所では、災害用に食料等の備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 5-1	貴事業所で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。従業員または利用者1人あたり1日3リットルで計算してください。
Q 5-2	貴事業所に通常買い置いている「食料」で災害時に何日程度暮らせると思いますか。
Q 6	貴事業所の災害対策を進める上での問題や課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
業務継続計画等の策定状況	
Q 7	貴事業所では災害に備えて業務継続計画（BCP）を策定していますか。
Q 7-1	業務継続のための具体的な取り組み状況について、あてはまるものを全てあげてください。
Q 7-2	策定した理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 7-3	策定時の問題点・課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 7-4	未策定の理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
社員、顧客の安全確認方法	
Q 8	貴事業所で従業員や入所者等を対象に実施・参加している訓練等について、あてはまるものを全てあげてください。

設問番号	設問内容
Q 9	社員と会社との安否確認の手段は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q10	地震災害が発生した場合、貴事業所の社員が避難する場所はどこに指定していますか。
帰宅困難者対策	
Q11	貴事業所の社員で帰宅困難者の発生が予想されますか。
Q12	貴事業所では災害が発生したときに従業員に対してどのように対応しますか。
Q13	地震等の発生により鉄道等が運行停止した場合、あなたの会社では、むやみに移動を開始せず、施設内で待機する等、一斉帰宅の抑制について、取り決めていますか。
Q13-1	具体的にどんな取り決めていますか。
Q14	貴事業所で実施している帰宅支援対策はありますか。あてはまるものを全てあげてください。
行政に提供可能な支援、物資	
Q15	災害発生時、行政に対する支援・協力についてどのように考えていますか。
Q15-1	行政に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。
地域に提供可能な支援、物資	
Q16	貴事業所周辺の地域住民とはどのような連携・協力をしていますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q17	災害発生時、地域に対する支援・協力についてどのように考えていますか。
Q17-1	地域に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q18	周辺地域との災害時の連携・協力を進める上で、問題や課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
行政に求める支援策	
Q19	以下のうち、貴事業所が通常時に活用したい支援施策について、あてはまるものを全てあげてください。

表-5 自治会用アンケート設定設問

設問番号	設問内容
防災に関する意識	
Q 1	自然災害によってもたらされる次の被害について、貴会が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
Q 2	災害が発生した場合の地域での心配な被害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
Q 3	貴会が行っている取り組みがありましたら、あてはまるものを全てあげてください。
Q 4	災害発生後の対応における地域での心配な点は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
避難を予定する避難所	
Q 5	貴会として、住民が避難する一時避難地・避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。
Q 6	市の避難所等の情報について、貴会から住民に回覧板などで周知されていますか。
Q 7	災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。
Q 8	避難所の運営は、避難者自らと自治会の方々が主体となって行っていただくこととなります。市が避難所を開設した場合に、貴会ではどのような活動ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。
自治会での備蓄状況	
Q 9	貴会では、どのような防災資機材や防災用品を整備・準備していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。 また、今後、整備・準備を特に重視したい防災資機材や防災用品は何ですか。あてはまるもののうち、5つまで□をつけてください。
防災訓練の実施状況	
Q10	過去3年間で実施した防災訓練や防災活動として行ったものについて、あてはまるものを全てあげてください。
Q11	防災訓練の実施形態は次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるものを全てあげてください。
Q12	防災訓練において住民参加のために行っている工夫や働きかけがありますか。あてはまるものを全てあげてください。

設問番号	設問内容
Q13	災害時には貴会として会員の安否確認を行う予定ですか。
Q13-1	安否確認は誰を対象として行う予定ですか。
Q13-2	安否確認はどのような方法で行う予定ですか。
身近な避難行動要支援者の把握状況、支援状況	
Q14	貴会として、災害時に援助が必要となる身体障がい者や高齢者などの避難行動要支援者を把握していますか（名簿や地図による把握など）。
Q14-1	避難行動要支援者を避難させる場合の方法を具体的に考えていますか。
Q14-2	具体的にどのような方法ですか。
Q14-3	避難行動要支援者の情報は定期的に更新していますか。
Q14-4	避難行動要支援者を把握していない理由を教えてください。
防災行政無線について	
Q15	市では、市内 40 箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。
Q15-1	防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

2. アンケート回収結果

2-1 回収結果

アンケートの回収結果は下表のとおりであった。

表-6 アンケート回収結果

	配布枚数	回収枚数	宛先不明枚数※1	実際の配布枚数	回収率※2
市民用	2,458 通	900	21	2,437 通	36.9%
事業所・施設用	124 通	75	0	124 通	60.5%
自治会用	118 通	92	0	118 通	78.0%
合計	2,700 通	1,067	21	2,679 通	39.8%

※1：宛先不明により返送されたアンケート枚数

※2：配布枚数から宛先不明枚数を除いた「実際の配布枚数」を母数として算出

2-2 回収率の検証

アンケート回収率の信憑性について、防災に関連するアンケートの回収率の他事例を整理すると表-7、表-8のとおりとなった。

門真市の回収率は、他事例と同等もしくは高い値となっていたため、回収率に問題はないと考える。

表-7 アンケート回収率の他事例との比較

	アンケート回収率	
	門真市	他事例
市民用	36.9%	24.3%～40.5%
事業所・施設用	60.5%	4.3%～26.0%
自治会用	78.0%	58.4%～86.0%

表-8 防災関連アンケートの回収率事例（参考）

（１）住民

実施主体	アンケート内容	送付対象	実施年	送付票数	回収票数	回収率
九州大学	H24 九州北部豪雨に関する被災地市民アンケート調査	市民（阿蘇市）	平成26年	750	210	28.0%
九州大学	H24 九州北部豪雨に関する被災地市民アンケート調査	市民（萩市）	平成26年	750	285	38.0%
埼玉県さいたま市	住宅防火・防災に関するアンケート	市民	平成25年	3,000	1,177	39.2%
長野県松本市	自主防災に関するアンケート	市民	平成25年	5,000	1,891	37.8%
福井県敦賀市	災害情報等に関する住民実態調査	市民	平成25年	1,200	486	40.5%
茨城県	地域防災計画改定に関するアンケート	県民	平成24年	12,000	2,890	32.4%
東京都練馬区	地震防災に関する意識調査	市民	平成24年	1,500	573	38.2%
愛知県弥富市	これからの高潮・洪水災害に備えるための意識調査	市民	平成22年	15,070	3,662	24.3%
門真市		市民	平成26年	2,437	900	36.9%

（２）事業所

実施主体	アンケート内容	送付対象	実施年	送付票数	回収票数	回収率
愛知県稲沢市	企業防災アンケート	事業所	平成24年	2,000	86	4.3%
東京都千代田区	事業所防災アンケート	事業所	平成23年	4,000	1,041	26.0%
門真市		事業所・施設	平成26年	124	75	60.5%

（３）自治会等

実施主体	アンケート内容	送付対象	実施年	送付票数	回収票数	回収率
静岡県三島市	自主防災組織アンケート	自主防災組織	平成26年	143	107	74.8%
東京都小金井市	地域防災計画に係るアンケート	町会・自治会	平成25年	77	52	67.5%
福井県小浜市	台風18号時の対応等に関するアンケート	自主防災組織	平成25年	143	123	86.0%
北海道	防災意識・自主防災組織に関するアンケート	町内会・自治会	平成24年	15,502	9,058	58.4%
滋賀県	地域防災力自治会アンケート	自治会	平成20年	3,211	2,484	77.4%
山口県下関市	地域防災力に関するアンケート	自治会	平成20年	820	537	65.5%
門真市		自治会	平成26年	118	92	78.0%

3. アンケート解析概要

3-1 解析概要

アンケート結果を用いて、単純集計、クロス集計、集計結果のグラフ化を行い、結果分析を実施した。

なお、クロス集計については、回収数の少ない「事業所・施設用アンケート」では実施せず、「市民用アンケート」及び「自治会用アンケート」で実施することとした。

3-2 クロス集計項目

(1) 市民用アンケート

市民用アンケート結果を用いて実施するクロス集計項目を、表-10 に整理した。

なお、中学校区毎に設定した町は下表のとおりとした。

表-9 中学校区別設定町名

学校名	町名				
第二中学校	大字打越	大池町	大橋町	沖町	上野口町
	大字北島	島頭2丁目	常盤町	大字野口	野里町
	舟田町	南野口町	大字横地		
第三中学校	一番町	桑才新町	寿町	栄町	新橋町
	末広町	殿島町	速見町	古川町	深田町
	本町	松生町	元町	柳町	柳田町
第四中学校	江端町	四宮6丁目	下馬伏町	島頭4丁目	千石東町
	千石西町	脇田町			
第五中学校	上島町	岸和田1丁目	岸和田2丁目	岸和田3丁目	岸和田4丁目
	北岸和田1丁目	北岸和田2丁目	北岸和田3丁目	北巢本町	下島町
	四宮1丁目	四宮2丁目	四宮3丁目	四宮4丁目	四宮5丁目
	城垣町	島頭1丁目	島頭3丁目	巢本町	東江端町
	宮前町				
第七中学校	打越町	北島町	大字桑才	五月田町	大字三番
	東田町	大字葎島	三ツ島1丁目	三ツ島2丁目	三ツ島3丁目
	大字三ツ島				
門真 はすはな 中学校	朝日町	泉町	石原町	大倉町	垣内町
	幸福町	小路町	常称寺町	月出町	堂山町
	中町	浜町	松葉町	御堂町	宮野町
	向島町				

※番地によって校区が決まる町名については、集計上一つの中学校のみの記載とした。

表-10 クロス集計項目（市民用アンケート）

設 問	分析軸					
	性別	年齢	住所 (中学校区別)	要 援 護 者 有 無	住 居 築 年 数	住 居 築 年 数
Q 1. 具体的に想像したことがある自然災害はあるか		●				
Q 2. 住んでいる地域で不安に思う災害はあるか			●			
Q 3. ここ1～2年の間に災害が起きたらどうするかなど話したことがあるか						
Q 3-1. 話した内容						
Q 4. 自宅以外へ避難しなければならない場合の対策をとっているか		●				
Q 5. 災害時に行政などが提供する情報の認知度		●				
Q 6. 巨大地震災害で被災することについてどのように感じているか						
Q 6-1. 被災した場合、どのような危険があると思うか						
Q 7. 過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがあるか		●	●			
Q 7-1. 防災訓練に参加しなかった理由は何か		●				
Q 7-2. 防災訓練が実施された場合や実施を知った場合は参加するか		●				
Q 8. 大地震が起こった場合の対策をとっているか						
Q 9. 地震火災による被害を抑えるために必要なことは何か						
Q10. 古い住宅の耐震診断の助成を利用しているか					●	●
Q11. 災害時のために持出品の準備や備蓄を行っているか		●				
Q11-1. 自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程暮らせるか						
Q11-2. 自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分か						
Q12. 普段防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいと思うか		●				
Q13. 居住地域で、普段災害の危険性に関する情報などについて充実してほしいものは何か			●			
Q14. 居住地域で、災害時に提供される情報について、現在より充実してほしいものは何か			●			
Q15. 防災全般に関する知識や情報を何によって入手しているか		●				
Q16. 地域の自主防災力を高めるために重要なことは何か						
Q17. 大規模な災害が発生し、助け合いが必要になった場合、何ができると思うか						
Q18. 避難行動要支援者の支援について重要な活動主体は何か			●	●		
Q19. 避難する際、避難行動要支援者がいた場合に、その方の手助けができると思うか						
Q19-1. 避難の手助けの具体的な内容				●		
Q20. 避難する一時避難地、避難所を決めているか						
Q21. 大きな被害がない場合や避難指定区域に指定されていない場合、避難所に避難するか		●				
Q21-1. 避難所へ避難しない理由は何か		●				
Q22. 市は、被災者の避難先を固定しないことについてどう思うか		●				
Q23-1. 【風水害の場合】避難先から自宅に戻ると考えるきっかけは何か						
Q23-2. 【地震の場合】避難先から自宅に戻ると考えるきっかけは何か						
Q24. 避難所において最も充実してほしいことは何か	●	●		●		
Q25. 防災行政無線の認知度		●				
Q25-1. 防災行政無線の音声は聞き取りやすいか		●	●			

(2) 自治会用アンケート

自治会用アンケート結果を用いて実施するクロス集計項目を、表-11 に整理した。

なお、中学校区毎に設定した自治会は下表のとおりとした。

表-11 中学校区別設定自治会名

学校名	自治会名				
第二中学校	常盤町	大橋町	大池町	野口	上野口町南
	野里町東地区	野里町西	舟田町東	舟田町北	舟田町南
	南野口	沖町	沖南		
第三中学校	南一号	柳田町	若葉	一番町	寿町
	古川町	末広速見	末広町	柳町	新橋町
	新橋町第3	新橋団地	門真プラザ分譲住宅	第2プラザ	元町
	本町第一	本町東	本町西	栄町	殿島町
	市住本町団地				
第四中学校	下馬伏	島頭東	脇田町	千石東	コーポ千石管理組合
	門真団地中央	島頭南	千石南	下馬伏住宅	門真住宅
	上島頭	新門真住宅	門真南	府営三ツ島住宅	水島
	門真団地A地区	曙	ハートフルタウン江端		
第五中学校	下島町	宮前町	巢本・北巢本町	済堂	岸和田南住宅
	北岸和田府住	上馬伏	上・下島頭	日新	北岸和田
	岸和田	南岸和田	東岸和田	江端	江端南
	江端西	南門真ハイライフ	ゲイルヌーブ門真	上島町	城垣町
	青山	北巢本	上島住宅		
第七中学校	打越	西打越	北島町	五月田町協栄	五月田
	五月田中央	東北島	五月田住宅	上三ツ島	下三ツ島
	三ツ島南	蕨島	桑才	東田町	三ツ島南振興
	蕨島荘園				
門真 はすはな 中学校	御堂北	御堂南	御堂古川橋	常称寺町	宮野町
	朝日町	ネオコーポ門真東2番街	ネオコーポ門真東	垣内町	幸福町西
	幸福町東	大倉町	中町	石原西町会	石原東町会
	石原北町会	石原中	浜中	浜町北	月出町東
	月出町	堂山町	泉町	東小路	西小路
	向島町	松葉町			

表-12 クロス集計項目（自治会用アンケート）

設 問	分析軸
	住所 (中学校区別)
Q 1. 具体的に想像したことがある自然災害は何か	●
Q 2. 住んでいる地域で不安に思う災害はあるか	●
Q 3. 行っている取組みはあるか	●
Q 4. 災害発生後の対応における地域での心配な点は何か	●
Q 5. 住民が避難する一時避難地・避難所を決めているか	
Q 6. 市の避難所等の情報を住民に周知しているか	
Q 7. 災害時に行政などが提供する情報伝達手段で知っているものは何か	
Q 8. 市が避難所を開設した場合に、自治会としてできる活動は何か	
Q 9. 整備・準備している防災資機材や防災用品は何か	
Q10. 過去 3 年間で実施した防災訓練や防災活動は何か	●
Q11. 防災訓練の実施形態はどれか	●
Q12. 防災訓練において住民参加のために行っている工夫や働きかけはあるか	●
Q13. 災害時には会員の安否確認を行う予定か	●
Q13-1. 安否確認の対象は誰か	●
Q13-2. 安否確認はどのような方法で行うか	●
Q14. 身体障がい者や高齢者などの避難行動要支援者を把握しているか	
Q14-1. 避難行動要支援者を避難させる場合の方法を具体的に考えているか	
Q14-2. 具体的な方法は何か	
Q14-3. 避難行動要支援者の情報は定期的に更新しているか	
Q14-4. 避難行動要支援者を把握していない理由は	
Q15. 防災行政無線を知っているか	
Q15-1. 防災行政無線の音声は聞き取りやすいか	

4. アンケート解析結果

次頁以降にアンケート解析結果を示す。

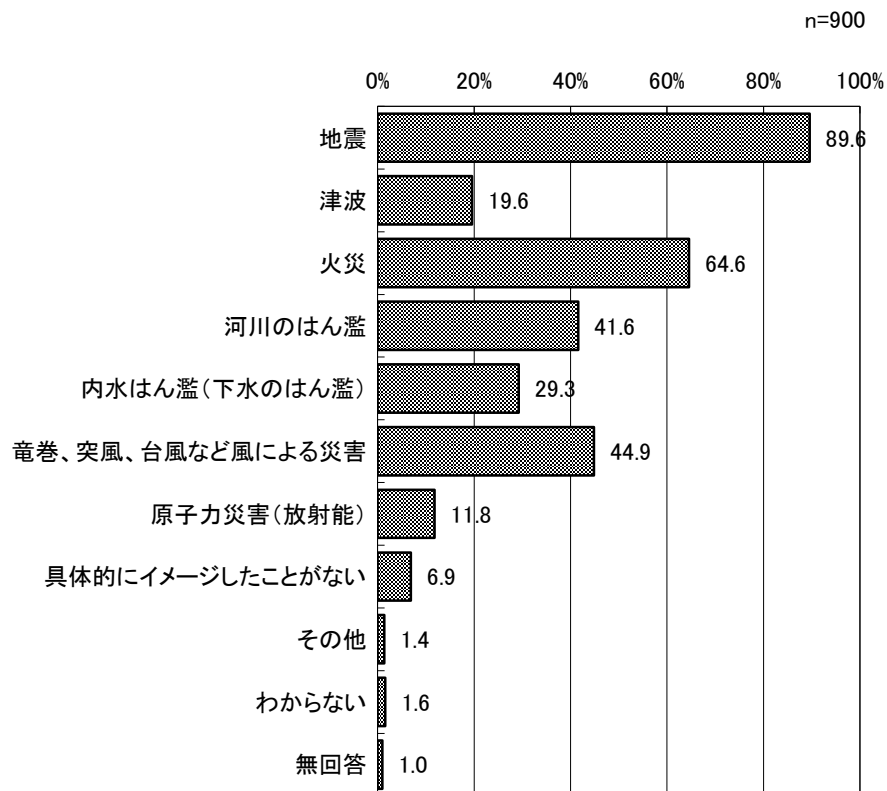
4－1 市民用

注) Q23 については、“シングル回答”扱いとしてアンケートを実施したが、複数回答が多かったため、解析は“複数回答”扱いとして実施した。

■防災に関する意識

Q 1. 自然災害によってもたらされる次の被害について、あなたやご家族が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。（複数回答可）

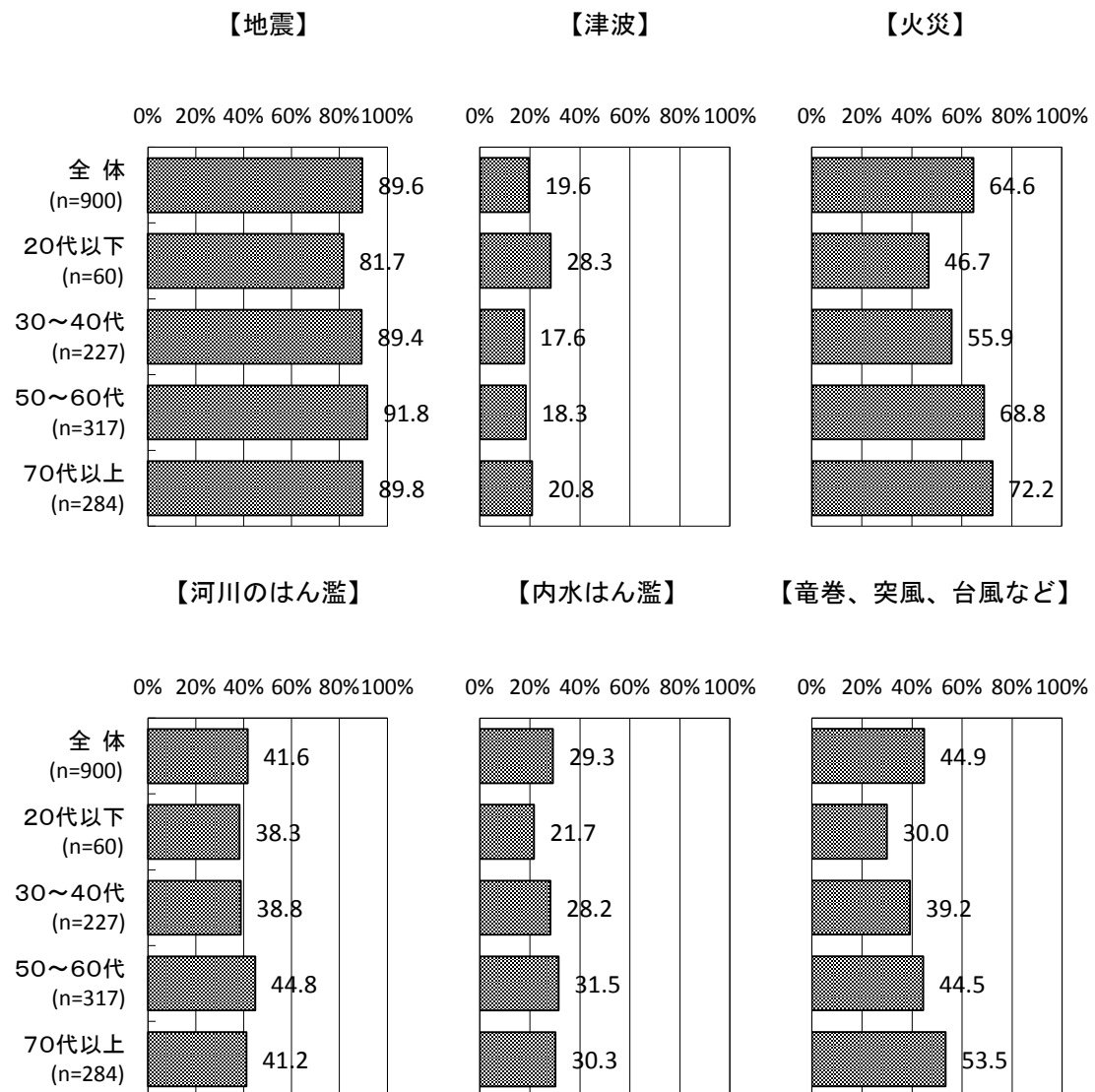
自然災害によってもたらされる被害の中で、自分の家族が被災したと具体的に想像したことがあるものは、「地震」（89.6％）が最も高く、次いで「火災」（64.6％）、「竜巻、突風、台風など風による災害」（44.9％）の順となっている。



■ 年代別

年代別にみると、「20代以下」では「津波」(28.3%)と「具体的にイメージしたことがない」(11.7%)が全体(「津波」(19.6%)、「具体的にイメージしたことがない」(6.9%))と比べて高くなっている。

また、「70代以上」では「火災」(72.2%)と「竜巻・突風・台風など風による災害」(53.5%)が全体(「火災」(64.6%)、「竜巻・突風・台風など風による災害」(44.9%))と比べて高くなっている。

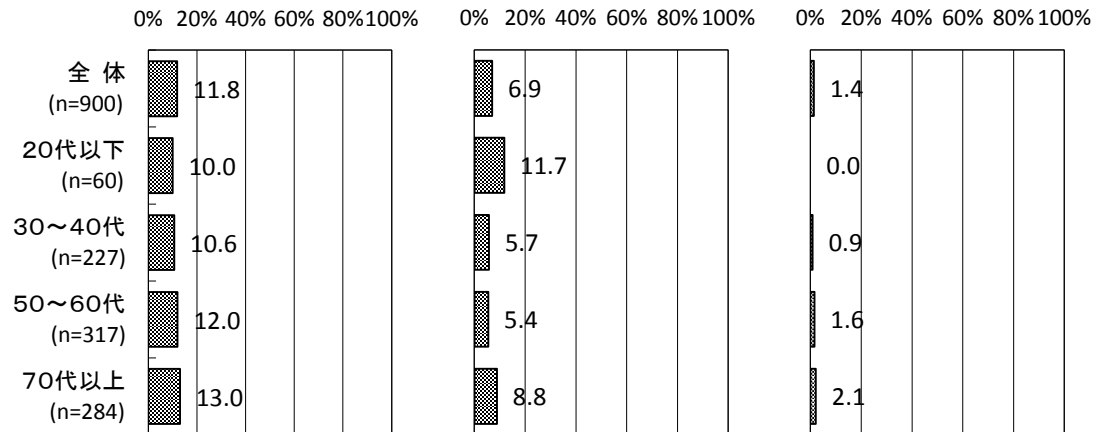


市民用アンケート解析結果

【原子力災害】

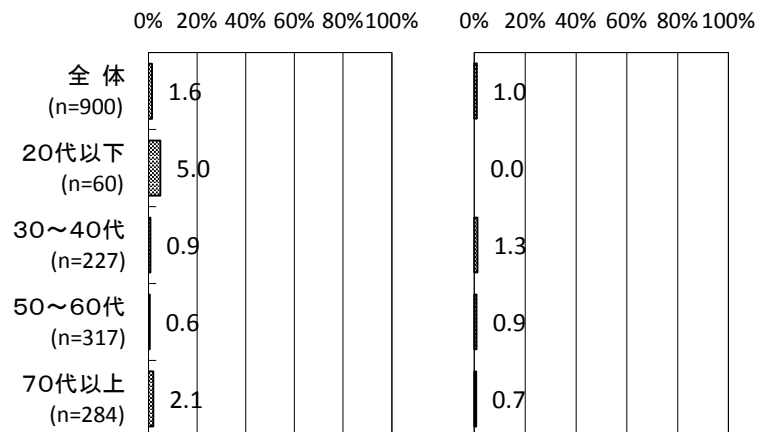
【イメージしたことがない】

【その他】



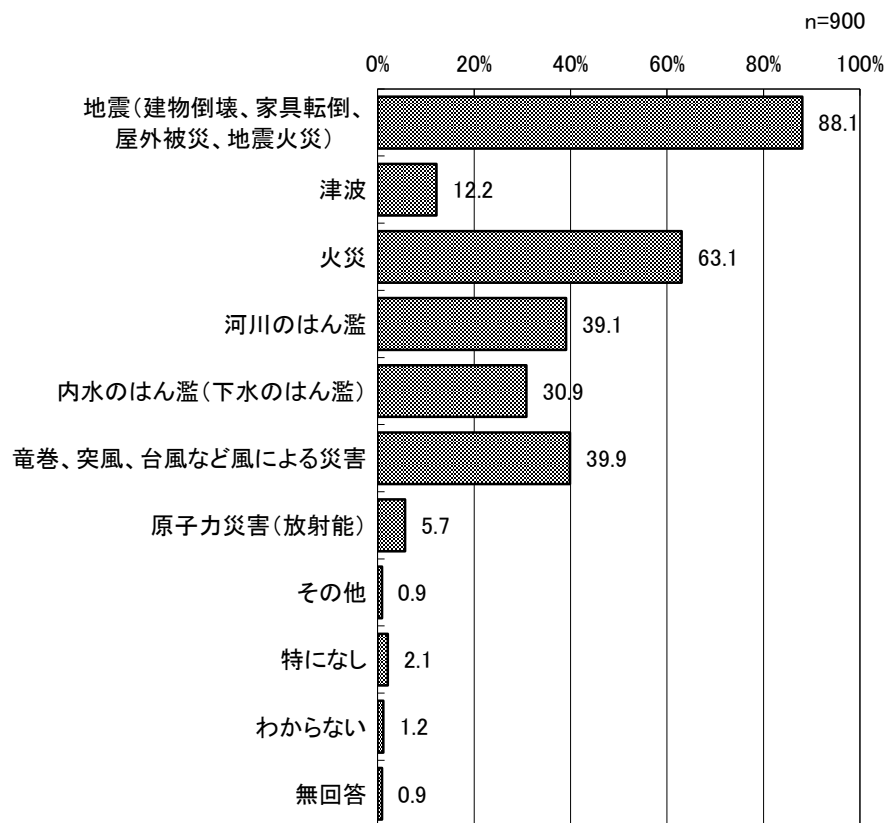
【わからない】

【無回答】



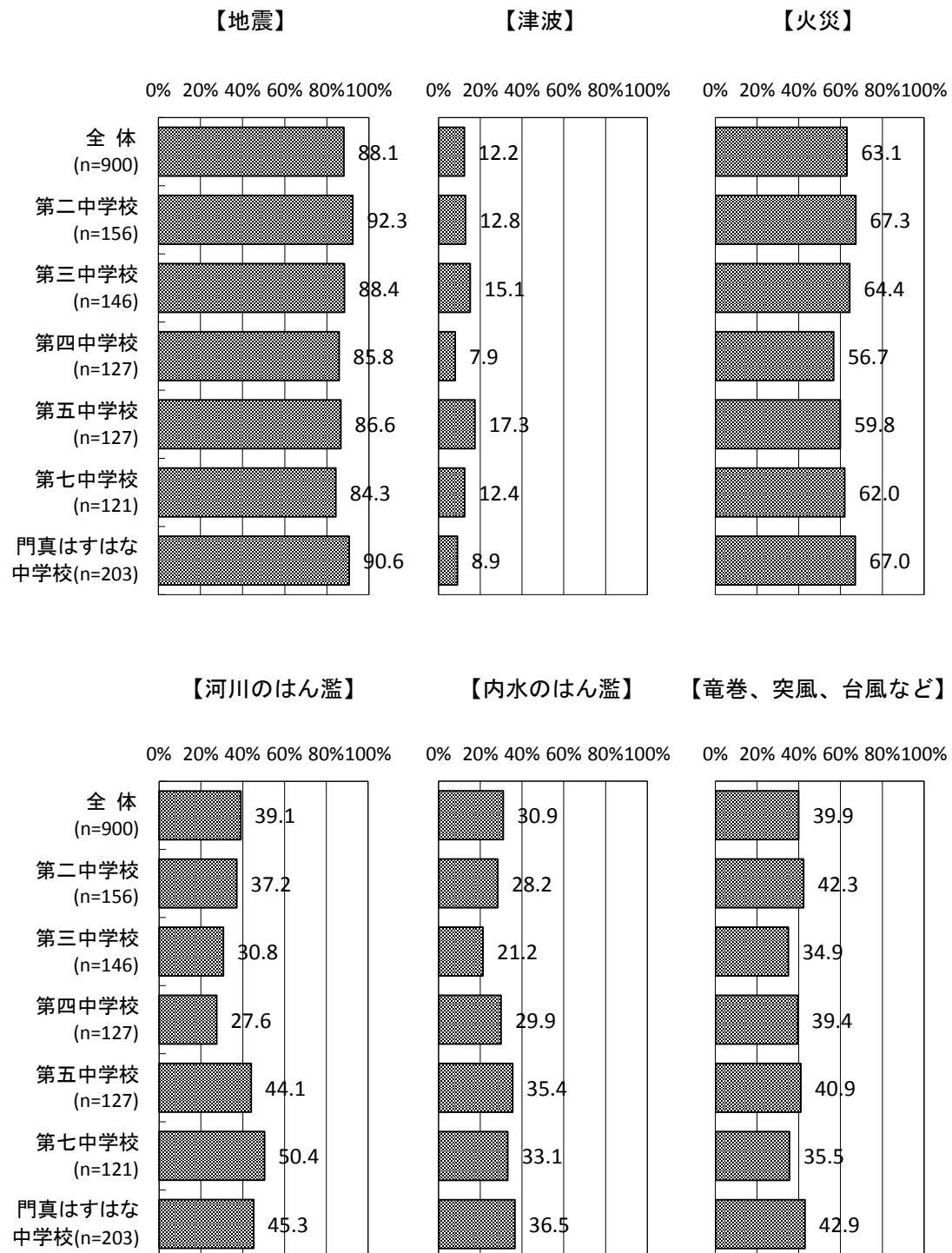
Q2. あなたは、住んでいる地域で不安に思う災害はありますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

自分が住んでいる地域で不安に思う災害では、「地震（建物倒壊、家具転倒、屋外被災、地震火災）」（88.1%）が最も高く、次いで「火災」（63.1%）、「竜巻、突風、台風など風による災害」（39.9%）の順となっている。

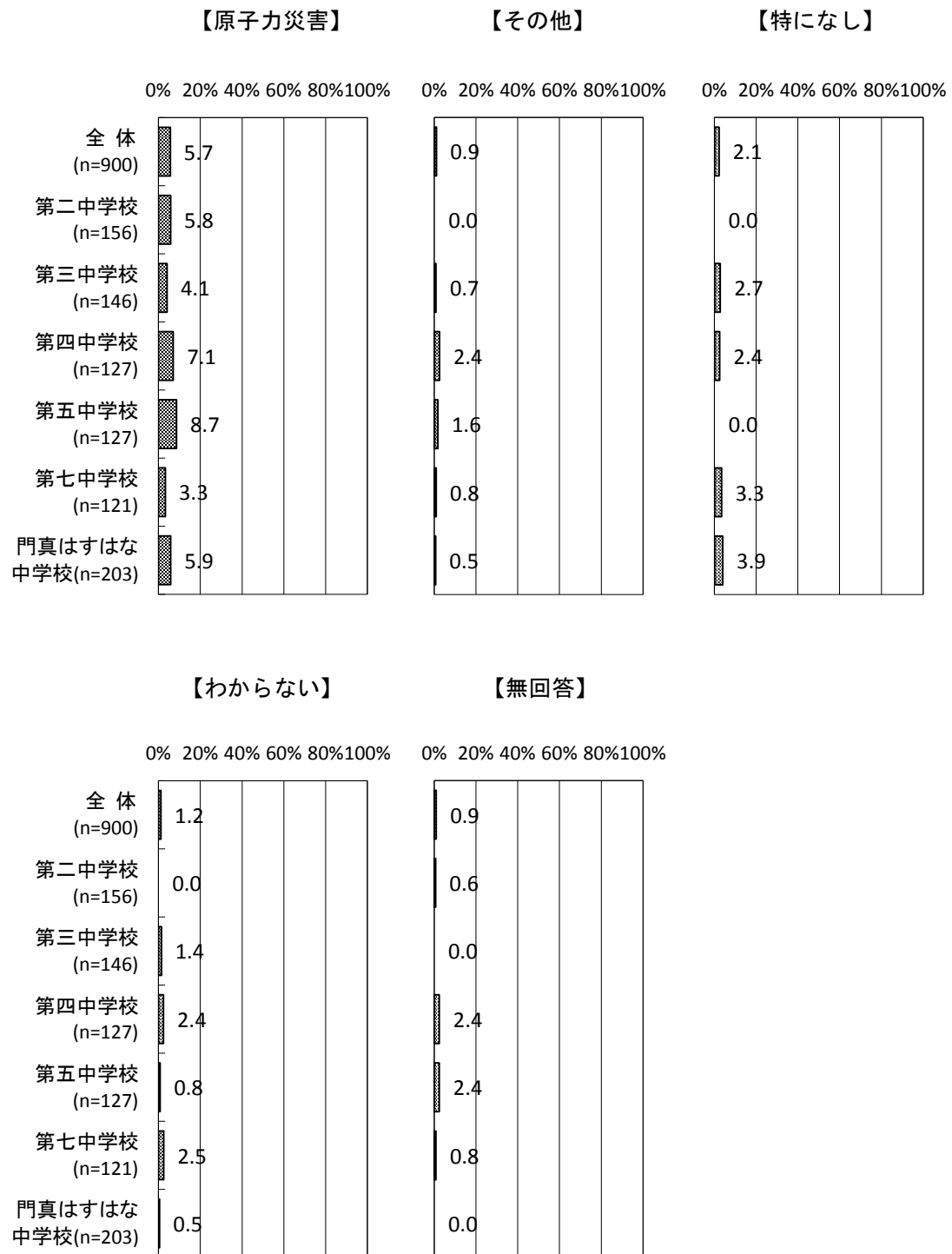


■ 住所（中学校区）別

地域（中学校区）別に見ると「第四中学校」（7.9%）と「門真はすはな中学校」（8.9%）では「津波」が全体（12.2%）と比べて低くなっている。

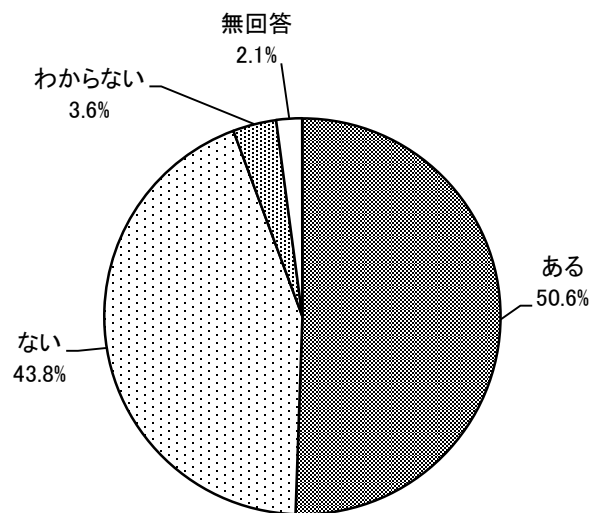


市民用アンケート解析結果



Q3. あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、ご家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどの話し合いを行ったことがありますか。それともありませんか。

家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどの話し合いを行ったことがあるかどうかでは、「ある」が50.6%、「ない」が43.8%となっている。

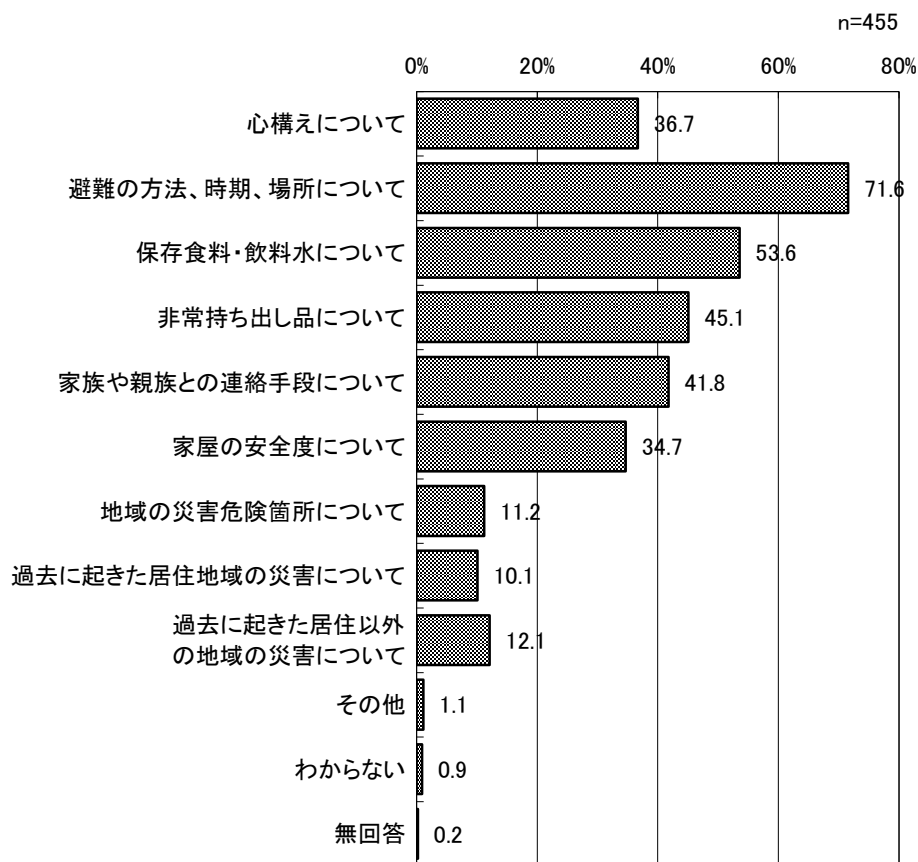


Q3-1. 話し合った内容について、あてはまるものを全てあげてください。(複数回答可)

※Q3で「1. ある」と回答した方のみ

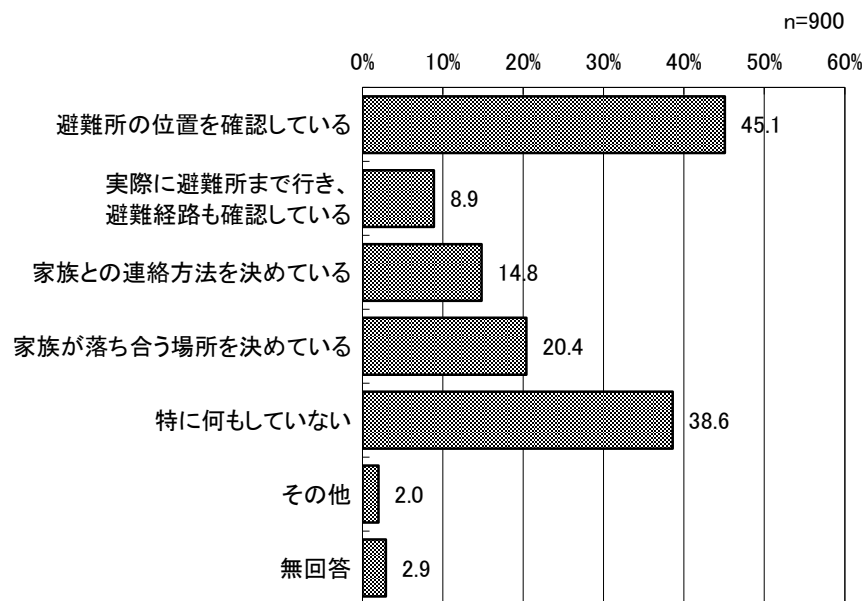
話し合った内容については、「避難の方法、時期、場所について」(71.6%)が最も高く、次いで「保存食料・飲料水について」(53.6%)、「非常持ち出し品について」(45.1%)と続いている。

また、「家族や親族との連絡手段について」(41.8%)までが4割を超えている。



Q 4. あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてとっている対策では、「避難所の位置を確認している」(45.1%)、「家族が落ち合う場所を決めている」(20.4%)、「家族との連絡方法を決めている」(14.8%)の順となっている。
その一方で、「特に何もしていない」(38.6%)も高くなっている。



■ 年代別

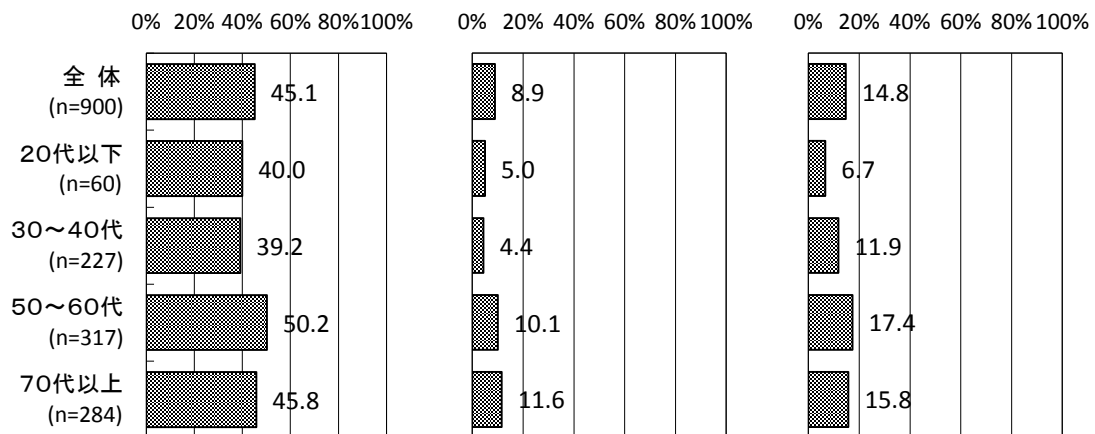
年代別に見ると、「50～60代」では「避難所の位置を確認している」(50.2%)が全体(45.1%)と比べて高くなっている。

また、「特に何もしていない」で「20代以下」(43.3%)、「30～40代」(44.5%)が全体(38.6%)と比べて高くなっている。

【避難所の位置を確認】

【避難経路を確認】

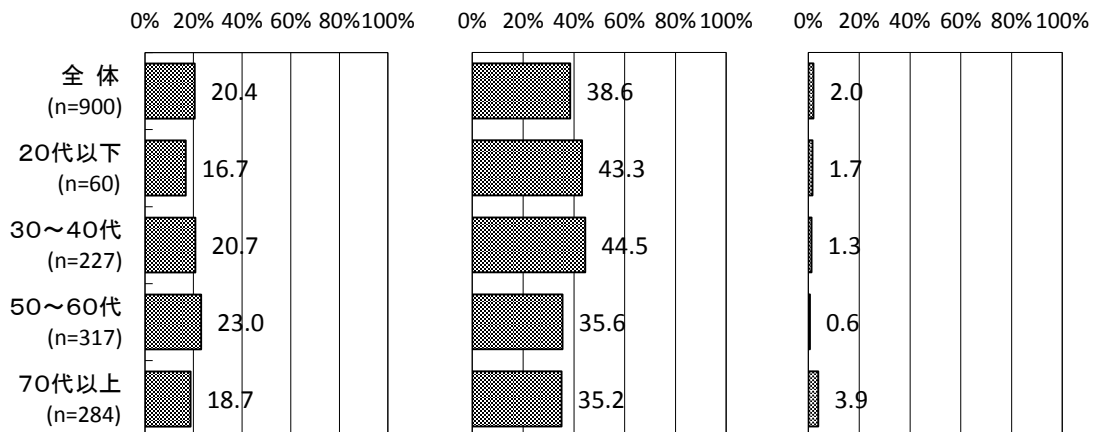
【連絡方法を決めている】



【落ち合う場所を決めている】

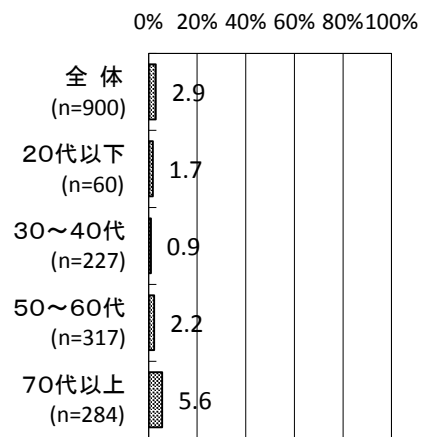
【特に何もしていない】

【その他】



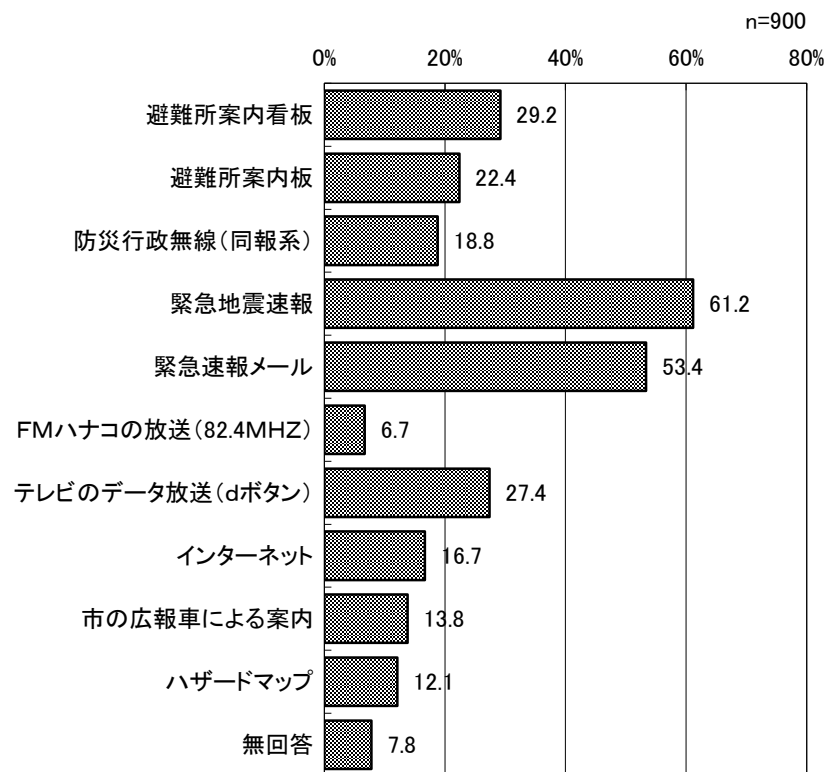
市民用アンケート解析結果

【無回答】



Q 5. 災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。（複数回答可）

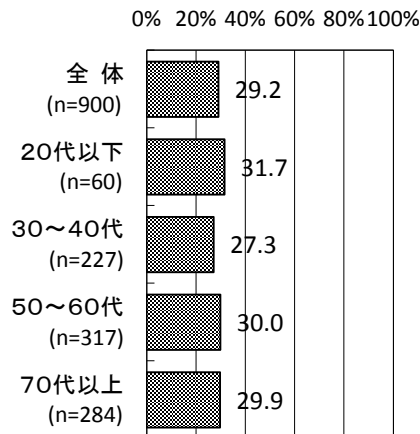
災害時に行政などが提供する情報伝達手段について知っているものは、「緊急地震速報」（61.2%）、「緊急速報メール」（53.4%）がいずれも過半数を超えて高く、次いで「避難所案内看板」（29.2%）、「テレビのデータ放送（dボタン）」（27.4%）の順となっている。



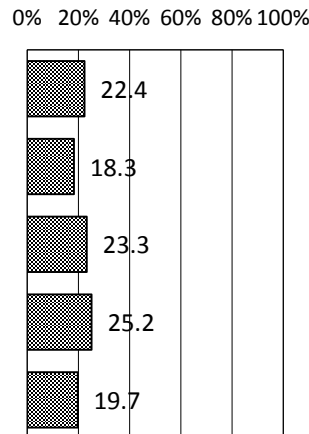
■ 年代別

年代別に見ると、「インターネット」では「20代以下」(48.3%)、「30～40代」(31.3%)が全体(16.7%)と比べて高く、「50～60代」(11.4%)、「70代以上」(4.9%)は低くなっている。

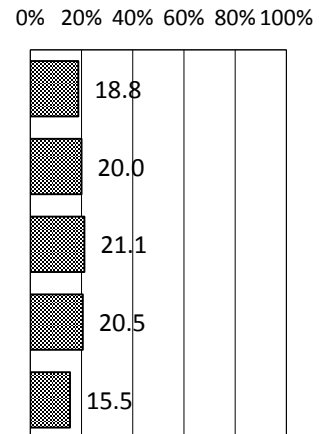
【避難所案内看板】



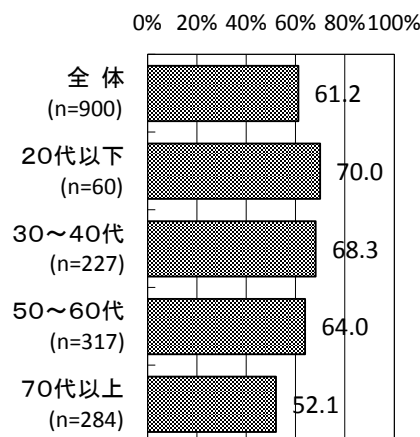
【避難所案内板】



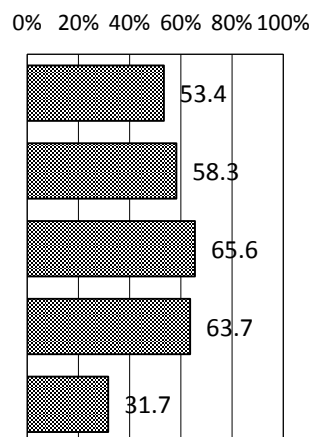
【防災行政無線】



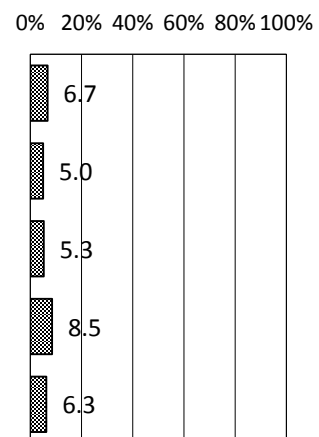
【緊急地震速報】



【緊急速報メール】

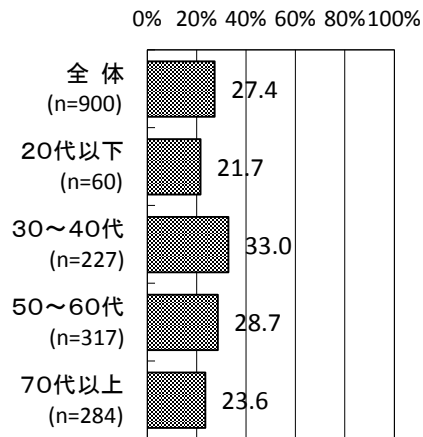


【FMハナコの放送】

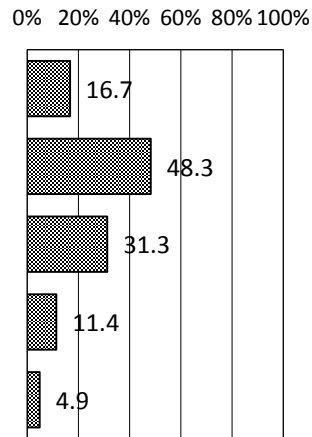


市民用アンケート解析結果

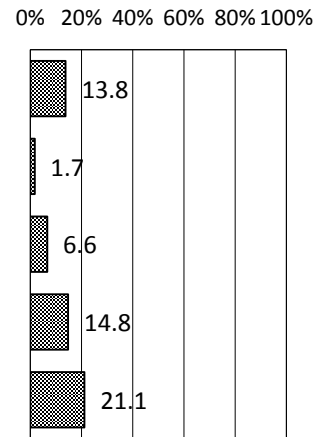
【テレビのデータ放送】



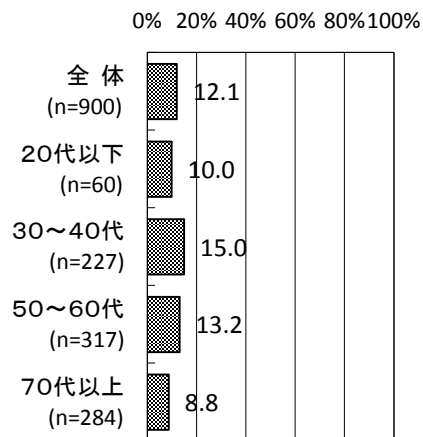
【インターネット】



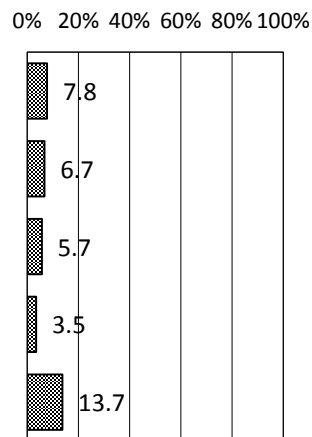
【市の広報車による案内】



【ハザードマップ】



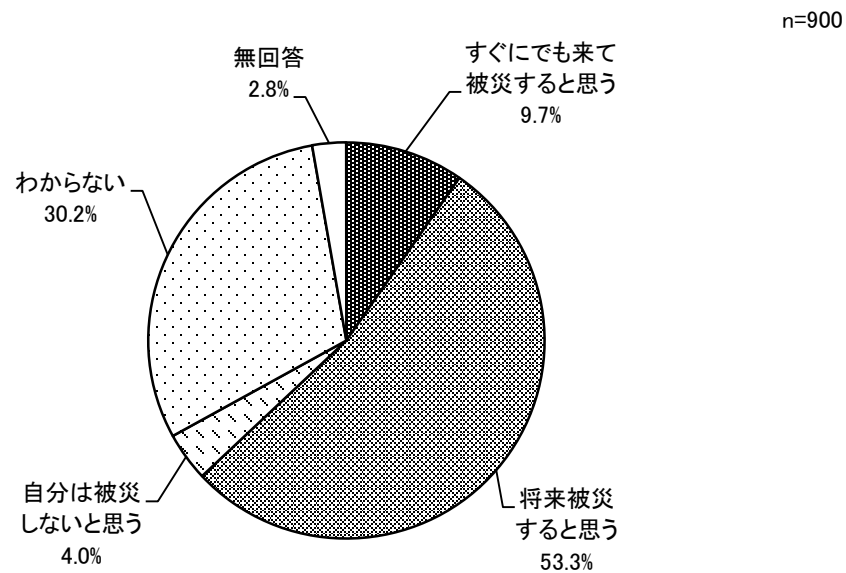
【無回答】



Q 6. 東日本大震災以降、地震に対する国や府の被害想定が見直され、南海トラフ地震の想定もされています。府の想定では、市域でも震度 6 弱程度の想定がされていますが、巨大地震災害で被災することについてどのように感じていますか。

巨大地震災害で被災することについてどう感じているかでは、「すぐにでも来て被災すると思う」(9.7%)、「将来被災すると思う」(53.3%)を合計すると 63.0%の人がすぐ、または将来に被災すると思うと回答している。

その一方で、「自分は被災しないと思う」と回答している人は 4.0%となっている。

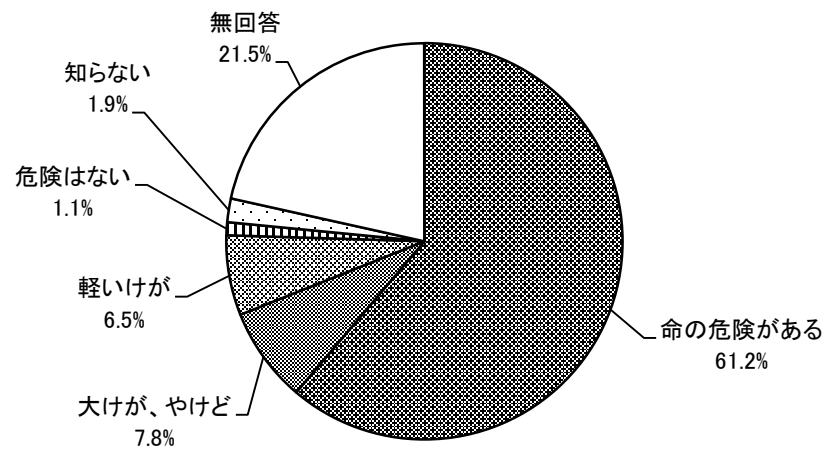


Q 6－１．被災した場合、どのような危険があると思いますか。

※Q 6で「１.すぐにでも来て被災すると思う」、「２.将来被災すると思う」と回答した方のみ

被災した場合、どのような危険があると思うかでは、「命の危険がある」(61.2%) が最も高く、次いで「大けが、やけど」(7.8%)、「軽いけが」(6.5%) の順となっている。

n=567



「防災に関する意識（Ｑ１からＱ６－１まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
市の緊急速報メールアドレスがわからないので、市広報に明示してほしいですね！！
門真市がそのような説明をしていますか。 年寄りにはもっと大きな字で書いてある説明書がほしい。
急に来る事なので、どの様に対策を家族等が講じていても、その時、その状態、状況などに於いて、何も出来ないと考える。 速報、データ放送などで先ず行う大事と考える。
主人が寝たきりなのでどうしていいのかわからない。
ハザードマップを市役所に行ってみに行きたいと思う。 ２年前の８月の古川の逆流で自宅前が川の様になり、ご近所が家の中迄水がきた。 大阪に津波がきたら、門真迄どの位で到達するのでしょうか？
避難場所が二島小学校ですが遠いので、なみはやドームは避難所にならないのですか。
Ｑ５の避難所案内板がすくないのでは。
新しいハザードマップが欲しい。 指定の避難所が古く狭い。 とてもみんなが避難できる様な場所には思えず、周囲の住宅も古いためたどりつけない様に思う。
夜間は家族一緒だが、日中は家族が別々の場所にいる。 日中は子供だけが門真市内。
門真市自体が防災について積極的な対策をおこなっているのか疑問である。 伝わってこない。
常に意識を持つよう公報する必要がある。
十分注意して行動をする（二次世界大戦の経験あり火災等、米国より（ショウイダン）受けた）。
住んでいる場所はひえ島でも離れていて、近くに鶴見の小学校がありますが避難した時、中に入れてもらえるだろうか。 高齢になり走れるか心配です。 家族はリュックに電池とか包帯とか入っていますが、集合場所が遠くて心配です。
避難所がわからない。
雨でも家の前の道路が冠水し、トラックが通るたびに家が揺れるので日比不安です（ダイソー東田店前）。
各自治会などで、水や食料の備蓄。
実際に経験しないとその時自分では分からない。 パニック状態。

意 見
最近のテレビでも近く必ず行けるような放送番組がなくて不安は大いに持っています。 いざその時になったらきっとパニックになって、何も出来ないのかも知れないので、あえて悪いようには考えないようにしています。
とっさの事に成れば自分がなにをするかわからないと思う。
家族（離れて暮している子供達家族とも）色々話し合っておかなければと思っております。 この地区は自治会がないので、ご近所との連帯感も大切にしたいと思います。
実際アンケートに答えてみて、いかに意識が甘かったかを知らされました。 自治体の看板もまじまじはみたことがないし、本当に災害がおきたら大阪の人は本当に対応できないと思います。 このアンケート、全世帯に配布して各家庭で問題意識をもった方がよいと思います。
避難所看板などもう少し目立つ様に（目線近い高さ）大きくつける必要がある。 行政スピーカー離れているところの家屋には聞こえにくいため増やす必要があるのでは？
自分の事はなるべく自分で守り、後で応援を待つ。
家族の親が違うので、いざと言う時まとまりがなく、ばらばらになると思います。 夫や夫の家族は危険はないと思っていますので、まとまっていないのです。
自分が被災したらパニックして、何も考えられなくなると思う。
市の広報車が走っているのは知っているが、マンション内では聞こえない。 古いマンションは最近、老人が引っ越してくるので、老人が不安なのではないかと思う。
家族もいないし身寄りもないし、年が年だから行き長らへても仕方ない。
防災について知識は集めるが、切実感がうすい。
不安が多く又自分自身が正しい知識がない為、情報を正しく理解したいです。
どれだけ立派な家に住んでいても、どんなに災害に対策を練っても、被災する時や場合によって命の危険はがあると覚悟している。
南海トラフ地震と活断層地震の関係。
特に無し。
自分自身病気で家に 24 時間の大半を布団の中で過ごしているので、自然災害に対し不安を感じています。
数十年先に起こると推測されている南海トラフ地震ですが、最近になって「必ず」から「起こるか不透明」との解釈がなされていますが、やはりいつ、どこに、どのようにして、自分達が居るのかわからないだけに非常に不安です。 住んでいるのはマンションですが、影響があるのかも不安です。 地盤が低く、良くない地域ですが長年住んでいる愛着の深い場所だけに被害も少いで済む様にしたいです。
身体が不自由な為どうなるか不安。
老人や身の弱い人やアルツハイマーの人はどうすればよいのかな？

市民用アンケート解析結果

意 見
耐震工事が一応済んでいるので、多少は安心なのですが過信は出来ません。
今旧色々他方面からの被災をテレビ報道で知り、門真市でも早くハザードマップが出来たらいいなと思っていました。
地区一体は木造住宅のため、火災が出ると危険度が大。
田舎と遠い都市部は、避難場所の確保などに無理があるのではないかな。 市からや自治会などからその災害の時には、ここに避難しなさいなどの話は一切なく、危機感が薄いと思う。
多くの方が避難場所を求めて迷うと思われるので、日頃から場所を決めて（行政か自治会かで）置いて欲しい。
災害の状況によっては、近くの避難場所（小学校）へ行く事が良いとは限らない。
石巻出身で震災直後恐ろしい、信じられず夢だと自分にいい聞かせたが現実に只々涙が止まらなかった。 今にも？将来？近所に高層ビルなし逃げ場に不安がありどうすべきか怖い。 せめて自治会で定期的に訓練が必要、学校でも家族やまわりの人達に頼らず、てんでんこ（べつべつ）を強調すべきでしょう。
障害持っている人は、どの様な知識持つ必要があるか。
私は 81 才で 1 人で居ます。 少しの地震でも先日の大雨でも、とても心配でした。 だからすぐにテレビを見る様にしています。
地域指定の避難場所が自宅から遠い様に思えます。 子供も大変だと思います。 近所の人達との協力が難しい。
茨田公園に集まった後の事が心配です（すぐ次の事が出来るのか）。
年齢的に何をしても無駄な気がします。
警報のサイレンの連絡の仕方（とりつけ）。
夫は高齢で車イスなので、二人がどこかに逃げる事が出来ません。 とりあえず娘が来るまで、この家の安全な場所で待つだけです。
私、一人なので不安は感じている。
避難用品の備蓄。
下水から水が吹き出さない様にしてほしい。
Q 5 で示されている避難案内に関する標示は、近隣で全く見あたらないので、できるだけ多くの場所に標示されたい。
家が古いので震度により倒れるかも？ 家が密集しているので火災も？
現在、二階建てのアパートに住んでいるが、河川の氾濫の際は、逃げた方が良いのか、アパート内にいた方がよいのか教えてほしい。

意見
他地点で起きた時はしばらく意識するが、すぐに自分にあまり関係ないように日々過ごしているのは大変危険。
例えばQ 2に関し、門真市において「津波」の被害は想定しづらいのでは？（起こるとは考えられない。） より地域に密着した条件での被害を行政が的確に想定できなければ、型通りのアンケートを実施したところで、実際に有効な結果に繋がるとは思えない。
大阪府全体の中でも、過去での門真市で何らかの災害があったのなら、当時の被害を市政だよりでも良いので知らせて欲しい。
近年は、短時間に局地的な集中豪雨が増えて、内水氾濫の被害が全国で増加しているので、住民一人一人が災害に対する意識を持たなければならないと思います。
地震について、もっと防災無線で速報を知らせてほしい。
近くには高い場所がないので、避難する所はわかっていても高台ではない。
大雨になる度に下水があふれ洪水にならないか心配になる。 洪水しそうな大雨の時には雨がやむまでお風呂の水を流さない、洗濯機を回さないなどの呼びかけ等で洪水防止につながればいいと思う。 雨量から市が判断して注意喚起してほしい。
近くに高電圧の鉄塔が多いので、心配。
防災についてまだまだわからない事がある・・・というよりそこまで対策なども考えていないのが現実です。 市からも色々情報をほしいです。
公団の8階建の3階に住んでいるので、小学校の体育館（1階）よりも、水の場合安全だと思います。地震や火災にも強く建てられています。
自然災害は想定外の事が起こるので今以上に意識を高めておく必要がある。
門真市の標高は何mでしょうか？ 津波は、門真市まで来るでしょうか？
排水管の改修、改善等に依り本当に排水が良くなり少々的大雨でも安心しております。
体の自由がきかない人がいる場合の避難のしかたも検討してほしい…。
赤十字の人に来てもらって、応急手当の方法や、防災対策を教える講座をしてほしい（身内に赤十字社の者がいるので）。
関西に引っ越しする前、東日本大震災を東京で体験し、職業上、原子力の停止に伴う震源停止異常対応も経験した（現在はリタイアしたが）。
特になし。
いつ来るかわからない地震。 家族が門真市内に居るとは限らないので、どうしても国や自治体に頼るしかないのでは？ 家に居るのであれば、それなりに対応すると思う（水の用意、トイレ、簡易コンロなど）。 建物も古いし年寄りが多いから若者達はみんな元気で自分を守ってほしい。

市民用アンケート解析結果

意見
市民の防災への関心、知識を高めるために市がもっとアピールして欲しい。 市民全員が防災に取り組めるよう、具体的にどのような被害がこの地球に起こり得る等、もっと詳しく分かりやすく知らせて頂き、市民の認識を高めて欲しい。
私は現在 83 才ですが存命中に大地震に遭遇することはまずないと思いますが、災害はいつ起こるかわかりません。 明日にでも起こり得ることはあると思います。 現在賃貸マンション（4階建て）の1階に住んで居りますので、大きな地震が起きればつぶれて下敷きになり、ひどい場合死亡することになると思います。 大けがをして下敷きになれば、まず助けられることはないと思いました。
駅前の学校がなくなり、大きい避難所がなくなり不安。
僅かな（小さな地震、大雨による冠水）門真市ではあまり経験がないので、意識は低いように思う。
地域で避難場所がわからない人が多いと思います。
わからない。
老々の2人はこれが運命と思うが長男(千葉)長女(堺)特に長女の所が1番心配している（自宅ー津波、高台(造成地)）。
現在私が 80 歳。寝たきりの母（12 月 1 日で 100 歳）が同居していますので、避難する気持ちはありません。
数年前、大雨の時、家の前がヒザまで水がたまった。 下水及び低い道を何とかして欲しいと思います。
田園地帯であるため地盤が悪いので古い家が多く、年齢的に平均年齢が高齢なので参加が困難である。
大雨特別警報などが出た場合、どこへ避難するのかよくわからないし、みんなに伝えられているのか心配（お年寄りや1人で住まわれている方など）。
阪神大震災以来、地震がいつきても良いように、非常食を置く様になりました。
市配信の緊急速報メール（テスト）は、受信したことがない。
生活道路が狭く、災害が起きた場合、家の前が川のため、逃げ道を確保する事が大変です。
内水氾濫に備え、下水道の整備と側溝の水はけを良くするなどの対応を日頃から行ってほしい。 2年ぐらい前に冠水した場所でも何も対策がされていない。
避難所は分かるが、避難場所がどこに決められているのか分からない。
内水氾濫の東軽減策の現況を知りたい。
集合住宅なので、停電一発で水道が使えなくなる。 ペットボトル 240 と濾過器を用意している。 風呂の水もなるべくためるように気を付けている。非常食 1 週間分確保している。
具体的に避難場所の確認ができていないことが気がかり！

市民用アンケート解析結果

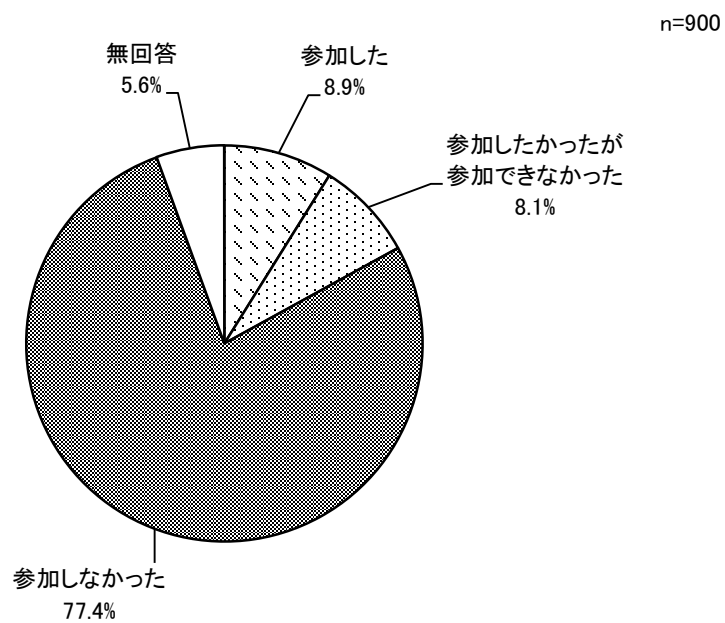
意 見
避難場所の確保と備蓄食材、水を公共機関で進めてほしい。
避難所に指定されている場所が定員オーバーになるのではないかと不安。
もう年だからいつ死んでもいいかな、と思うこと度々あり。 災害とともに死ぬのもよしと思う気持ちあります。
行政の情報も大切だが普段からの意識と自分達で命を守らなければいけない気持ちが大切だと思うので、その方法など教えてほしい。
不安。
多分自分は逃げられないと思うから（体力不足）、子供には気にせず、心配せずに逃げる様にと言っている。 何とかなるからと。
最近はおくれるとの話も聞かすが、老人では手遅れは大変な事もあるので、早急に伝達がある様にしてほしい。
夫婦共々体が不自由なため、すぐ動く事が出来ません。
もっと防災に対する意識を高めるために、セミナーみたいなものがあっても良い。
自分の住んでいる地域では大きな災害は来ないと考えがちですので、防災の意識を高めるには、日頃からの情報が大事と考える。
緊急時・災害時について市は定期的に市民の対応について公報して下さい。
避難所の位置をわかりやすく。
「災害は忘れた頃にやってくる」は、古くなったかな。 今は「明日は我が身」の心構えで危機意識を持つ必要。人ごと、無関心が自分に返ってくる。
地震で埋立地は液状化になりやすい。
その時の状況によります。
防災行政無線屋外スピーカー…知りませんでした。 テストスピーチなどで位置を知らせるなどしてほしい。 もっと目立つ色などにしてほしい。
Q 5 に対して年寄の対応に無理がある。
家族（人間）のことは対策として書いてあるのに、ペットのことが全く書かれていない。 例えばペットを連れていても、入れる避難所が1つでもあればすごく安心します。
門真市も昨年の夏の大雨で浸水した場所がいくつか有りましたが、大雨によって、この様に浸水するかもしれないと考えられる場所は熟知しておられると思いますが、それを市民の皆さんはどこまで知っておられるのかと考えています。 なるべく多くの方が理解できる様、対策をお願いします。

■被害軽減策の実施状況

(防災訓練)

Q 7. 過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがありますか。

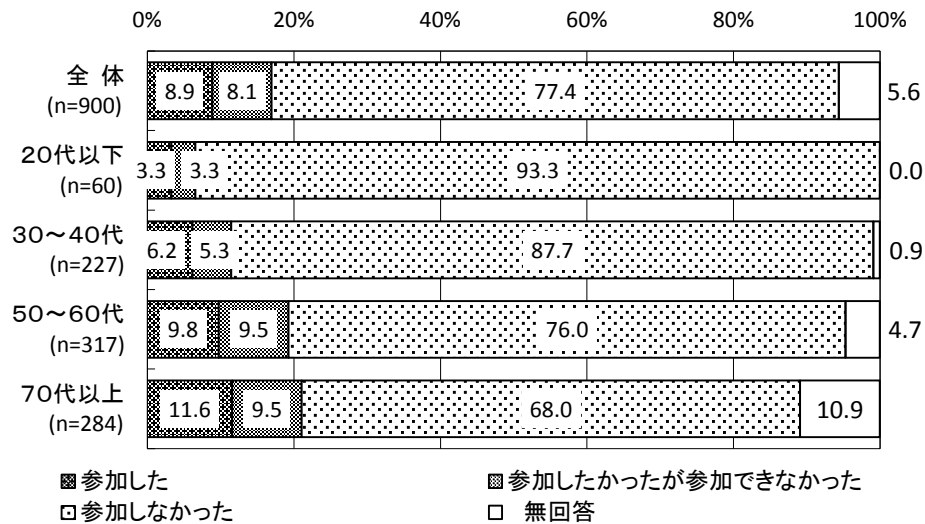
過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがあるかどうかでは、「参加しなかった」(77.4%)が「参加した」(8.9%)を大きく上回っている。



市民用アンケート解析結果

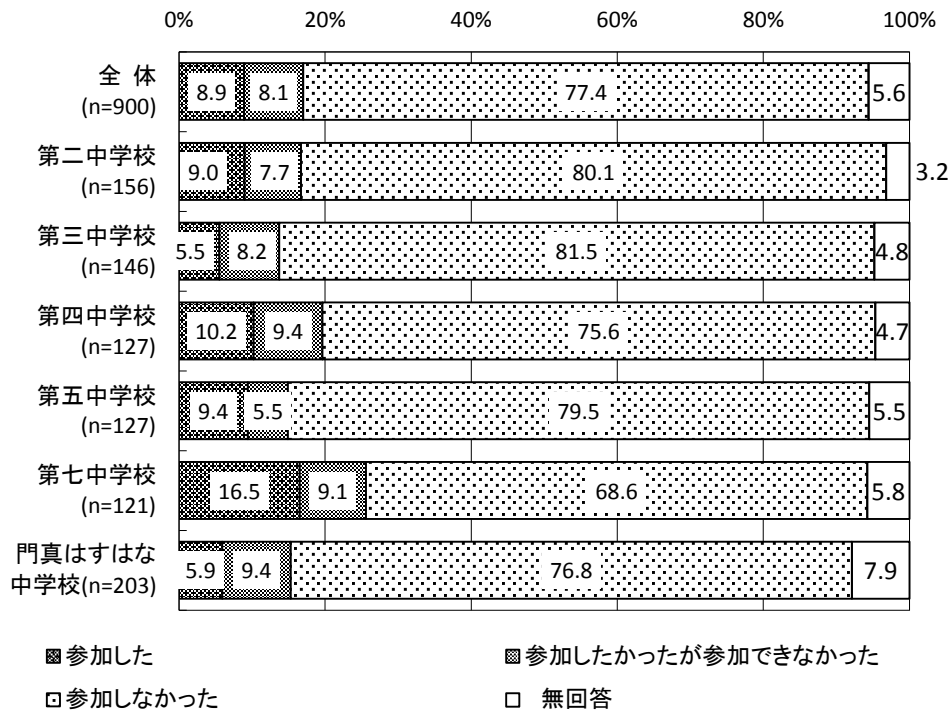
■ 年代別

年代別に見ると、「参加しなかった」では「20代以下」(93.3%)が最も高く、次いで、「30～40代」(87.7%)、「50～60代」(76.0%)、「70代以上」(68.0%)の順となっている。



■ 住所（中学校区）別

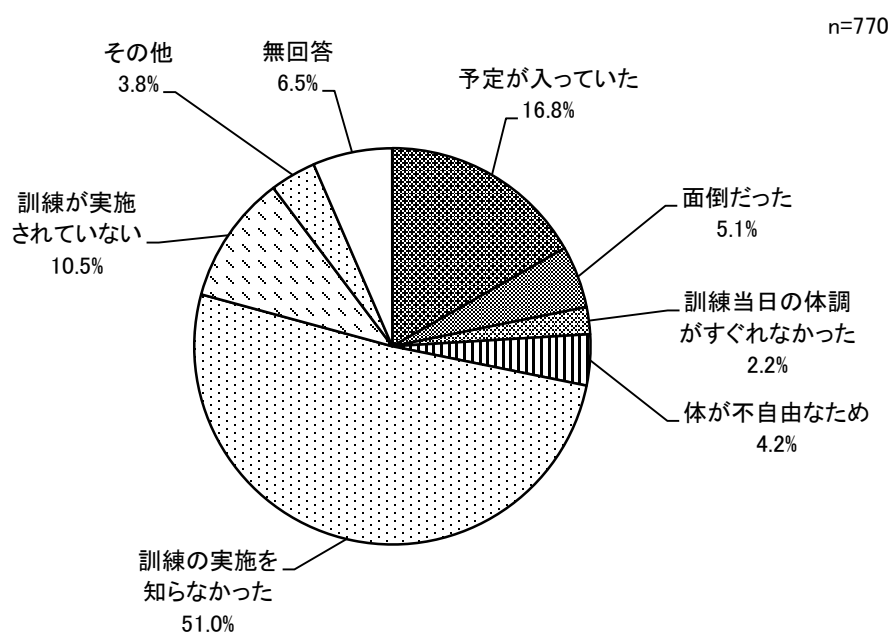
住所（中学校区）別で見ると、「第七中学校」では「参加した」(16.5%)が全体(8.9%)と比べて高くなっている。



Q7-1. 参加しなかった理由は何ですか。

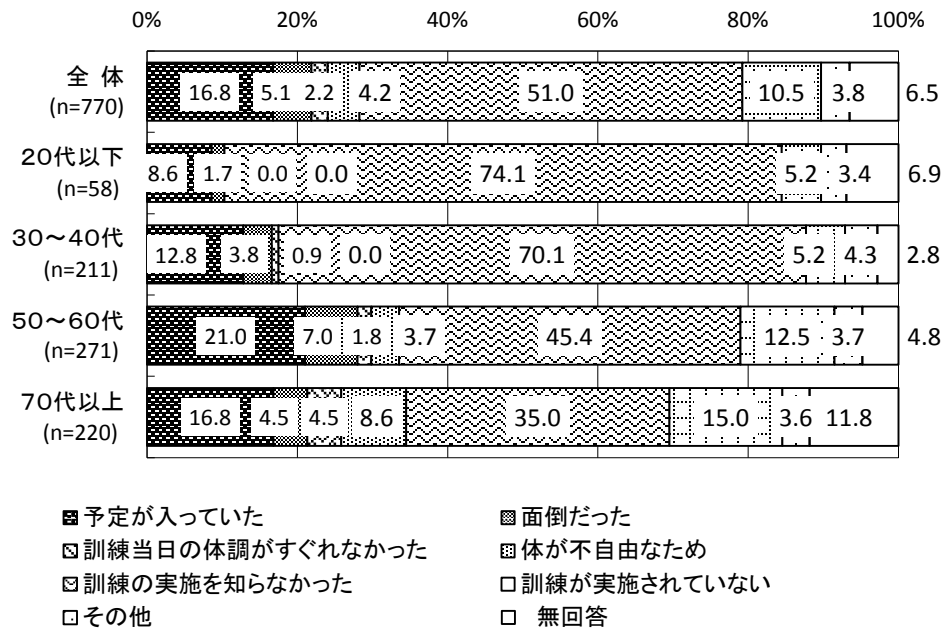
※Q7で「2.参加したかったが参加できなかった」、「3.参加しなかった」と回答した方のみ

参加しなかった理由は何かでは、「訓練の実施を知らなかった」(51.0%)が最も高く、次いで「予定が入っていた」(16.8%)、「訓練が実施されていない」(10.5%)の順となっている。



■ 年代別

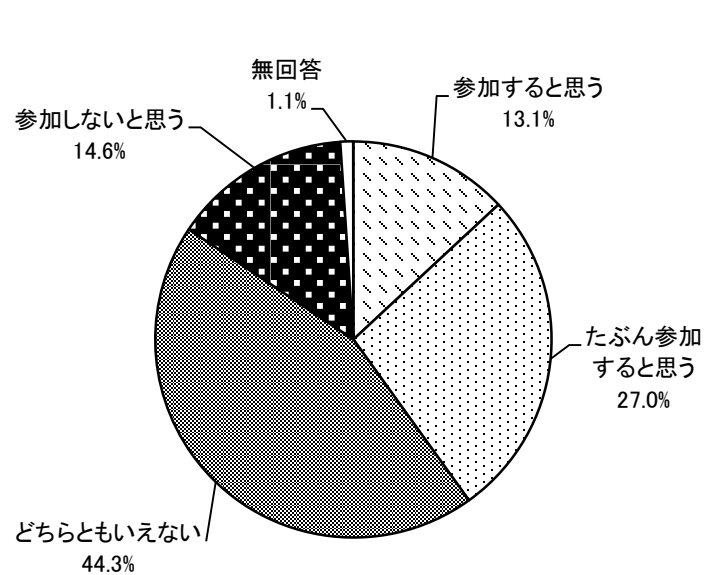
年代別に見ると、「訓練の実施を知らなかった」では「20 代以下」(74.1%)、「30～40 代」(70.1%) がともに全体 (51.0%) と比べて高くなっている。



Q 7－2. 防災訓練が実施された場合もしくは実施を知った場合は参加すると思いますか。

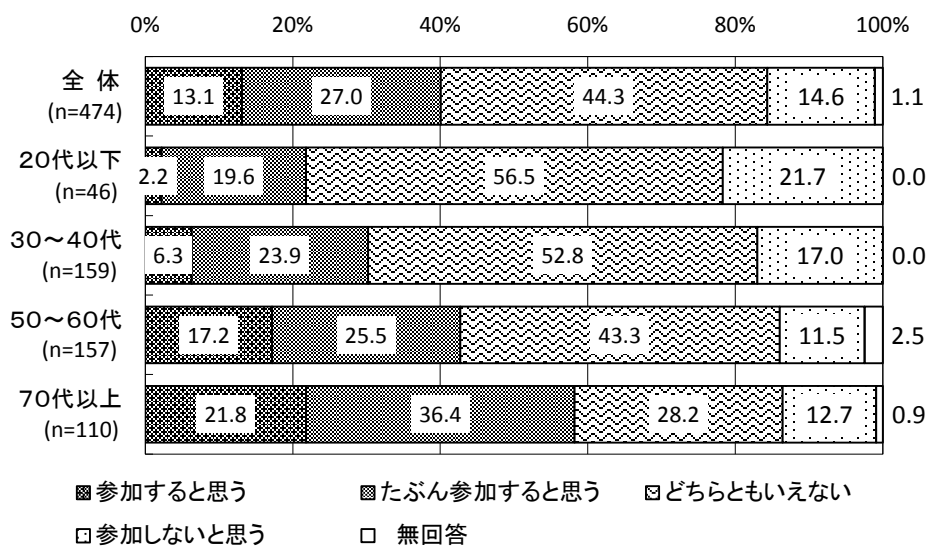
※Q 7－1で「5. 訓練の実施を知らなかった」、「6. 訓練が実施されていない」と回答した方のみ)

防災訓練が実施された場合、もしくは実施を知った場合は参加すると思うかどうかでは、「どちらともいえない」(44.3%)が最も高く、次いで「たぶん参加すると思う」(27.0%)、「参加しないと思う」(14.6%)の順となっている。
また、「参加すると思う」と回答した人は、13.1%にとどまっている。



■ 年代別

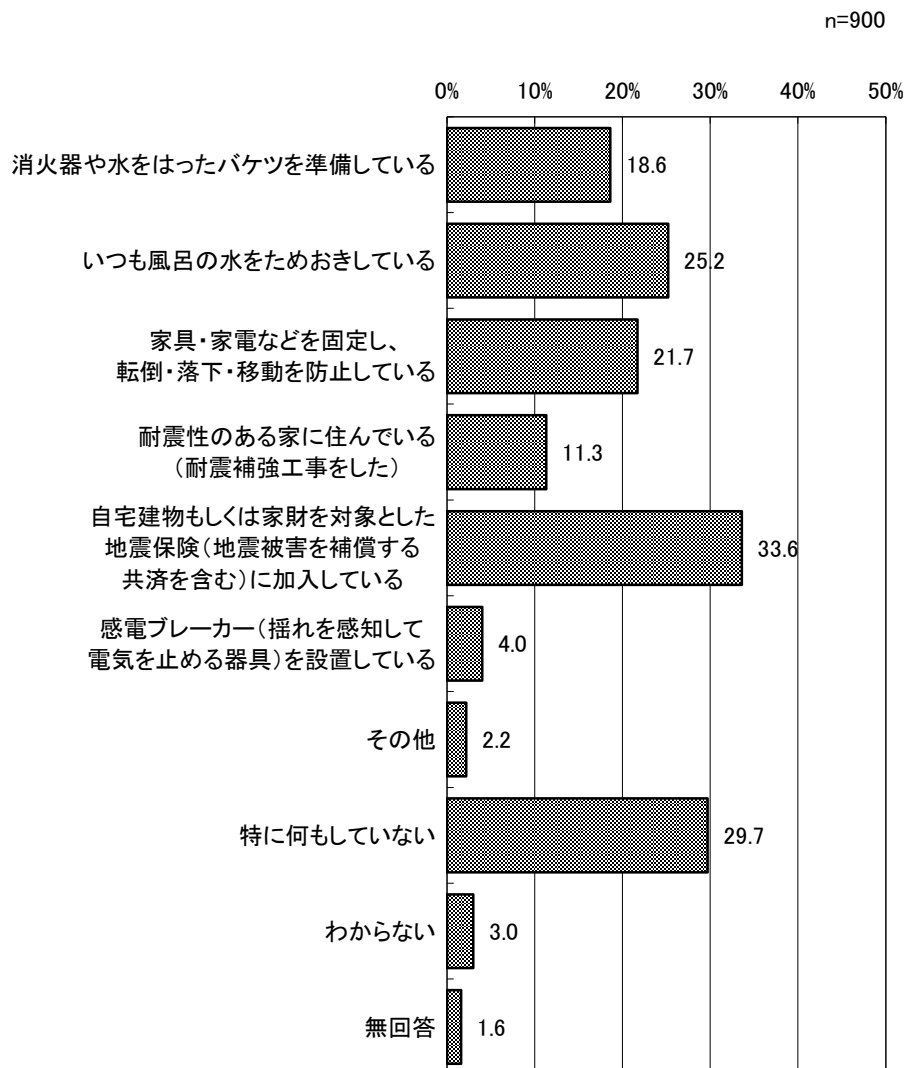
年代別に見ると、「参加すると思う」では「20代以下」(2.2%)、「30～40代」(6.3%)
がともに全体(13.1%)と比べて低くなっている。



（建物耐震化や家具転倒防止策など）

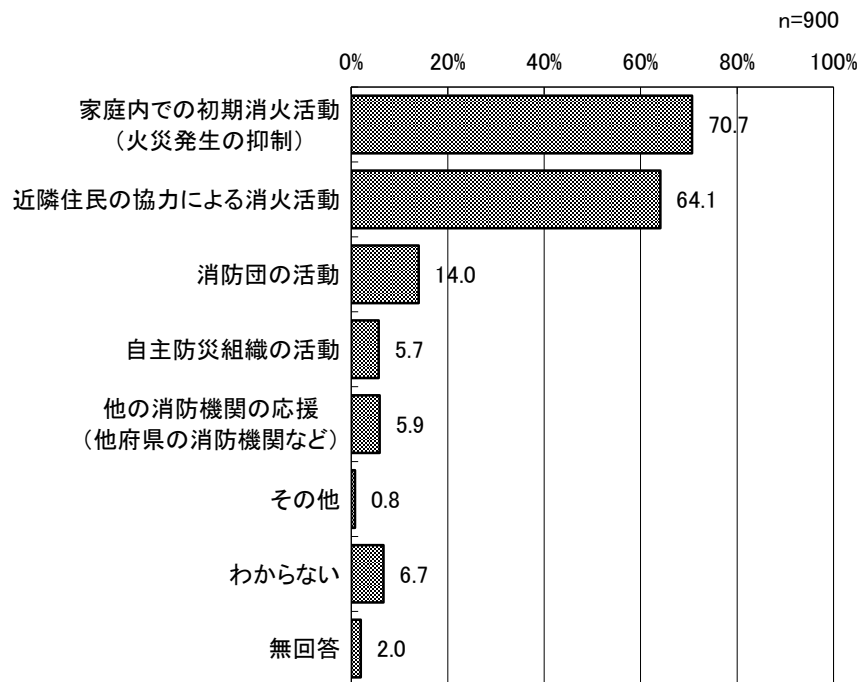
Q 8. あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっているかでは、「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」（33.6%）が最も高く、次いで「いつも風呂の水をためおきしている」（25.2%）、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」（21.7%）の順となっている。
またその一方で、「特に何もしていない」（29.7%）も高くなっている。



Q 9. 地震で火災が多く発生した場合には、消防隊が不足すること考えられます。到着が遅れる場合に、地震火災による被害を最小限に抑えるために必要だと思うことは何ですか。（2つまで回答可）

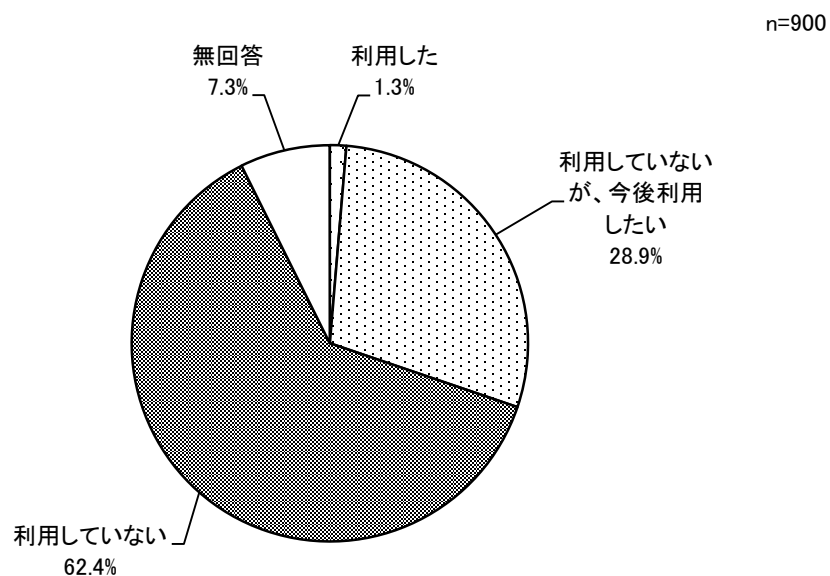
地震で火災が多く発生し、消防隊の到着が遅れた場合に、地震火災による被害を最小限に抑えるために必要だと思うことは、「家庭内での初期消火活動（火災発生の抑制）」（70.7%）と「近隣住民の協力による消火活動」（64.1%）が他と比べて高く、次いで「消防団の活動」（14.0%）となっている。



Q10. 市では古い住宅の耐震診断の助成をしています、利用していますか。

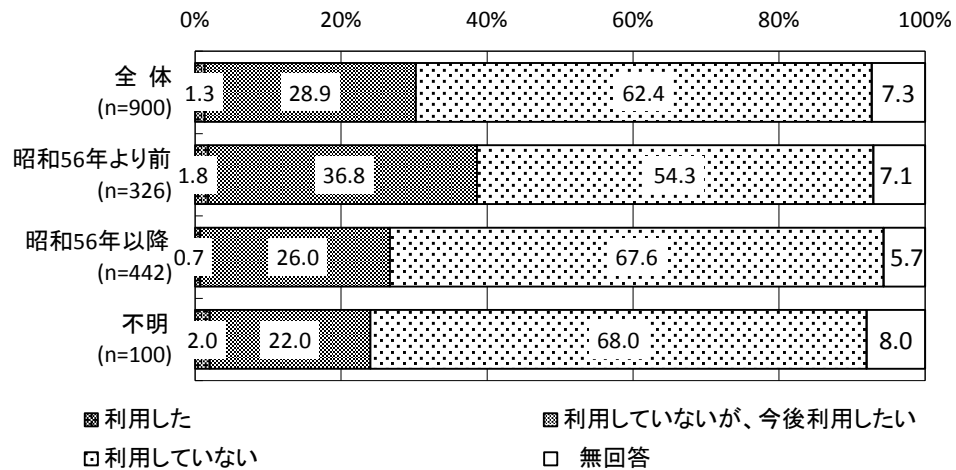
市では古い住宅の耐震診断の助成をしているが、利用しているかでは、「利用していない」(62.4%)が最も高く、「利用していないが、今後利用したい」(28.9%)を大きく上回っている。

また、実際に「利用した」と回答した人は、1.3%にとどまっている。



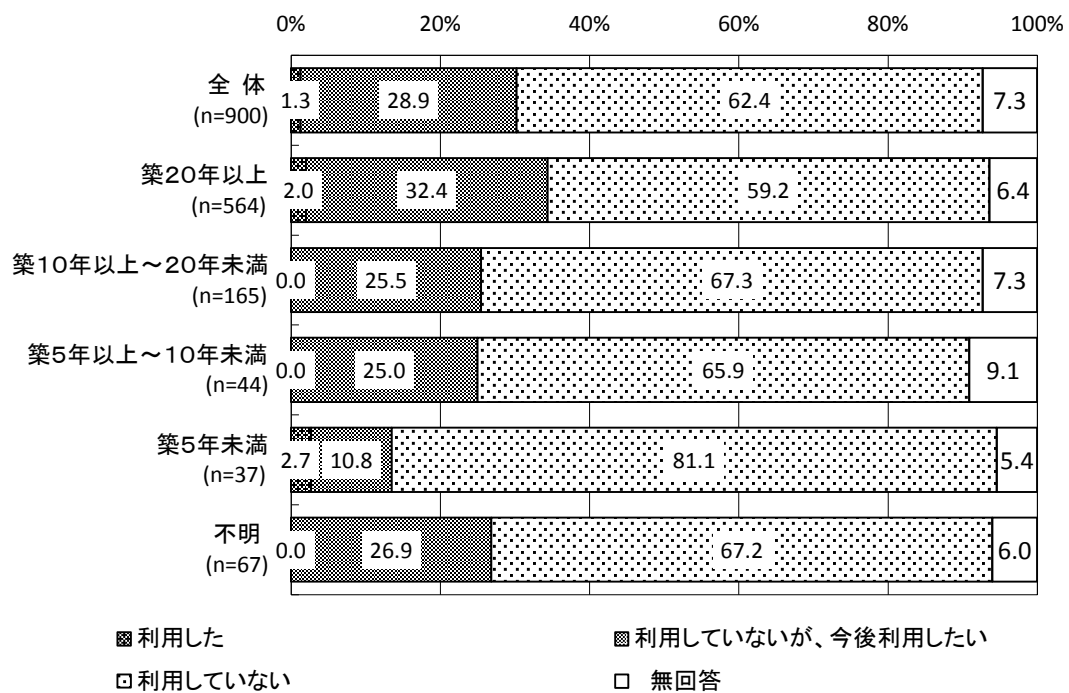
■ 住居の建築年別

住居の築年別に見ると、「利用していないが、今後利用したい」では「昭和56年より前」(36.8%)が全体(28.9%)と比べて高くなっている。



■ 住居の築年数別

住居の築年数別に見ると、「利用していないが、今後利用したい」では「築5年未満」(10.8%)が全体(28.9%)と比べて低くなっている。



「被害軽減策の実施状況（Ｑ７からＱ１０まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
最近の話ですが、桑才新町の火事のように消防署が役に立たない場合心配です
公団住宅の耐震補強工事はおこなっているのか。
万が一その時は逃げる道は決めているが、当日は分からないと思う。
アパートもですか？ 何年から古い住宅ですか？
診断結果必要となった場合の費用がないので利用出来ません。
何も情報がないです。
私のように知らない人多いと思う。
日頃から隣人達とコミュニケーション大事にしておく。
自主防災組織を作らなければならないと思っている。
特に無し
あまり、活動に参加出来ませんが、やはり、しっかりと予備対策を取る必要性があると感じました。
借家だから。
何もかもスムーズにいけば言う事ないけど？
家は44年以上から住んでいて、大きな地震がきたら簡単に壊れてしまうだろうとは日々思っている。 だだ、母も年をとっていて、自分自身も契約社員という場で引越しや建て替えなどは考えにくいのが現状である。
身体の内両足不自由で松葉杖使用。耳も充分に聞こえない。
ぐらっときたら、すぐ止めるを心掛ける。
淀川が氾濫する事を忘れている
防災訓練については、仕事がなければ参加したい。
その時に落ちついて行動出来る事が一番。 近隣の協力、さてどうでしょう？
いろいろな訓練や防止策も必要と思いますが、土地の性質も知っている方が良いと思います。
地域にもっと簡易消火栓を設置してほしい。
耐震診断の助成の範囲を拡大して欲しい。 新築して数ヶ月で阪神大震災にあったので家がゆがんでいる。
府営住宅の耐震対策はどうなっているのでしょうか。
防災について繰り返し、教えて欲しい。

市民用アンケート解析結果

意見
地震で火災が発生した時など今住んでいる近隣住民（私も含む）は、高齢者ばかりでいざという時は、身体的に無理だと思います。
旭化成ヘーベルハウスですので、家屋の主要部分 32 ヶ所に径 10cm 長さ 10m のパイプが、9 m～10m 地下に打ち込まれているので通常の木造家屋よりは、耐震性には、気休め出来ると思う。
具体的に実感が無い分、考えが及ばない。
経験した結果、狭い地域範囲の情報収集が重要。 防災放送網の充実を正確性。
阪神大震災やその後の福島の大震災があったとおり、人間の限界を超えた自然には勝てないのでは？ もし我々が住む家があるならば、耐震構造や津波を逃れる 10m 以上のマンションではないか？（1 F～5 F までは駐車場などの施設）などとして）
私の借りているマンションは築 24 年も経っているので色々ガタが出てきています。 この年になって（もう 10 数年借りています）引っ越すのは面倒なので住んでいますが 1 F ですし、地震がきたらきっと潰れると思います。
Q10 古い住宅とは築何年の事ですか？ マンションなので耐震診断して頂いているのかわかりません。
東日本大震災発生後から 3 年以上が経ち意識が薄れていく中、良きアンケート実施でした。
広報などによってもっと啓発してほしい。
マンションは停電すると断水してしまうので、水をおくようにしているが、狭く置き場や維持に苦労している。 風呂もユニットなのでためおく限界がある。 保険・・・身一つで逃げ何も残らなかったら会社名もわからず補償を受けられないのだろうか？
町会の消火栓の有り場所点検。
借家であっても、どの位までの耐震他があるのか、借りる人に知らせる義務化にしてほしい。
行政の対策や助成を知りませんでした。
昭和 56 年以前の建物で、阪神淡路大震災のこともあり、特に地震が気になりますが、色々の面で決断が付きません。
防災訓練等の行事は前もって（前日等）学校のスピーカー等を利用して知らせてほしい。
自治会など地域活動したいが、周囲一部自治会に入っておらず、入りたくても入れないので協力しあえない不安がある。
平日の時も防災訓練をしてほしい。
情報の精度、早さ等、信頼性が重要と考える。

市民用アンケート解析結果

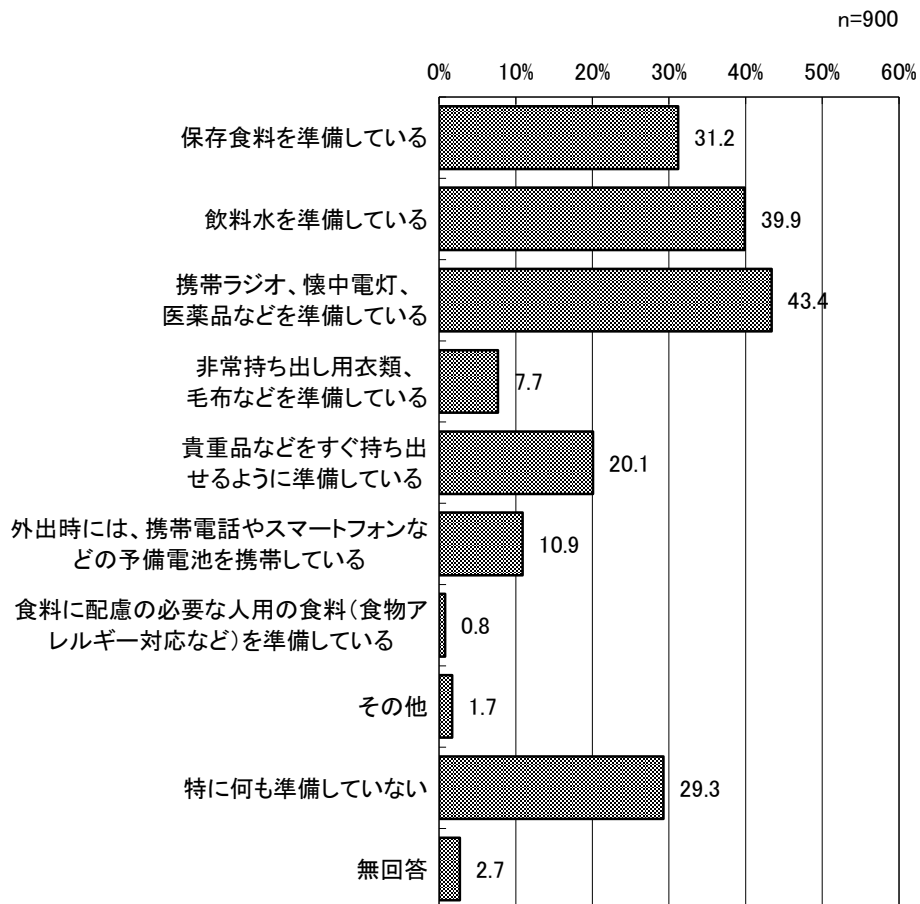
意 見
大きな地震が来た時、自分の住んでいるマンションが地震に耐えられると思われないです。どうすればいいですか？
速報を早く。
誰でも使える公共の消火設備の充実が必要では？
私は身体が不自由なため主人まかせです。 市は、そういう人を把握していますか？
自分たちの自治体で最小限に被害を軽減する。
賃貸に住んでいる為、耐震があるのかどうか分からない。 防災訓練も仕事があり不規則な勤務体制なので都合が合えば参加できる。
なし。
耐震診断の助成で、もう少しわかりやすく広報で目立つようにして頂きたい。
Q 9 不足以前に市内の道幅が狭いので、消防車等、侵入出来ないと思う。 区画整理が先なのではないでしょうか。
一人暮らしの方に声かけ（挨拶だけでもする）。

■非常時持出品、備蓄物資の準備状況

Q11. あなたの家では災害時のために、持出品の準備や備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

災害時のために、持出品の準備や備蓄を行っているかでは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」（43.4％）が最も高く、次いで「飲料水を準備している」（39.9％）、「保存食料を準備している」（31.2％）の順となっており、3割を超える人が、災害時のために準備や備蓄をしている。

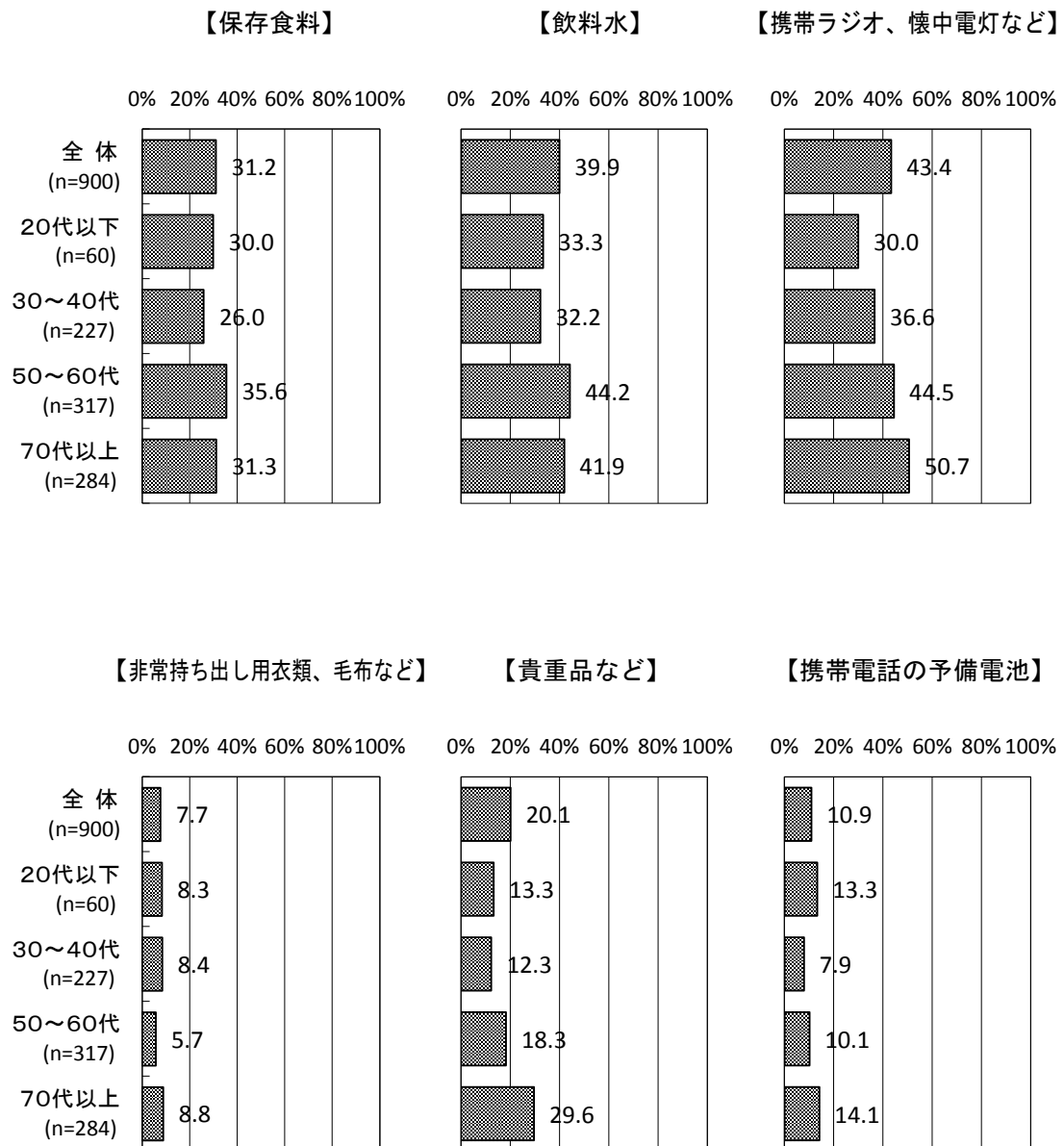
その一方で、「特に何も準備していない」（29.3％）と回答している人の割合も高くなっている。



■ 年代別

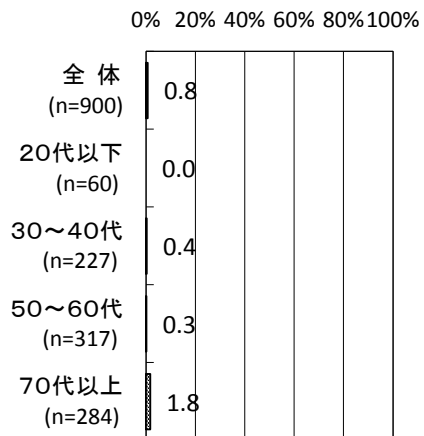
年代別に見ると、「特に何もしていない」では「20代以下」(40.0%)、「30～40代」(41.0%)がともに全体(29.3%)と比べて高くなっている。

また、「70代以上」では「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」(29.6%)が全体(20.1%)と比べて高くなっている。

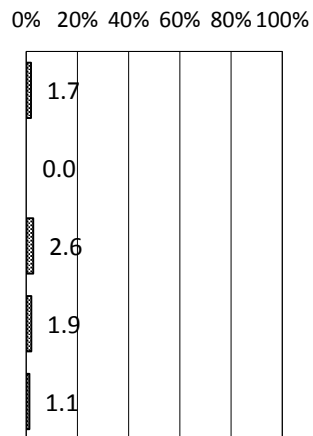


市民用アンケート解析結果

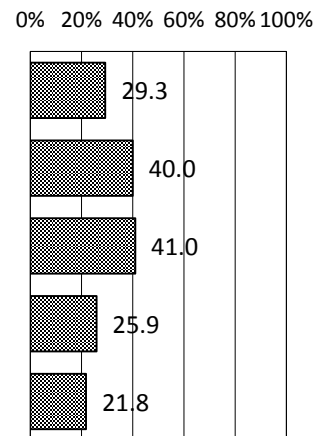
【食料に配慮の必要な人用の食料】



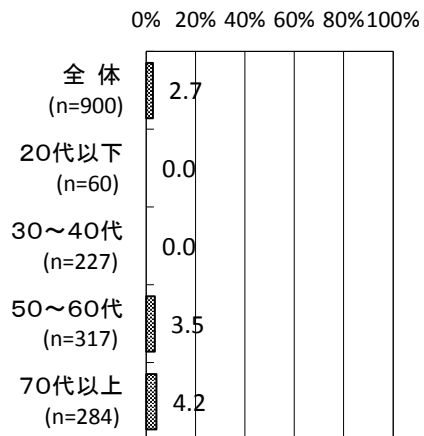
【その他】



【特に何も準備していない】



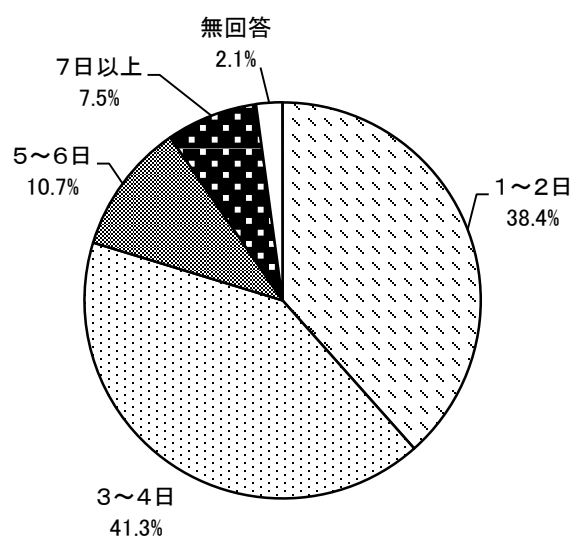
【無回答】



Q11－１． ご自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせると思いますか。

※Q11で「１．保存食料を準備している」と回答した方のみ

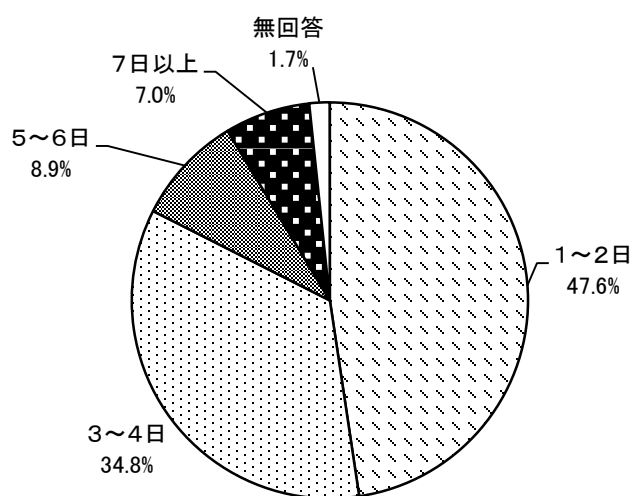
自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせるとするかでは、「３～４日」（41.3%）が最も高く、次いで「１～２日」（38.4%）、「５～６日」（10.7%）の順となっている。



Q11－2. ご自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。ご家族1人あたり1日3リットルで計算してください。

※Q11で「2. 飲料水を準備している」と回答した方のみ

自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度か（家族1人あたり1日3リットルで計算）では「1～2日」（47.6%）が最も高く、次いで「3～4日」（34.8%）、「5～6日」（8.9%）の順となっている。



「非常時持出品、備蓄物資の準備状況（Q11 から Q11－2 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
災害時の状態による事大。 どの家庭でも対策は一応考えられていると思いますが、夜中とか火災などでは先ず逃げ出すことが第一です！！
耐震性のある住宅に住んでいるので、2階に置く様にしている。
飲料水がなかなか用意出来ない。
スリッパ、くつゝ外に出るのに必要。玄関から出られるとはかぎらない。 ゴミ袋←保温、その他 食料をのぞいて最低限これがあればという物を伝えて欲しい。 水や食料の備蓄は1～2日だと思う（4人家族）。 TVで言うほど水は持ちださない。 老人が優先されるが乳児についての市の備蓄を考えてほしい。
日中は他市で働いている為、大災害では門真市へ戻ってこられない。
門真市が門真市民 10 万人のために備蓄している食料品等は何日分あるのか？全く伝わってこない。
飲料水は常に3～4ケース（2リットル入り 20 本～24 本）は備蓄している。
年をとると、軽いと思っていた持出しリュックが重くなりましたと感じます。 本当に出来るか時々心配です。
ライフラインが止まれば食料はなし。
どの程度必要か理解していません。
トイレットペーパー、手袋、ラジオ、電池、下着、ビスケット、その他。
明かりは絶対必要。停電で真っ暗になるとパニックになります。 LEDライト、LEDランタンは必要です。
食料品、水等、結構重く大量は無理（年寄りにつき）。
避難時に持っていく物資の内容、量など（一例などでもよい）参考として普段からわかりやすく知らせて欲しい。
今の所、持ち出し用品の準備が出来ていないので少しずつ用意していこうと思っています。 衣類、毛布までとなると大荷物になって、1人では持ち出せないと思っています。
家族の意見が違くと準備している物をかってにだまって使われてしまうのでまとまらないです。
食料品の備蓄について定期更新のことを考えるとなおざりになりがちで、永続がむずかしい。

市民用アンケート解析結果

意 見
備蓄食品の消費期限が気になります。
市からもらった常備食がある。 試食用があれば安心。
保存食もあったがやはり賞味期限などで食べたものもある。 考えるとないのかも。
特に準備をしていませんが、先ず、置き場所のスペースや口にする物は、やはり期限がありますので、若干難しいなと考えています。
わからん。買い置くお金がない、場所もない。
客室であればそれなりにあります。
備蓄はしていても持出しは（自分で）不可能と思う。
ガス、水道、電気が止まった時の食品は、2～3日はあると思いますが長期保存の具体的な食品が知りたい。
種類が多くリュックに入りきらず、しかも重く緊急時持ち出せるかわからない。
災害時、水、カセットコンロをあんまり使わずにすむレシピ。
保存食料の消費期限のチェックをしていない。 準備しているものが本当に家族人数に対してたりているか不安。
缶詰が沢山ありますが、ご飯やラーメンはお湯を必要とするので困ります。 蒸すさつまいも2日分位はいつもある様にしています（ご飯がわり）。
菓はバックの中に5日分位用意している。
持出品も準備していても、きっと持って出る事が出来ない。 自分達だけでいっぱいだから。
備蓄しているが、多くの物品になると持出が不可能かも？
非常食品の備蓄については、保存期間があまり長くないので保存が大へんでおこたりがちになる。
その時にならないとわからない。 頭の中がパニックになって身体が動くか心配です。
一時期準備していたが、その内おざなりです。
用意しているつもりでも、不足するとつい使ってしまうので、備蓄と言う事を頭の中に常に持っていたいと思います。
保存食、気が付けば、古くなっている事が多い。
大阪はあまり災害がないので、買い置き（それ用の）や備蓄など、したことがない。
その時の状況で必要な物が変わってくるので見極め方等も大事なのかなと思う。
食料品については、冷凍庫に1週間分保管している。 飲料水については、20リットルタンク×4個。

意 見
水は重くて持ちにくいし、命の方が大事だから、まずは身体一つで脱出する事を考えている（色々持ちだしたら逃げ遅れるかも）。 ここは山奥の田舎ではないから、身体さえ無事なら、食料や水などは行政や赤十字が何とかしてくれるかと期待しているので…。
どれくらい必要なかを習った事がないので、広報にのせてほしい。
1. 停電→電池の準備、プロパンガス缶の予備、携帯用ガソリン缶（キャンプ用品の活用 OK）。 2. 断水→ポリタンクの確保。 3. 火災→自宅消火対応 OK。 4. 食料→冷凍米の確保ほか冷蔵庫に一週間程度の予備、ラーメンなどの確保→OK
記録→準備の備えをしておく。
特になし。
いくら用意をしても、いざという時は身一つで逃げるかけだと思う。 無駄な努力より健康を保つ事と思います。 特に足腰を強くすること。
命が助かった後の大事な事。 品名、賞味期限の管理をきっちりして頂きたい。
非常持出し袋など準備しなければという思いはあるが、ついついというのがずっと続いているのを困ったものと思っている。
病気のため薬は袋にまとめて持ち出すよう心がけています。 食料品の備蓄もしています。
持ち出し品、大量になると、1人また2人家族では体力的にも無理がある。
何をどれくらいの量、備蓄すべきか知りたい。 市のホームページにその一覧表のようなものがあると助かる（最低限の持出品リストも）。
衣類は夏冬物を準備している。
備蓄しても地震などで取り出せない場所であったり、保管する安全な場所がむずかしい。
市で、物資など市民に安く提供してほしい。
盗難のおそれがあるので保管できる量が少ないと思う。 場所もとるので、あり過ぎても困る。 貴重品はまとめてあるが、盗難対策ですぐには取り出せない。
テレビ等で聞いている限り、最低5～6日程度と言われていますが、今後考え直していこうと思います。
門真は超安全な所だから何の心配もしていない。
実際地震など起きたら準備した物がすぐ持ち出せるか・・・パニックになって行動が出来なくなるのではと不安です。

市民用アンケート解析結果

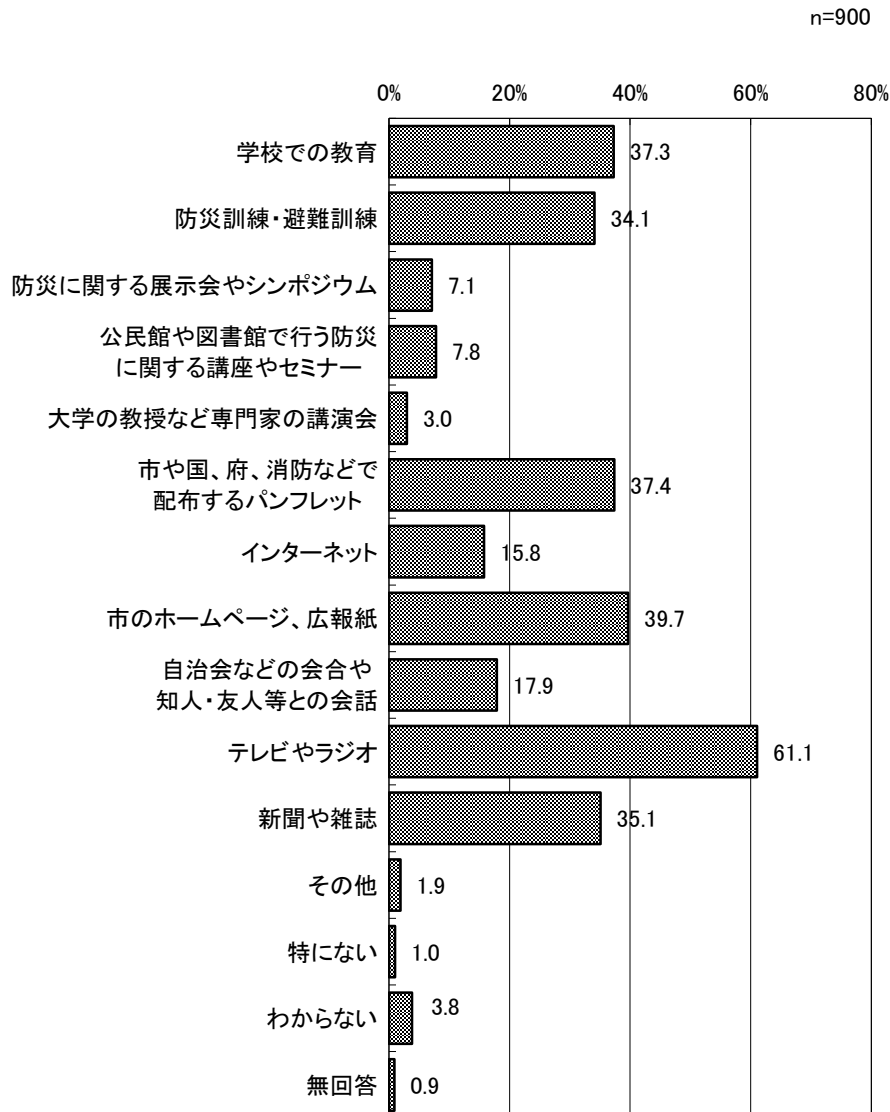
意 見
インスタント食品を3～4日分必ず新しくなる様、古い分から処理している。 水はペットボトルの水を2ヶ月程度で入れ替え、3～4日分入れ替えている。
衛生用品として石鹸や水のいらないシャンプーも用意している。
飲料水は必ず必要なので家でも用意していると思いますが、年に一度、1本ずつでも各世帯に配布できないでしょうか。
持ち出す事を考えると重いので無理です。特に水は。
いざ事が起こった時に、食品等を持ち出せるかどうかは???です。
非常用持出品の準備・備蓄は必要であるが、十分な事は不可能であり、災害時の状況を考えると、行政で準備が必要と考える。
非常時に犬・猫とペットまではと思いますが、やはり大事な家族です。 ペットフードも少しだけ非常袋に入れていますが、これも備蓄物資として考えていただけたらと思います。
備蓄物資について。知人（他市）と備蓄物資をお互いに融通し合う（市の応援協定の家庭版）。
災害時…すぐに行政やボランティアなどから物資が届くイメージがあります（テレビなどから）。
非常時持出品や備蓄物資も用意しなければと思いつつお金がかかる物のため、先に普段の生活用品を備えることが優先になってしまう。 そこまで余裕がない。
なし
門真市で最低の持出品を入れてセットで販売してほしい。 あれもこれもとすると沢山で持ち出す時大変。
全て持ち出せるよう準備している。

■行政に求める支援策、情報提供

Q12. あなたは、普段防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいと思いますか。あてはまるもの全てあげてください。（複数回答可）

普段防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいかでは、「テレビやラジオ」（61.1%）が最も高く、次いで「市のホームページ、広報紙」（39.7%）、「市や国、府、消防などで配布するパンフレット」（37.4%）の順となっている。

また、「学校での教育」（37.3%）、「新聞や雑誌」（35.1%）、「防災訓練・避難訓練」（34.1%）のいずれも3割を超えている。



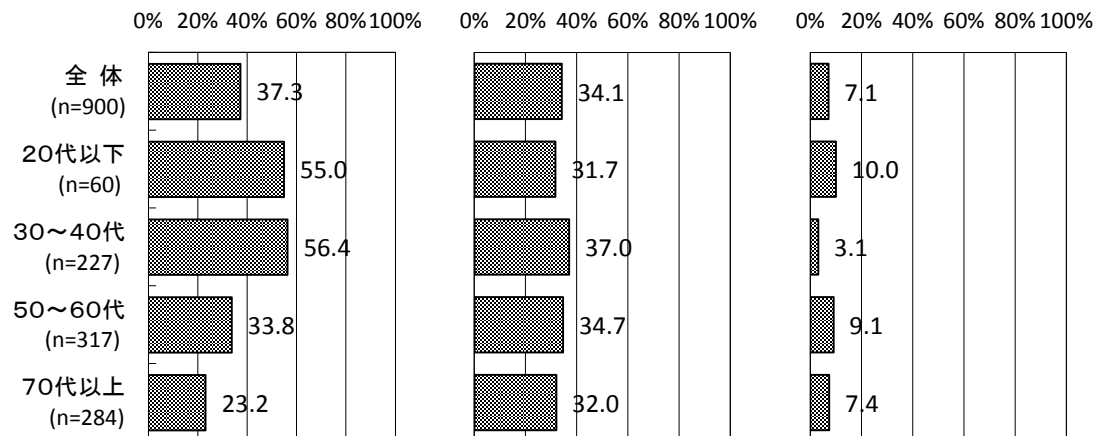
■ 年代別

年代別に見ると、「インターネット」では「20代以下」(38.3%)、「30～40代」(28.6%)が全体(15.8%)と比べて高く、「50～60代」(12.0%)、「70代以上」(5.6%)は低くなっている。

【学校での教育】

【防災訓練・避難訓練】

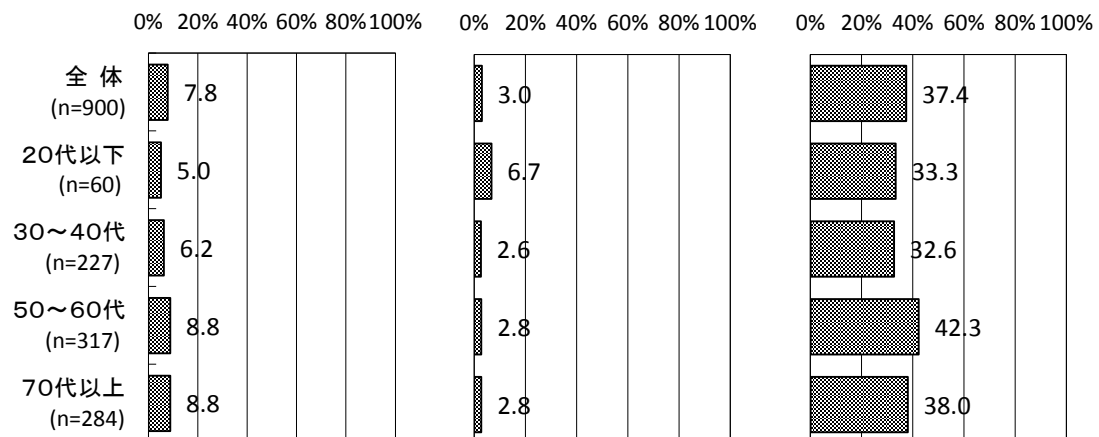
【防災に関する展示会】



【防災に関する講座】

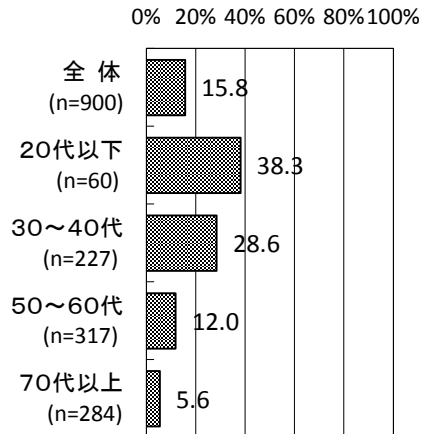
【大学教授などの講演会】

【市などのパンフレット】

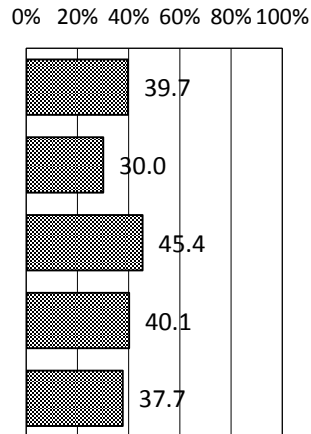


市民用アンケート解析結果

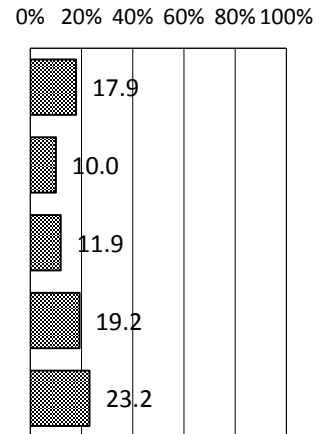
【インターネット】



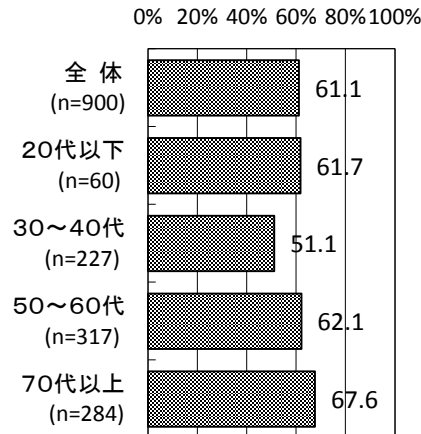
【市のホームページ、広報誌】



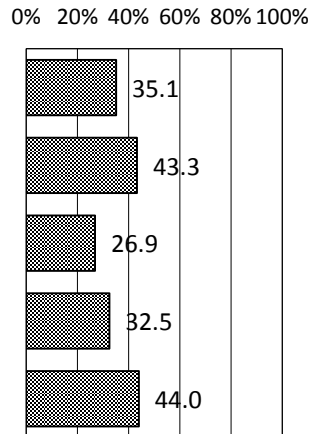
【自治会の会合など】



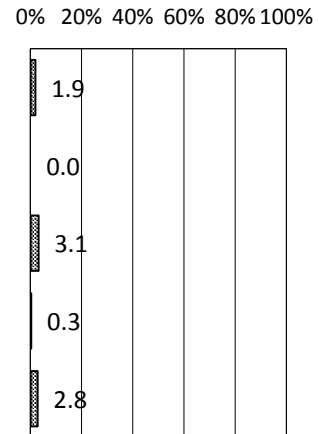
【テレビやラジオ】



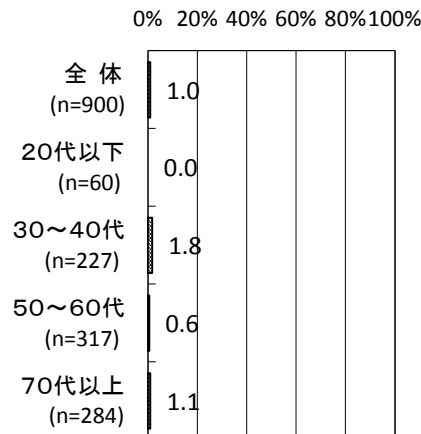
【新聞や雑誌】



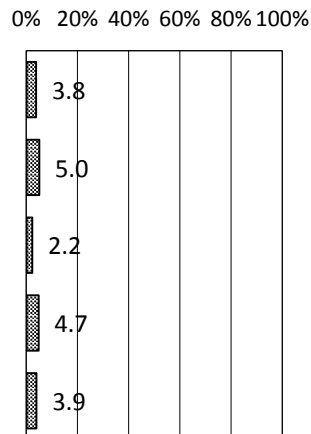
【その他】



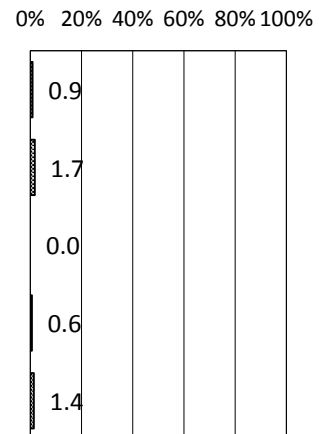
【特になし】



【わからない】

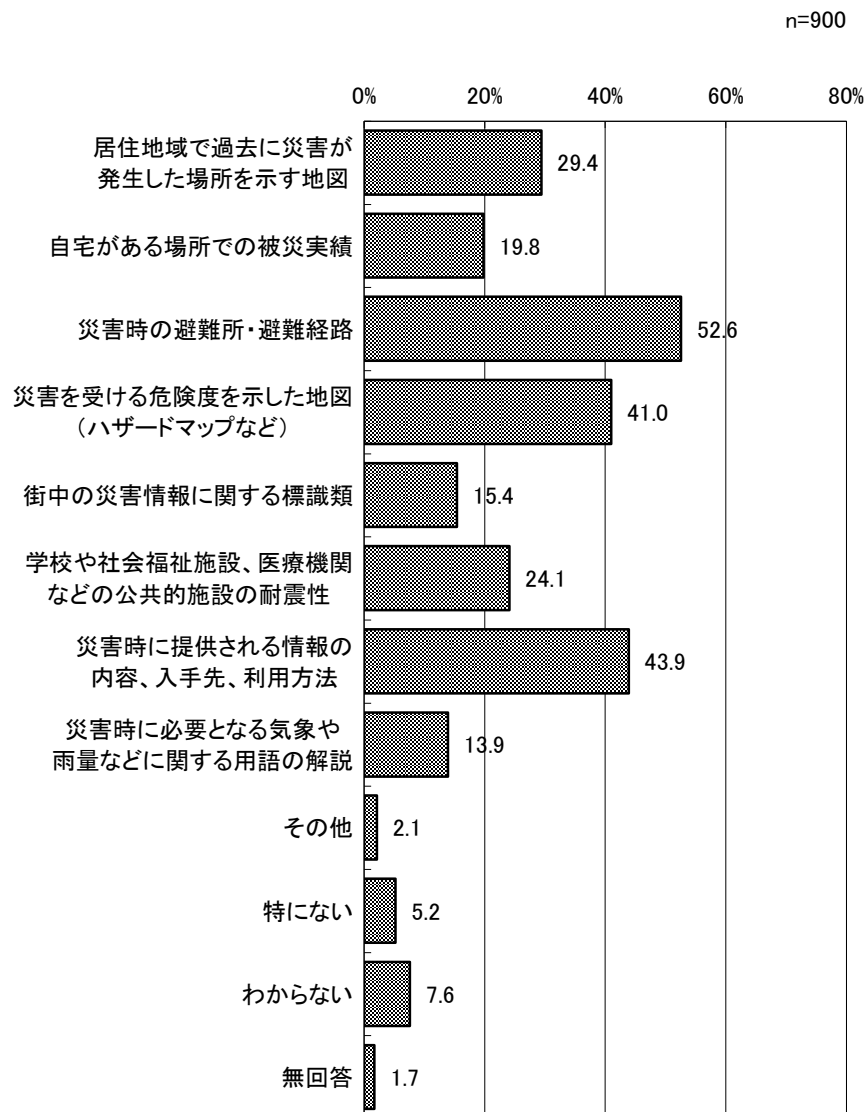


【無回答】



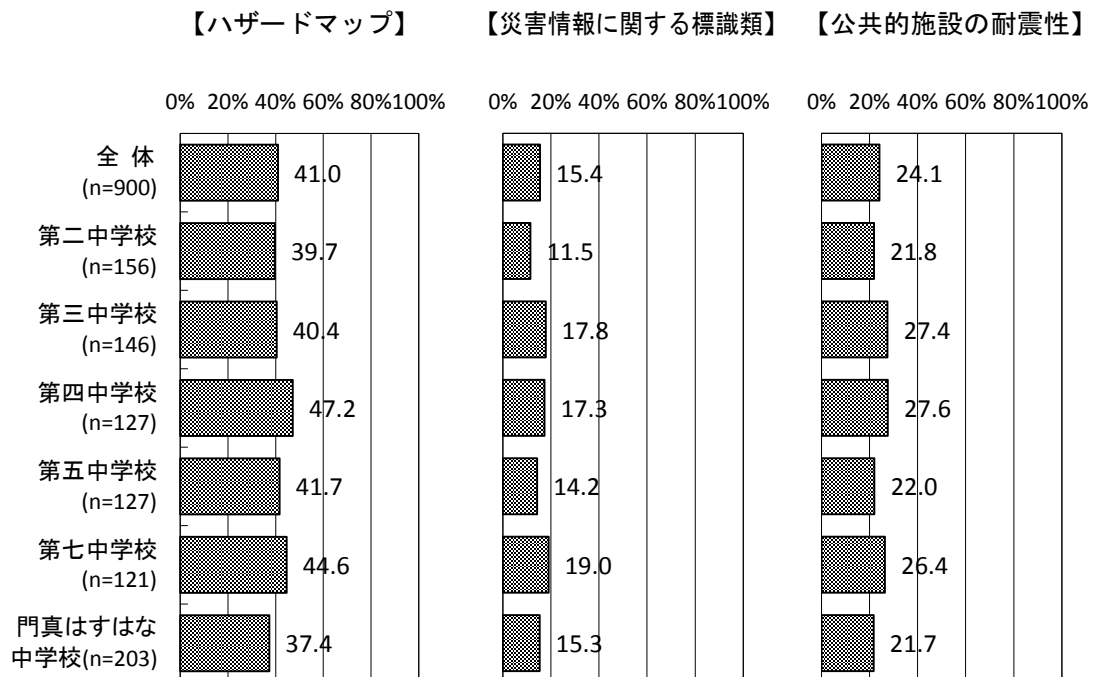
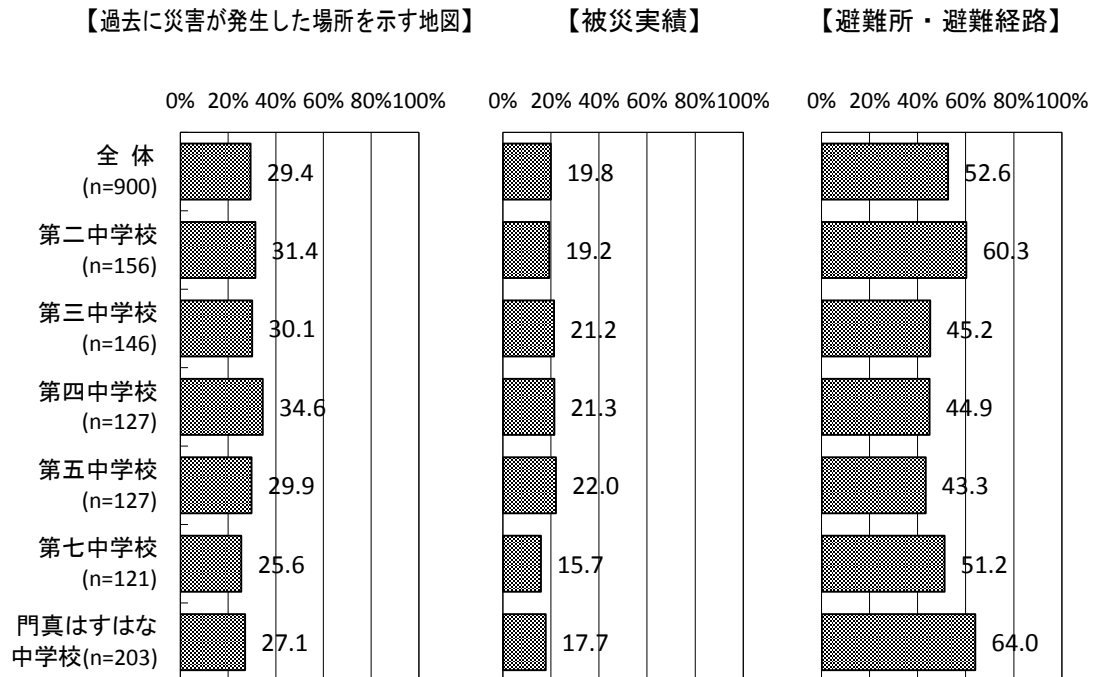
Q13. あなたがお住まいになっている地域で、普段災害の危険性に関する情報や災害対策に役立つ情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

自分の住んでいる地域で、普段災害の危険性に関する情報や災害対策に役立つ情報について、現在より充実してほしいものは、「災害時の避難所・避難経路」（52.6%）が最も高く、次いで「災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法」（43.9%）、「災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）」（41.0%）の順となっている。

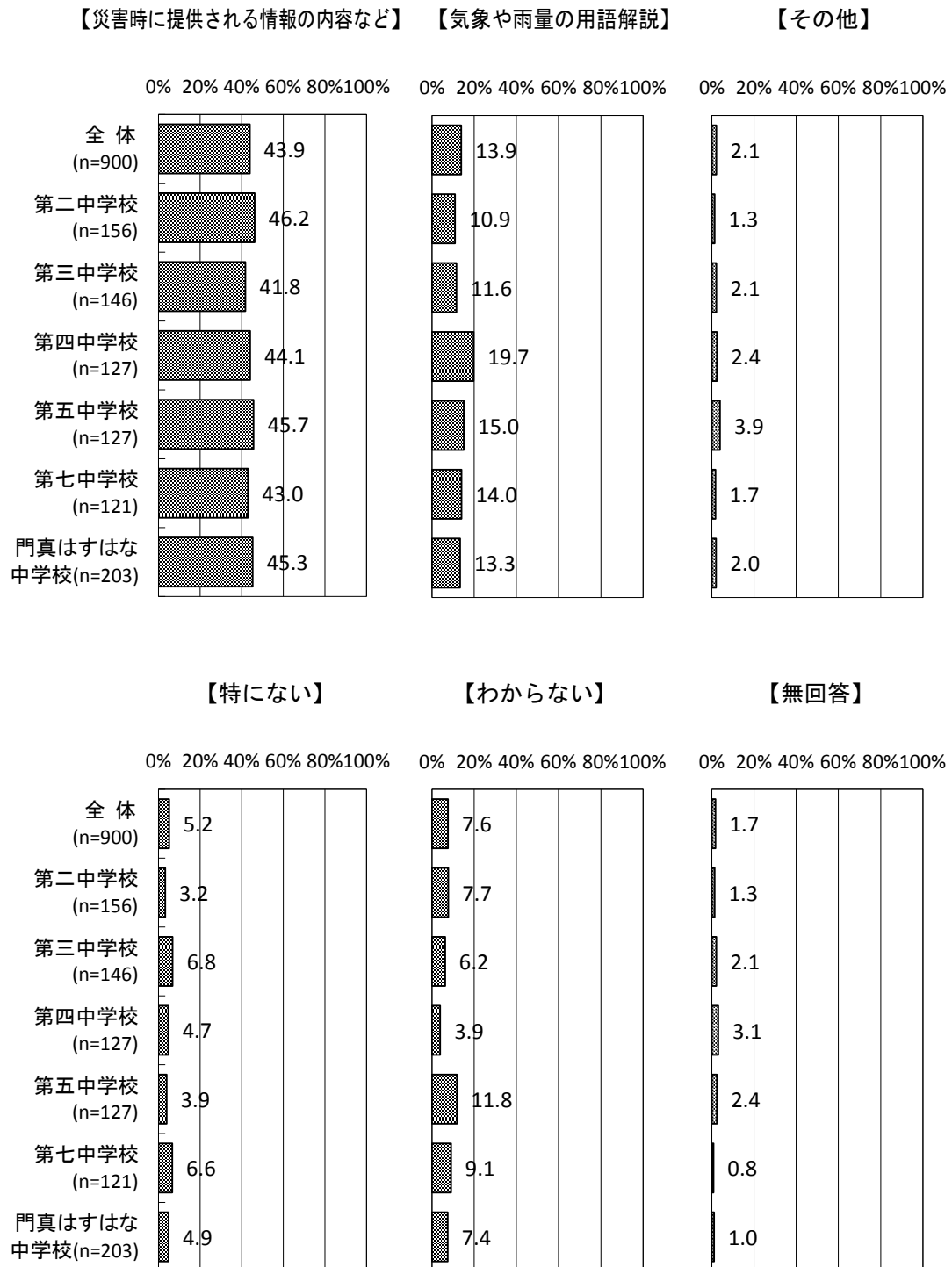


■ 住所（中学校区）別

住所（中学校区）別に見ると、「災害時の避難所・避難経路」では「第二中学校」（60.3%）と「門真はすはな中学校」（64.0%）が全体（52.6%）と比べて高くなっている。

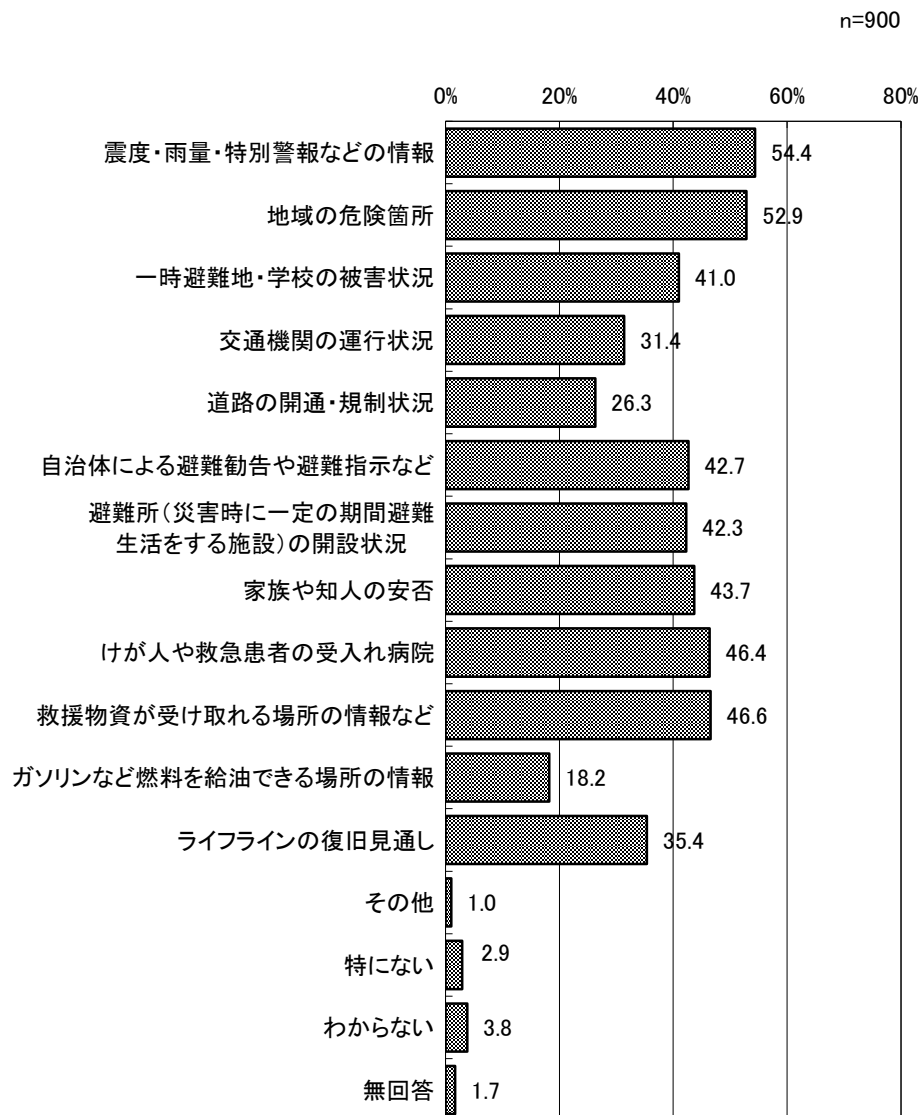


市民用アンケート解析結果



Q14. あなたがお住まいの地域で、災害時に提供される情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

自分が住んでいる地域で、災害時に提供される情報について現在より充実してほしいものは何かでは、「震度・雨量・特別警報などの情報」(54.4%)が最も高く、次いで「地域の危険箇所」(52.9%)、「救援物資が受け取れる場所の情報など」(46.6%)の順となっている。



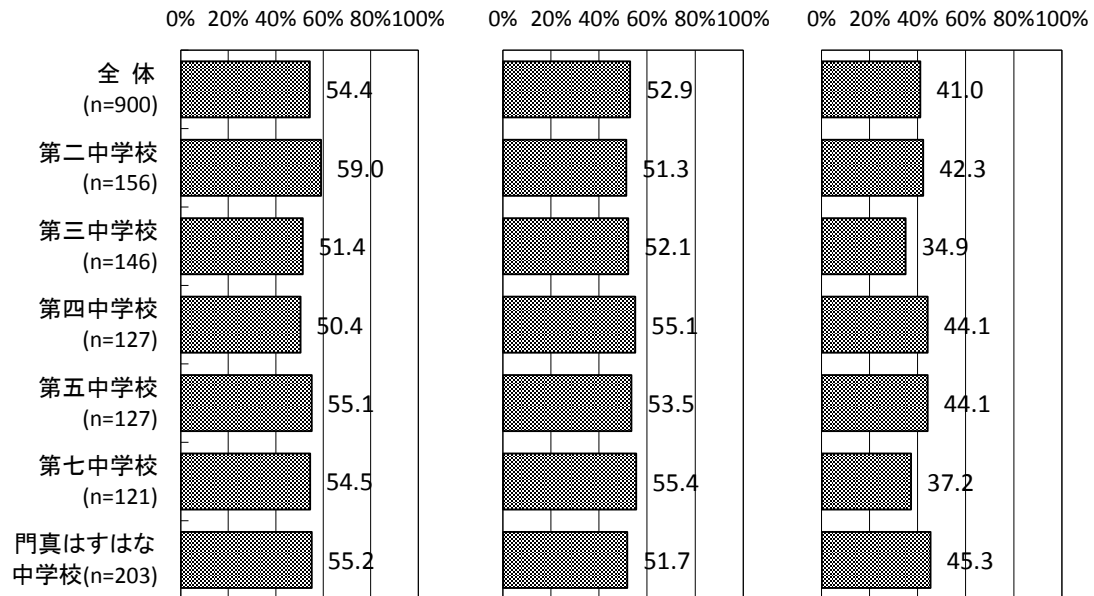
■ 住所（中学校区）別

住所（中学校区）別に見ると、「ガソリンなど燃料を給油できる場所の情報」では「第七中学校」（30.6%）が全体（18.2%）と比べて高くなっている。

【震度・雨量などの情報】

【地域の危険箇所】

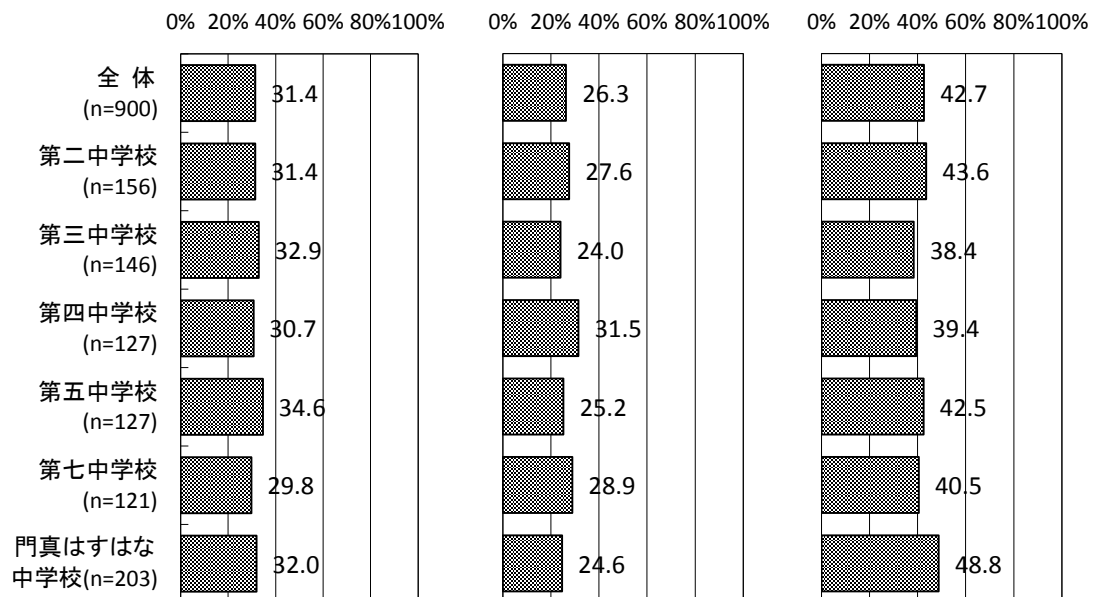
【避難地・学校の被害状況】



【交通機関の運行状況】

【道路の開通・規制状況】

【避難勧告や避難指示】

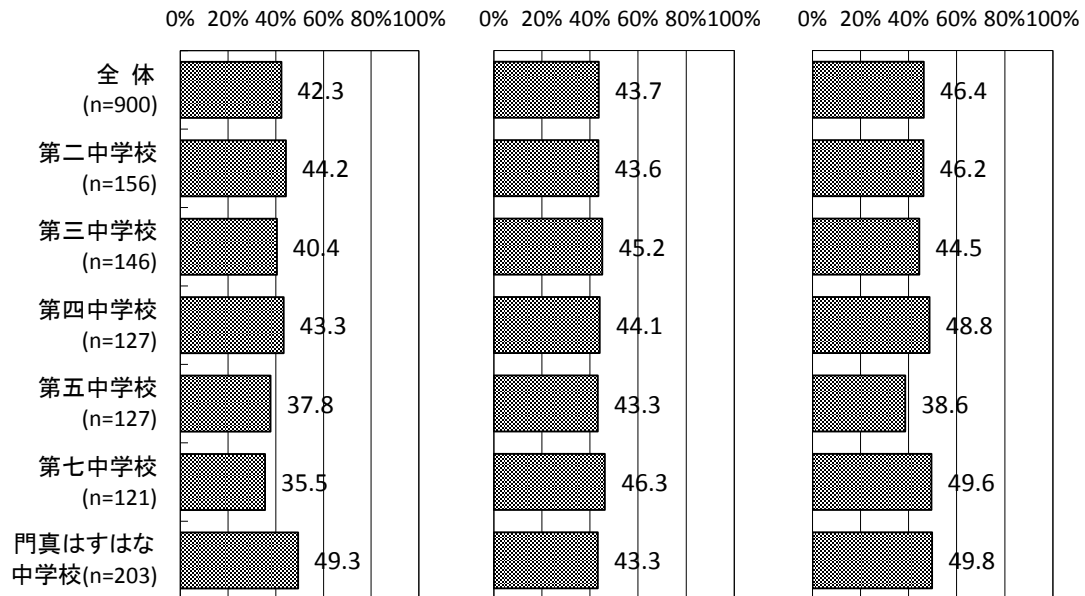


市民用アンケート解析結果

【避難所の開設状況】

【家族や知人の安否】

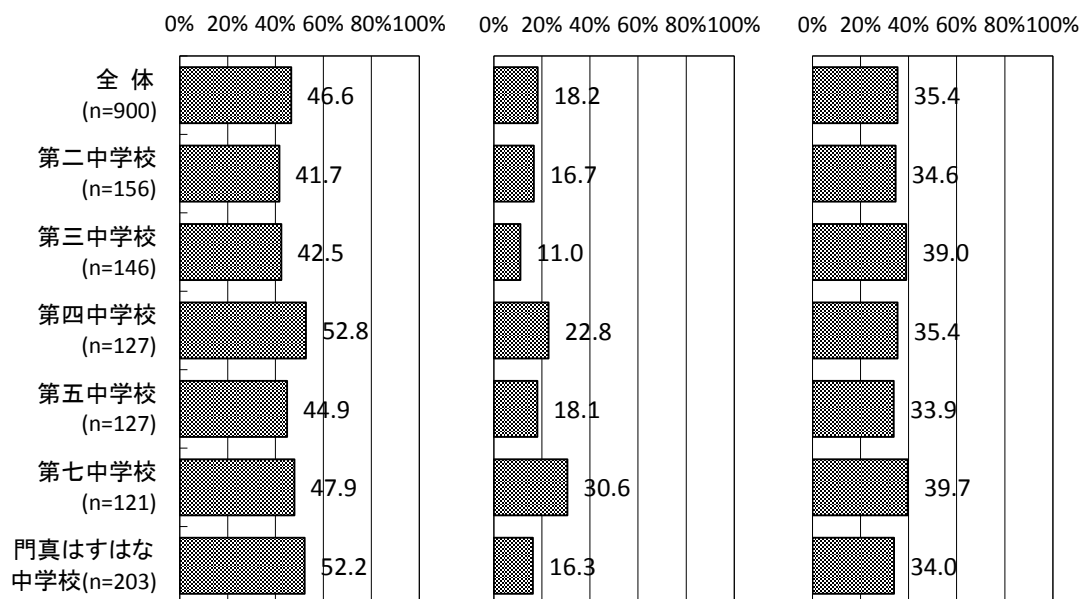
【けが人の受入れ病院】



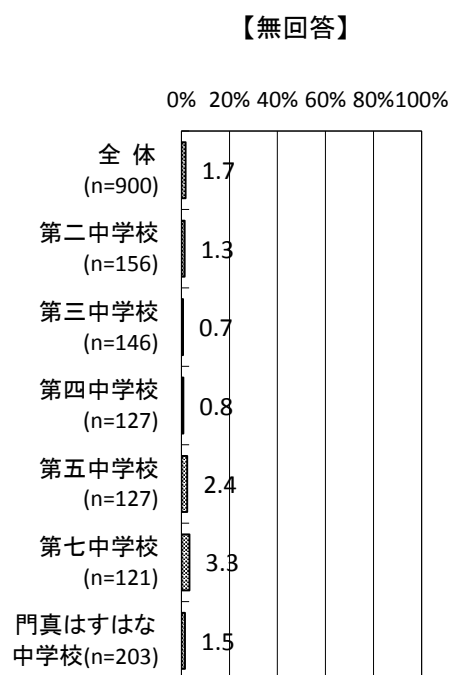
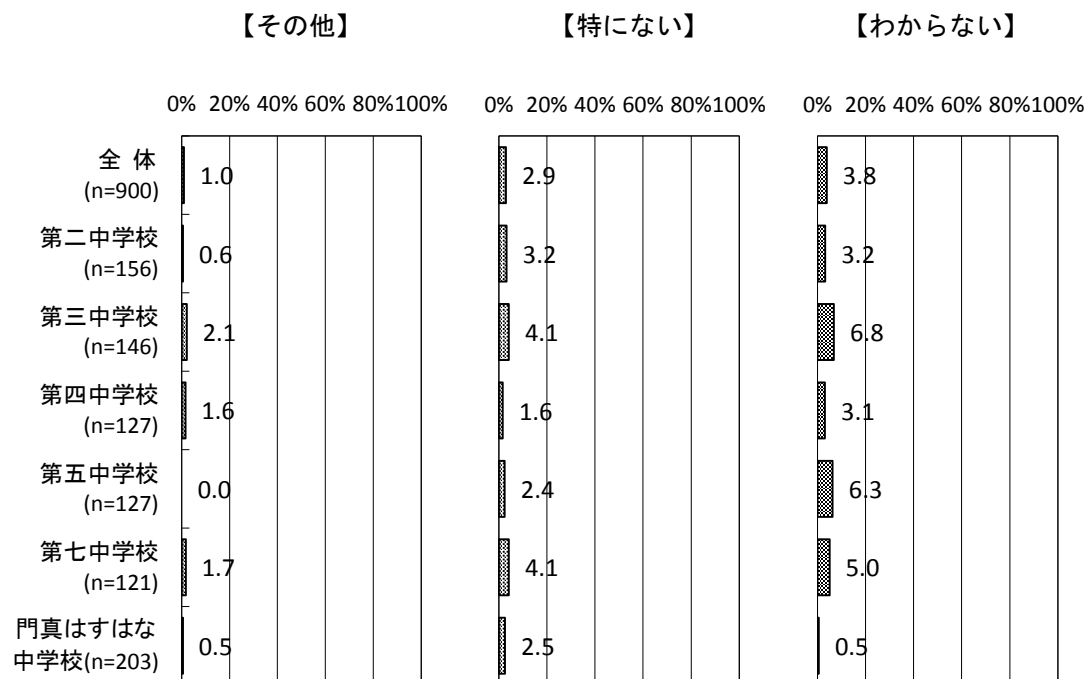
【救援物資の受け取れる場所情報】

【給油場所の情報】

【ライフライン復旧の見通し】

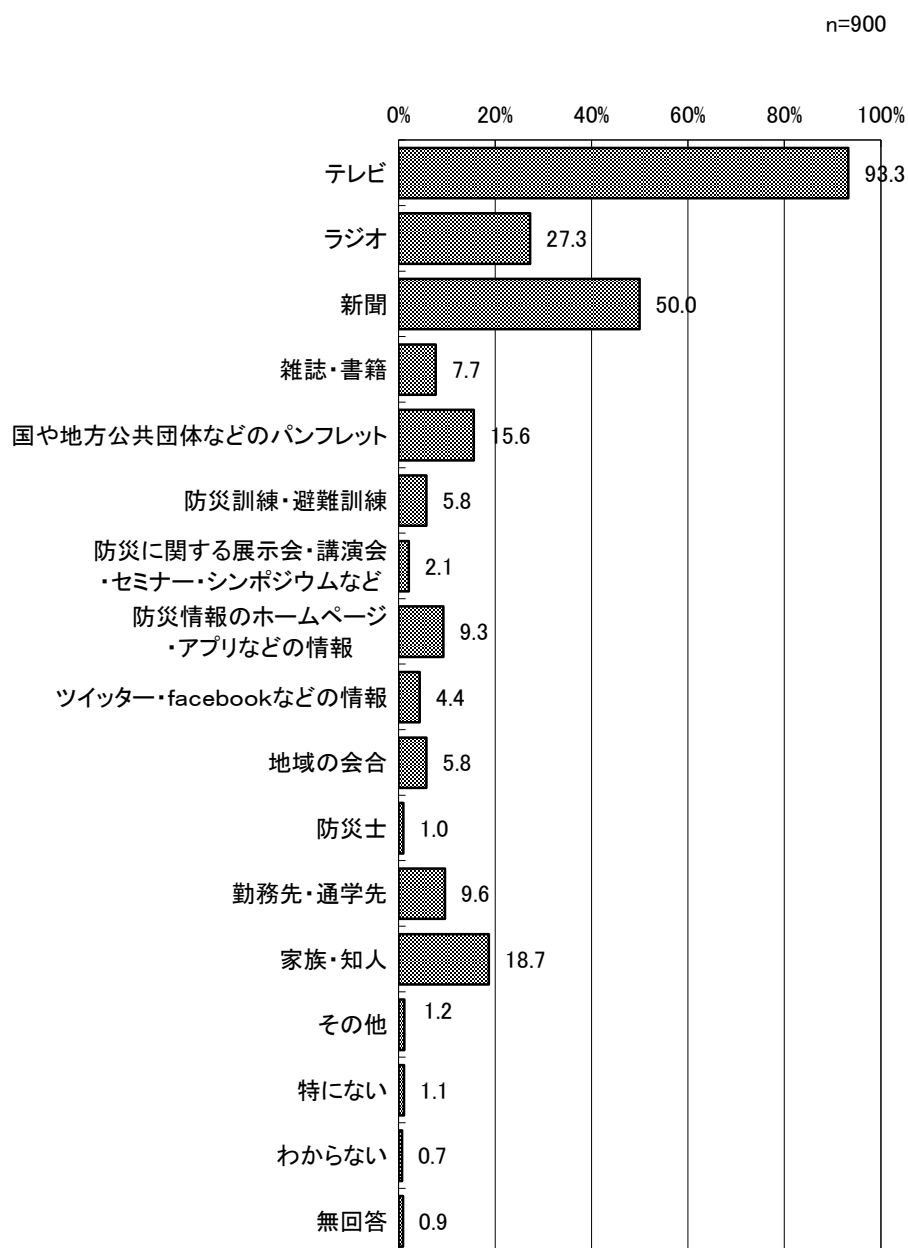


市民用アンケート解析結果



Q15. あなたは、現在、防災全般に関する知識や情報を何によって入手していますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

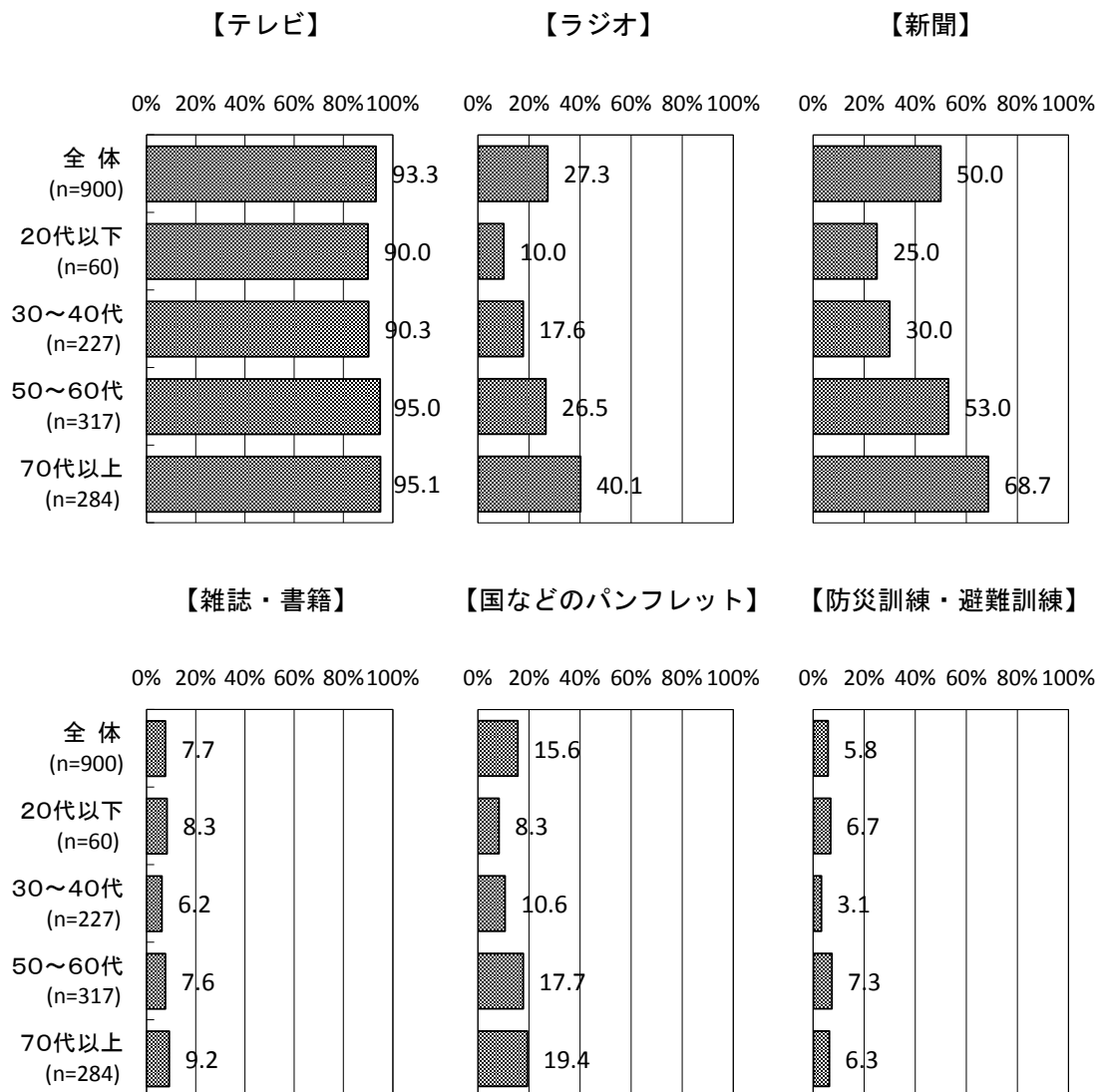
現在の防災全般に関する知識や情報を何によって入手しているかでは、「テレビ」(93.3%) が最も高く、次いで「新聞」(50.0%)、「ラジオ」(27.3%) の順となっている。



■ 年代別

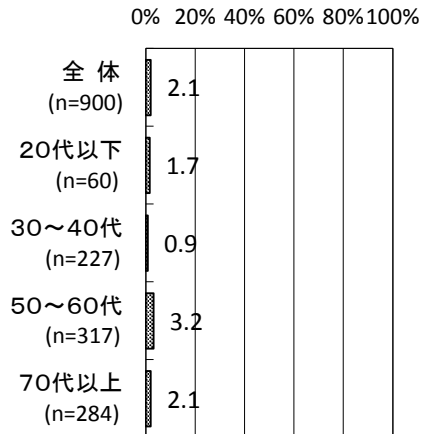
年代別に見ると、「20代以下」では「ツイッター・facebookなどの情報」(28.3%)が全体(4.4%)と比べて高く、「30～40代」では「勤務先・通学先」(19.8%)が全体(9.6%)と比べて高くなっている。

また、「新聞」では「50～60代」(53.0%)、「70代以上」(68.7%)が全体(50.0%)と比べて高くなっている。

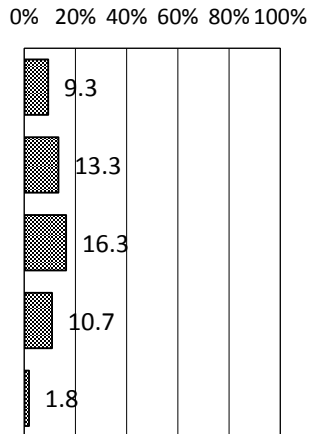


市民用アンケート解析結果

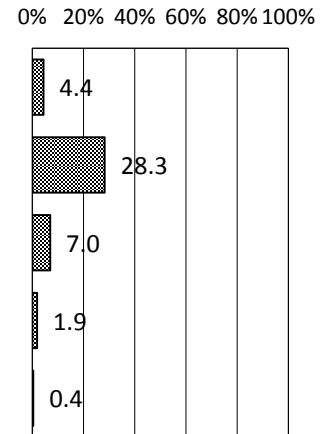
【展示会・講演会など】



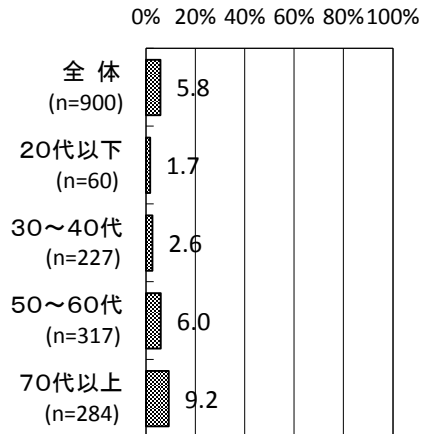
【防災情報のホームページ】



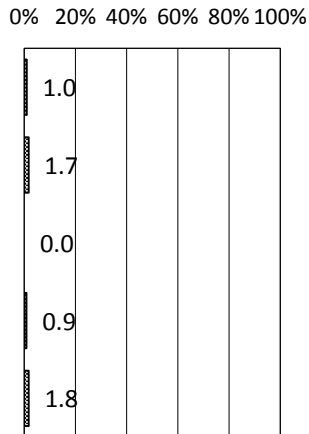
【ツイッター・facebook】



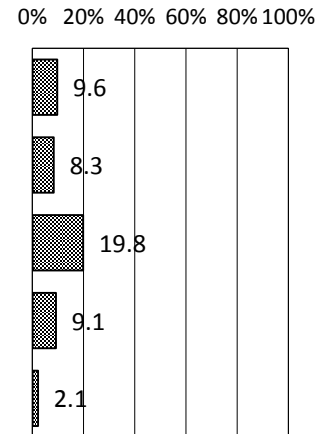
【地域の会合】



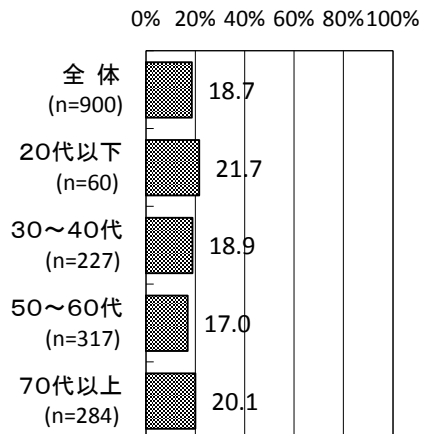
【防災士】



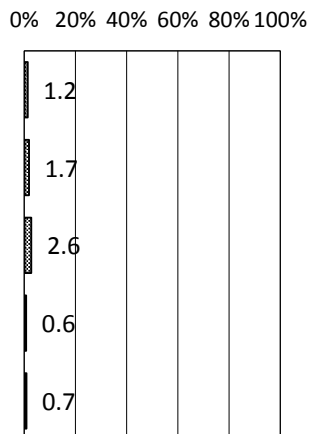
【勤務先・通学先】



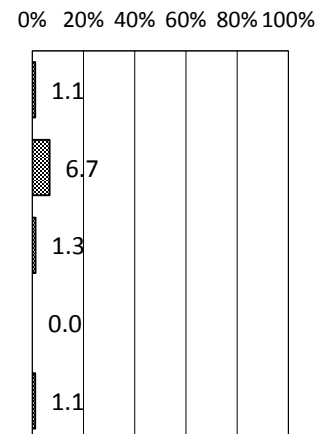
【家族・知人】



【その他】



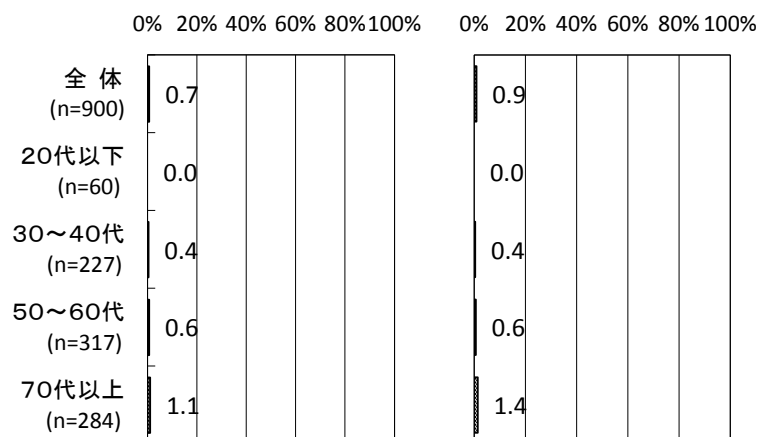
【特にない】



市民用アンケート解析結果

【わからない】

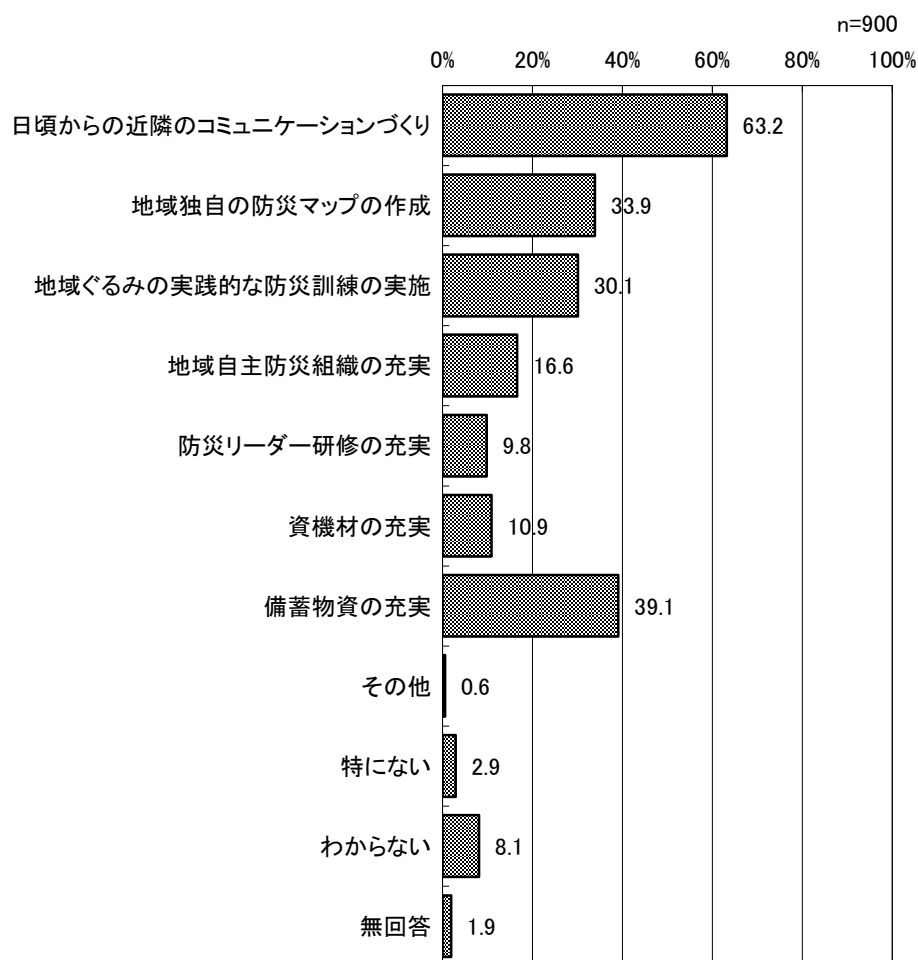
【無回答】



Q16. 地域の自主防災力を高めるためには、何が最も重要だと考えますか。

(3つまで回答可)

地域の自主防災力を高めるために最も重要なものは、「日頃からの近隣のコミュニケーションづくり」(63.2%)が最も高く、次いで「備蓄物資の充実」(39.1%)、「地域独自の防災マップの作成」(33.9%)の順となっている。



「行政に求める支援策、情報提供（Q12 から Q16 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
地域にて実際に訓練を実施する必要がある。 動作でおぼえる要あり。
古川が逆流して、地域に水害がおきない様にお願いしたい。
何事にもすばやい対応をとってほしい。
備蓄に粉ミルク、オムツが必要。 放送をかけるのはいいが聞こえにくい。
警告区域等、地価の値下がりを考慮せず、指定されている。対策等は万全なのか？
約 10 年前、家族がなくなり 1 人になった後、自治会をぬけました。 情報提供は自治会を通さなくても、各個人にわかるような方法でお願いしたいです。
早め早めに状況を伝えるリーダーの人がいて動いてほしいです。 少々、高齢なので。
身近に情報を願います。
地域自主防災組織。
災害時、いち早くたしかな情報がほしいと思います。
自治会毎にマニュアルを作り、個々に配布したらよい。
行政と地域の連携と組織化。
備蓄食材・水・トイレの設備。
情報があふれている世の中ですが、防災に関する情報も山のようにありますが、少し意識を向ける必要があるのだと再確認しました。 ただ、情報量が多大な為に、どれを信用すべきか、どれがデマになるのか見極めなければならず、難しい部分もあるのが現状です。
的確な情報指示を願う。
市役所の防災課などの職員（市役所の正職）の数が少ないと思います（地域で職員の顔が見えない）。
年を取ると重い物を持つのを禁止されているので困っています（お医者さんに）。
災害対策に関する情報提供は手段や考え方も含めて民間のプロからアイデアを借りてはいかがでしょうか。 市が準備していること、もしくは災害時にできることが私達にうまく伝わっていないと思います。 情報の共有は最重要項目の 1 つですが公的機関はここがあまり上手ではないとも思います。
なにかがあった時に流す放送が家の中にいると全く聞こえない。

市民用アンケート解析結果

意 見
高年齢の二人がとっさの時に外に放送を聞きに出られない。
子供の為のミルク、オムツや医療場所などの情報。
とにかく早く情報が伝わる事。
Q14 に関し、「現在」の災害時に提供される情報について、どのようなものが存在するのか、どのように伝達されるのかについて全く知りません。 災害時において、行政がどのような対応をしてくれるのかについて、地域住民が把握する必要があると思います。 そうでなければ「想定外」の災害が発生したときに「行政の対応が不適切であった」との批判は決してなくならないと思います。
どの避難所にどの位、食料、雑貨の備蓄を保管出来るか、計画があれば市政だよりも報告して欲しいです。
滋賀県の流域治水対策のように、住民の生活する場所がどの程度のリスクがあるのかをハザードマップにし、行政と住民で連携し、取り組んでいくべき。
私の住んでいる所は自治会がないので・・・。
公園、広場の面積を増やし、防災グッズをそなえて欲しい。
災害が起きたら、すぐにでも正確な情報があればと思う。
地域ごとに、年に何度か、防災訓練・避難訓練を強制で実施して、避難所・その経路も通り、実施すれば良い。 防災訓練が年に一度ありますが、出席している方は少数です。 意味がありません。
非常時の放送設備の確保と放送内容のマニュアル化、訓練放送、住民の不安をおさえるための案内内容の整理。
無し。
年寄の意見より活発な若者に聞く方が、国の為になると思うよ。
災害発生、何が困るか。 情報と速やかな行政の対応。
行政の取り組みが市民に伝わってこないか又は伝わりにくい現状。
日中は仕事に出ているため、数年住んでいても、近所の人顔も知らないため、また回覧板もドアロからドアに入れるので、まったくコミュニケーションなど全くないため、市また各自治会でも、災害の時の近所の連絡、確認、グループのまとめなどを作っていただきたいと思います。
自分の勉強不足かもしれない。 市がどのような情報を出しているのも知らない。
自治会のない地域でURに住居のため、近隣の方があまりわかりません。 そういう地域なので、災害時の不安は大きいです。
市民が情報を受け取りやすくしてほしい。 防災無線が受信できるラジオなど。

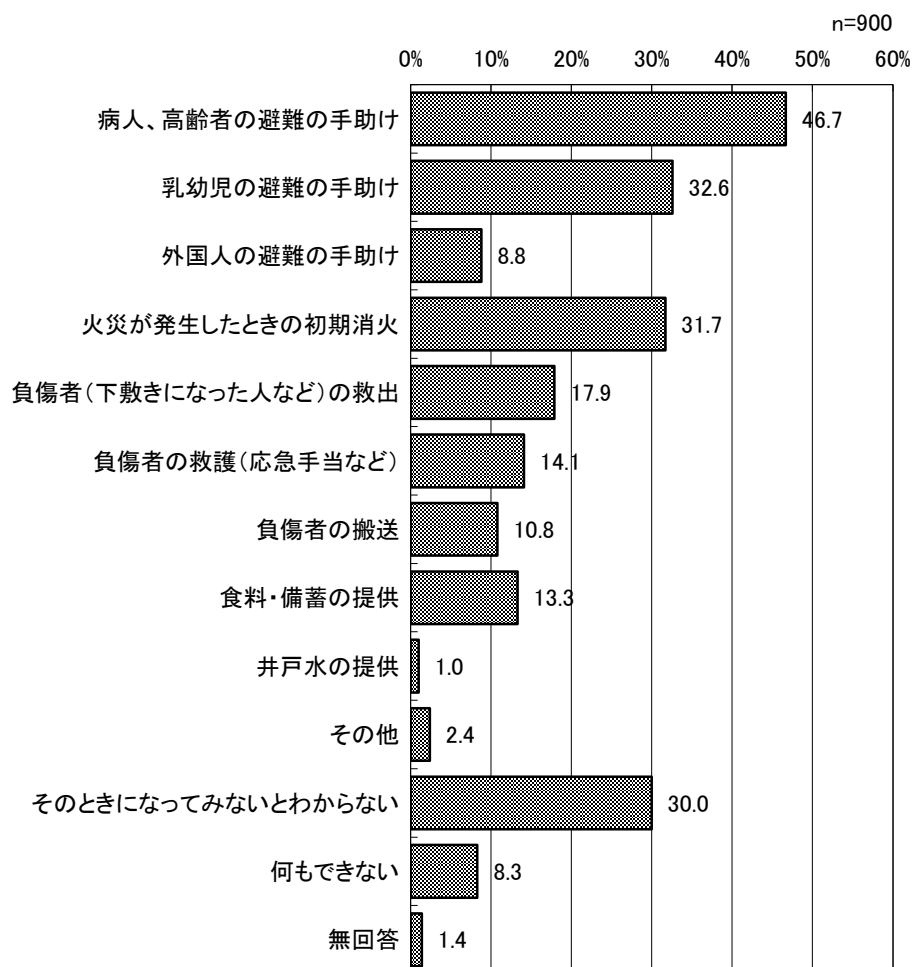
市民用アンケート解析結果

意 見
情報は迅速に各家庭に提供してほしいです。 普段から近所のコミュニケーションが大切だと思います。
備蓄物資（市が用意されている物）の管理が十分されているのか不安。 例えば毛布等、ダニだらけではないのか？
ロープワーク学習会（実践的に意識付になる）。 市で連絡用にノーパンク自転車を数台揃えておく。災害で道路は瓦礫や電柱で使用不能になる。物資病人運搬用に折りたたみリヤカー等地域にあれば活用できる（逃げる時も活用できる）。 公的な井戸の準備。電気がいらない簡易ポンプ式で。
古川の水位を早めに教えてほしい。
被災した場合、資金面での援助を期待する。
行政からの情報がない。
どんな時も正確な情報提供をしてほしい。
携帯電話、スマートフォンによる情報。 携帯ラジオの情報が最も効果的と考える。
災害時、自分がどこに避難していいのかわかりません。 大雨などで避難指示が出た時、どこに避難するか教えてください。
備蓄物資の充実。
信頼できるリーダーを増員し、我を捨てて職務を全うする事。 災害即パニックとなる。
プライバシー、個人情報にとらわれず、もっと近隣の居住人を知る必要がある。 隣に何人、どういう年代の人が居るか詳らない状況では救援もおぼつかない。
被災したらまず、避難場所の確保と食料だと思います。 それから情報を早く提供してほしい。薬（現在飲んでいる物の確保、高血圧剤）。
今いざとなったらほんとうに行政が動いてほしい。
若い人だったら情報など入手するのに色々な手段が使えるだろうが、老いてくると時代にのれず、簡単な日常生活の中で情報が得られるテレビ、新聞などが便利。
Q14 ですが、災害時に提供される情報が現在どうなっているのかわからないので、現在より充実してほしいものと言われてもわかりません。 実際その時にならないとわからないと思います。
Q12 年寄りの全家庭にパソコンがあるのでしょうか？
京阪バスによる市の巡回バスなどからスピーカーで災害などの情報（各自備蓄の確保、避難場所の確認など）流すとか…。

■提供可能な支援

Q17. 地域で大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要になった場合、あなたなら何ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

地域で大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要になった場合、何ができるかでは、「病人、高齢者の避難の手助け」（46.7%）が最も高く、次いで「乳幼児の避難の手助け」（32.6%）、「火災が発生したときの初期消火」（31.7%）の順となっている。



「提供可能な支援（Q17）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
その時になってみなくては実際にはわからないと思います。 日頃の市の活動が大事です。
自分は他人に迷惑かけないようにしたい。
求めすぎてはいけない。その場で立ちまわりはするが、なってみないとわからない。
まず自分と家族の安全が第1であり、まずそれを啓蒙すべきである。 他人を助けて怪我したらどうしてくれる？
助け合い。
自分は高齢なので力仕事は出来ないので、自分に出来る手助けに頑張ります。
沢山丸を付けましたが、実際、ご近所に救助の必要な高齢者等のはあくを普段からしておかないと・・・と思いますが。 やはり普段からのコミュニケーション、近所づきあいが必要です！！
日頃からの組織化、役割分担の明確化、訓練が必要と思う。
実際にその状況下に置かれないと分からない所は多々あるかと思いますが、自分にも出来る事は、やりたいと思います。
身体の不自由な者はどうすれば良いか教えて下さい。
高齢者ゆえに自分の事だけでせいっぱいか、お世話になるかだと思う。
88 と 83 の老人のため何もできない。自身の避難も不可能。
自分の体が動かない。
1、4、8位は助けたいと思いますが、膝が悪く出来るかどうか不安です。
二人だけでも逃げられないので支援は出来ない。
できることは何でもやります。
目の前にけがを人がいたら助けると思うが、何処に連絡していいかわからない。
何も出来ないかもしれないが子供をみといてあげるかな。
自分の事ばかりでなく、心の余裕が無いかも知れませんが、落ち着いて周りを良く見て、老人、子供など優先的にしてあげたらと思います。
自身、身障者の為出来ない。
とっさの時に冷静な判断が出来るように普段から、心がけておいた方が良くと思う。
現在、70、65 才の夫婦です。将来も体力があればよいのですが。
今現在、自分自身が元気であるから、手助け出来ると思いますが、これから先はわかりません。
自分が何をできるか分からないと言うのも、今まで学校の避難訓練はやっても、けが人や防火はやった事ないから。

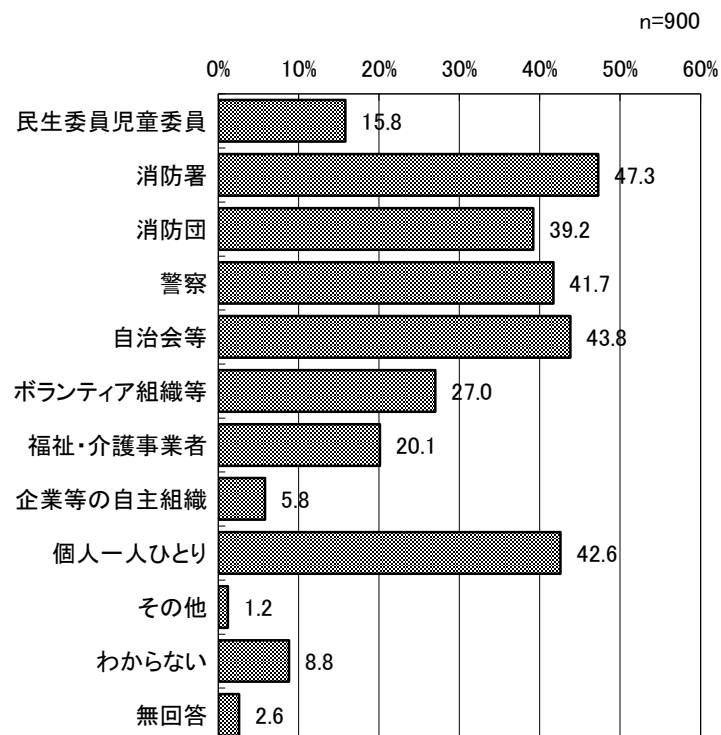
市民用アンケート解析結果

意見
基本的には、まず自助努力が必須で、自己防衛のため手段・方法・項目等を確保した上で、他人への支援が可能と考える。 行政にも限界があると考えるべきと周知すべき。
特に無し。
その時にないとわからない(正直な話)。
その時にないとわかりません。
私自身が高齢者ですので、他の方を助けたいと思っても不可能だと思います。 せめて備蓄している食料とか水を分けてあげるのが精一杯だと思います。
住居（世帯構成の把握、老、幼、身障者m p 毎に明確な掌握、マップ上の周知を）。
生きていくための最低限の支援を（市民にとってどういうものかは理解が足りないが）絶対に準備しておいてほしい。
特にない。
高齢者にも理解できる様な資料などがほしい。
自分がケガをしていたらわかりません。
体力がありません。
焦らず冷静になり、自分が出来る限りの手助けができればと思います。
80 才前の高齢者には支援できる事に限りがある。
年を取ってきているので、体が動かなくなってきたどこまで何が出来るかわからない。
自分にできる限りの事をしたい。人命救助一番に考えたい。
これから水や日もちする食物を保存しなければと思うことです。 少しでも分け合えるように。
自分の能力・体力が支援できる状況かどうか判らない。 体力があれば何らかの支援をする事ができると思う。
もっと勉強します。
今漠然とわからないけど、その時の状況（周囲の現状）で助け合いたいと思います。
ボランティアの支援、受け入れ体制を、どのように組織計画しているか、もっと広報をする。近年のボランティアの活躍は行政以上のものがあると思う。
私は介護されている身体です。まず災害が起きたら逃げることも出来ない体です。 助けてもらえますか？
できることがあればする。
良いと思った行動が悪い影響を与えたと言われそう。何もできないと思う。

■身近な避難行動要支援者に対する支援

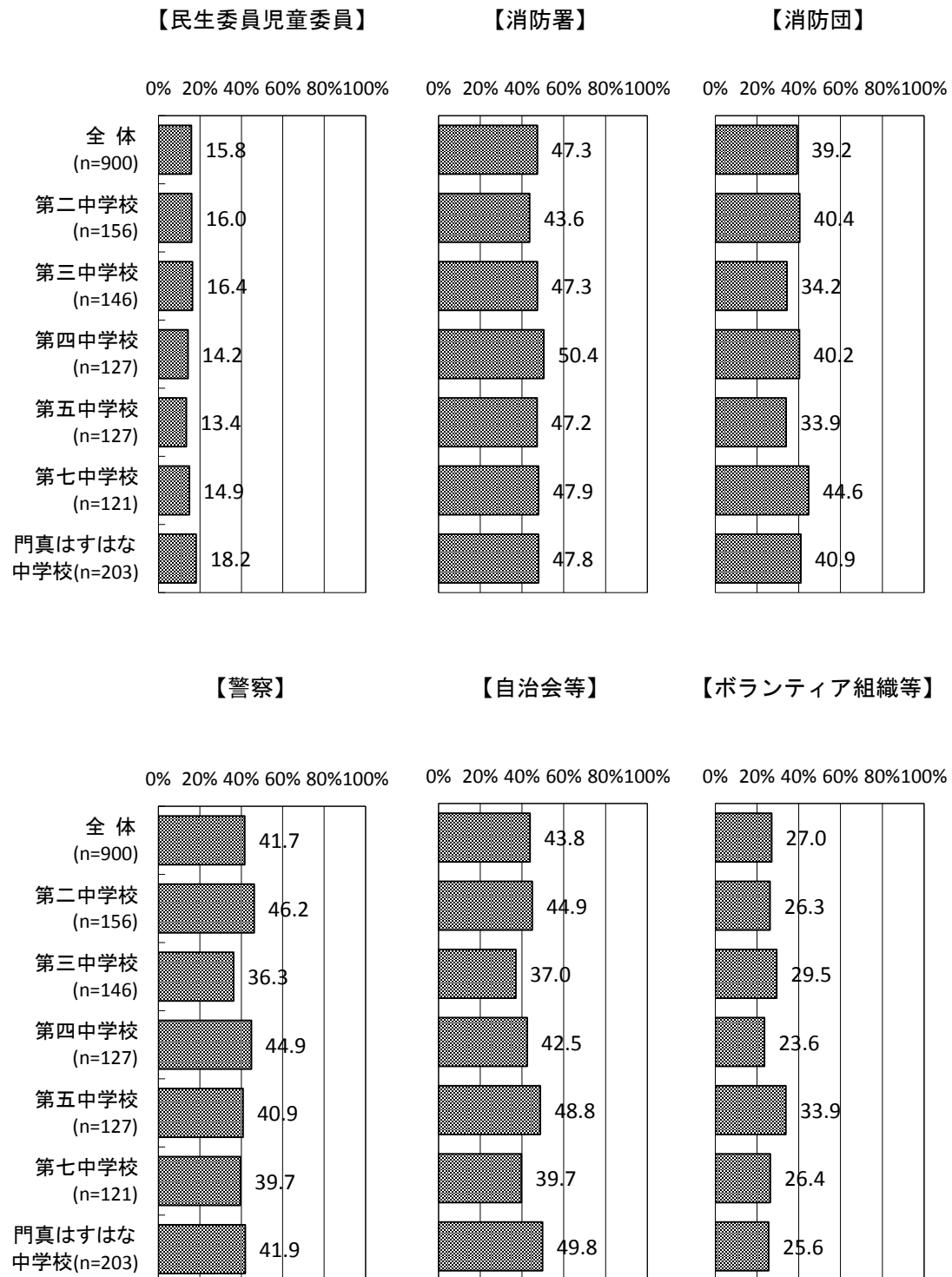
Q18. 避難行動要支援者に対する支援について、災害時の市による活動のほかに、重要な活動主体は何だと思えますか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

避難行動要支援者に対する支援について、災害時の市による活動のほかに、重要な活動主体は何かでは、「消防署」(47.3%)が最も高く、次いで「自治会等」(43.8%)、「個人一人ひとり」(42.6%)の順となっている。
また、「警察」(41.7%)までが4割を超えている。



■ 住所（中学校区）別

住所（中学校区）別に見ると、「消防団」では「第七中学校」（44.6％）が全体（39.2％）と比べて高く、「ボランティア組織等」では「第五中学校」（33.9％）が全体（27.0％）と比べて高くなっている。

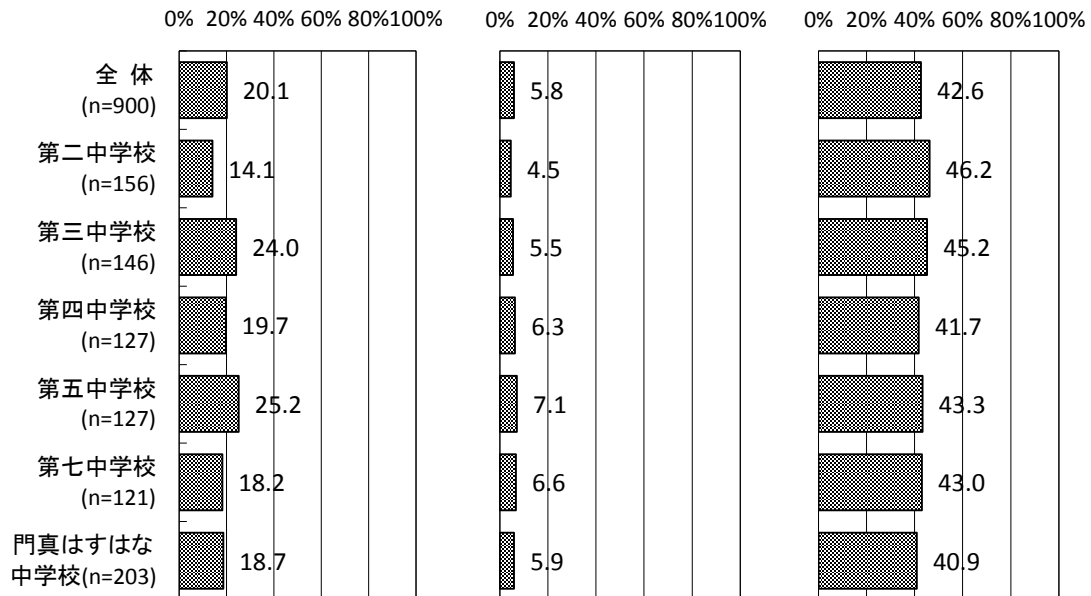


市民用アンケート解析結果

【福祉・介護事業者】

【企業などの自主組織】

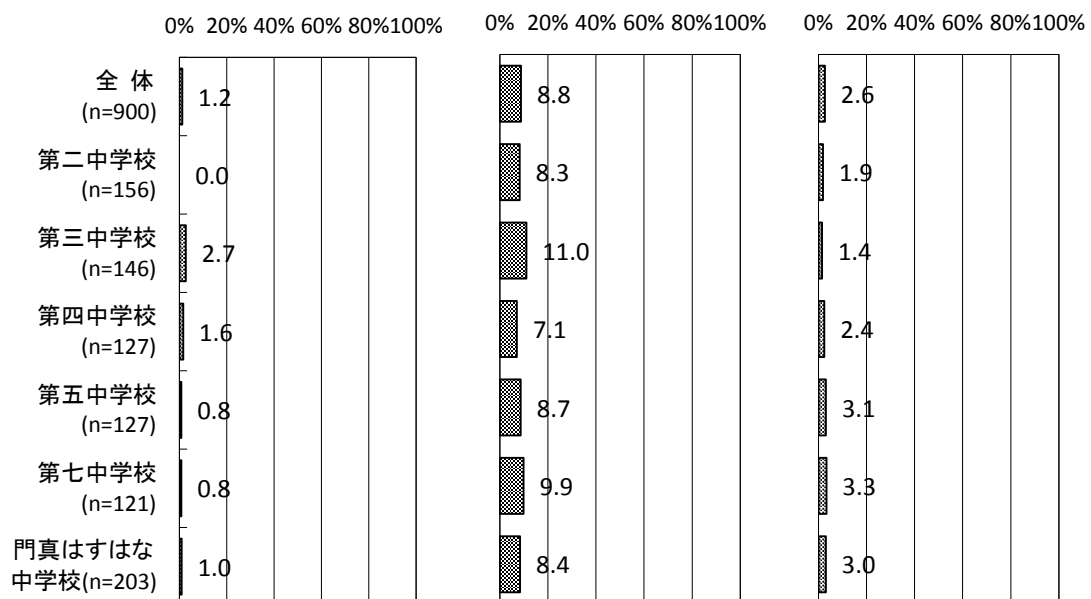
【個人一人ひとり】



【その他】

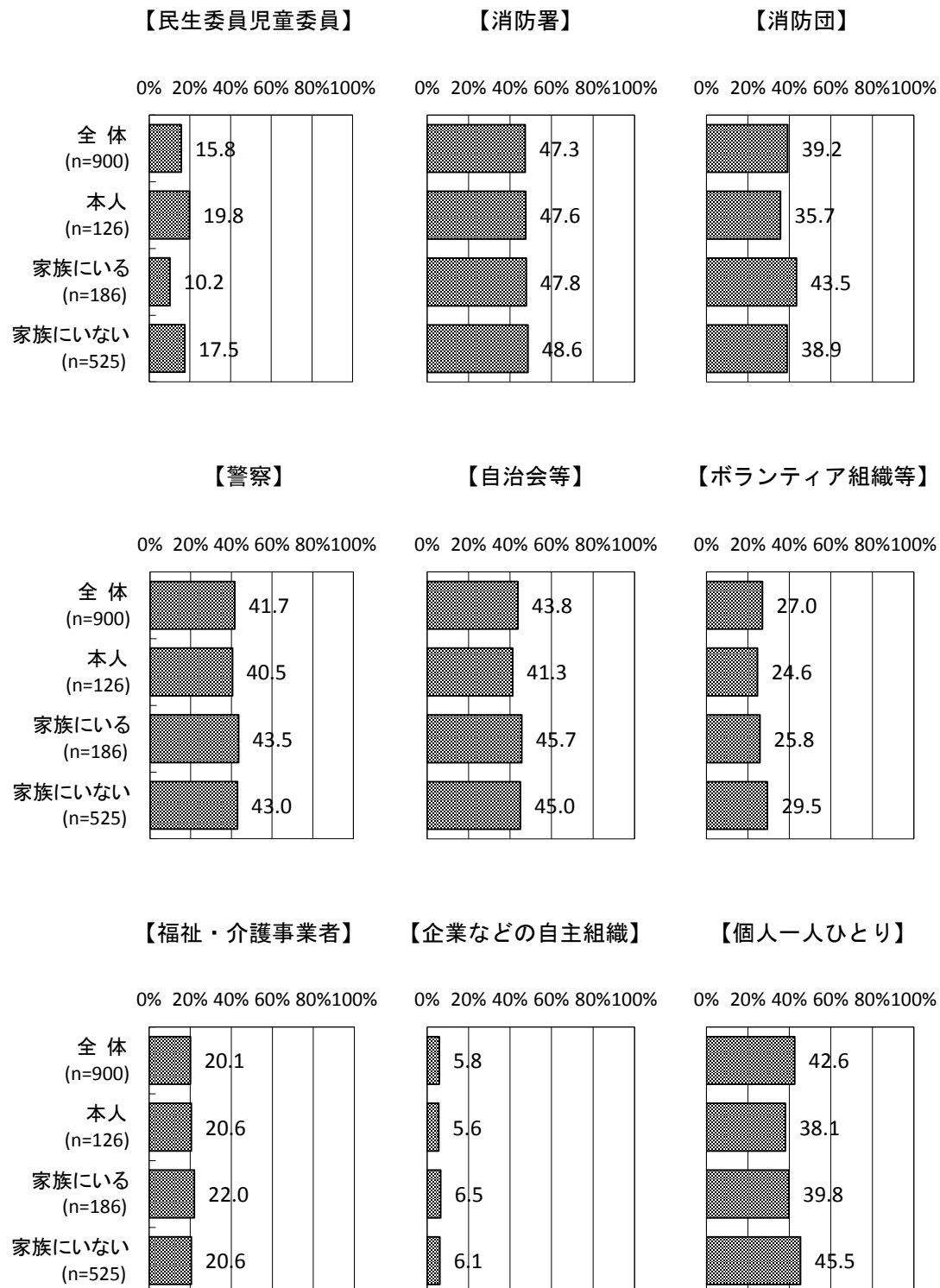
【わからない】

【無回答】

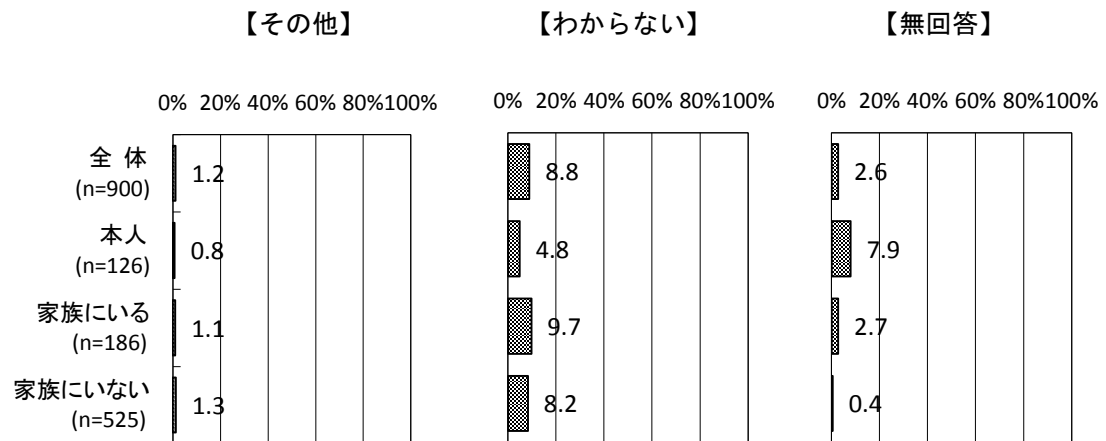


■ 要支援者の有無別

要支援者の有無別で見ると、「民生委員児童委員」では「本人」(19.8%)と「家族にいる」(10.2%)の差が大きくなっている。

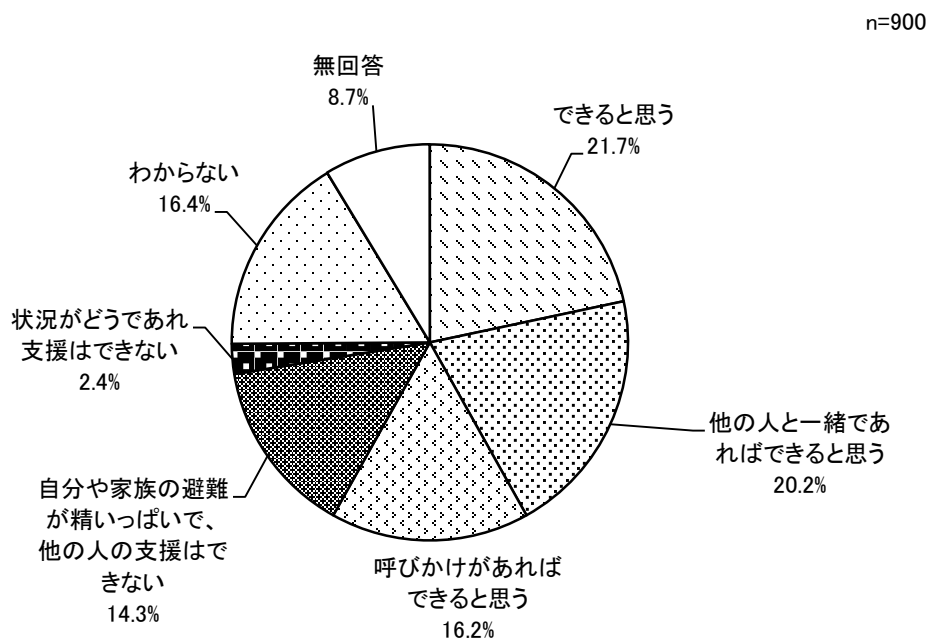


市民用アンケート解析結果



Q19. 災害時に避難する際、近所に避難行動要支援者がいた場合に、その方の避難を手助けすることができると思いますか。

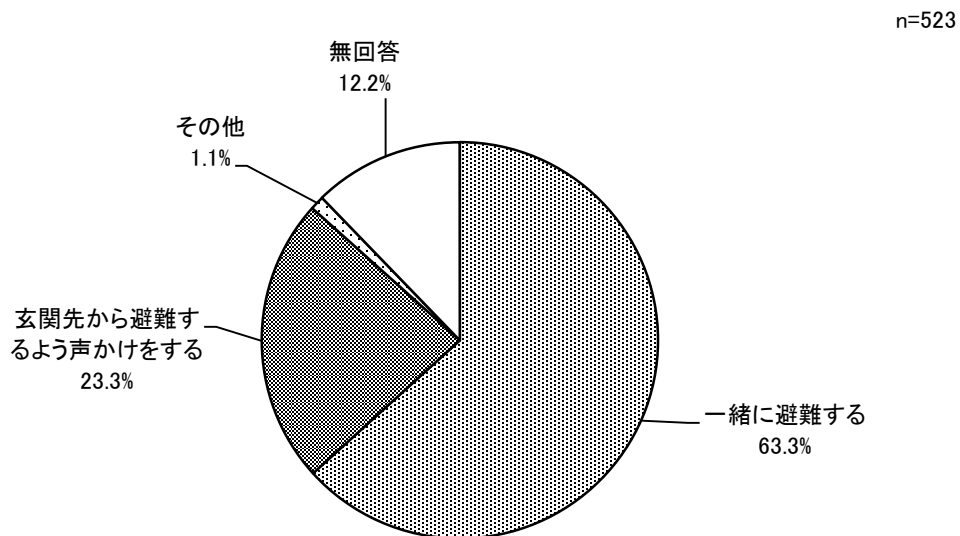
災害時に避難する際、近所に避難行動要支援者がいた場合に、その方の避難を手助けすることができると思うかでは、「できると思う」(21.7%)が最も高く、「他の人と一緒にあればできると思う」(20.2%)、「呼びかけがあればできると思う」(16.2%)の順となっており、合計すると6割弱の人が条件があるとは言え、「できると思う」と回答している。



Q19－ 1. 避難の手助けの具体的な内容を教えてください。

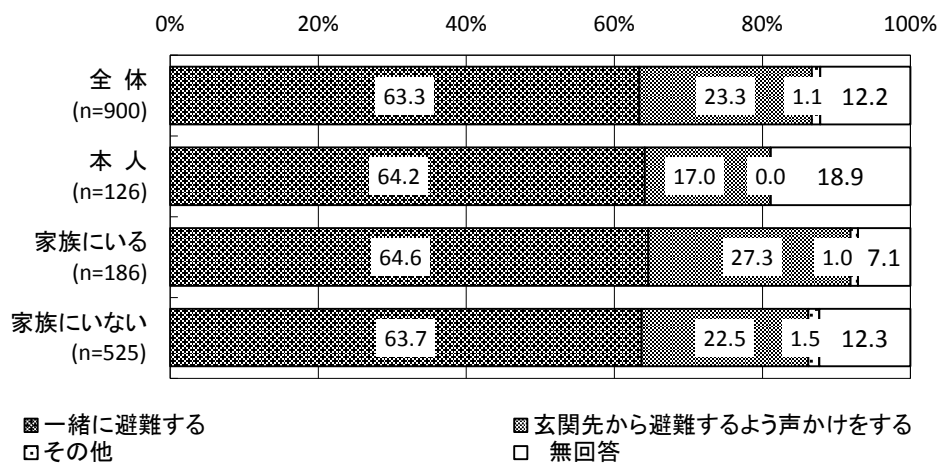
※Q19で「1. できると思う」、「2. 他の人と一緒にあればできると思う」、「3. 呼びかけがあればできると思う」と回答した方のみ

避難の手助けの具体的な内容では、「一緒に避難する」(63.3%) が最も高く、次いで「玄関先から避難するよう声かけをする」(23.3%) となっている。



■ 避難行動要支援者の有無別

避難行動要支援者の有無別で見ると、「玄関先から避難するよう声かけをする」では「本人」（17.0％）と「家族にいる」（27.3％）の差が大きくなっている。



「身近な避難行動要支援者に対する支援（Q18 から Q19－１ まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
事前に 1 人で動けない人の調査を実施して支援する必要あり。
本人も高齢の為、どの様になるか不明である。
夫婦 2 人暮らしなので、どちらかが負傷した場合手助け出来ないと思います。
地域にどれだけの要支援者がいるか、どれだけの支援が必要かわからない。 事前にどれぐらいの人がおられるのか、どのような支援が必要か、話し合っておく方がいと思う。
日中は他市で働いている為、子供のみとなる。
一人暮らしの方は、一緒に行動をとりたいと思う。
自分の避難用品を持ち出す人への支援は出来ないと思います。 せめて声かけ位は出来るのではないかと思います、いざの時にしてみないとわからないのかも知れません。
隣人が 82 才で 1 人暮らしなので、避難は声かけて一緒に行動しようと隣人に声かけています。
やはり、自ら動けず命を失う方が多く見受けられますので、もちろん家族優先になってしまいますが、少しでも間に合えば、お手伝いさせて頂きたいです。
避難するのも無理。
個々の手助けには限界があるので、地域の中でも絞って数人のグループに普段から分けて決めておけば良いと思う。
呼びかける気持はあっても身体が動くかどうか分からない。
逆に支援が必要。
自分の体では何もできない。
一人では支えられない時、誰かに声をかけたいし手伝ってもらいます。
現在は元気で不自由が無く手助けは出来ると思うが、災害時に行動出来るかはわからない。年が 76 才のため。
皆で協力しないと 1 人では大変だと思う。
普段から隣近所の声のかけ合い、体調の悪い人がいないか心がけておく事が良いと思います。
自分自身が高齢者の為。
相手の方がどういった助けを求めているのかによって変わってくるが、まずは相手の立場になる事も大切。
集合住宅と一軒家では異なる。 自治会組織が充実していないと要支援者の存在すら知り得ない。

市民用アンケート解析結果

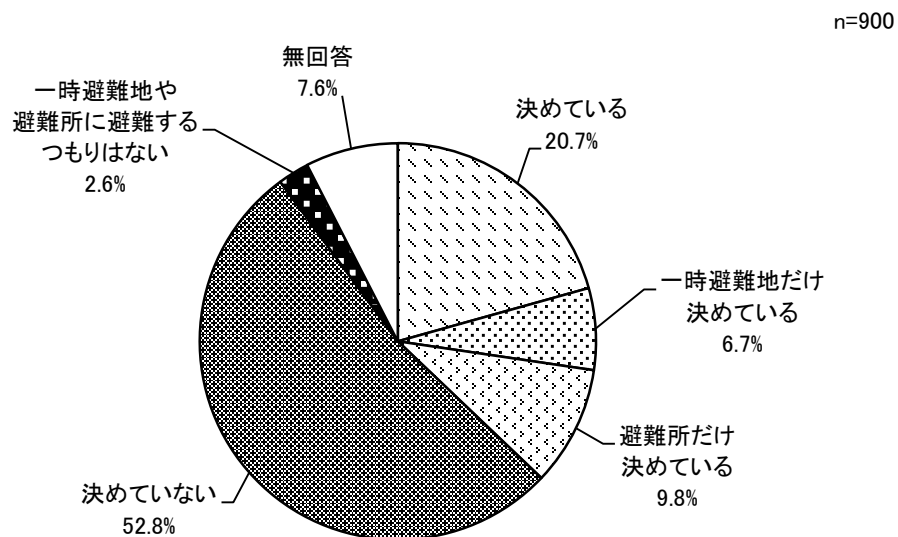
意 見
消防・警察・区役所・民生等これらの地域情報を収集整理し、対応を訓練し、必要に応じて住民参加も必要と考える。
意見を聞く方がおかしいでしょう。全部世話になる事ばかりだから。
普段から要支援者の把握を市が行い、自治会に通知しておき避難時には自治会等の担当者が積極的に支援するのが望ましいと思います。
私の住んでいる所はマンションですので隣の人とは仲良くしていますが、住人の引っ越しが多いので、2F以上の人とはほとんど言葉を交わすことがありません。 いざという時に助けたり、助けられたりということは望み薄だと思います。
民生委員や自治会の人達が各地域に今いる人の把握をしているはずなので、率先して駆けつけるマニュアル作りをする。
体調の良いときは人様の事もできると思います。
この問題は回答に困った。 本当のところ1,2と答えるべきだと思うが、実際のところこの場面に出くわした時4と答えてしまう。
自分の住む周囲の住民の掌握（要介護、身障者）。
相手が嫌がらなければ何らかの事はできると思う。 マンションは周囲との付き合いが全くなく、まれに見かけても目をそらす人が多い。 同市の自転車で20分の距離に一人暮らしの親がいるので、そちらに向かうと思う。
現在の状態（健康体）であれば荷物を持ったり、一緒に避難をすることはできます。 精一杯気持ちはありますが、先のことはわからない。体と心が健康である事を祈る。
重度視覚障がい者のガイドヘルパーの活動をしている。
自治会未加入者が多い（新入居に多い）が、交流もなしなので問題。 未加入者をなくして欲しい。
どこに、その様な方々がいるのか解らない。
支援すると思いますが、身内などの状況により、その場にならないとわからないが本音です。
相手の家まで行けるかわからないので、電話なりの連絡は出来ると思う。
「その時」にならないとわからないと思います。
高齢者や障害者の方々を他の人達と協力して避難の手助けをしたいです。
その時の状況にもよると思います。
近所に避難行動要支援者の把握。 手助けの前に声かけでもして信頼してもらおう。
避難行動支援者がいるかどうかのわかりにくい（近所付き合いしている人はわかる）。
避難所ごとに備蓄倉庫、道具倉庫がいると思う（個人預けではなく）。 折りたたみリヤカー、救助用品、水、ロープよりどころになる避難所を身近にしておく。

意見
学習会も考える力を養えるようクイズ形式等に工夫する。 たまに訓練もかねた「いも煮会」の開催→交流と訓練を兼ねて楽しく誰でも参加、但し有料で。
出来るだけ避難に協力する。
一人ではなかなか行動が出来にくいし、皆と行動すれば、多く出来る様に思う。
声掛け程度で一緒に避難は自信がない。 犬を飼っているので避難しないかも。
夫婦共、体が不自由ですので、2人の安全を守る事だけです。 犬がいますので避難所には行けません。
自分が動けて、他人を思う事ができる状態にあるかわからない。助けたいのは山々だが、やはり、まずは自分第一なので手助けは避難後になると思う。
やはり家族が優先になってしまうと思います。 その後の状況で要支援者の避難の手助けをすることができます。
共に共存できる最善策を見つけ判断する。
避難行動要支援者リストを事前に把握していればスムーズに対処できるのでは。 プライバシーがネックですが。
支援者の所在を把握しているリーダーが必要。 リーダーの指示（振り分け、避難先など）。
高齢な親が居る為、親の避難が終えたら手助けはできる。 声ぐらいなら親連れでもできる。
Q18 いくつかの組織の必要に理解・教育を受けていない。
避難行動要支援者の教育訓練。
私は子供2人と避難するのが手いっぱいなので、手助けが必要な方がおられたらすぐ市に連絡できる方法があれば、1人でも早く避難してもらえと思っています。
高齢化社会になっているので、私自身もその中に入りつつある高齢なので、みなさんと一緒に協力していければ手助け出来ると思います。
避難するのに手助けのいる方が、自分達の区域（自治体）で、どのくらいの人数がおられるか or どの誰なのかの把握はされているのですか？
高齢者世帯がどれぐらいいるか、わからない。
自治会は高齢の方が多く（80歳位）支援は期待できない。

■ 良好な避難所生活環境の確保に向けた方策

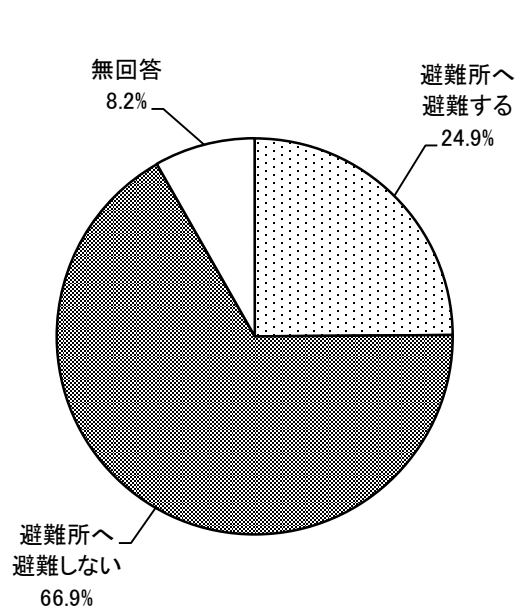
Q20. あなたは、避難する一時避難地、避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。

避難する一時避難地、避難所を決めているかでは、「決めていない」(52.8%)が最も高く、過半数を超えている。次いで「決めている」(20.7%)、「避難所だけ決めている」(9.8%)、「一時避難地だけ決めている」(6.7%)と続き、一時避難地名、避難所名ともに、小学校が多く挙げられている。



Q21. 自宅に大きな被害がない場合や避難指示区域に指定されていない場合、避難所に避難しますか。

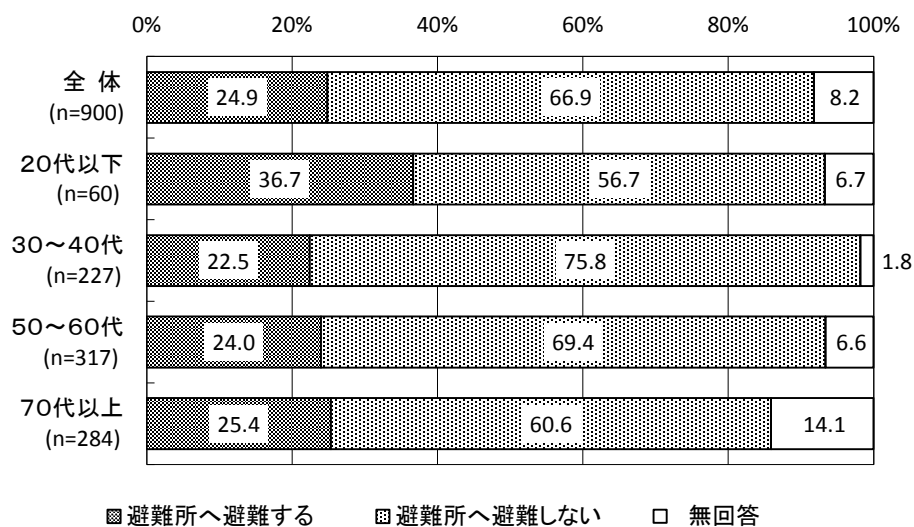
自宅に大きな被害がない場合や避難指示区域に指定されていない場合、避難所に避難するかでは、「避難所へ避難しない」(66.9%)、「避難所へ避難する」(24.9%)の順となっている。



市民用アンケート解析結果

■ 年代別

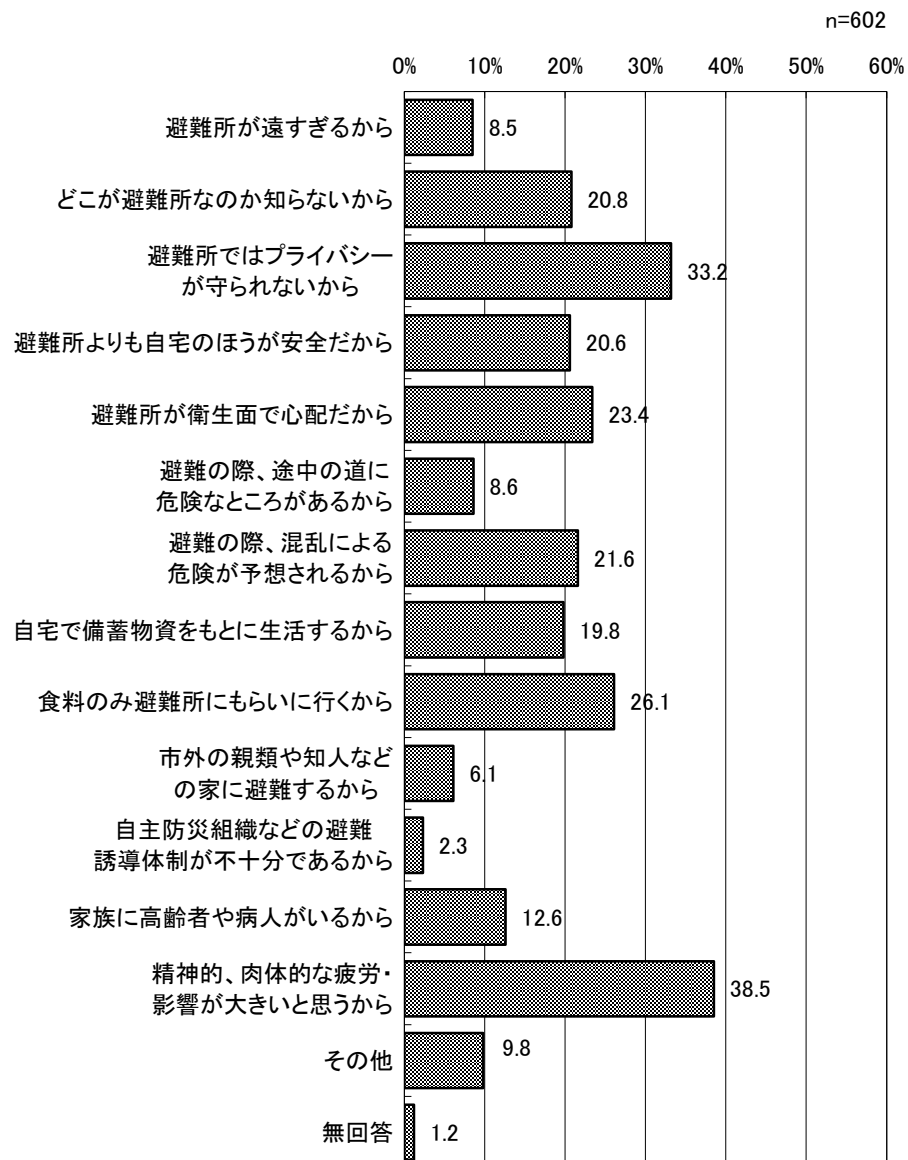
年代別に見ると、「避難所へ避難する」では「20 代以下」(36.7%) が全体 (24.9%) と比べて高くなっている。



Q21－１．避難所へ避難しない理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

※Q21で「２．避難所へ避難しない」と回答した方のみ

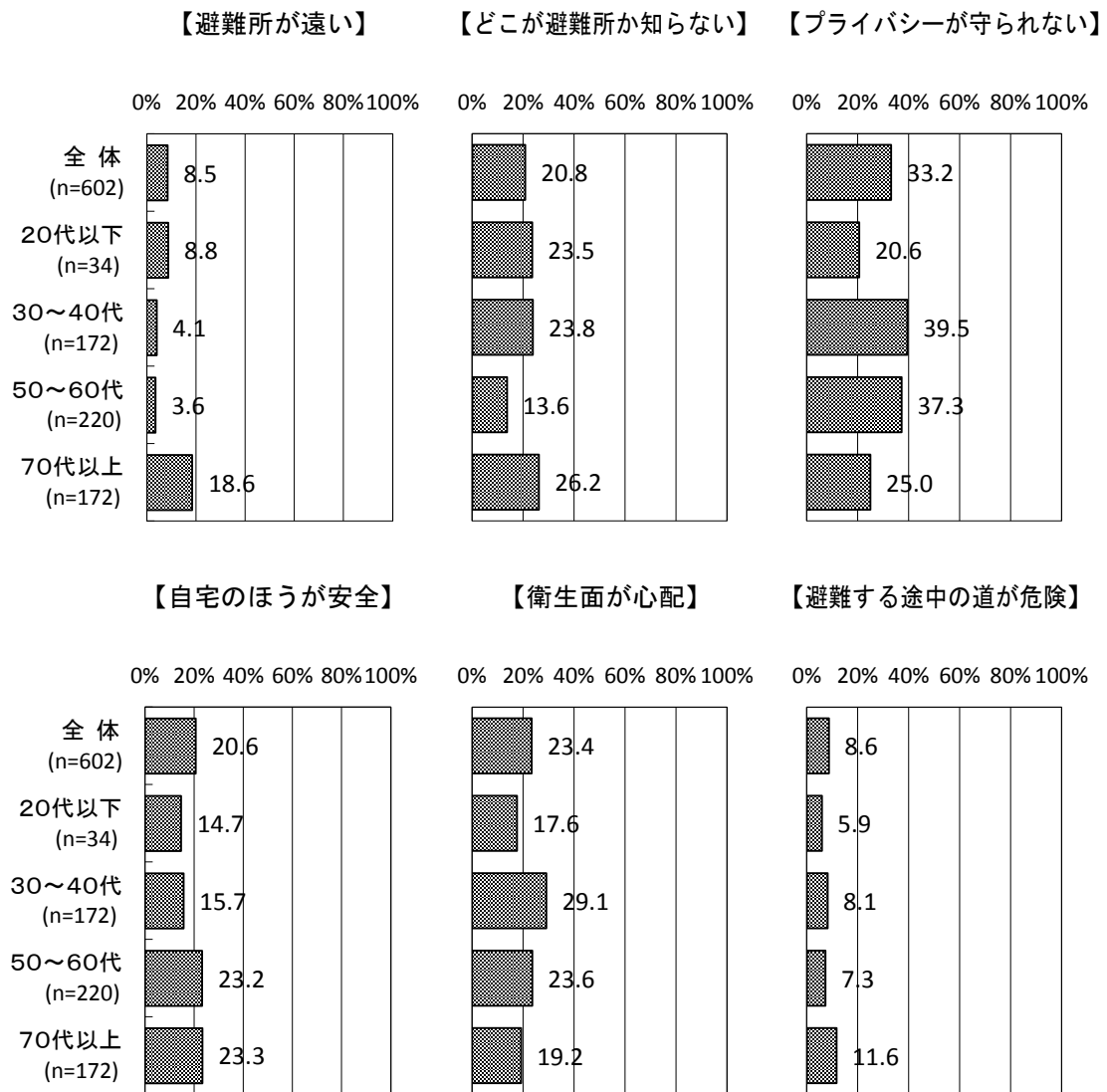
避難所へ避難しない理由は、「精神的、肉体的な疲労・影響が大きいと思うから」(38.5%)が最も高く、次いで「避難所ではプライバシーが守られないから」(33.2%)、「食料のみ避難所にもらいに行くから」(26.1%)の順となっている。



■ 年代別

年代別に見ると、「避難所ではプライバシーが守られないから」では「30～40代」(39.5%)が全体(33.2%)と比べて高くなっている。

また、「家族に高齢者や病人がいるから」では「70代以上」(23.3%)が全体(12.6%)と比べて高くなっている。

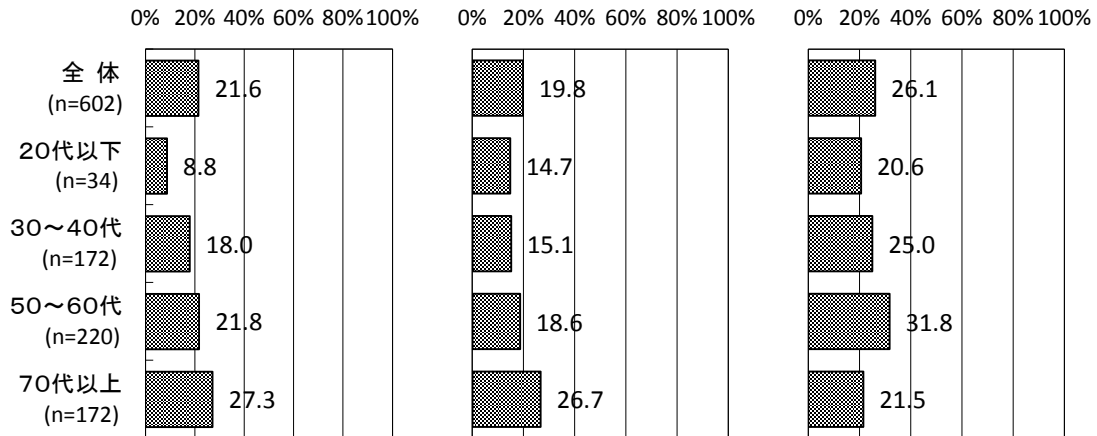


市民用アンケート解析結果

【避難の際、混乱により危険】

【自宅の備蓄物資で生活】

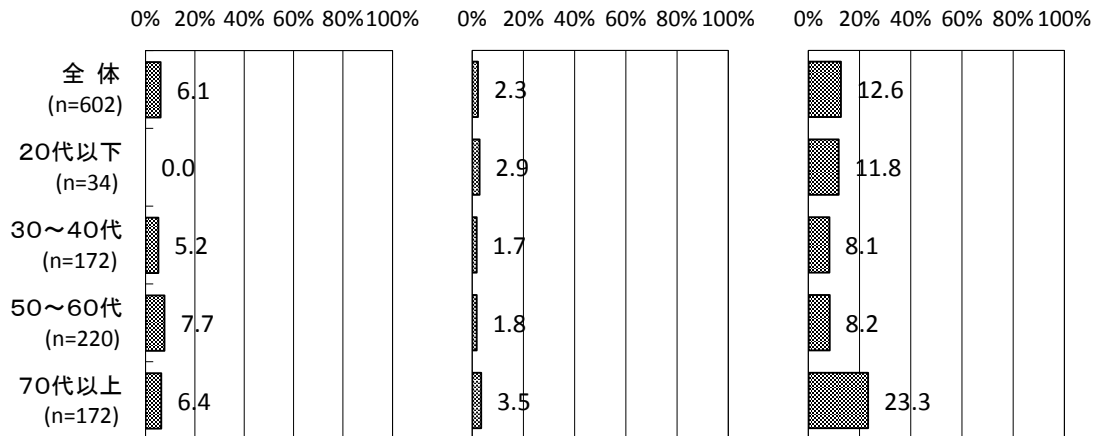
【食料のみもらいに行く】



【市外の親類などの家に避難】

【避難誘導体制が不十分】

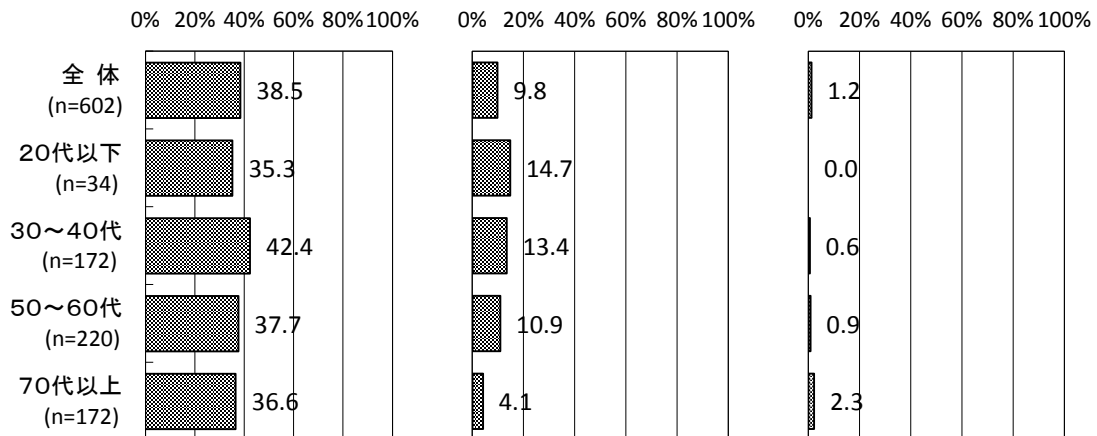
【家族に高齢者や病人がいる】



【精神的、肉体的な疲労・影響が大きい】

【その他】

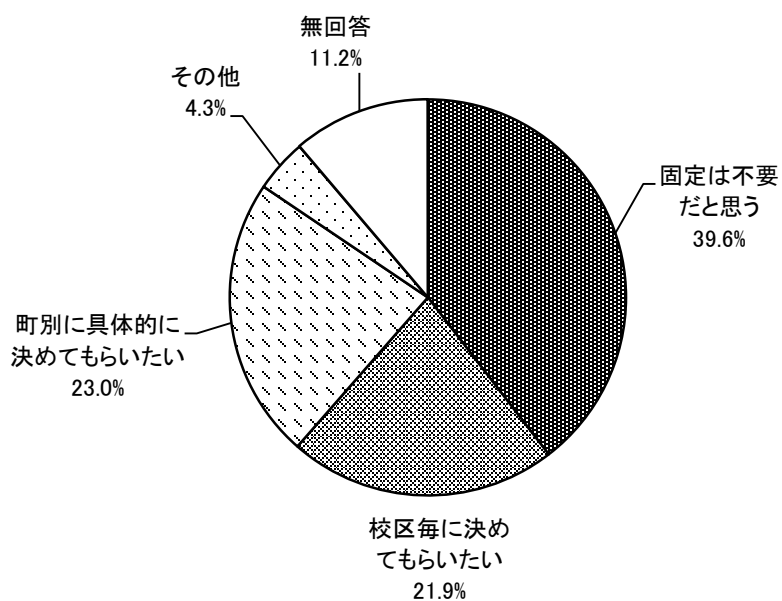
【無回答】



Q22. 市は被災者がどこの避難所にも避難できるように、避難先を固定していないことについてどう思いますか。

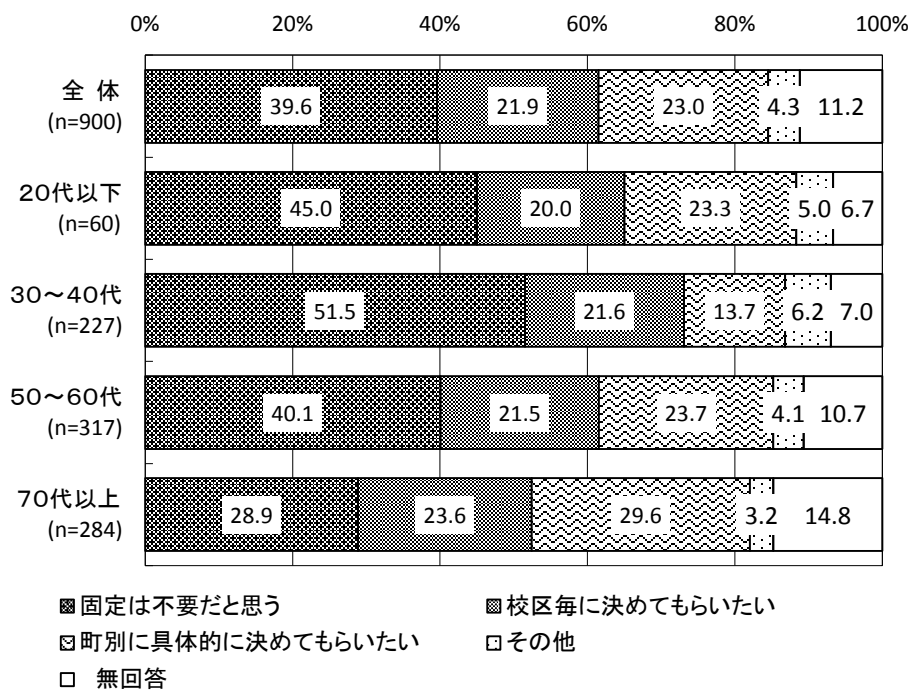
市は被災者がどこの避難所にも避難できるように、避難先を固定していないことについてどう思うかでは、「固定は不要だと思う」（39.6%）が最も高く、次いで「町別に具体的に決めてもらいたい」（23.0%）、「校区毎に決めてもらいたい」（21.9%）の順となっている。

n=900



■ 年代別

年代別に見ると、「固定は不要だと思う」では「30～40代」（51.5%）が全体（39.6%）と比べて高くなっている。

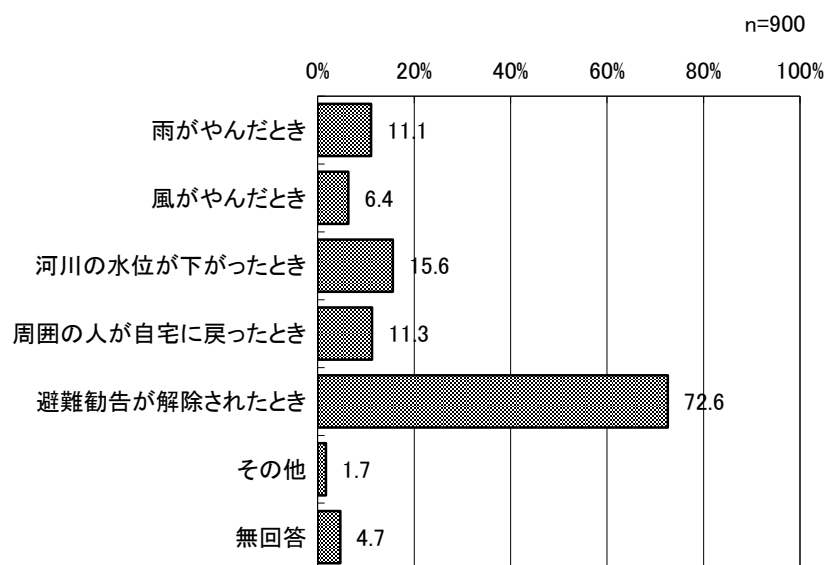


Q23. 避難先から自宅に戻ると考える最大のきっかけは何ですか。

(複数回答扱いに変更)

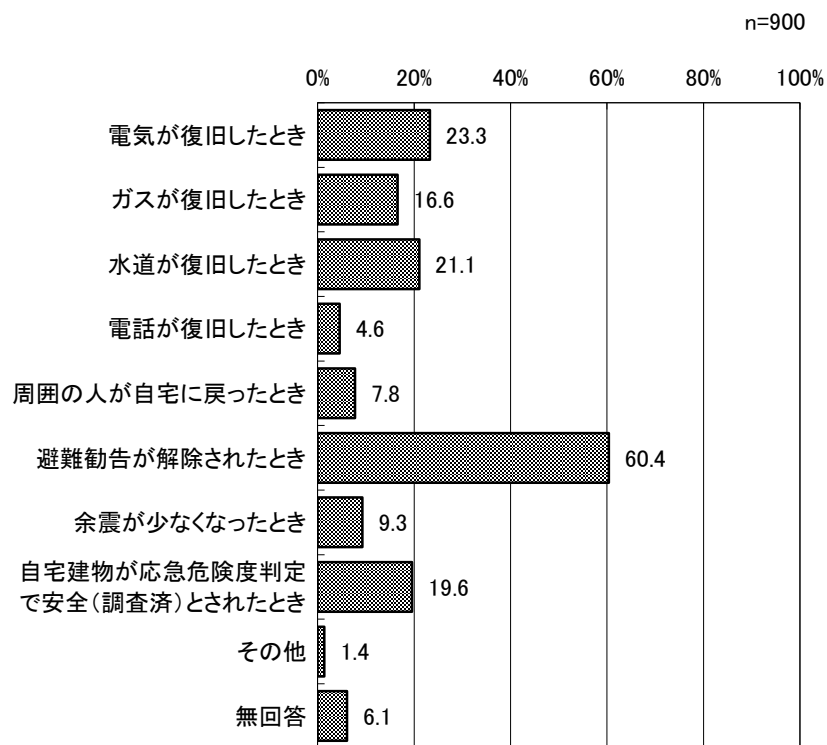
【風水害の場合】

避難先から自宅に戻ると考える最大のきっかけは何か（風水害の場合）では、「避難勧告が解除されたとき」(72.6%)が最も高く、次いで「河川の水位が下がったとき」(15.6%)、「周囲の人が自宅に戻ったとき」(11.3%)の順となっている。



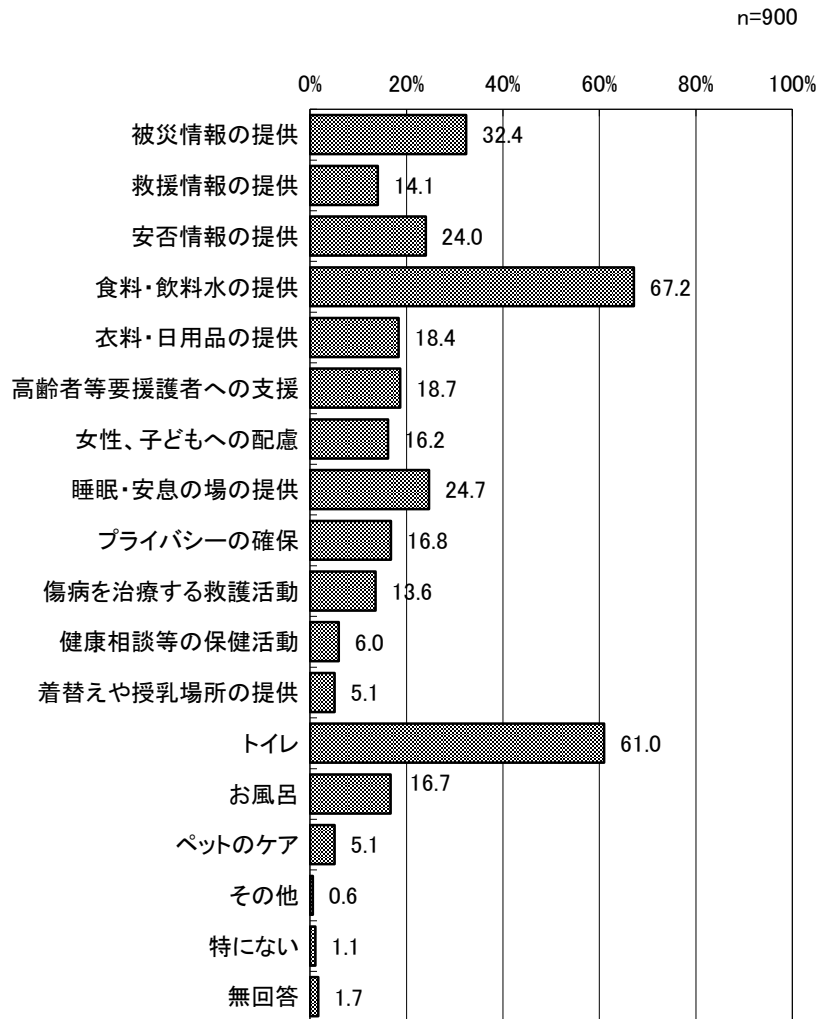
【地震の場合】

避難先から自宅に戻ると考える最大のきっかけは何か（地震の場合）では、「避難勧告が解除されたとき」（60.4%）が最も高く、次いで「電気が復旧したとき」（23.3%）、
「水道が復旧したとき」（21.1%）の順となっている。



Q24. 避難所において最も充実してほしいことは何ですか。（3つまで回答可）

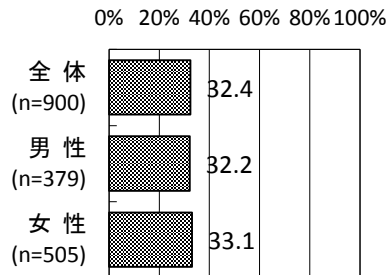
避難所において最も充実してほしいことは何かでは、「食料・飲料水の提供」（67.2%）と「トイレ」（61.0%）がともに6割を超えて高く、次いで「被災情報の提供」（32.4%）となっている。



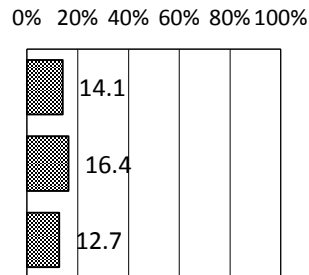
■ 男女別

男女別に見ると、「トイレ」で「男性」(56.2%)と「女性」(63.6%)の差が大きくなっている。

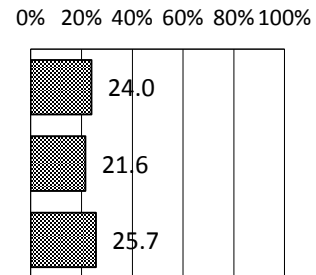
【被災情報の提供】



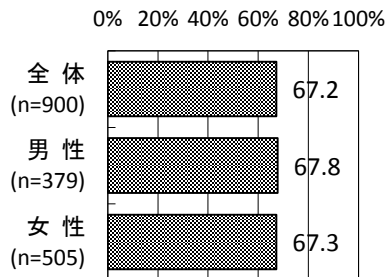
【救援情報の提供】



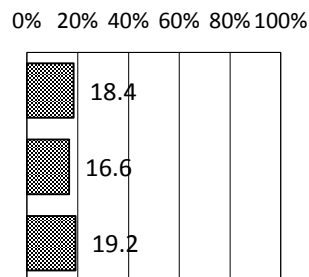
【安否情報の提供】



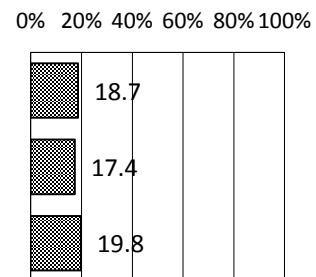
【食料・飲料水の提供】



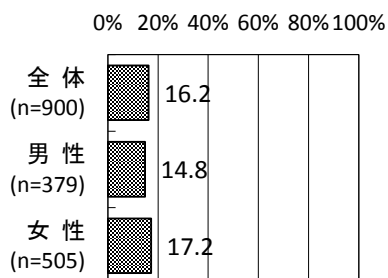
【衣料・日用品の提供】



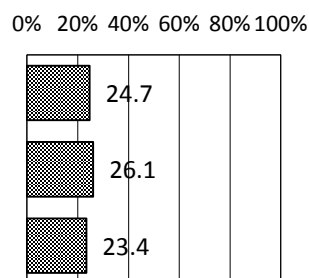
【高齢者要支援者への支援】



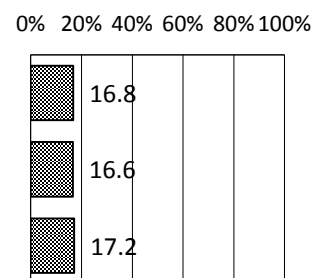
【女性、子どもへの配慮】



【睡眠・安息の場の提供】

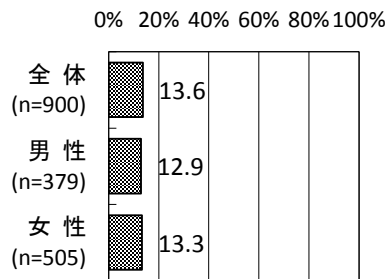


【プライバシーの確保】

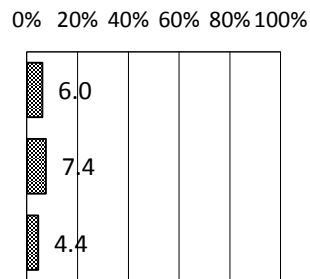


市民用アンケート解析結果

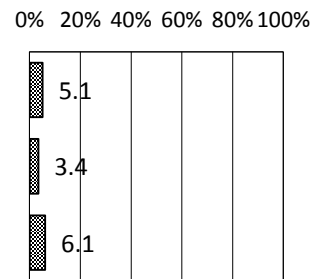
【傷病を治療する救護活動】



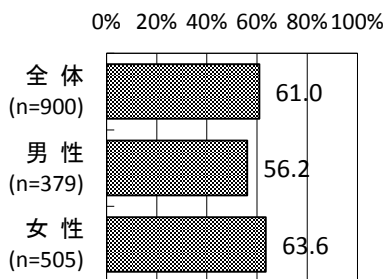
【健康相談等の保健活動】



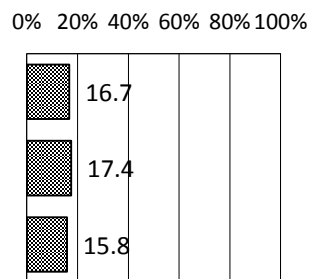
【着替えや授乳場所の提供】



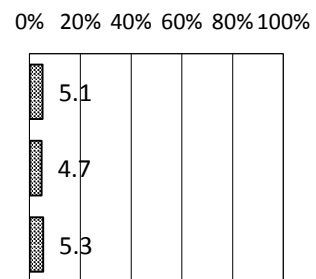
【トイレ】



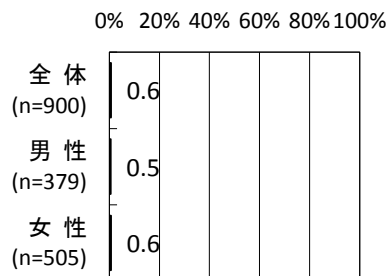
【お風呂】



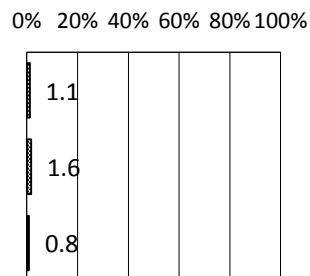
【ペットのケア】



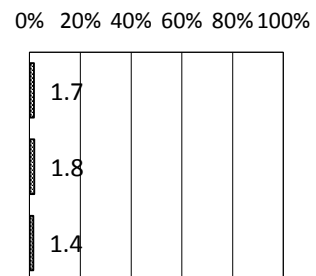
【その他】



【特にない】

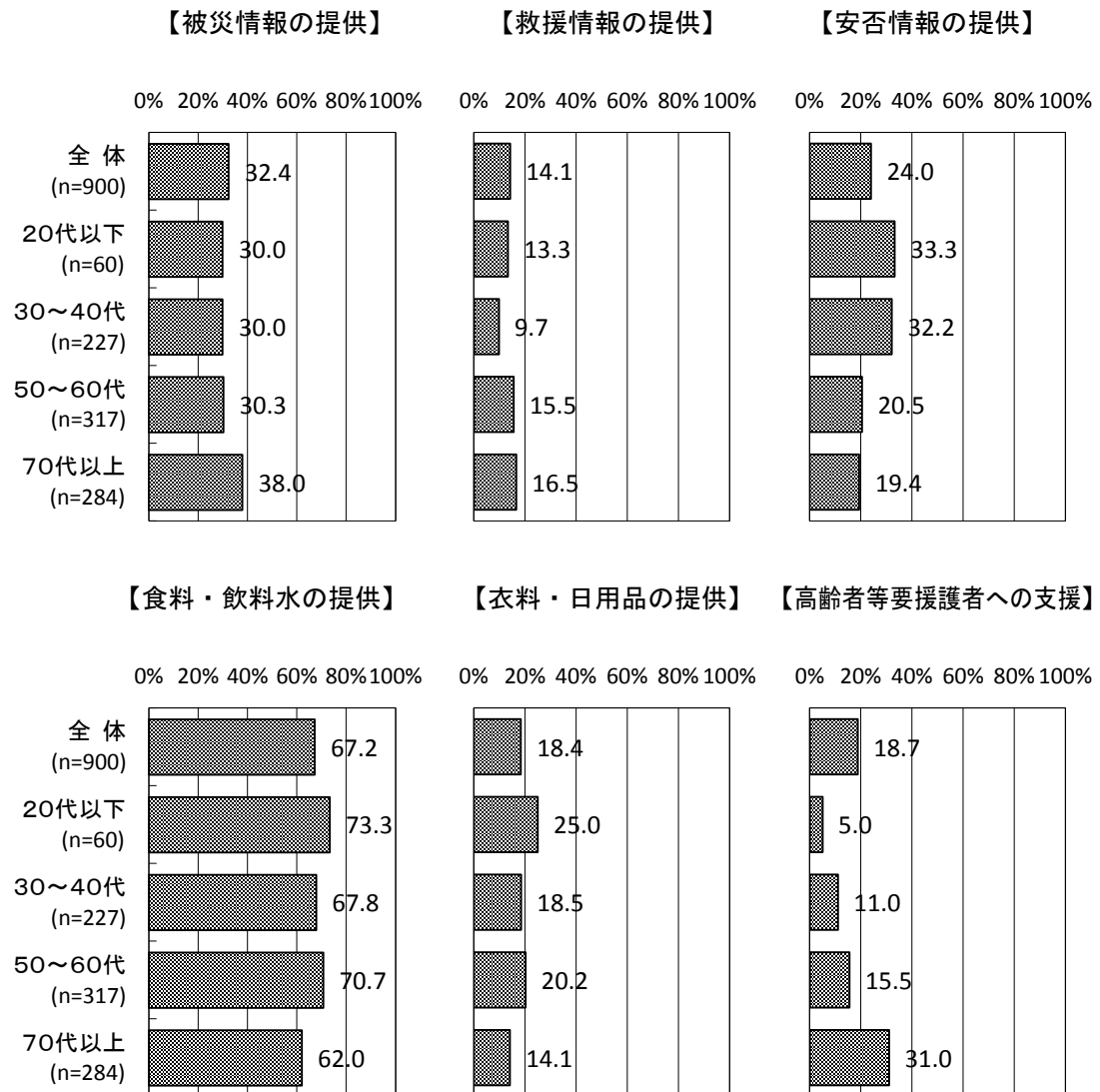


【無回答】



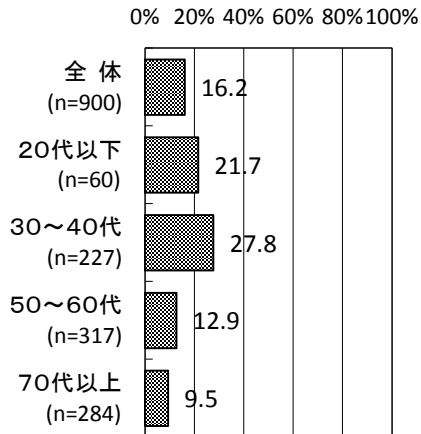
■ 年代別

年代別に見ると、「安否情報の提供」では「20代以下」(33.3%)、「30～40代」(32.2%)
がともに全体(24.0%)と比べて高く、「高齢者等要援護者への支援」では「70代以上」
(31.0%)が全体(18.7%)と比べて高くなっている。

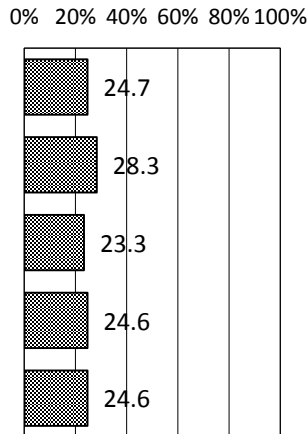


市民用アンケート解析結果

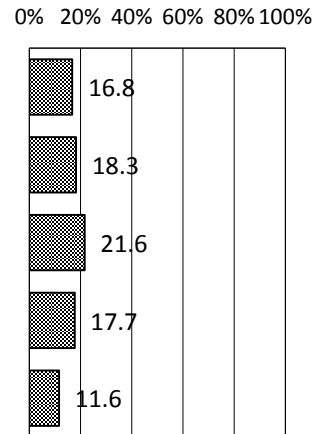
【女性、子どもへの配慮】



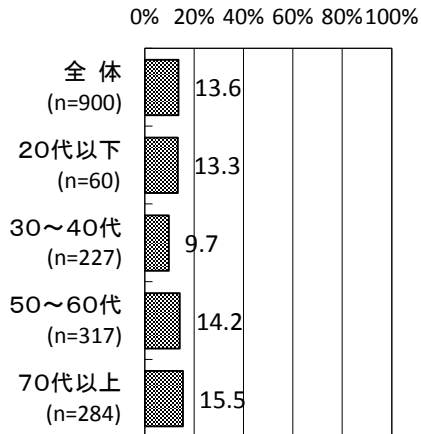
【睡眠・安息の場の提供】



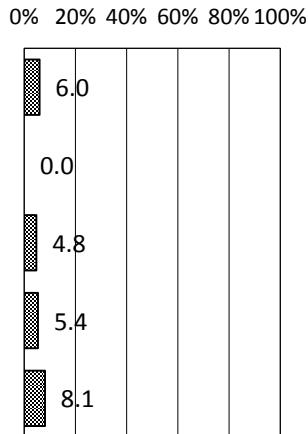
【プライバシーの確保】



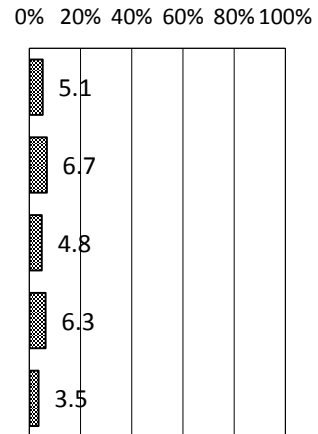
【傷病を治療する救護活動】



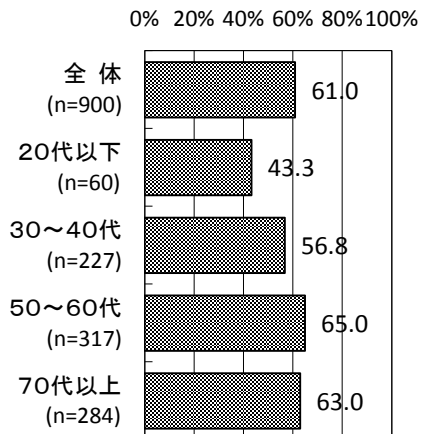
【健康相談等の保健活動】



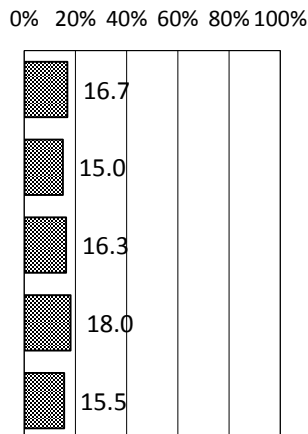
【着替えや授乳場所の提供】



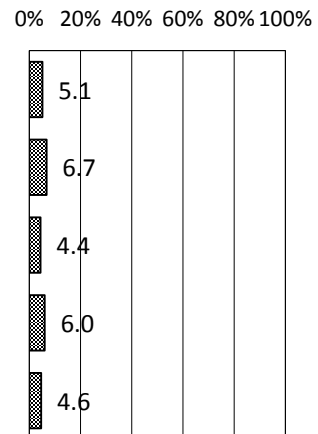
【トイレ】



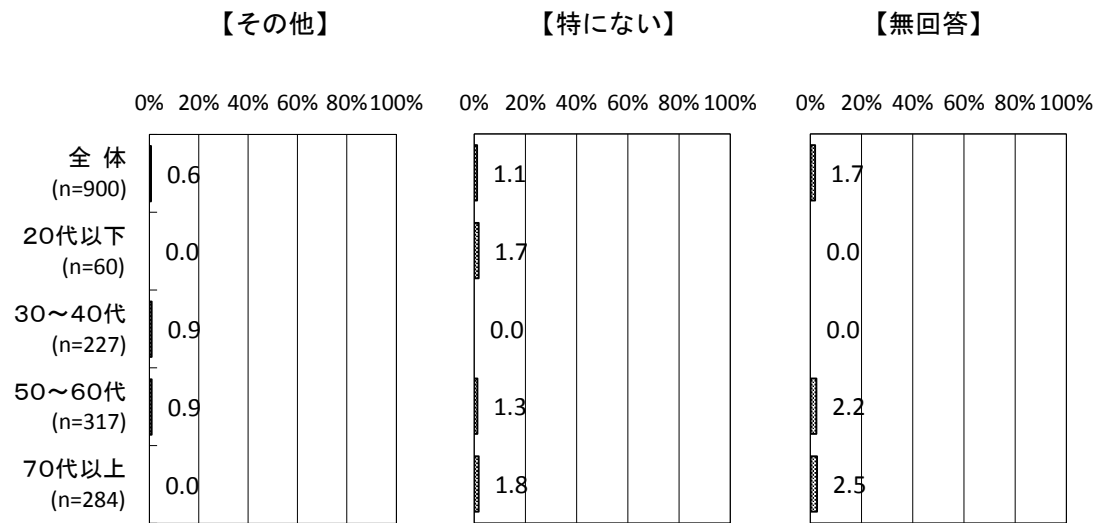
【お風呂】



【ペットのケア】

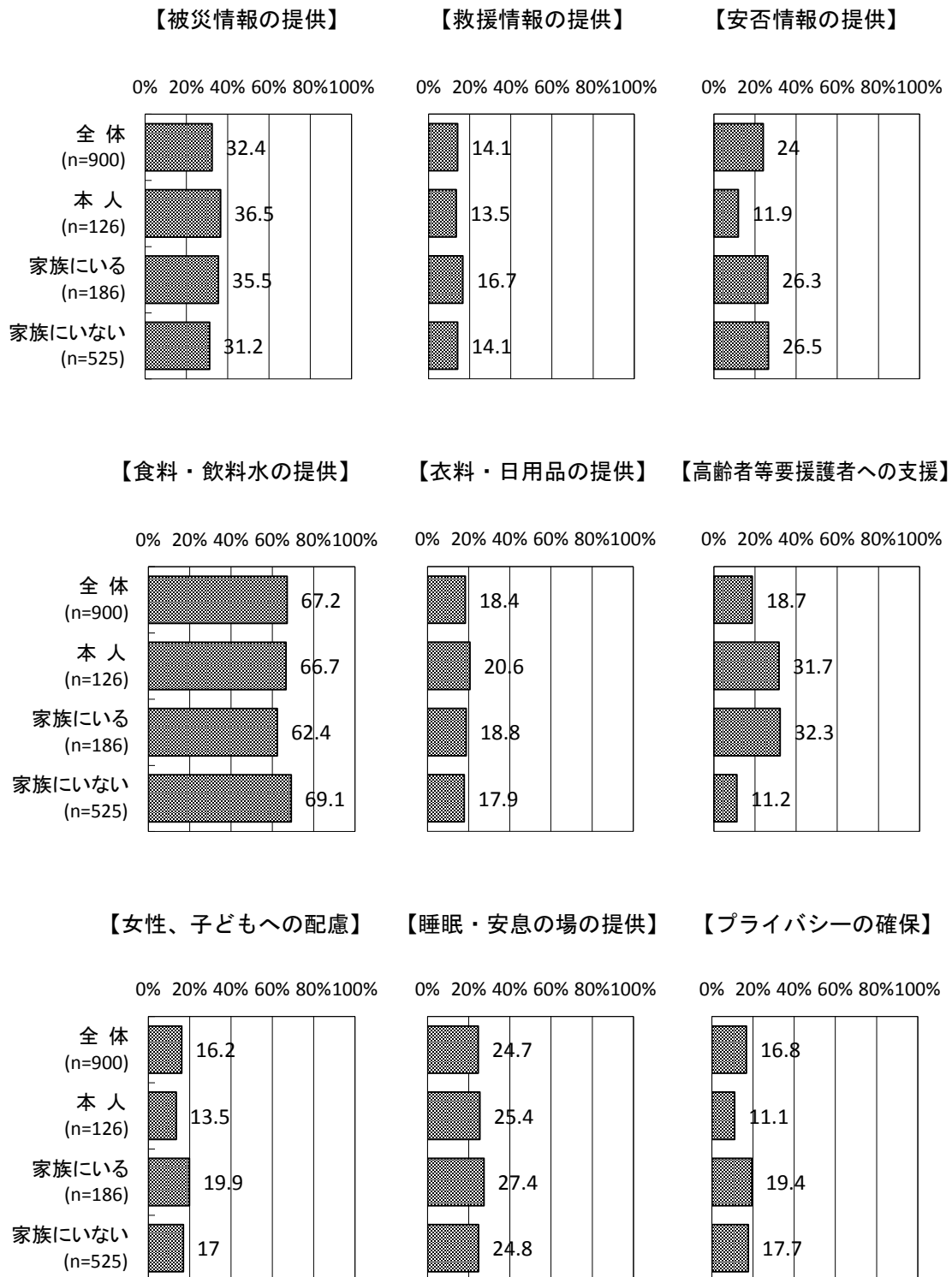


市民用アンケート解析結果



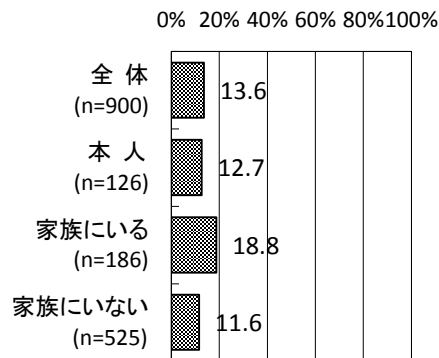
■ 避難行動要支援者の有無別

避難行動要支援者の有無別で見ると、「高齢者等要援護者への支援」では「家族にいる」(32.3%)が最も高く、次いで「本人」(31.7%)、「家族にいない」(11.2%)の順になっている。

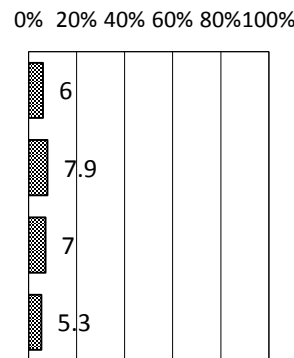


市民用アンケート解析結果

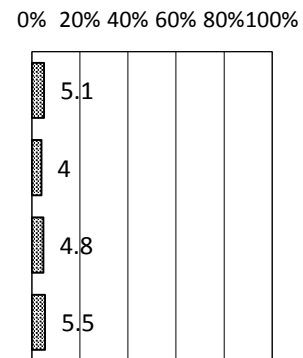
【傷病を治療する救護活動】



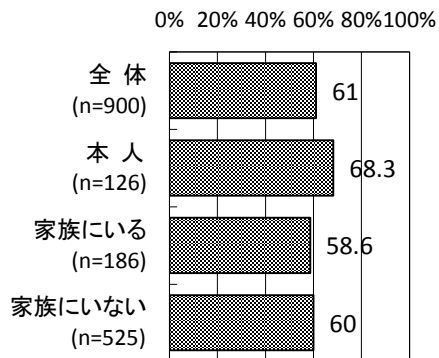
【健康相談等の保健活動】



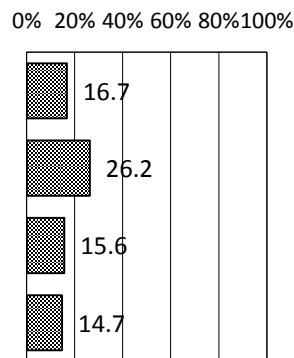
【着替えや授乳場所の提供】



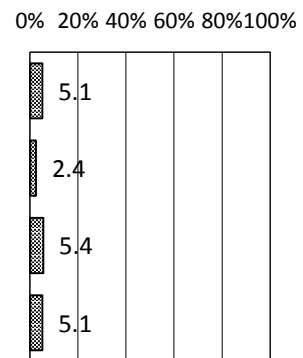
【トイレ】



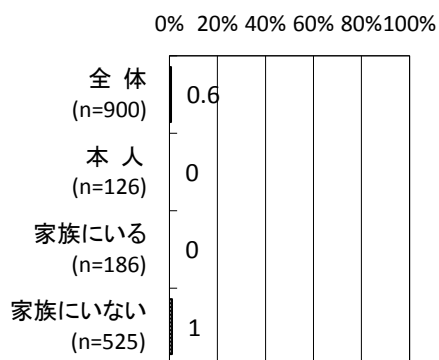
【お風呂】



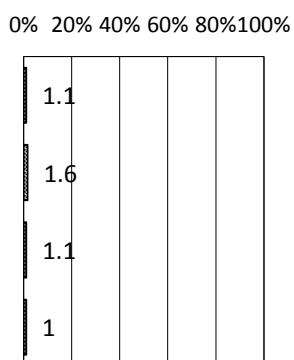
【ペットのケア】



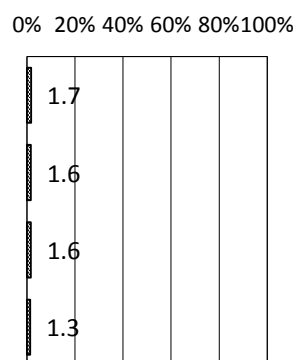
【その他】



【特にない】



【無回答】



「良好な避難所生活環境の確保に向けた方策（Q20 から Q24 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
要支援者がいるので体育館等、多人数での生活の場合、回りの人への迷惑等を考えると避難生活はむづかしい時もあります。
個別に部屋を用意していただけるとありがたいです。
園部市長の防災対策がみえてこない。何ができるのか？
特に（若い女性）や（子どもづれ）に対するプライバシーの確保。 不安なのに、まわりに対する気づかれで余計にしんどいと思う。
どこまで安心して、すごせる環境を提供してもらえるのか？治安が安定して全市民が平等にサービスを受けられるのか不安です。 生活保護を受けている人も多くいるので、治安が不安。
個々に避難所を決めてもらった方が、行きやすく人数の把握をして頂いている事で物資の提供に安心できると思います。
お互い助け合い、緊急時に好き勝手は許されないと思う。
大災害になった場合、学校だけでは避難者が多すぎて大変な事態になると思います。近辺にもう少し避難所が必要ではないでしょうか？
あとはその時の状態に応じて。
とにかく体が不自由で年も取って居るし身寄りもないし。
避難所がわからない。
避難をした事は、今迄にありませんが、色々と精神的に苦しいと聞きます。 大多数の人が、同じ所で一定期間暮らすという難しさは、安易なものではないのだらうと考えます。
人並な避難生活がむづかしい。
わからない。
都市部の避難場所の良好な環境確保は現実的に難しいと思う。 国や自治体に病院・企業などに避難場所提供をはたらきかけてほしい。そうでないと都市部は無理。
長期に渡り、学校の教室や体育館に寝泊まりしている人の話によると、床が堅くて体が辛いというのをよく耳にするので、高齢者にはイスやマットなど少しでも体が楽な状態で居られる工夫がほしい。

意見
朝目がさめたらベッドの中でストレッチ。次に主人のお墓参り、年日H8年～ヨリ帰って来て裏の公園のゴミひろい。草刈り～市から掃除に来て表通りだけです。待っても来ないので草刈もやっています。植木はのびのびになっています。（公園は東小学校の北がわです）私の健康法です。昼間はグランドゴルフ～スポーツジムに行っています。公園の植木切りに来て下さい。
避難したくても避難場所がまだ聞いていない時はどうしたらよいか？！
身体が不自由なので、みんなに迷惑をかけない設備があれば避難所に行けるが、トイレなどの事も考えると避難所には行けない。
知人が多く、何でもおしゃべりしあえる人達がいっぱいいること。
避難生活では、プライバシーの確保が出来る限りしてほしい。
最低限の生活（トイレ等）が心配ない事が必要。
Q24 に関し、避難所において充実させるべきものは、実際に避難所での生活を余儀無くされたという経験を持つ人たちの意見を参考にすべき。 現場でなければ気づかない不便なこと、不足するもの、サポートして欲しいことが多くあり、体験者でなければそれは分からない。 想像に基づいたリクエストは役に立ちません。
心身、体調不良になり易いと思うので、ケアをして下さる専門員さんが相談にのって頂ける様な機会を作って頂けたら良いと思います（より早く）。
公団の耐震性のパンフレットが欲しい。それによって避難を考えます。
外国の方が分かりやすいようにしておく（外国語の話せるスタッフを入れておく等）。
被災した場合、学校・プラザだけで、地域の人が全員避難した場合、入りきれのかと思います。 そういう場合、ある程度数字だけでも出ているのでしょうか。
避難出来ただけで十分と思います。
避難所の設定。例えば堂山町の人はどこへ行けば良い、小路町の人はどこへ行けば良い。
不便と不自由は緊急時の常であるが、自我を押さえておれる限界は必ず生ずる。 我を押さえるマニュアル（心理学的に検討された）を準備し、関係者にQ&A方式で対応できるようにすべき。対応する人もされる人も人間である。 一人で何人が正常に対応できるか整理すべき。
特に無し
被害にあってみないとわかりません。 一度も怖い目に遭ったことが無い者には全部必要だと思います。
各地での施策上の問題点を考えて喜んでもらえる生活環境の確保を。
良好なといわれればキリがないが、市民の目線に立ってできるだけ”キメ”の細かいまず食べることの充実を望みます。

市民用アンケート解析結果

意見
家内が「狭心症」の持病があり、精神的に周りに順応できるかが今の所不安。
もう一度、「避難場所」の名称をステッカーとして欲しいです。出口に貼りたい。
避難所の場所、数など知らない事が多い。
家族の一員としてペットを飼っているのも、他人様に迷惑がかかり、家族全員が避難所に行く事はできません。
段ボールなどで区切って最小限のプライバシーを守ってほしい。
水の確保のため、大きい避難所には井戸を作る。 体が休めるよう、横になれるよう毛布の確保。最低限必要と思う。
障害者とペットのケア。 特にプライバシー確保、女性、子ども、赤ちゃん、高齢者への配慮をしてほしい。 ゴミはどうするか？
Q24、1～15まで全部必要と思います。
避難所にいたら自分の事で精一杯！！
避難場所の住環境を良くして欲しい。
避難場所とし、出来るだけ多くの場所を開放、利用することが避難所での問題を少なくすると考える。
食料・飲料水の提供。 睡眠・安眠の場の提供。
Q22 関連で避難者の確認をするのに固定するのが良い。
期間が長くなる場合は、Q24 のほぼ全てが必要になると思う。
今のんでいる薬は一日も欠かせません。対処願います（命にかかわる）。
精神的、肉体的にもダメージがある中、避難所生活を送るとなると倍のダメージがあると思う。 狭くて（トイレ、風呂）核家族が1つのドアがある所で片寄せて生活できたらプライバシーも守られ、苦痛も半減。
避難所生活というのが今の時点ではやはりよくわからないので、実際その時になってみないとわからないと思います。
なし。
乳幼児がいるので、ミルクを作るためのお湯が必要になる。
たくさんあるとのこと。
Q24 について、 ○母が高齢で膝が悪い事もあり、長期に亘る避難生活は不便な所が多々あると思います。トイレは洋式でないと無理等。 ○2～3日に1度程度、お風呂代わりになるもの。
避難所でプライバシー確保のために仕切りを作ったりしているのをテレビで見ると、長期の避難所生活時も想定して、いざという時にすぐ導入できるように、そういう業者や提供してくれる方を調べておいて、即座に対応してほしいです。

市民用アンケート解析結果

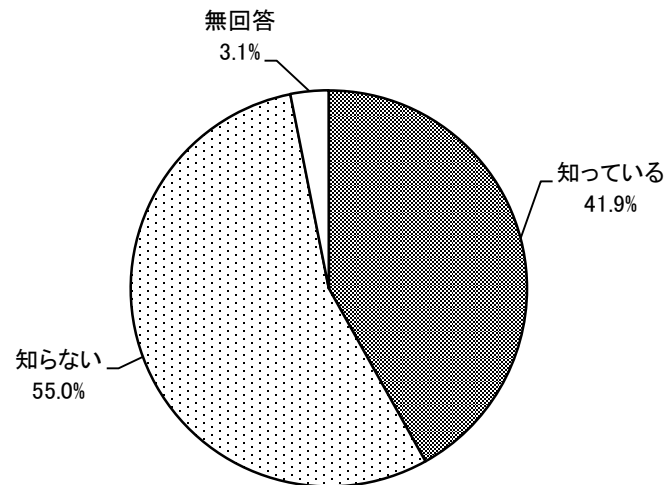
意 見
洗面、手洗い場所。
避難所内に女性専用スペース（トイレ等）があれば、家族のいない女性にとっては良いと思う。
防災グッズを市から提供があつたりすると、市民全員が２～３日支援物資が届かなくても、近所同志で助け合える様に思います。

■防災行政無線について

Q25. 市では、市内 40 箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。

市が災害情報を迅速に知らせる防災行政無線を整備していることを知っているかでは、「知らない」（55.0％）が過半数を超えている。
一方、「知っている」と回答した人は 41.9％にとどまっている。

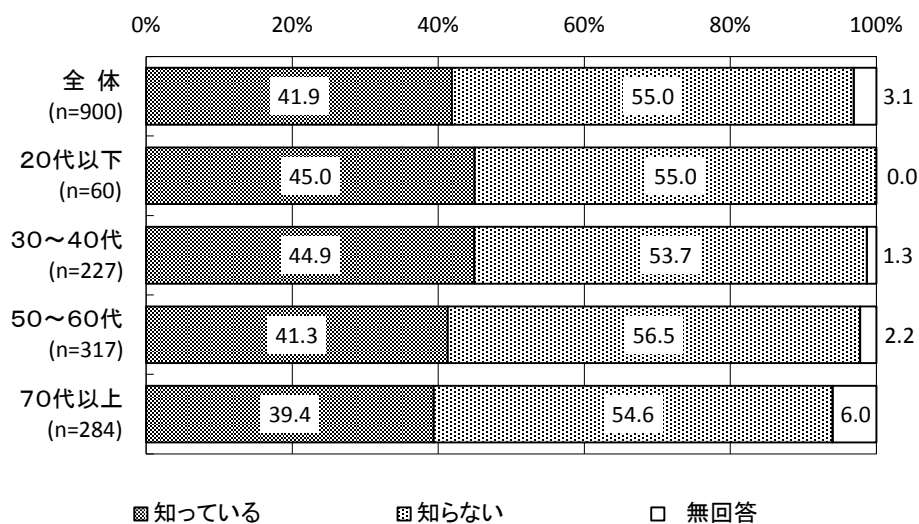
n=900



市民用アンケート解析結果

■ 年代別

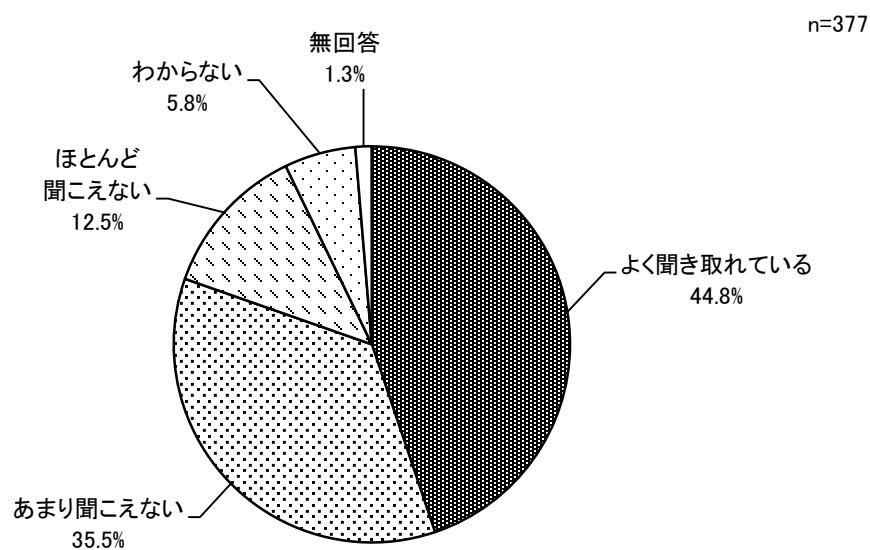
年代別に見ると、「知っている」では「20代以下」（45.0％）が最も高く、次いで「30～40代」（44.9％）、「50～60代」（41.3％）、「70代以上」（39.4％）の順となっている。



Q25－１．防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

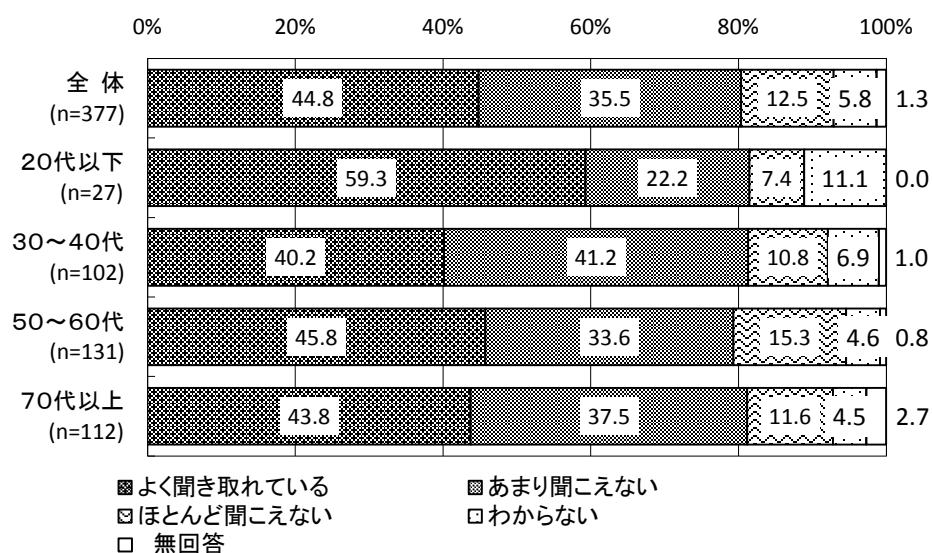
※Q25で「１.知っている」と回答した方のみ

防災行政無線の音声は聞き取りやすいかどうかでは、「よく聞き取れている」（44.8％）が最も高いが、「あまり聞こえない」（35.5％）と「ほとんど聞こえない」（12.5％）を合計すると48.0％となり、「よく聞き取れている」を上回っている。



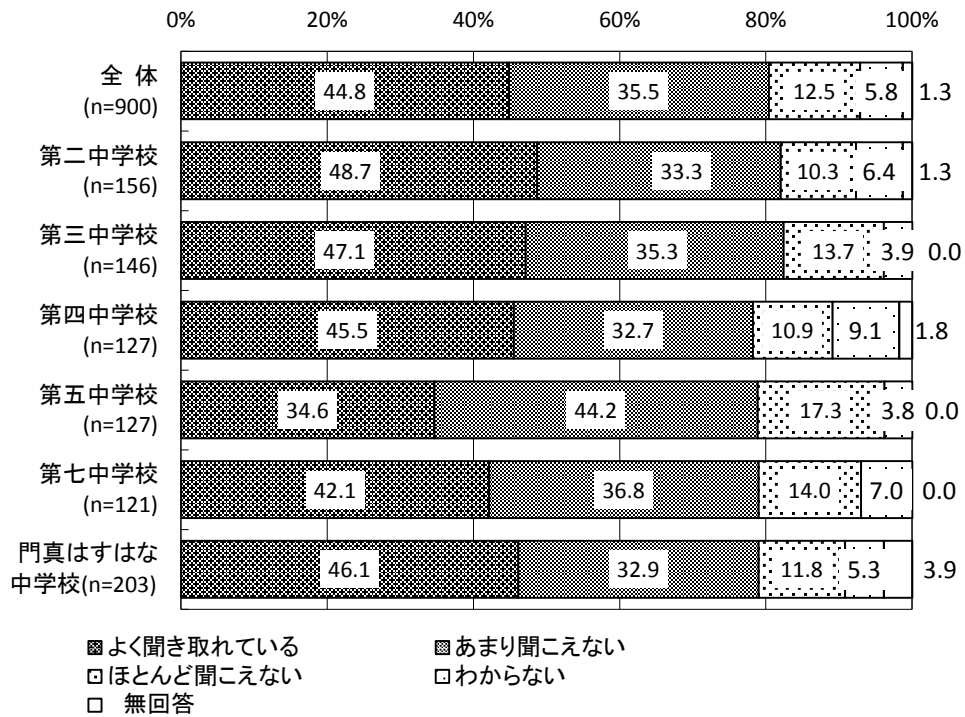
■ 年代別

年代別に見ると、「よく聞き取れている」では「20代以下」(59.3%)が最も高く、次いで「50～60代」(45.8%)、「70代以上」(43.8%)、「30～40代」(40.2%)の順となっている。



■ 住所（中学校区）別

住所（中学校区）別に見ると、「よく聞き取れている」では「第二中学校」（48.7%）が最も高く、次いで「第三中学校」（47.1%）、「門真はすはな中学校」（46.1%）の順となっている。



「防災行政無線（Q25 から Q25－1 まで）」について、平常時の放送時間帯や放送内容などご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
聞きとりにくい時がある（スピーカー音声が大き過ぎた時）。
音割れがひどく、何を言っているのか聞き取れていないのが現状です。
ある事は知っているが屋内にいと、ほとんどきこえない。
毎日 4 時、6 時の無意味な放送は週 2 日位でいいのでは？
あまりゆっくりしゃべられる。よけいに聞き取りにくい。
野里で生活中、放送一度も聞いた事なし。
学校にあると思いますが、今まで聞いた事はありません。 その時はとにかく全地区の人が聞けるように大きく、長く、1 秒でも早く放送して下さい。
四宮小学校にあるがスピーカーがきこえない。あちこちに設置すべき。
放送は聞きとりにくい。
ツイッターの方がありがたい。
毎日流れていますが、最近になって区分けして流れているので、一括で定めた時間に流して欲しいです。 後、何を言っているのか言葉が分かりづらいです。
声が割れて聞きとりにくい。
耳が聞こえにくい。
耳がきこえない。どうするのですか？
準土地に住んでいるため、休日以外は聞こえにくい。
言葉数を少なく避難の繰返しだけでいい。はっきり聞き取れないから。
知りません。
平常時、自治会毎にでも予行運転必要かも。
Q12～Q16 までの意見で書いた通り、家の中には聞こえないし高年齢の夫が外にすぐ行けないので聞く事が出来ない。
町内全体にきこえる様に増設してほしい。
私が知らないだけと思いますが、市政便りに書いて頂けたら嬉しいです。
不審者情報のメール配信以外に防災行政無線で流してほしい。
雨の音や雨戸を閉めていると無線が聞こえにくい。
存在をしらなかった。 広島が災害があったニュースなどあった時から、どこかにあるのかな、と気になっていたのがわかってよかった。
周辺に工場があると、たまに聞き取りづらい時がある。

市民用アンケート解析結果

意 見
30 年以上も聞いたことがない。情報が入らないので不安だ。市に要望しているが、なかなか実現しない。
家の中では、聞き取れない。
防災行政無線がどこにあるのか聞いた事がないです。 五月田小学校か、七中学校からの時間の知らせは聞こえますが、それが防災行政無線なのですか。
いつでも放送していいと思う。
この行政無線はもっと常日頃から活用すべき。 届く範囲と緊急時と常時と区別して、内容を整理して充実したマニュアルを整備すべき。 ハザードマップとの連携も必須。
特に無し。
音が反響して何を言っているか重なって聞き取れない。
大和田小学校から 6 時の放送なのですが、家の中にいるとあまり聞き取れないので、もう少し音響を上げて頂くと有難いと思います。
言葉は聞き取りにくい。危険音の設定？
屋外スピーカーの充実。 遠くにスピーカーの声を判別のできない音声を聞いたことがある。 でも判別できなくては意味がない。
はっきり聞き取れないので子供でも聞き取れるようにしてほしい。
知りませんが、時々スピーカーが流れる時がありますが、「何を言っているのか、まったく聞き取れません」。 流すだけではなく、「キケン」をまずしっかり家にいてもわかる様に流してほしいです。
風で聞こえないことが多い。
門真市の無線は、ほとんど聞いた事がありません。
近くに無線スピーカーはありますが、地震の時おさまってスピーカーが流れたので、迅速な対応をしてほしいと思います。
ほとんど聞いたことがない。 予告、テスト放送（定期的）が必要と思う。
午後 4 時に放送がかかっているのは知っているが、わからない。 もしもの時には何度も繰り返し放送してほしい。
幸福町公園にある防災無線は周りに高いマンションに囲まれている為、大倉町の方はほとんど聞こえないので対策を!!
音声は聞こえているが、内容がわかりにくい。
スピーカーに近い場所に居住しているので、午後 4 時の放送が大変うるさいです。 午後 6 時のみでも良いのではないかと思います。

市民用アンケート解析結果

意 見
防災無線の設置も知らなかった。
時々、放送を流してほしい。
Q25－1 家の中に入って戸締まりすれば正確には聞き取りにくい。
いつも同じ放送ばかりテープを流していたら良いというのではない。
何を言っているのか分からない事がある。
もっと数を増やしてほしい。
普段の生活を送っている時、生活音に紛れて聞き取りにくい時があり、何を言っているのかわからない時もあり、何か言うてるで終わる時がある（窓など閉めていたら完全に聞こえていない）。
何を放送しているのか言葉が聞き取りにくい時がある。
スピーカーがあるのは知っているけど、防災行政無線用のスピーカーだとは知らなかった。
お昼にラジオ体操を流したらどうかと思う。 夕方に鳴っているのは分かるが、後は鳴っているのかな？
防災無線をわかりやすく皆様にわかって頂くため、普段も放送を流してほしい。
防災無線も日頃から何らかの活用として使用する事で、市民の皆様は耳をかた向けるのではないのでしょうか？！
窓を閉めていると少し音が小さい。 防災無線ですが、近隣の市でナイフや銃を持った逃走犯がいるときもガンガン流してほしいです。 以前、守口市で少年が母親を刺して逃げている事件があって、学校や幼稚園などには連絡はいくけど、市民はテレビしかないので危険だと思いました。

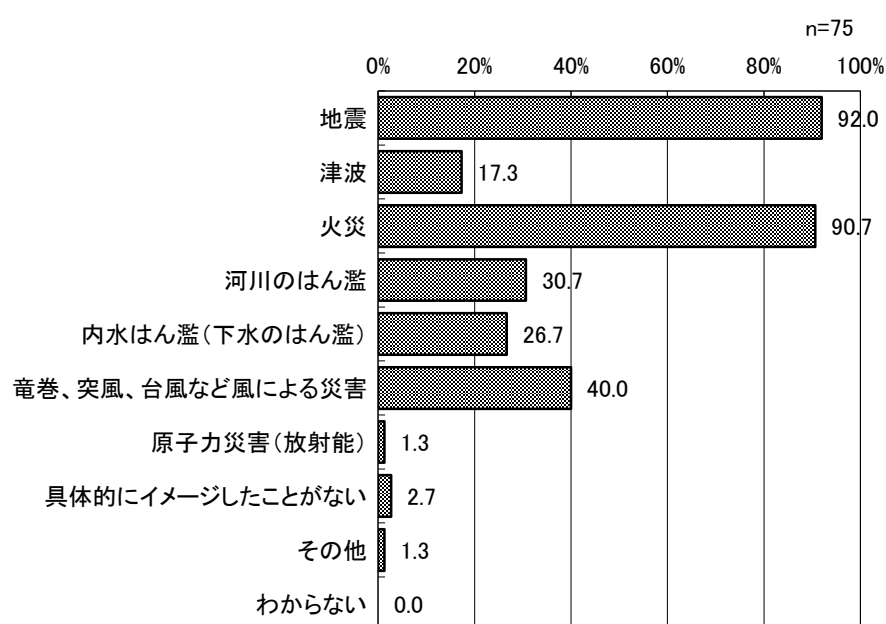
4－2 事業所・施設用

■防災に関する意識

Q 1. 自然災害によってもたらされる次の被害のうち、貴事業所等が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
(複数回答可)

自然災害によってもたらされる被害の中で、自分の事業所が被災したと具体的に想像したことがあるものは、「地震」(92.0%)と「火災」(90.7%)が他と比べて高く、「竜巻、突風、台風など風による災害」(40.0%)が続いている。

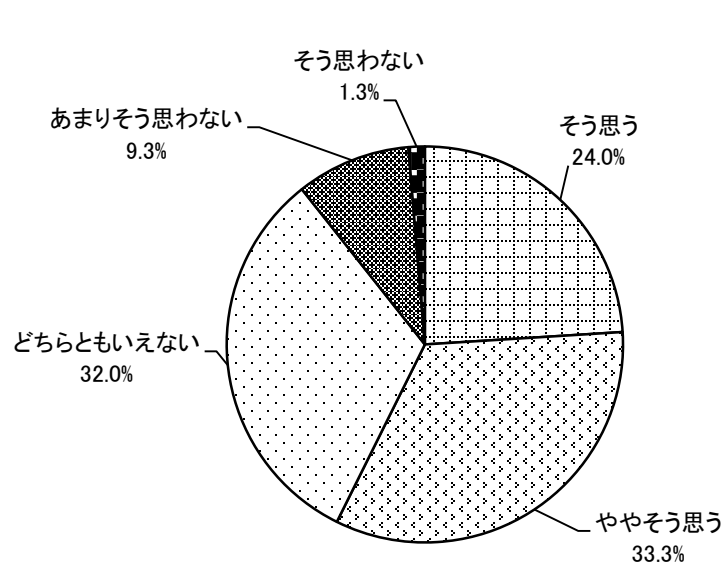
また、「具体的にイメージしたことがない」と回答した事業所・施設は2.7%と低くなっている。



Q 2. 災害に対する貴事業所全体の意識として、以下の①～④のそれぞれについて、最も当てはまる番号を1つずつ○で囲んでください。

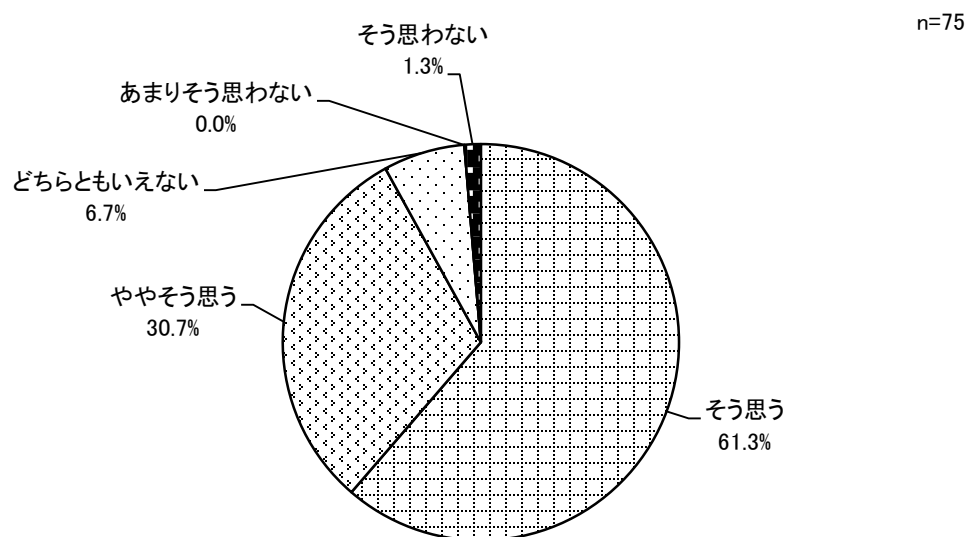
①将来、事業の継続を妨げるような災害が発生すると思う

災害に対する意識についての質問で、将来、事業の継続を妨げるような災害が発生すると思うかでは、「ややそう思う」(33.3%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(32.0%)、「そう思う」(24.0%)の順となっている。



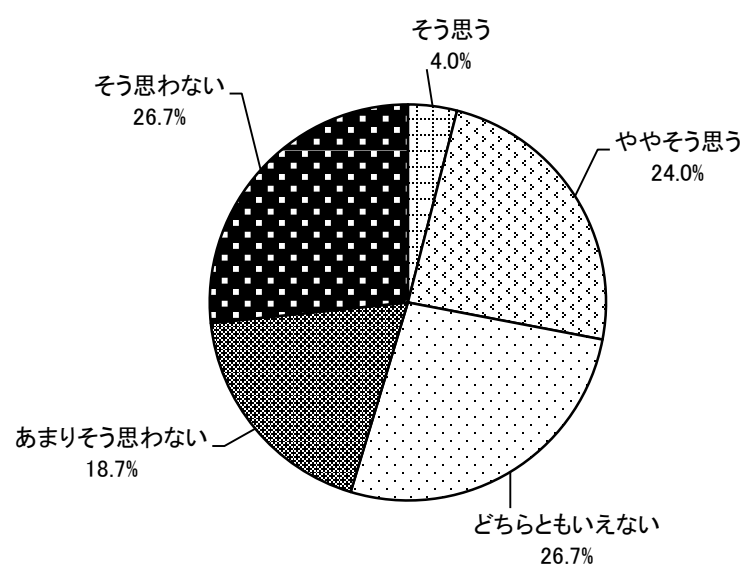
②防災に取り組むことは企業としての責務である

災害に対する意識についての質問で、防災に取り組むことは企業としての責務であるでは、「そう思う」(61.3%)が最も高く、次いで「ややそう思う」(30.7%)、「どちらともいえない」(6.7%)の順となっている。



③災害対策費用（耐震工事費、改修費、地震保険料、新型インフルエンザの対策費等）をあまりかけたくない

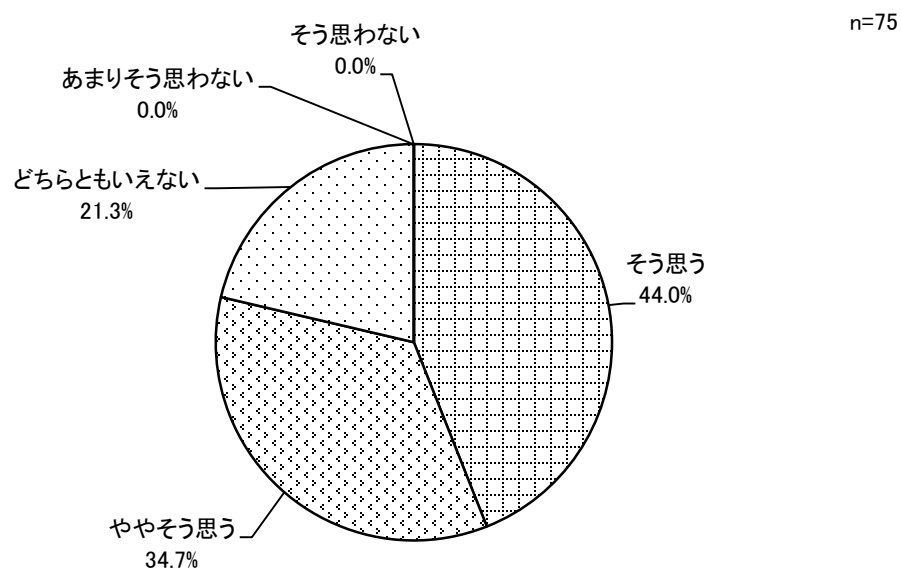
災害に対する意識についての質問で、災害対策費用（耐震工事費、改修費、地震保険料、新型インフルエンザの対策費等）をあまりかけたくないでは、「どちらともいえない」と「そう思わない」がともに 26.7%で最も高く、次いで「ややそう思う」（24.0%）、「あまりそう思わない」（18.7%）の順となっている。



④国や自治体の防災施策の推進に協力したい

災害に対する意識についての質問で、国や自治体の防災施策の推進に協力したいでは、「そう思う」(44.0%)、「ややそう思う」(34.7%)、「どちらともいえない」(21.3%)の順となっている。

また、「そう思わない」と「あまりそう思わない」はともに0.0%となっている。



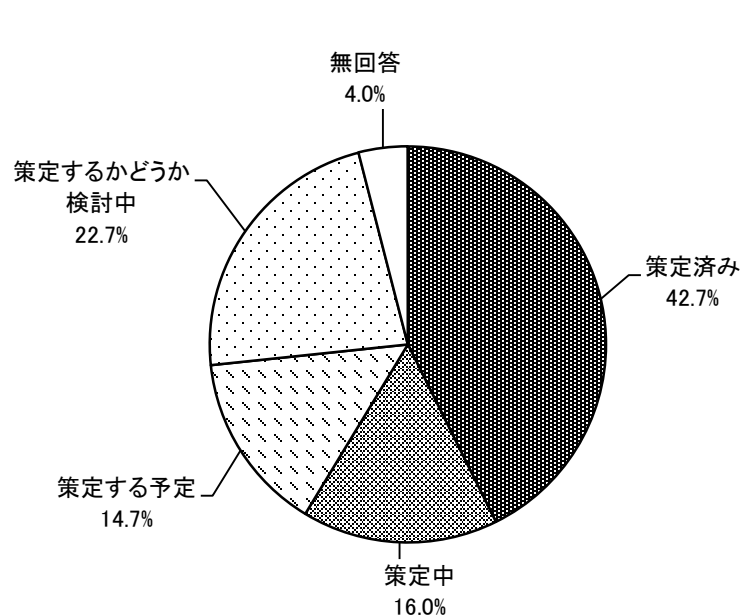
「防災に関する意識（Ｑ１からＱ２まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
津波被災の可能性の指針が行政から出して頂くと助かります。
今迄、保育園には対応の為の補助金を出し幼稚園には補助金を出さない。 税金を払っている人の多い幼稚園に厚く補助をすべきです。 保育園の存在そのものが補助金です。
災害対策の補助金を。
災害を受けながらも施設を避難場所としての提供の必要性も出てくると考えています。
幼児や職員の生命を守ることが責務だと思っているので、可能な限り防災訓練や非常時の対策（備蓄品等）災害マニュアルを作成して保護者に配布している。
浸水により工作機械が故障する事を恐れている。
企業と行政との境目が明確でない。従業員だけで良いのか？
近来様々な自然被害があり、利用時に起こった場合にどのように協力し助け合えるか考え行動できるようにと思っています。
当事業所は公共施設内にあるため、地域との連携は不可欠だと考えています。

Q 3. 貴事業所は、災害発生時の対応などを取り決めた、文書化された防災計画（法定の防火計画を除く）または文書化された行動マニュアル（災害発生時の社員の行動指針や役割分担を取り決めたもの）を策定していますか。

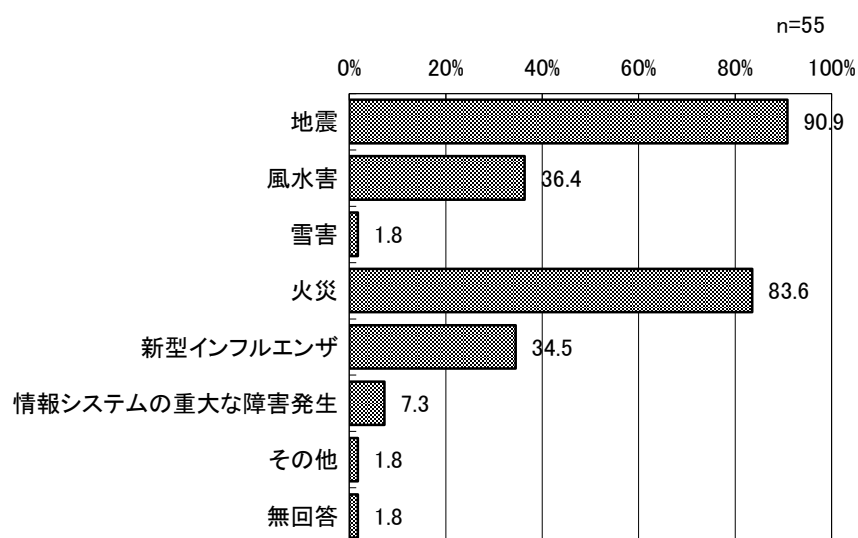
災害発生時の対応などを取り決めた、文書化された防災計画（法定の防火計画を除く）または文書化された行動マニュアル（災害発生時の社員の行動指針や役割分担を取り決めたもの）を策定しているかどうかでは、「策定済み」（42.7％）が最も高く、次いで「策定するかどうか検討中」（22.7％）、「策定中」（16.0％）、「策定する予定」（14.7％）の順となっている。



Q 3－1. 防災計画または行動マニュアルの策定に際し、想定した災害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

※Q 3で「1. 策定済み」、「2. 策定中」、「3. 策定する予定」と回答した方のみ

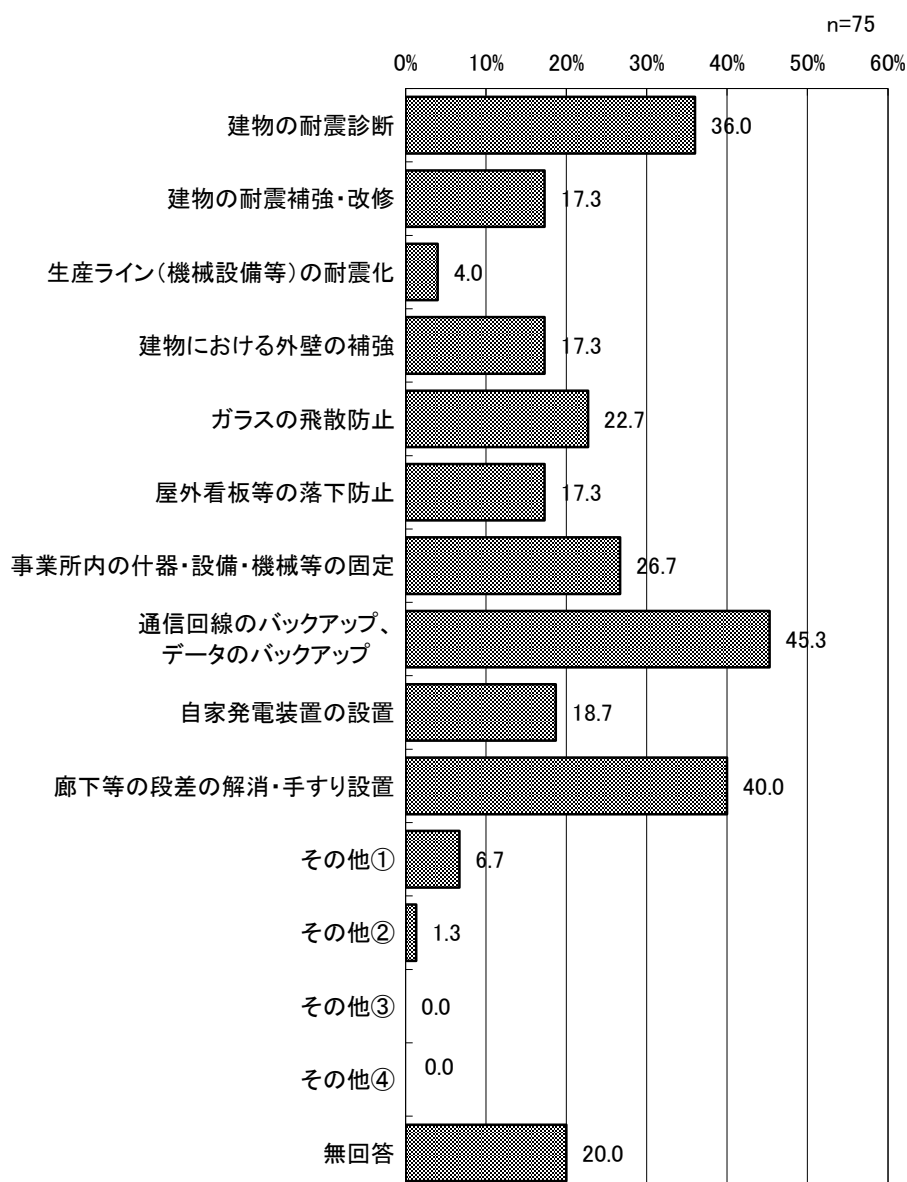
防災計画または行動マニュアルの策定に際し、想定した災害は何かでは、「地震」（90.9%）と「火災」（83.6%）が他と比べて高く、「風水害」（36.4%）、「新型インフルエンザ」（34.5%）の順となっている。



Q 4. 貴事業所ではどのような防災対策を実施しましたか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

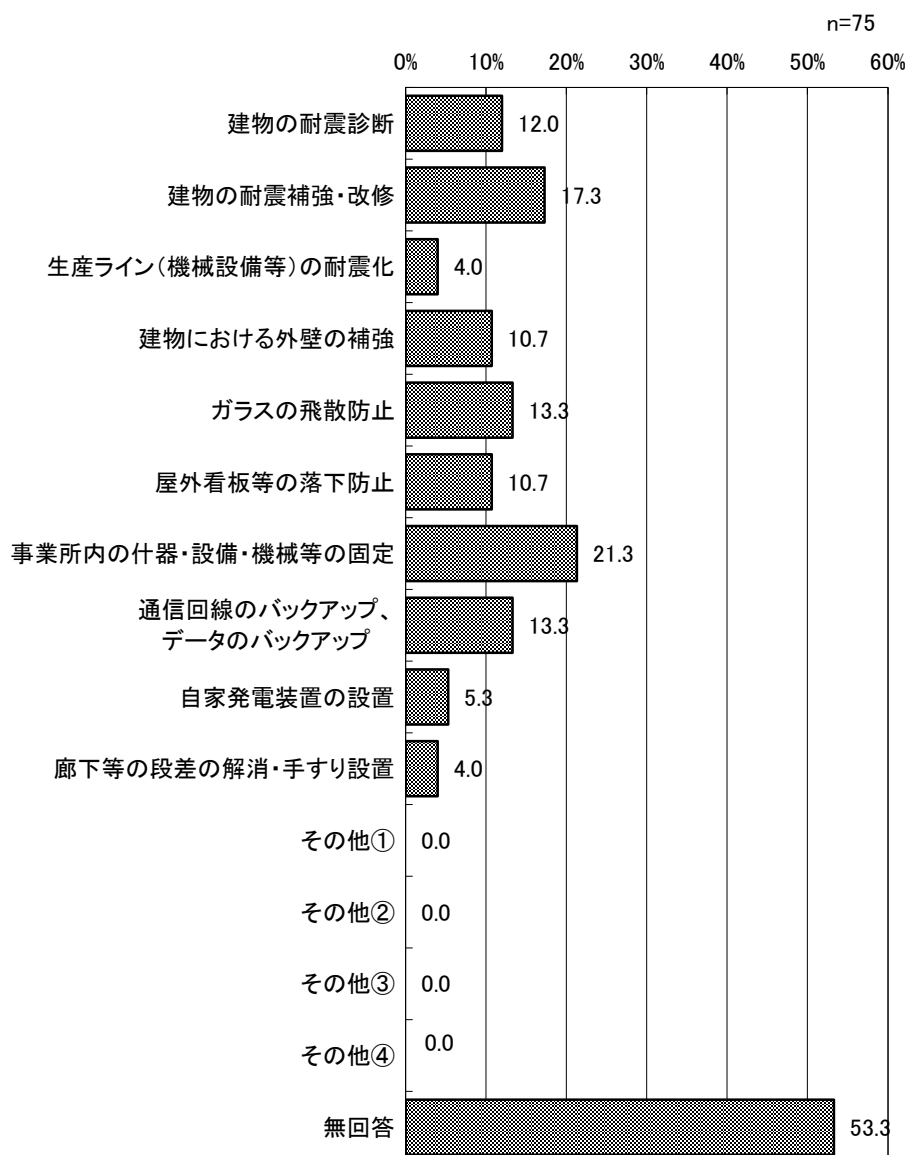
【事業所のハード面の防災対策の状況（実施済み）】

実施済みの防災対策はどのようなものか（事業所のハード面の防災対策の状況）では、「通信回線のバックアップ、データのバックアップ」（45.3%）が最も高く、次いで「廊下等の段差の解消・手すり設置」（40.0%）、「建物の耐震診断」（36.0%）の順となっている。



【事業所のハード面の防災対策の状況（実施予定）】

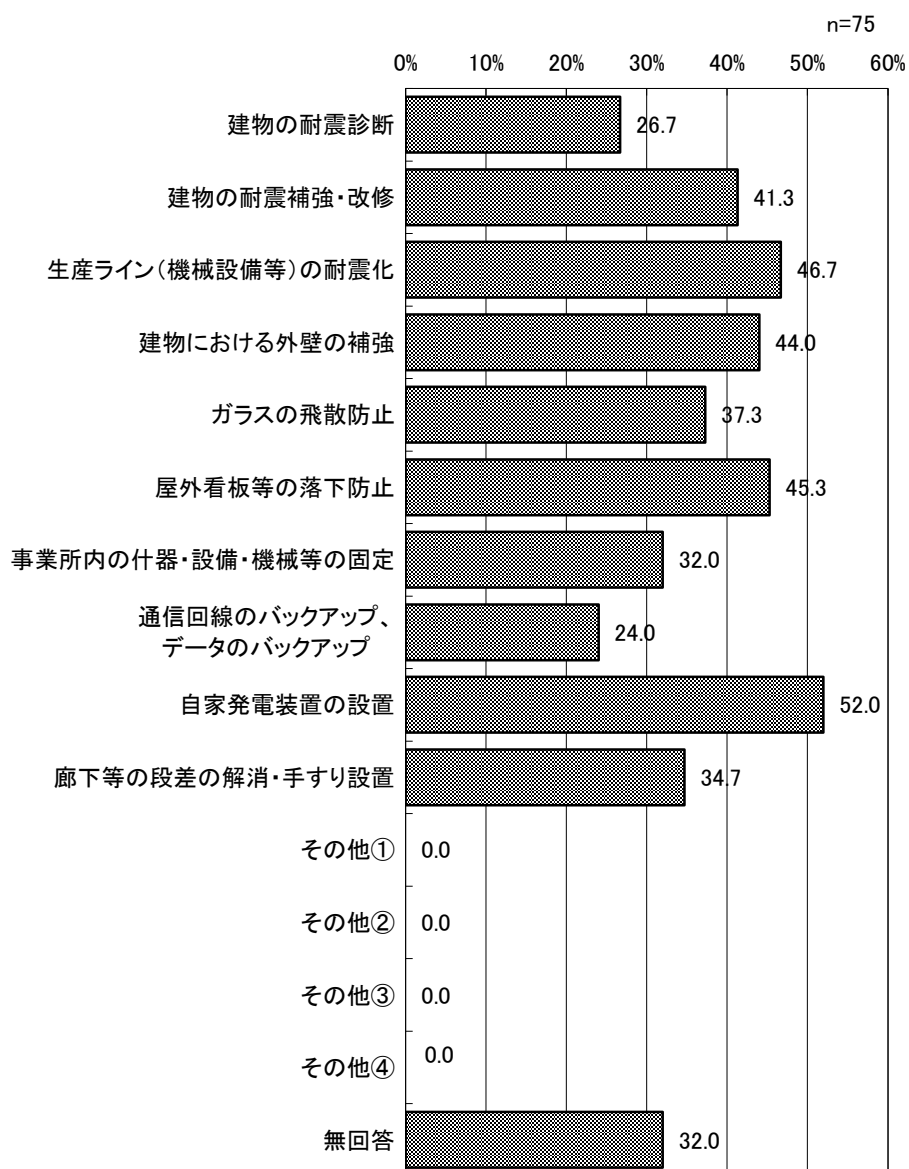
実施予定の防災対策はどのようなものか（事業所のハード面の防災対策の状況）では、「事業所内の什器・設備・機械等の固定」（21.3%）が最も高く、次いで「建物の耐震補強・改修」（17.3%）、「ガラスの飛散防止」（13.3%）、「通信回線のバックアップ、データのバックアップ」（13.3%）の順となっている。



【事業所のハード面の防災対策の状況（予定なし）】

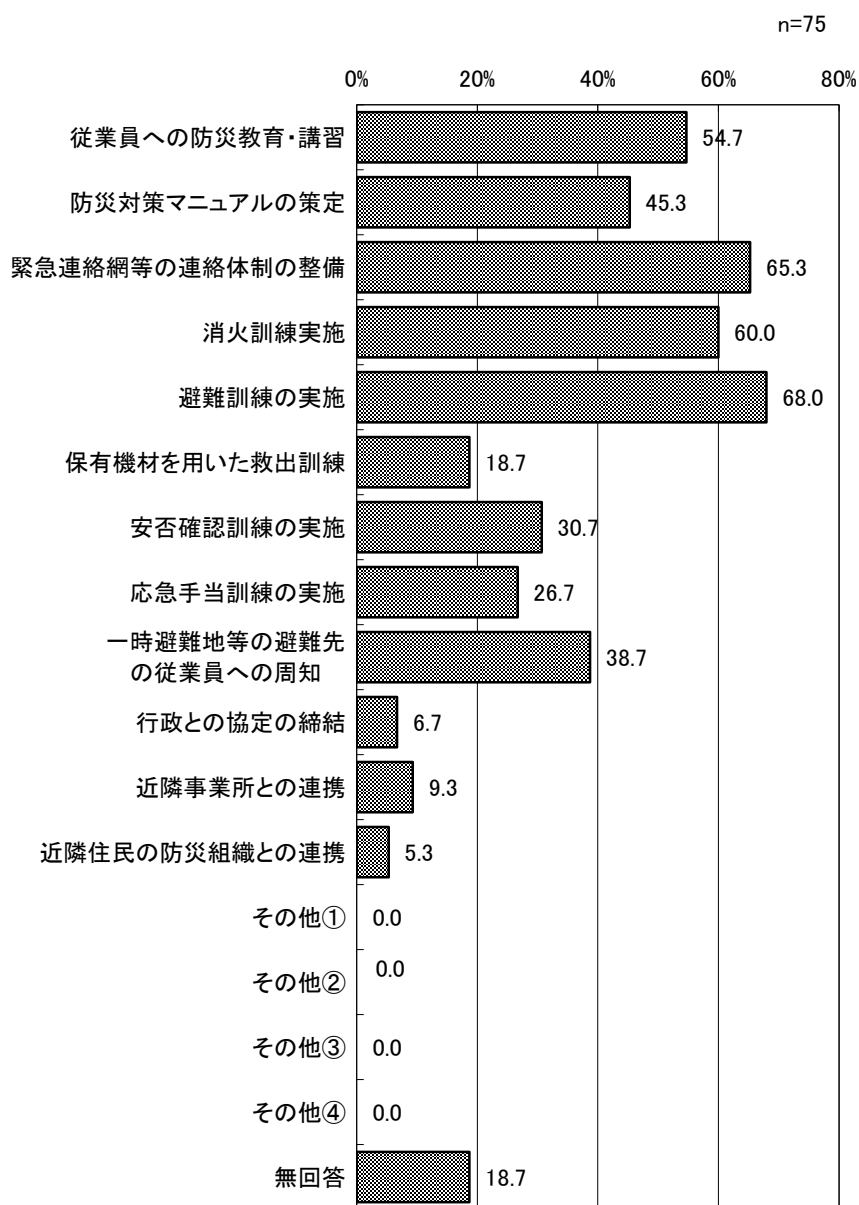
実施予定がない防災対策はどのようなものか（事業所のハード面の防災対策の状況）では、「自家発電装置の設置」（52.0％）が最も高く、次いで「生産ライン（機械設備等）の耐震化」（46.7％）、「屋外看板等の落下防止」（45.3％）の順となっている。

また、その他で4割を超えているものには「建物における外壁の補強」（44.0％）と「建物の耐震補強・改修」（41.3％）がある。



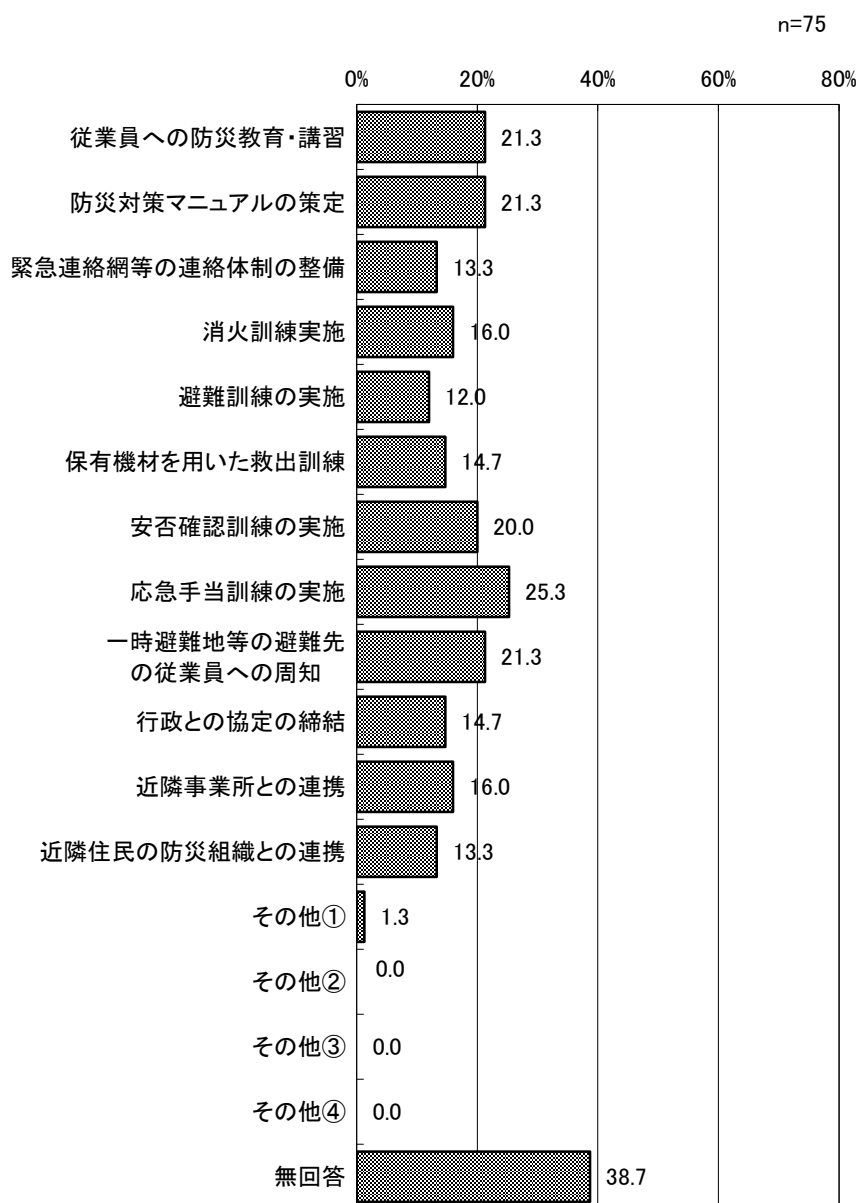
【事業所のソフト面での防災対策の状況（実施済み）】

実施済みの防災対策はどのようなものか（事業所のソフト面での防災対策の状況）では、「避難訓練の実施」（68.0％）が最も高く、次いで「緊急連絡網等の連絡体制の整備」（65.3％）、「消火訓練実施」（60.0％）の順となっている。



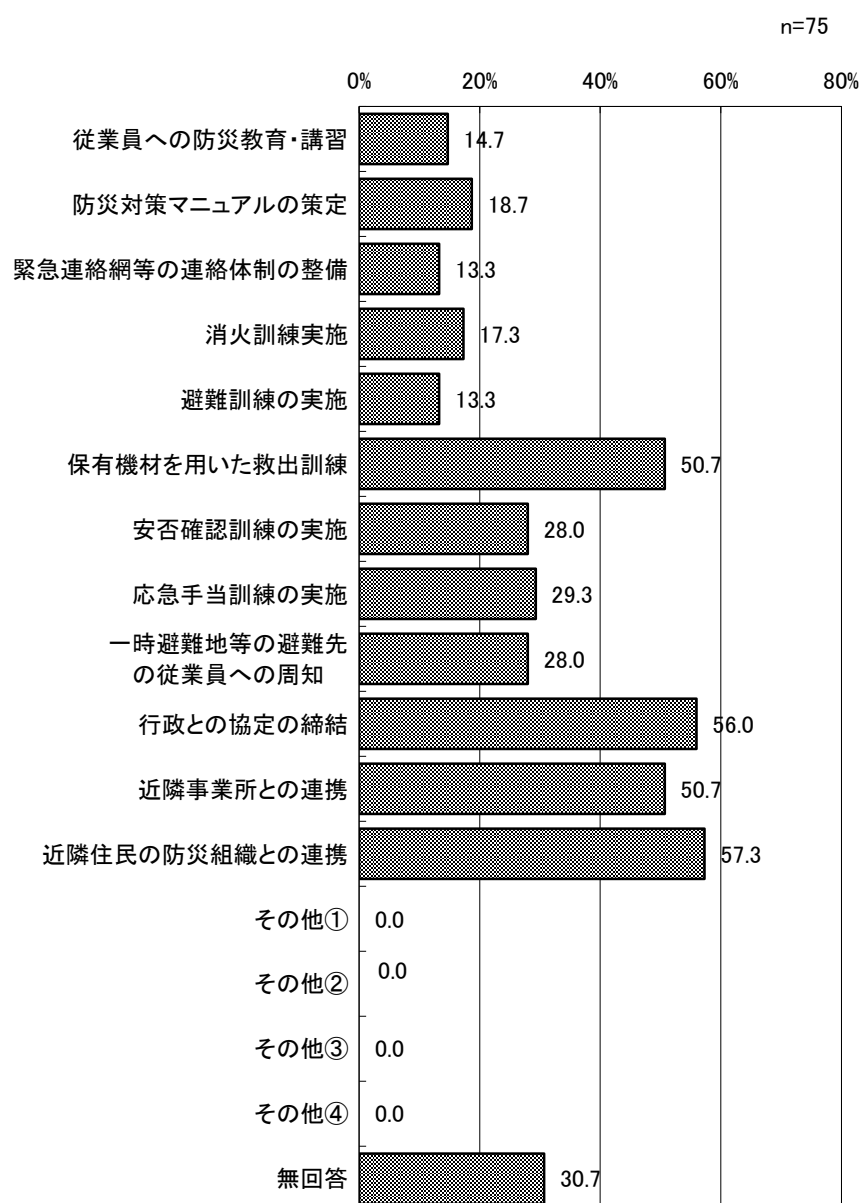
【事業所のソフト面での防災対策の状況（実施予定）】

実施予定の防災対策はどのようなものか（事業所のソフト面での防災対策の状況）では、「応急手当訓練の実施」（25.3%）が最も高く、次いで「従業員への防災教育・講習」（21.3%）、「防災対策マニュアルの策定」（21.3%）、「一時避難地等の避難先の従業員への周知」（21.3%）の順となっている。



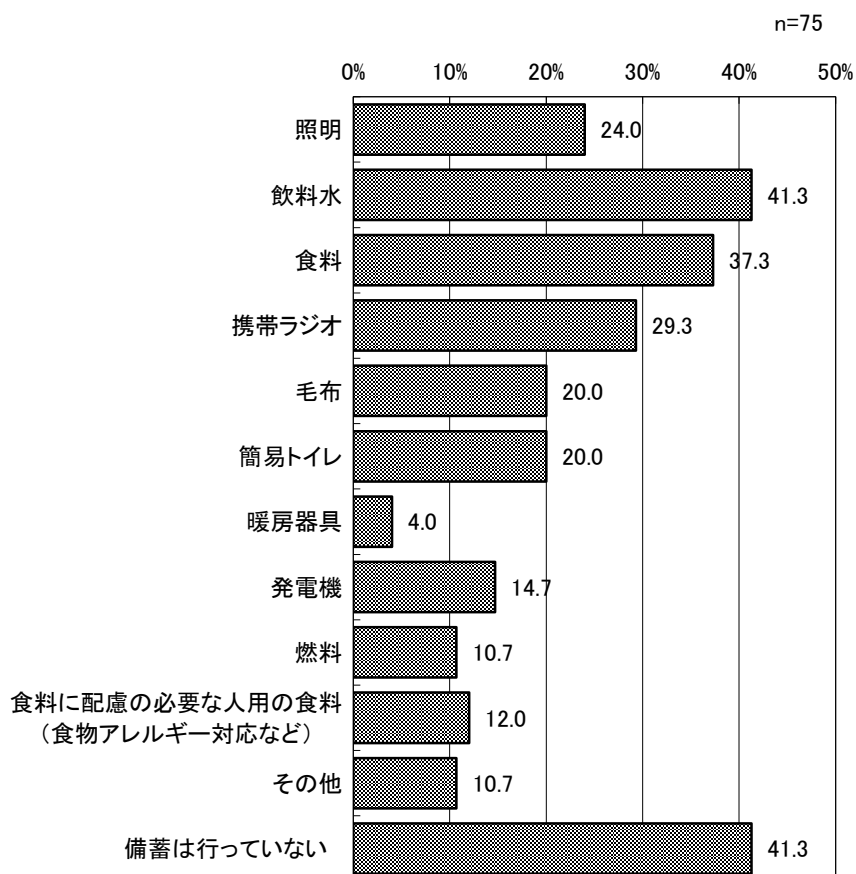
【事業所のソフト面での防災対策の状況（予定なし）】

実施予定がない防災対策はどのようなものか（事業所のソフト面での防災対策の状況）では、「近隣住民の防災組織との連携」（57.3%）が最も高く、次いで「行政との協定の締結」（56.0%）、「保有機材を用いた救出訓練」（50.7%）、「近隣事業所との連携」（50.7%）の順となっている。



Q5. 貴事業所では、災害用に食料等の備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

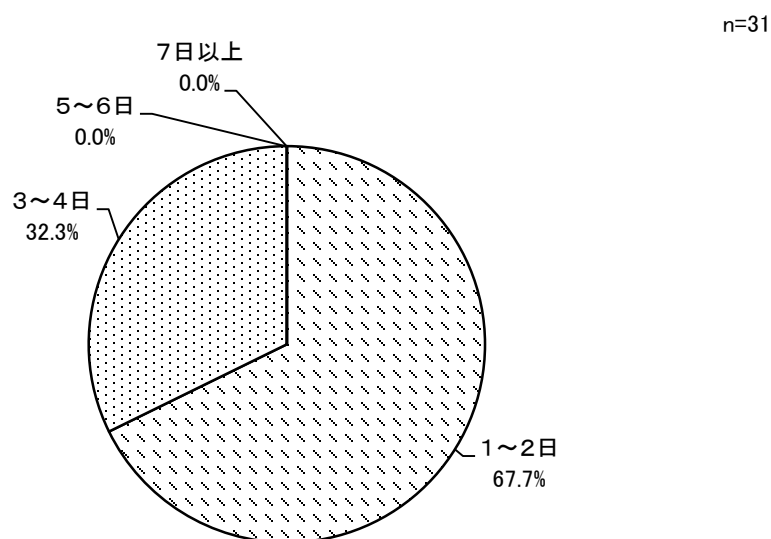
災害用に食料等の備蓄を行っているかどうかでは、「飲料水」、「備蓄は行っていない」がともに41.3%で最も高く、次いで「食料」（37.3%）、「携帯ラジオ」（29.3%）の順となっている。



Q5-1. 貴事業所で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。従業員または利用者1人あたり1日3リットルで計算してください。

※Q5で「2. 飲料水」と回答した方のみ

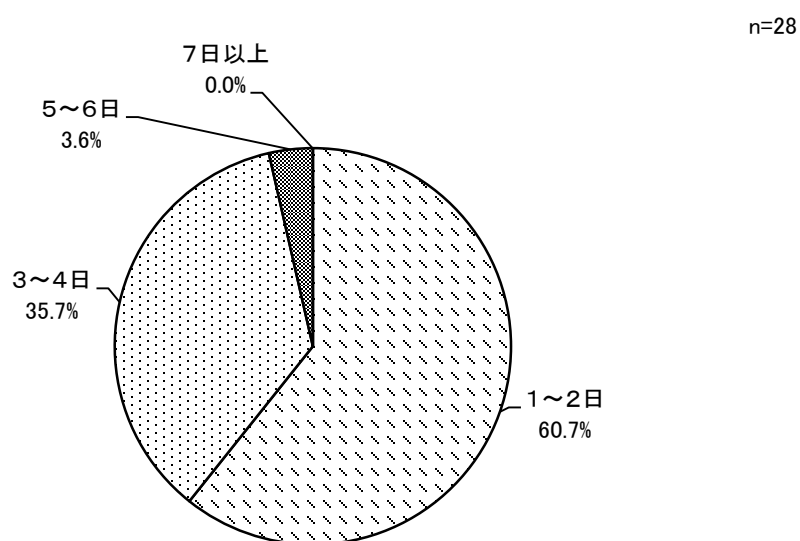
災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度か（従業員または利用者1人あたり1日3リットルで計算）では「1～2日」（67.7%）が最も高く、次いで「3～4日」（32.3%）の順となっており、「5～6日」、「7日以上」と回答した事業所・施設はない。



Q 5－2. 貴事業所に通常買い置いている「食料」で災害時に何日程度暮らせると
思いますか。

※Q 5で「3. 食料」と回答した方のみ

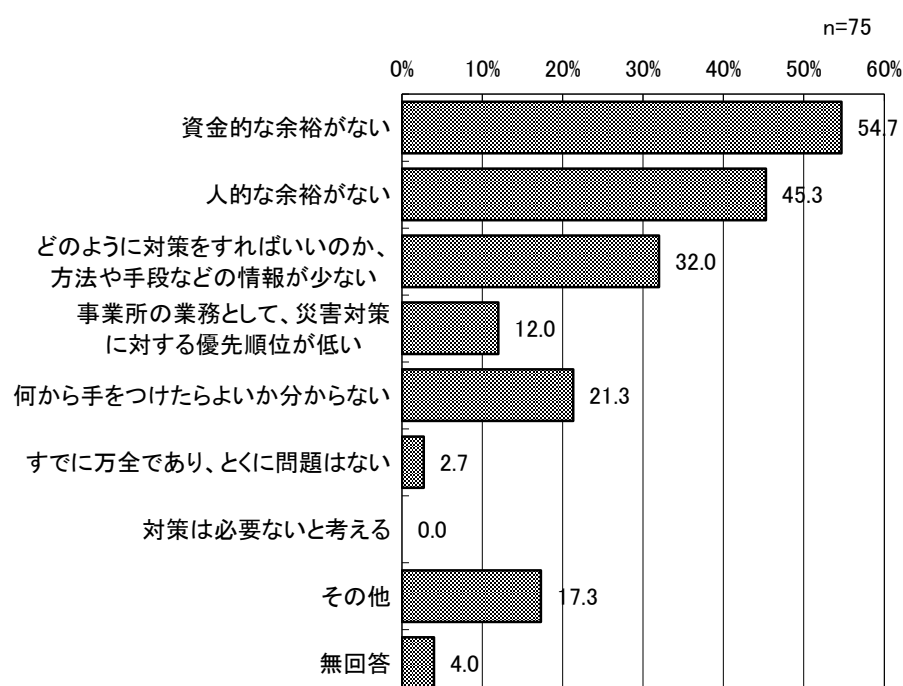
通常買い置いている「食料」で災害時に何日程度暮らせるとするかでは、「1～2日」
(60.7%) が最も高く、次いで「3～4日」(35.7%)、「5～6日」(3.6%) の順と
なっており、「7日以上」と回答した事業所・施設はない。



Q 6. 貴事業所の災害対策を進める上での問題や課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

事業所の災害対策を進める上での問題や課題は、「資金的な余裕がない」（54.7%）が最も高く、次いで「人的な余裕がない」（45.3%）、「どのように対策をすればいいのか、方法や手段などの情報が少ない」（32.0%）の順となっている。

また、「すでに万全であり、とくに問題はない」と回答した事業所・施設は2.7%にとどまっている。



「被害軽減策の実施状況（Q3からQ6まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

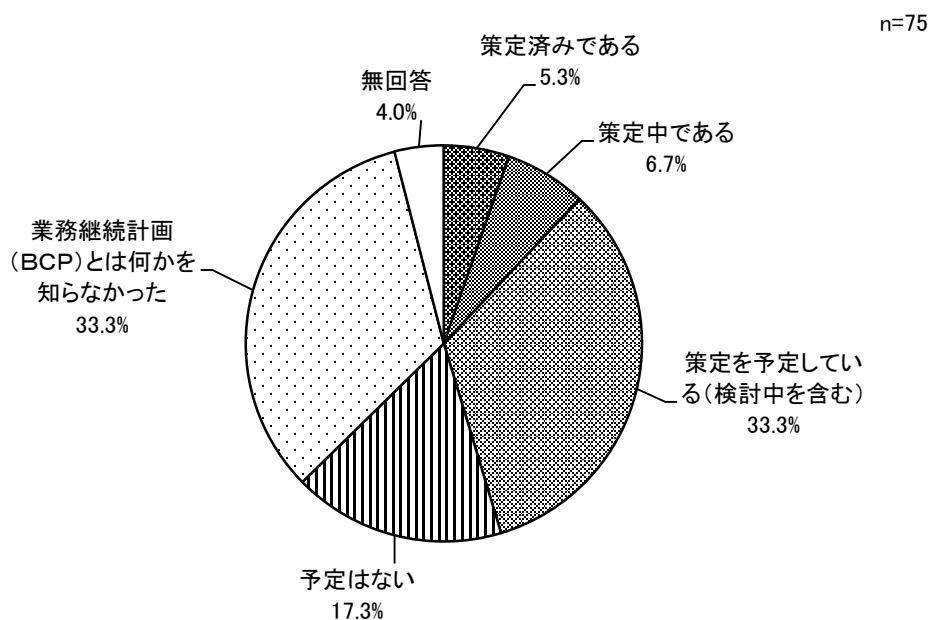
【 回答一覧 】

意 見
備蓄の予定はあり、災害対策を進めているが日々の業務の中で対策を計画的、優先的に進めることができていない状況があり、避難訓練等の想定されやすい状況に対する対策は何とか組み込んでいる。
防災意識は全体的に強くなっているものの日常業務に追われ遅れている。
有事の場合の避難場所の提供。
行政の協力がなければ困難なことが多いです。

■業務継続計画等の策定状況

Q 7. 貴事業所では災害に備えて業務継続計画（BCP）を策定していますか。

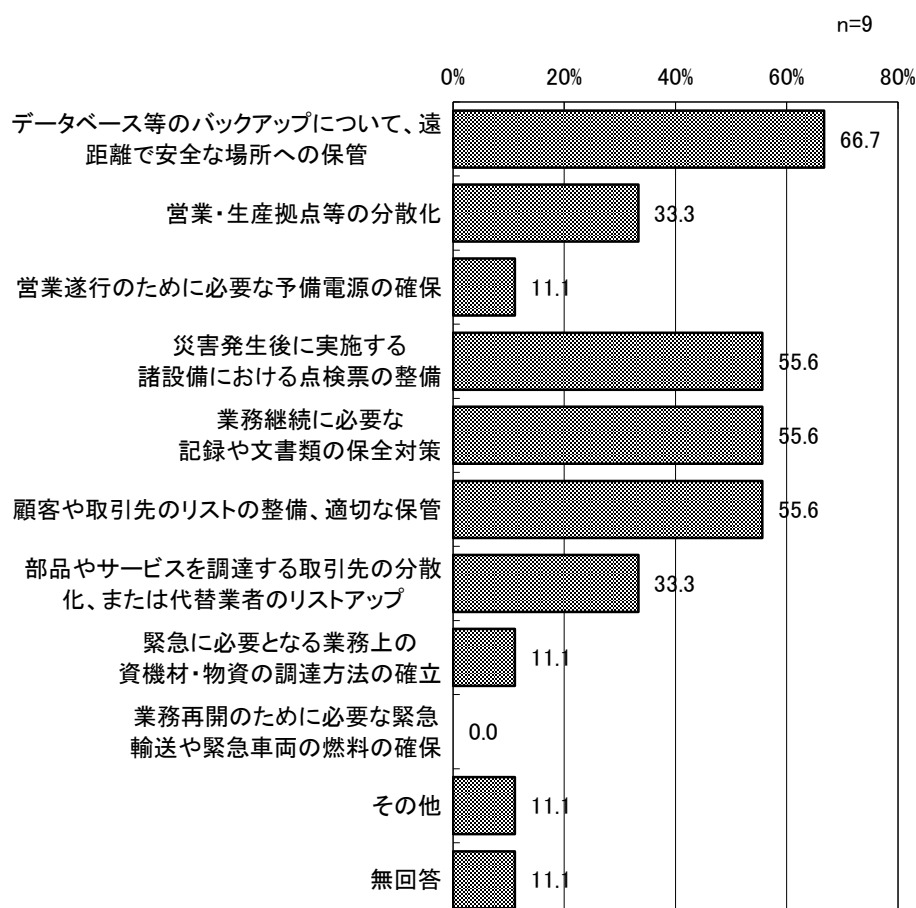
災害に備えて業務継続計画（BCP）を策定しているかでは、「策定を予定している（検討中を含む）」（33.3％）と「業務継続計画（BCP）とは何かを知らなかった」（33.3％）がともに最も高く、次いで「予定はない」（17.3％）、「策定中である」（6.7％）、「策定済みである」（5.3％）の順となっている。



Q7-1. 業務継続のための具体的な取り組み状況について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

※Q7で「1. 策定済みである」、「2. 策定中である」と回答した方のみ

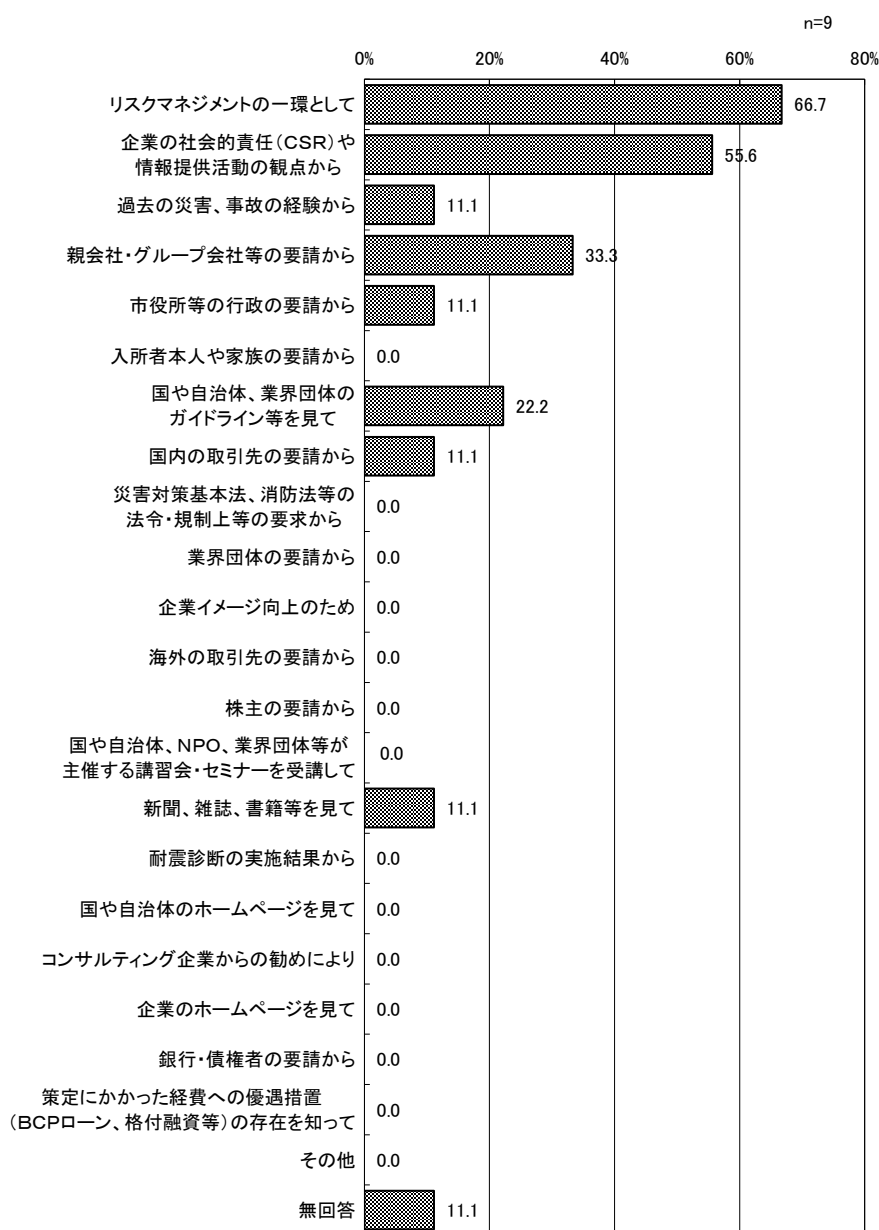
業務継続のための具体的な取り組み状況については、「データベース等のバックアップについて、遠距離で安全な場所への保管」(66.7%) が最も高く、次いで「災害発生後に実施する諸設備における点検票の整備」(55.6%)、「業務継続に必要な記録や文書類の保全対策」(55.6%)、「顧客や取引先のリストの整備、適切な保管」(55.6%) の順となっている。



Q7-2. 策定した理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

※Q7で「1. 策定済みである」、「2. 策定中である」と回答した方のみ

業務継続計画(BCP)を策定した理由は、「リスクマネジメントの一環として」(66.7%)が最も高く、次いで「企業の社会的責任(CSR)や情報提供活動の観点から」(55.6%)、「親会社・グループ会社等の要請から」(33.3%)の順となっている。

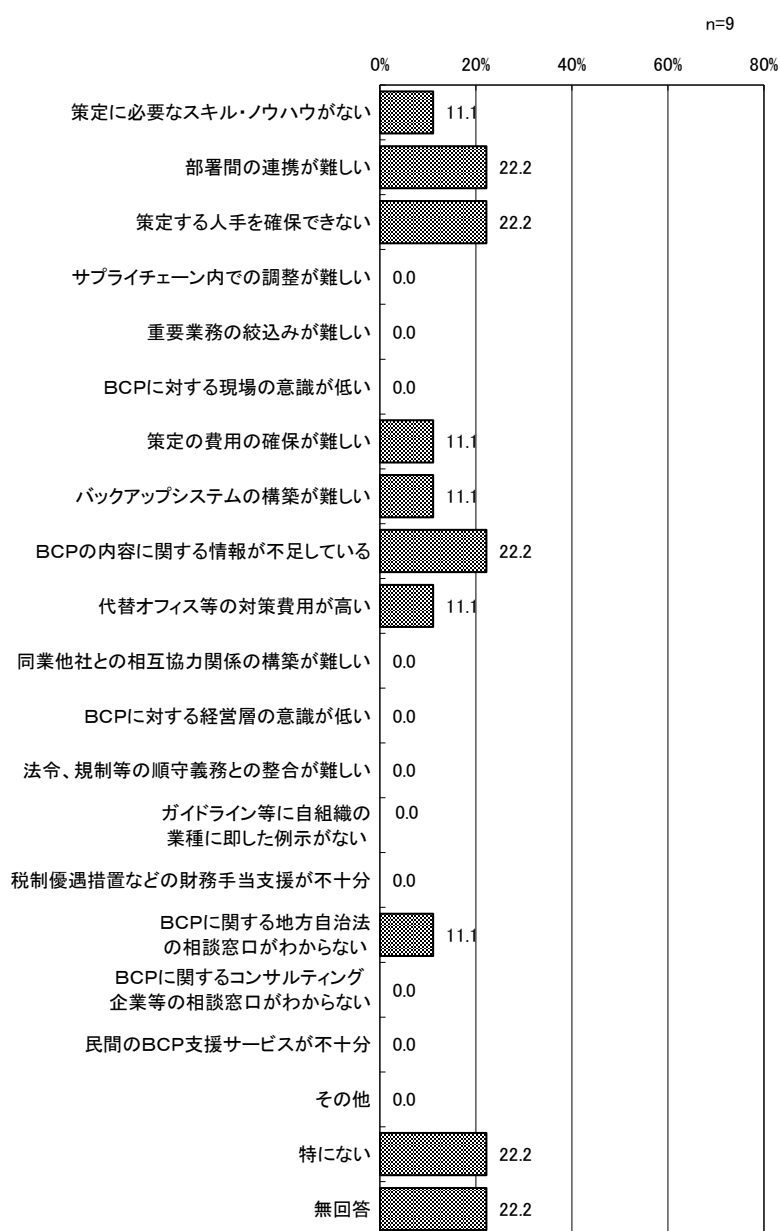


Q7-3. 策定時の問題点・課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

※Q7で「1. 策定済みである」、「2. 策定中である」と回答した方のみ

業務継続計画（BCP）策定時の問題点・課題は、「部署間の連携が難しい」、「策定する人手を確保できない」、「BCPの内容に関する情報が不足している」と回答した事業所・施設がともに2社ずつであった。

また、「特にない」と回答した事業所・施設も2社ずつとなっている。

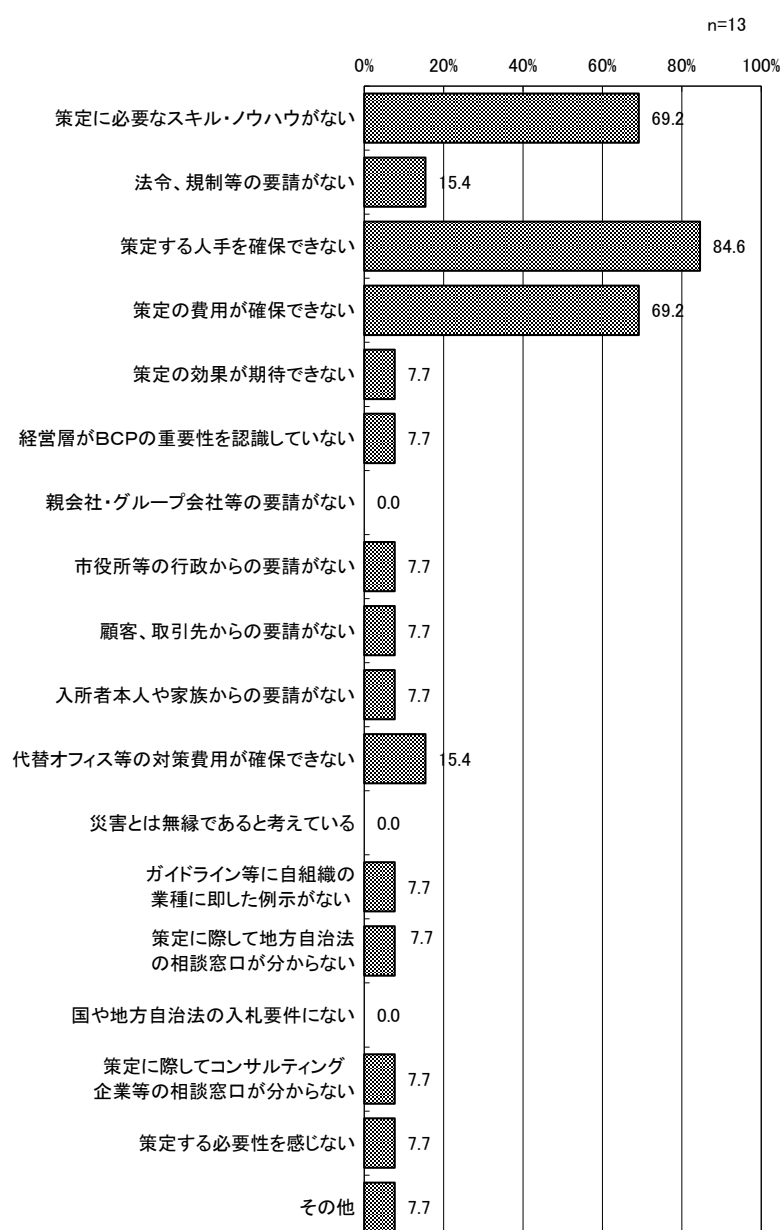


Q7-4. 未策定の理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。

(複数回答可)

※Q7で「4. 予定はない」と回答した方のみ

業務継続計画（BCP）未策定の理由は、「策定する人手を確保できない」（84.6%）が最も高く、次いで「策定に必要なスキル・ノウハウがない」（69.2%）、「策定の費用が確保できない」（69.2%）の順となっている。



「業務継続計画等の策定状況（Ｑ７からＱ７－４まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

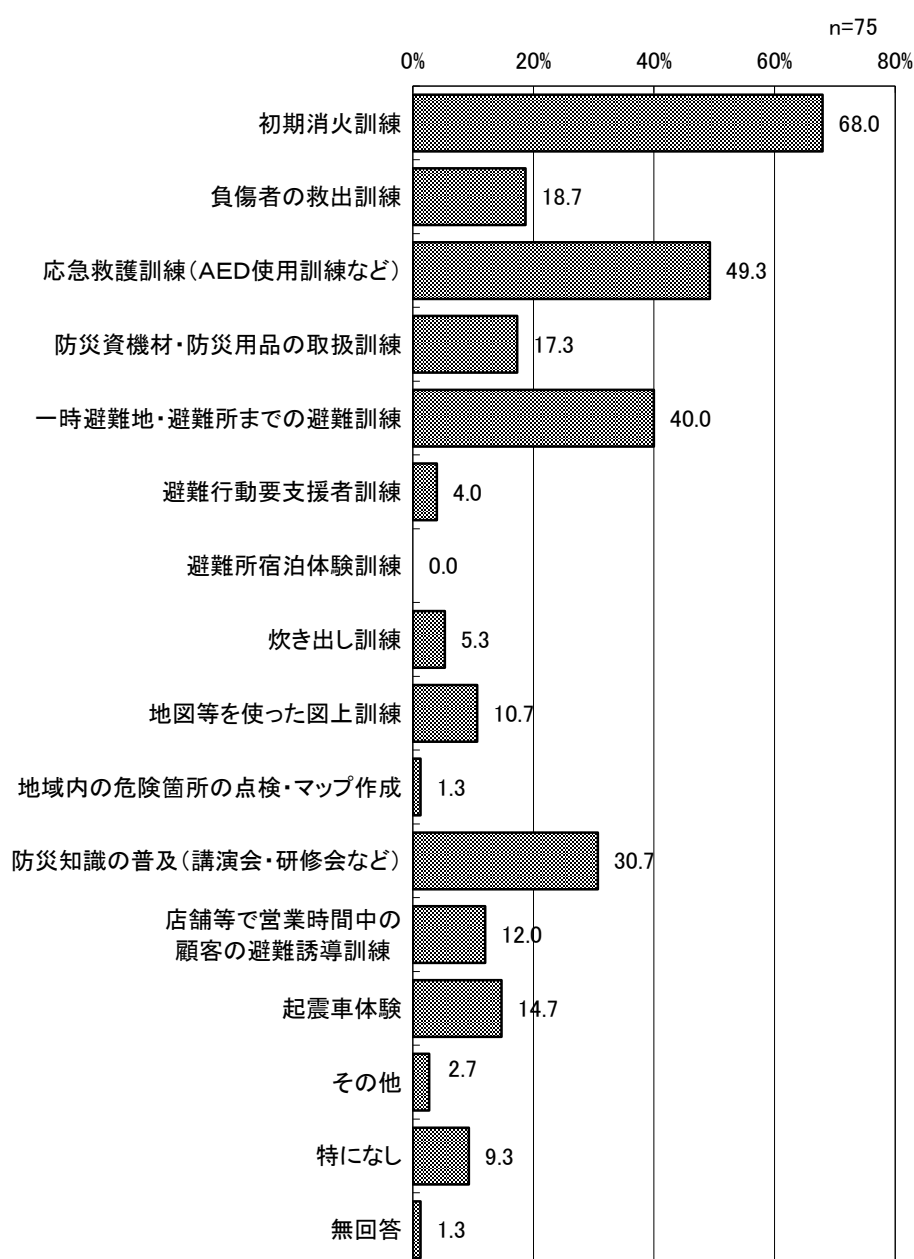
【 回答一覧 】

意 見
診断して欲しい。

■社員、顧客の安全確認方法

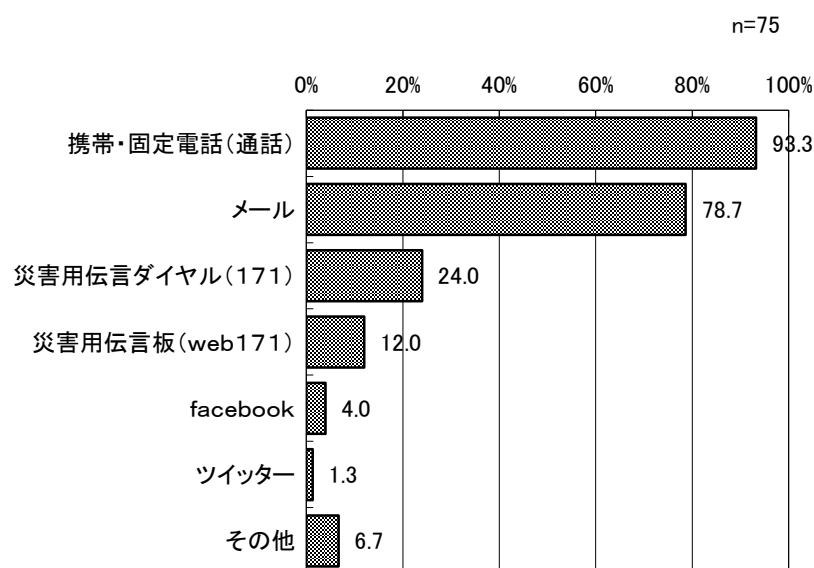
Q 8. 貴事業所で従業員や入所者等を対象に実施・参加している訓練等について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

従業員や入所者等を対象に実施・参加している訓練等は、「初期消火訓練」（68.0％）が最も高く、次いで「応急救護訓練（AED使用訓練など）」（49.3％）、「一時避難地・避難所までの避難訓練」（40.0％）の順となっている。



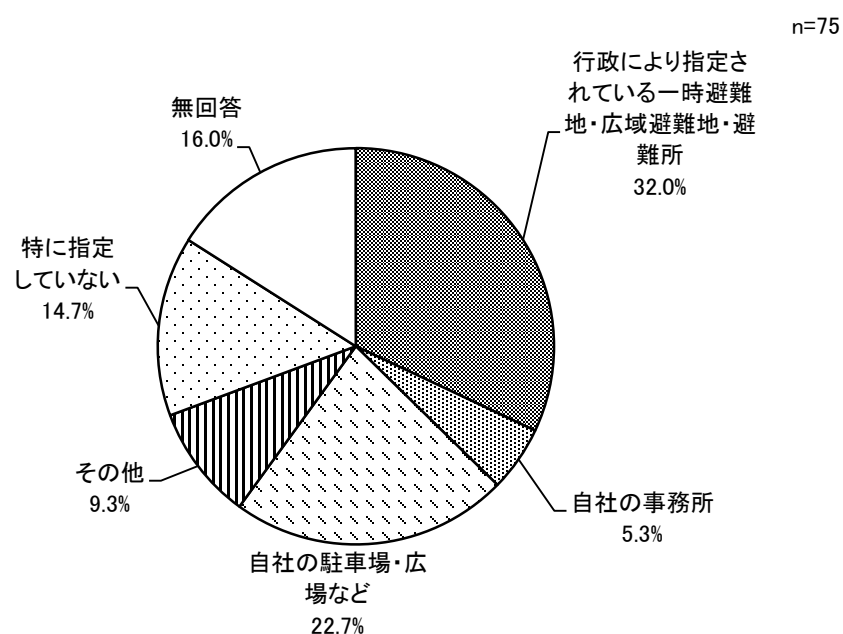
Q 9. 社員と会社との安否確認の手段は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

社員と会社との安否確認の手段は、「携帯・固定電話（通話）」(93.3%)と「メール」(78.7%)が他と比べて高く、次いで「災害用伝言ダイヤル（171）」(24.0%)、「災害用伝言板（web171）」(12.0%)の順となっている。



Q10. 地震災害が発生した場合、貴事業所の社員が避難する場所はどこに指定していますか。

地震災害が発生した場合、社員が避難する場所はどこに指定しているかでは、「行政により指定されている一時避難地・広域避難地・避難所」(32.0%)が最も高く、次いで「自社の駐車場・広場など」(22.7%)、「特に指定していない」(14.7%)の順となっている。



「社員、顧客の安全確認方法（Q 8 から Q10 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

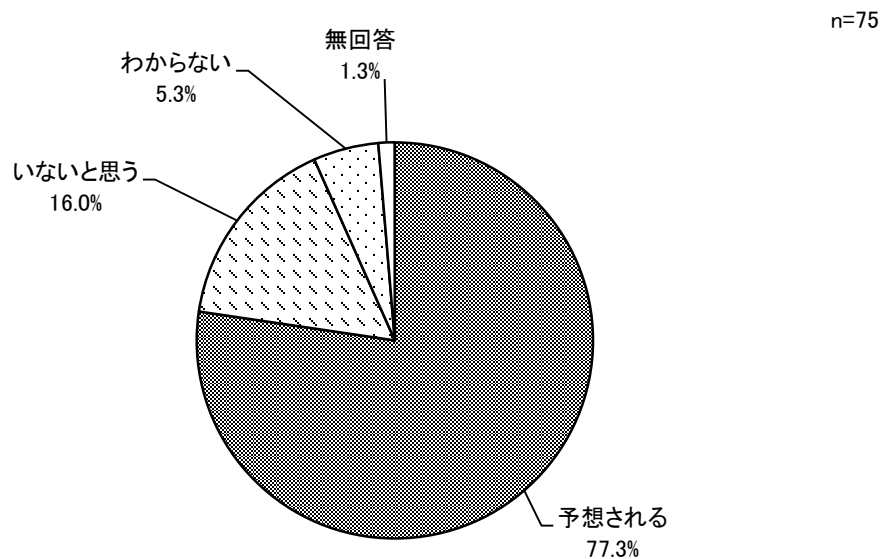
【 回答一覧 】

意 見
ご利用者様、個々の状況を把握し、何が必要か情報を集めていただきたいと思います。

■帰宅困難者対策

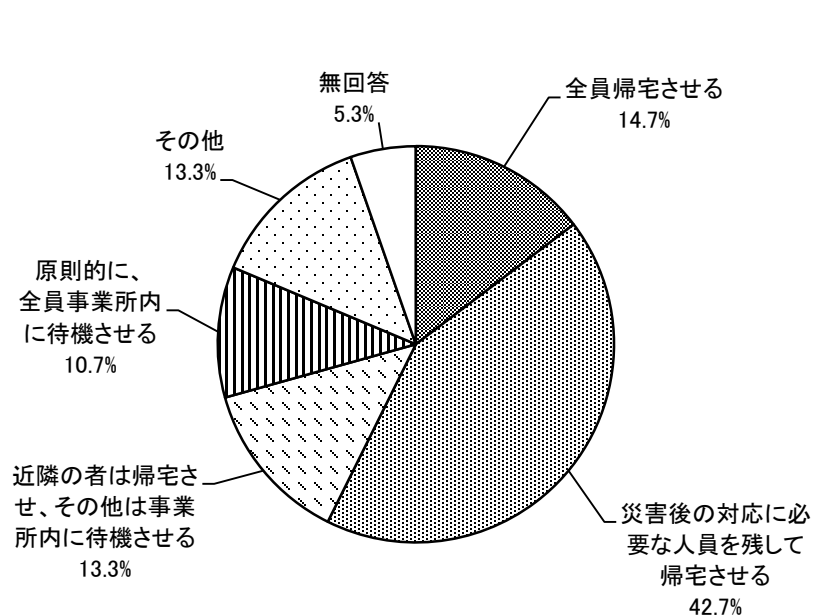
Q11. 貴事業所の社員で帰宅困難者の発生が予想されますか。

社員で帰宅困難者の発生が予想されるかどうかでは、「予想される」（77.3%）が「いないと思う」（16.0%）、「わからない」（5.3%）を大きく上回っている。



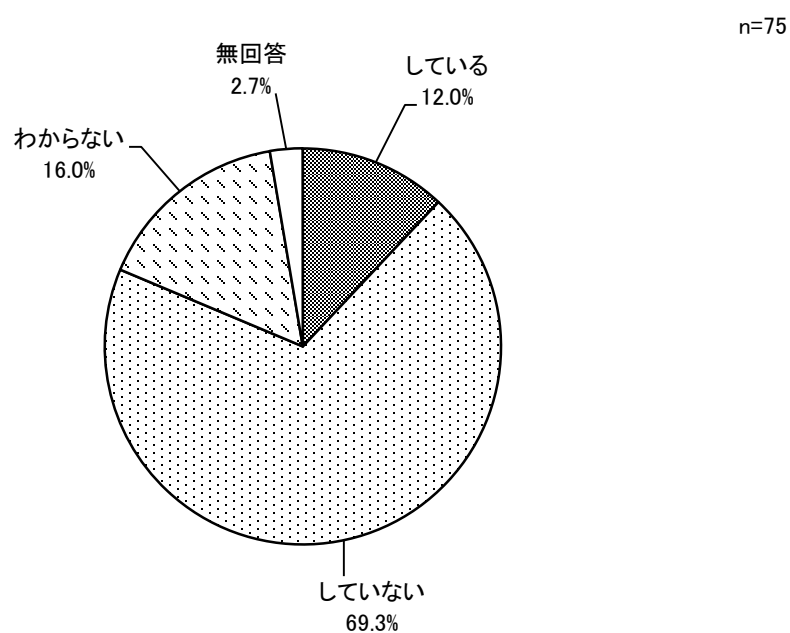
Q12. 貴事業所では災害が発生したときに従業員に対してどのように対応しますか。

災害が発生したときに従業員に対してどのように対応するかでは、「災害後の対応に必要な人員を残して帰宅させる」(42.7%) が最も高く、次いで「全員帰宅させる」(14.7%)、「近隣の者は帰宅させ、その他は事業所内に待機させる」(13.3%)、「原則的に、全員事業所内に待機させる」(10.7%) の順となっている。



Q13. 地震等の発生により鉄道等が運行停止した場合、あなたの会社では、むやみに移動を開始せず、施設内で待機する等、一斉帰宅の抑制について、取り決めをしていますか。

地震などの発生により鉄道等が運行停止した場合、むやみに移動を開始せず、施設内で待機する等、一斉帰宅の抑制について、取り決めをしているかでは、「していない」(69.3%)が最も高く、次いで「わからない」(16.0%)、「している」(12.0%)の順となっている。



Q13- 1. 具体的にどんな取り決めをしていますか。(自由記述)

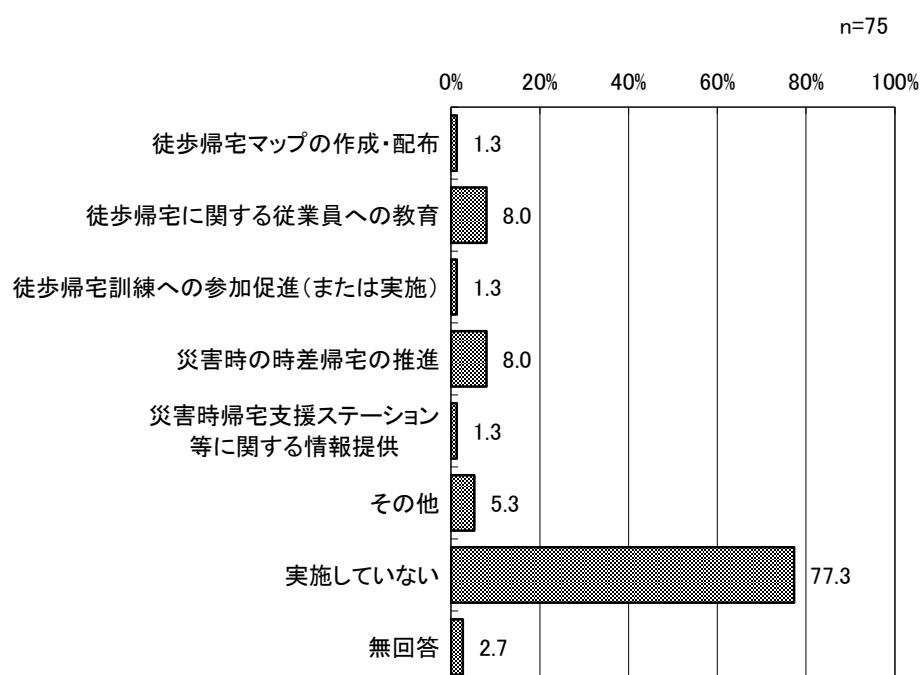
※Q13で「1. している」と回答した方のみ

【 回答一覧 】

意 見
むやみに行動をしない。
状況判断。
施設内で待機する。 夜になっても迎えがない園児と指定された避難場所へまとまって移動する（はすはな中へ）。
対策部と調節。
むやみに移動しないで施設内で待機する。
近隣の者が7:30に出勤。遠方の者は安全を確認し鉄道が動いている場合は動いた時点で出勤。
状況に応じて対応する。
園児の安全確保が最優先。
災害時のマニュアル作成にてルール化。
その時の状況により組織として判断。
帰宅先の安全確認と避難経路が確保できない場合は一斉帰宅を抑制する。

Q14. 貴事業所で実施している帰宅支援対策はありますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

事業所で実施している帰宅支援対策は、「実施していない」(77.3%) が他と比べて高く、次いで「徒歩帰宅に関する従業員への教育」(8.0%)、「災害時の時差帰宅の推進」(8.0%)の順となっている。



「帰宅困難者対策(Q11 から Q14 まで)」について、ご意見がありましたらご記入ください。

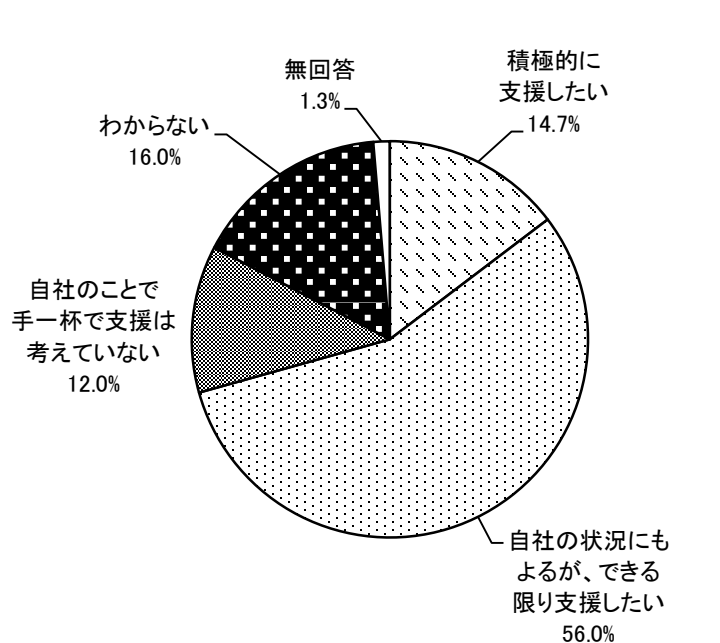
【 回答一覧 】

意 見
必要と考えていますが、徒歩帰宅マップなど行政発行の有効なものを活用したい。
従業員の自宅を把握しているものの、災害時にどのようにしていくかなど情報集め考えていきたいと思っております。

■行政に提供可能な支援、物資

Q15. 災害発生時、行政に対する支援・協力についてどのように考えていますか。

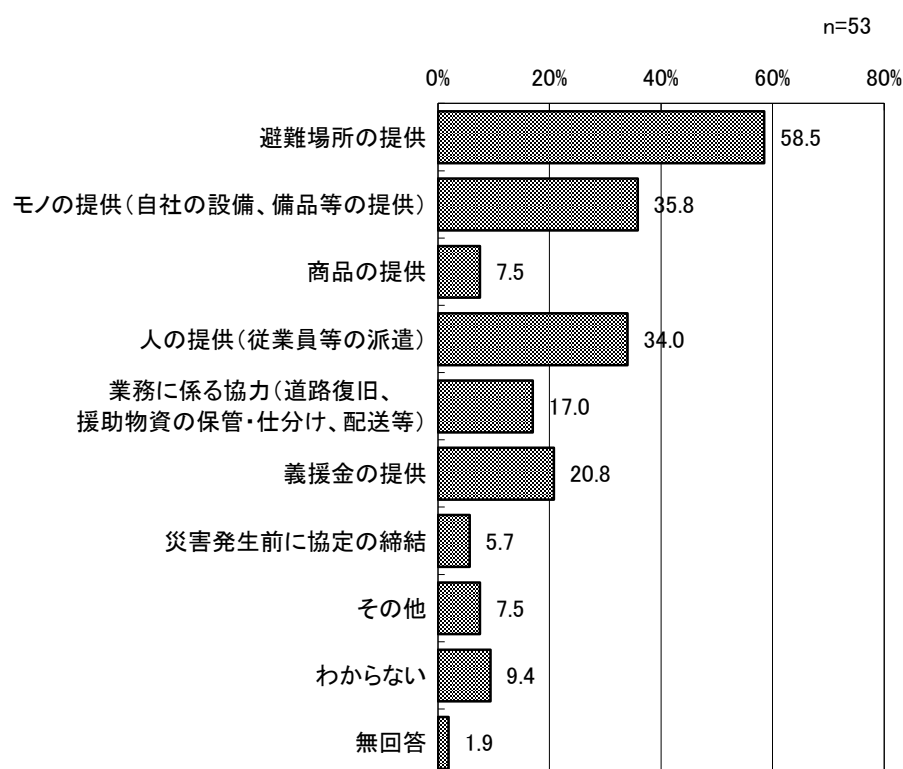
災害発生時、行政に対する支援・協力についてどのように考えているかでは、「自社の状況にもよるが、できる限り支援したい」(56.0%)が最も高く、次いで「わからない」(16.0%)、「積極的に支援したい」(14.7%)、「自社のことで手一杯で支援は考えていない」(12.0%)の順となっている。



Q15－１．行政に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

※Q15 で「１.積極的に支援したい」、「２.自社の状況にもよるが、できる限り支援したい」と回答した方のみ

行政に対してどのような支援・協力が可能と考えられるかでは、「避難場所の提供」（58.5%）が最も高く、次いで「モノの提供（自社の設備、備品等の提供）」（35.8%）、「人の提供（従業員等の派遣）」（34.0%）の順となっている。



「行政に提供可能な支援、物資（Q15 から Q15－1 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

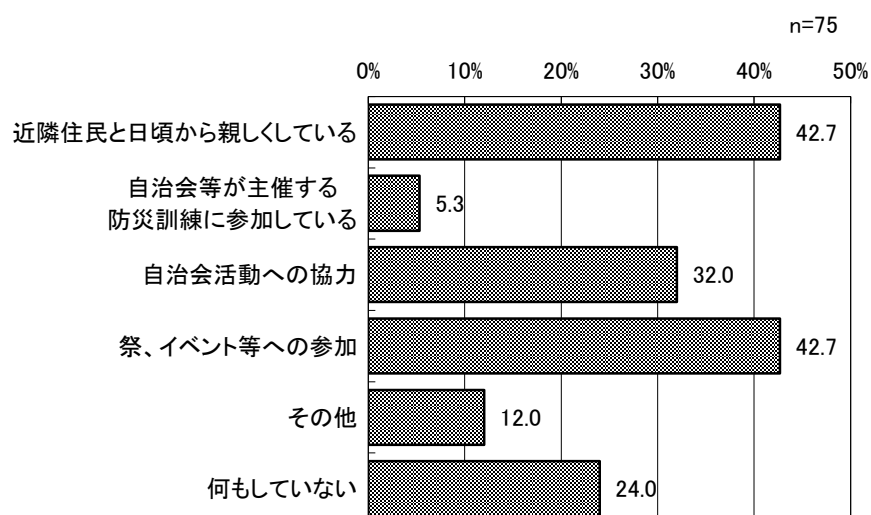
意 見
倒木の対応。
現在使用止の井戸水（電気が復旧していることが条件ですが）をトイレ等の雑用水に。
ハード面の提供協力が可能。 その他の協力はわからない。 想像が不十分なことがあげられる。 人的な協力も可能と考えている。

■地域に提供可能な支援、物資

Q16. 貴事業所周辺の地域住民とはどのような連携・協力をしていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

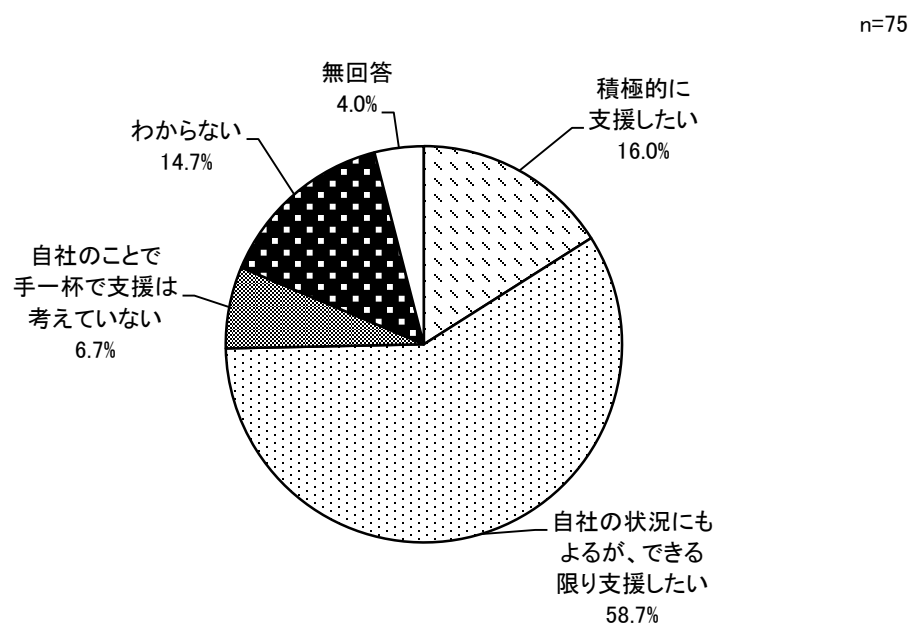
周辺の地域住民とはどのような連携・協力をしているかでは、「近隣住民と日頃から親しくしている」（42.7%）、「祭、イベント等への参加」（42.7%）がともに最も高く、次いで「自治会活動への協力」（32.0%）の順となっている。

また、「何もしていない」（24.0%）と回答した事業所・施設の割合も高くなっている。



Q17. 災害発生時、地域に対する支援・協力についてどのように考えていますか。

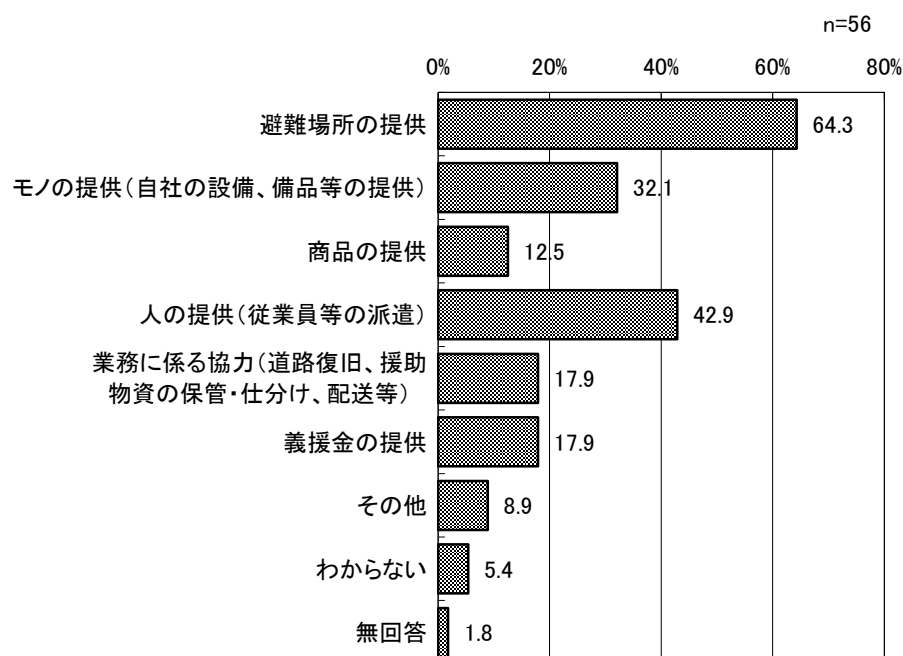
災害発生時、地域に対する支援・協力についてどのように考えているかでは、「自社の状況にもよるが、できる限り支援したい」（58.7%）が最も高く、次いで「積極的に支援したい」（16.0%）、「わからない」（14.7%）、「自社のことで手一杯で支援は考えていない」（6.7%）の順となっている。



Q17-1. 地域に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

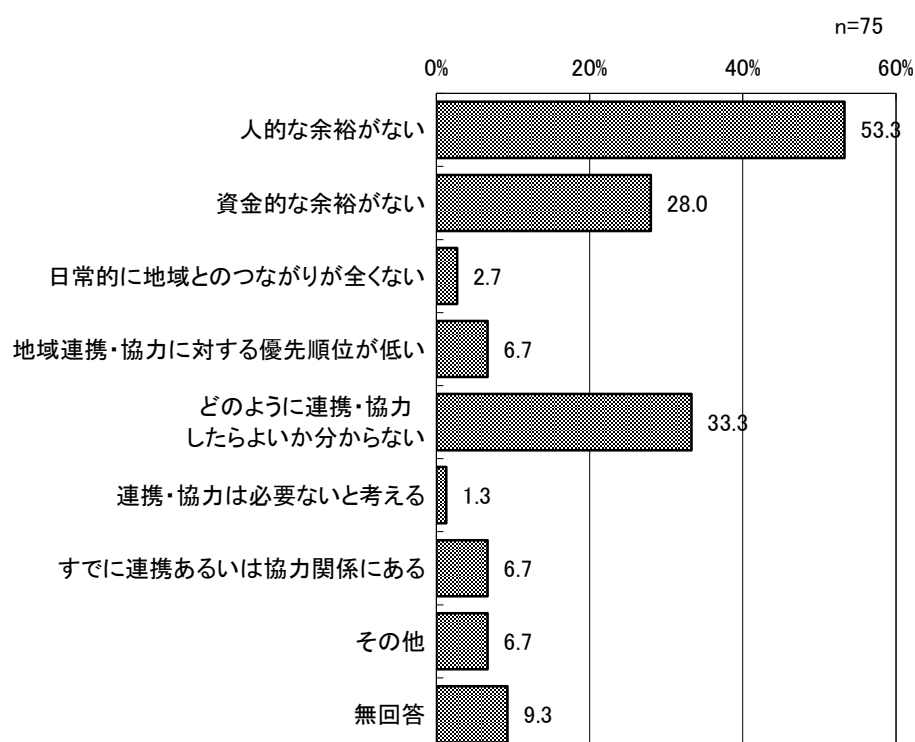
※Q17 で「1.積極的に支援したい」、「2.自社の状況にもよるが、できる限り支援したい」と回答した方のみ

地域に対してどのような支援・協力が可能と考えられるかでは、「避難場所の提供」(64.3%)が最も高く、次いで「人の提供(従業員等の派遣)」(42.9%)、「モノの提供(自社の設備、備品等の提供)」(32.1%)の順となっている。



Q18. 周辺地域との災害時の連携・協力を進める上で、問題や課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

周辺地域との災害時の連携・協力を進める上での問題や課題は、「人的な余裕がない」(53.3%) が最も高く、次いで「どのように連携・協力したらよいか分からない」(33.3%)、「資金的な余裕がない」(28.0%) の順となっている。



「地域に提供可能な支援、物資（Q16 から Q18 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

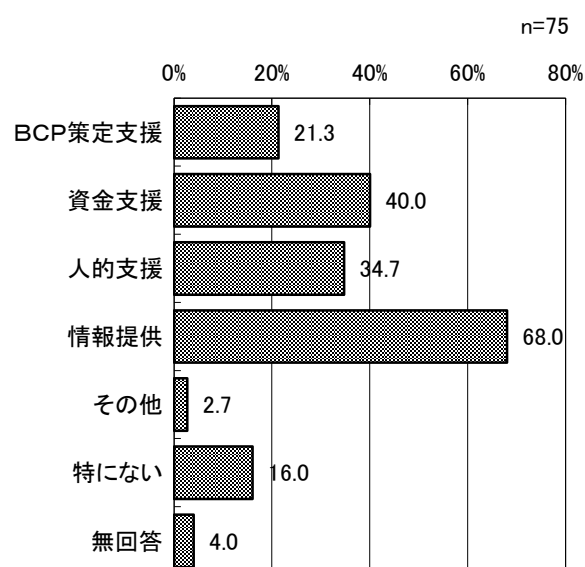
【 回答一覧 】

意 見
当然近隣には優先するも行政に対して対応する事と片寄った対応にならない事を心配。

■行政に求める支援策

Q19. 以下のうち、貴事業所が通常時に活用したい支援施策について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

通常時に活用したい支援施策については、「情報提供」（68.0%）が最も高く、次いで「資金支援」（40.0%）、「人的支援」（34.7%）の順となっている。



「行政に求める支援策（通常時または災害時）（Q19）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
通常時なくてよい。
公共施設であるため行政との協力態勢が不可欠であるが、担当課の違いからなかなか思うように話し合いができない。 防災に対しては担当課云々よりも横のつながりを重視したい。

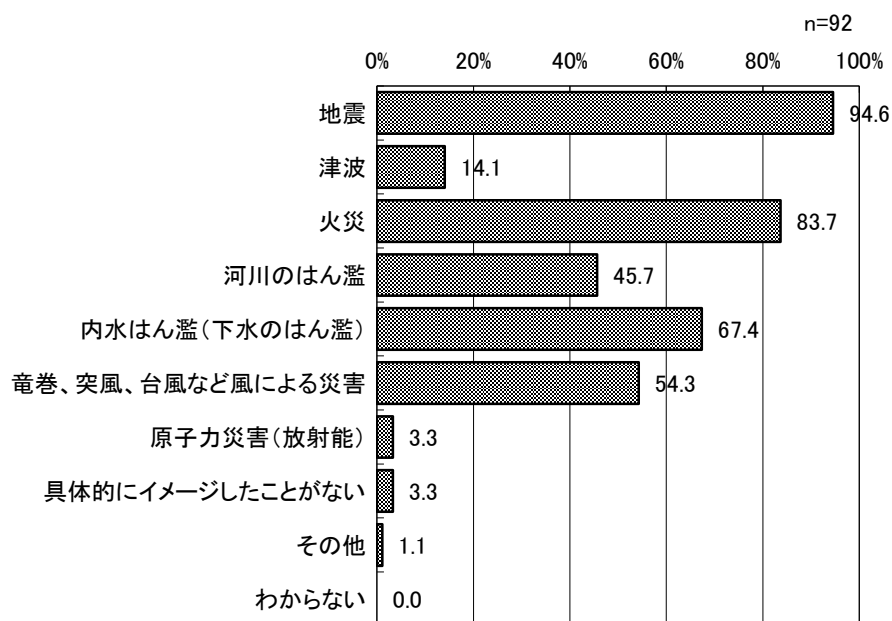
4－3 自治会用

■防災意識の状況

Q 1. 自然災害によってもたらされる次の被害について、貴会が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
(複数回答可)

自然災害によってもたらされる被害の中で、被災したと具体的に想像したことがあるものは、「地震」(94.6%)が最も高く、次いで「火災」(83.7%)、「内水はん濫(下水のはん濫)」(67.4%)の順となっている。

また、「具体的にイメージしたことがない」(3.3%)と回答した自治会は少なくなっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、ほぼ全ての災害で全体よりも高くなっており、特に「竜巻・突風・台風など風による災害」（88.9％）が全体（54.3％）と比べて高くなっている。

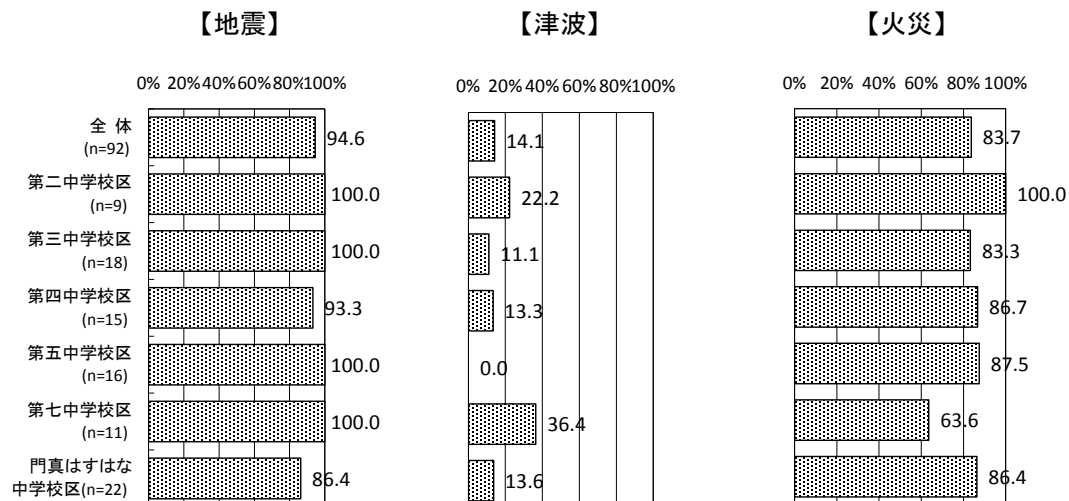
「第三中学校区」では、「河川のはん濫」（22.2％）や「内水はん濫」（55.6％）が全体（「河川のはん濫」（45.7％）、「内水はん濫」（67.4％））と比べて低くなっている。

「第四中学校区」では、「河川のはん濫」（33.3％）や「竜巻・突風・台風など風による災害」（40.0％）が全体（「河川のはん濫」（45.7％）、「竜巻・突風・台風など風による災害」（54.3％））と比べて低くなっている。

「第五中学校区」では、「河川のはん濫」（62.5％）が全体（45.7％）と比べて高く、「津波」（0.0％）や「竜巻・突風・台風など風による災害」（31.3％）が全体（「津波」（14.1％）、「竜巻・突風・台風など風による災害」（54.3％））と比べて低くなっている。

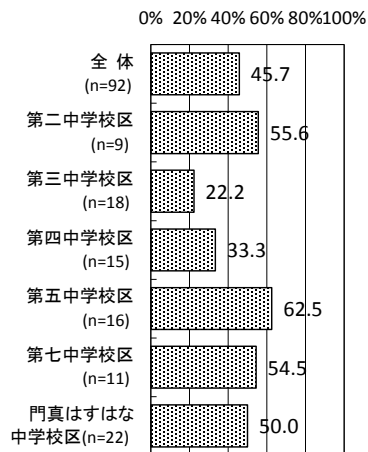
「第七中学校区」では、「津波」（36.4％）や「竜巻・突風・台風など風による災害」（88.9％）が全体（「津波」（14.1％）、「竜巻・突風・台風など風による災害」（54.3％））と比べて高く、「火災」（63.6％）は全体（83.7％）より低くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、ほぼ全ての災害で全体と同じ割合（±10％未満）となっている。

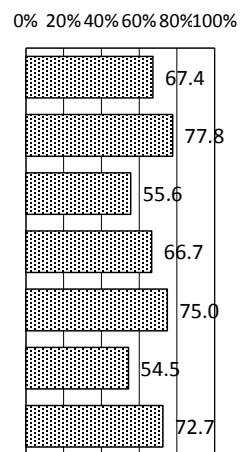


自治会用アンケート解析結果

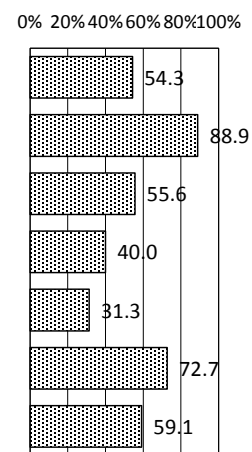
【河川のはん濫】



【内水はん濫】



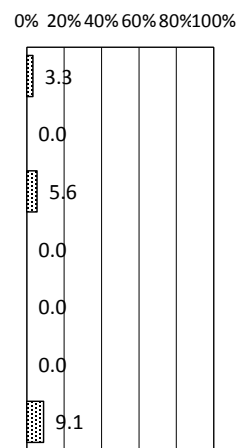
【竜巻、突風、台風など】



【原子力災害】



【イメージしたことがない】



【その他】

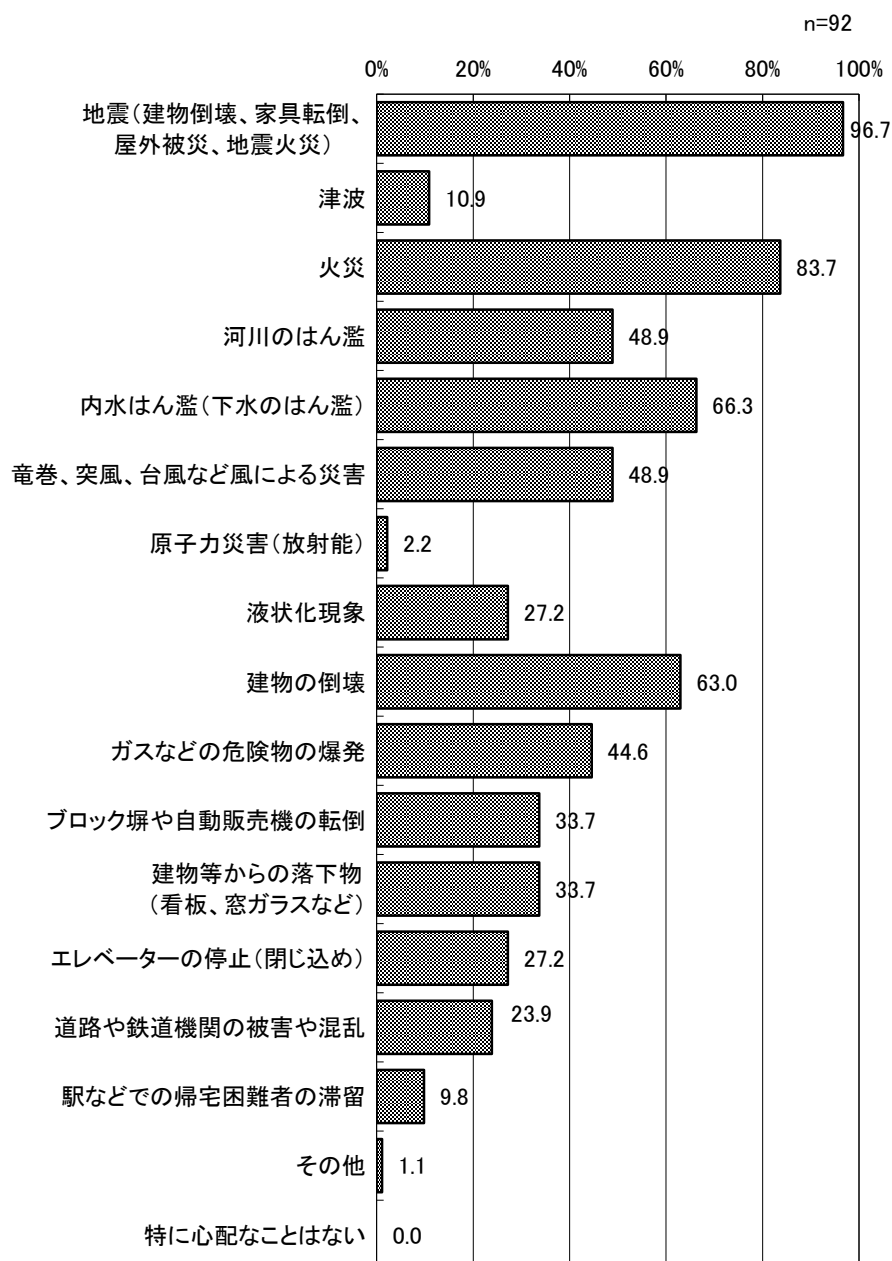


【わからない】



Q 2. 災害が発生した場合の地域での心配な被害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

災害が発生した場合の地域での心配な被害は何かでは、「地震（建物倒壊、家具転倒、屋外被災、地震火災）」（96.7%）が最も高く、次いで「火災」（83.7%）、「内水はん濫（下水のはん濫）」（66.3%）の順となっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、ほぼ全ての災害で全体よりも高くなっており、特に「竜巻・突風・台風など風による災害」(88.9%)、「ガスなどの危険物の爆発」(100.0%)、「道路や鉄道機関の被害や混乱」(55.6%)が全体（「竜巻・突風・台風など風による災害」(48.9%)、「ガスなどの危険物の爆発」(44.6%)、「道路や鉄道機関の被害や混乱」(23.9%)）と比べて高くなっている。

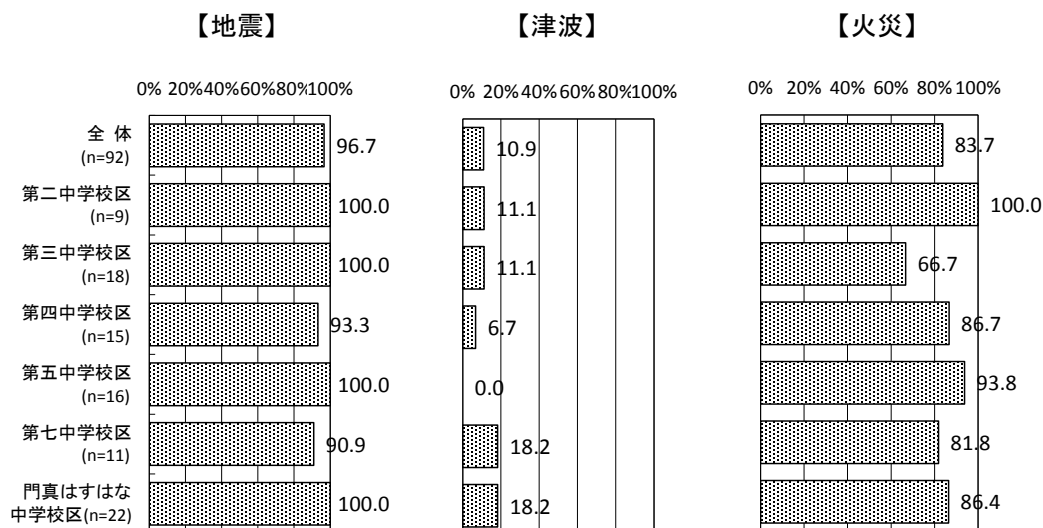
「第三中学校区」では、「火災」(66.7%)や「河川のはん濫」(27.8%)が全体（「火災」(83.7%)、「河川のはん濫」(48.9%)）と比べて低くなっている。

「第四中学校区」では、「液状化現象」(46.7%)が全体(27.2%)と比べて高く、「竜巻・突風・台風など風による災害」(26.7%)や「道路や鉄道機関の被害や混乱」(6.7%)が全体（「竜巻・突風・台風など風による災害」(48.9%)や「道路や鉄道機関の被害や混乱」(23.9%)）と比べて低くなっている。

「第五中学校区」では、「河川のはん濫」(62.5%)が全体(48.9%)と比べて高く、「竜巻・突風・台風など風による災害」(31.3%)や「液状化現象」(0.0%)が全体（「竜巻・突風・台風など風による災害」(48.9%)、「液状化現象」(27.2%)）と比べて低くなっている。

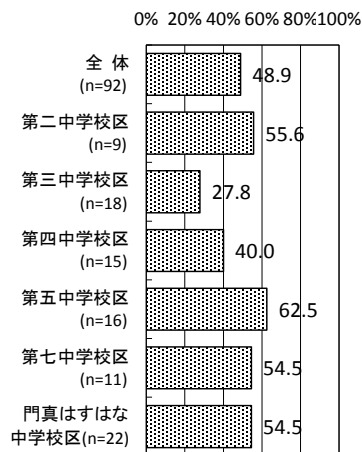
「第七中学校区」では、「液状化現象」(45.5%)が全体(27.2%)と比べて高く、「エレベーターの停止」(9.1%)が全体(27.2%)より低くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、「内水はん濫」(81.8%)や「エレベーターの停止（閉じ込め）」(40.9%)が全体（「内水はん濫」(66.3%)、「エレベーターの停止（閉じ込め）」(27.2%)）と比べて高くなっている。

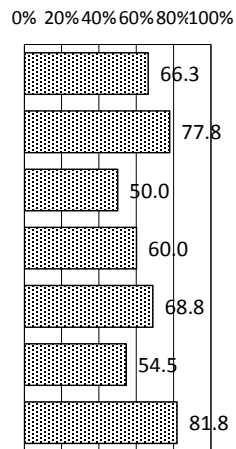


自治会用アンケート解析結果

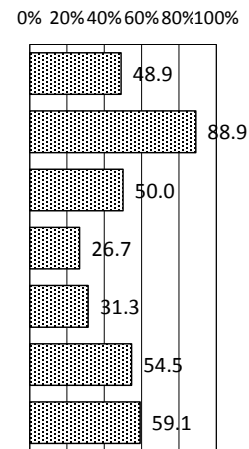
【河川のはん濫】



【内水はん濫】



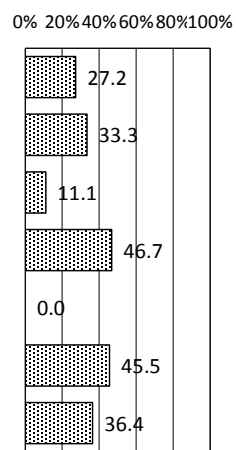
【竜巻、突風、台風など】



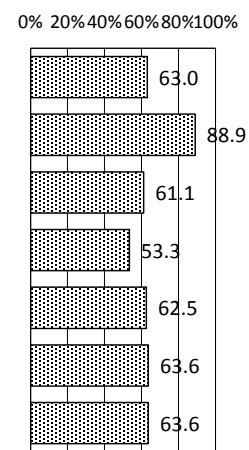
【原子力災害】



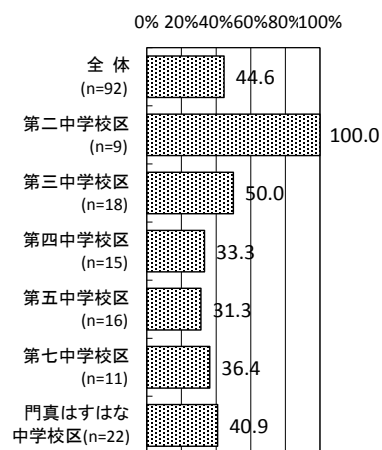
【液状化現象】



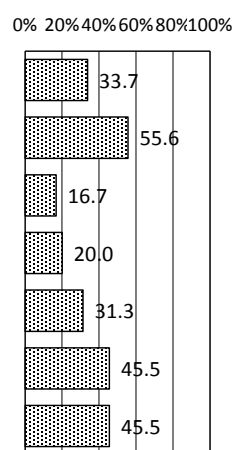
【建物の倒壊】



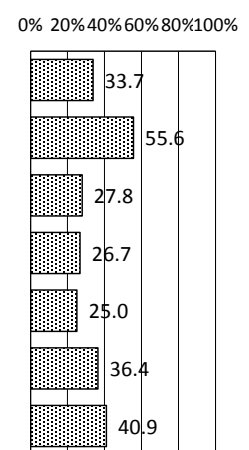
【危険物の爆発】



【ブロック塀等の転倒】

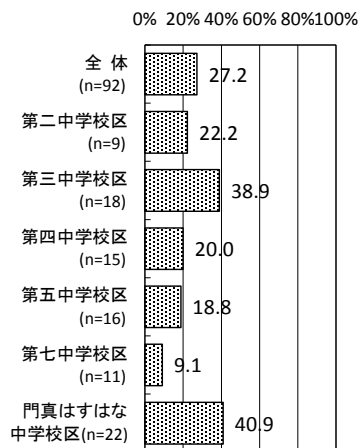


【建物等からの落下物】

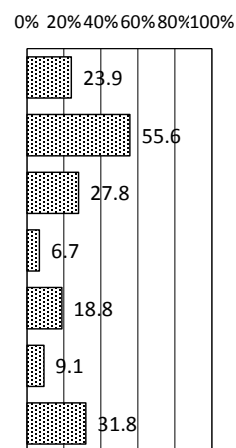


自治会用アンケート解析結果

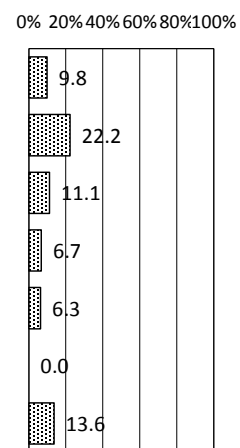
【エレベーターの停止】



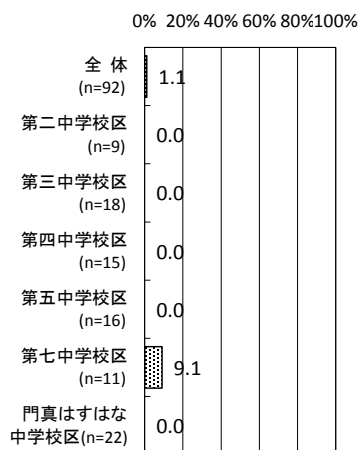
【道路等の被害や混乱】



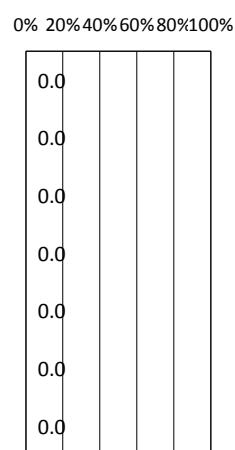
【帰宅困難者の滞留】



【その他】

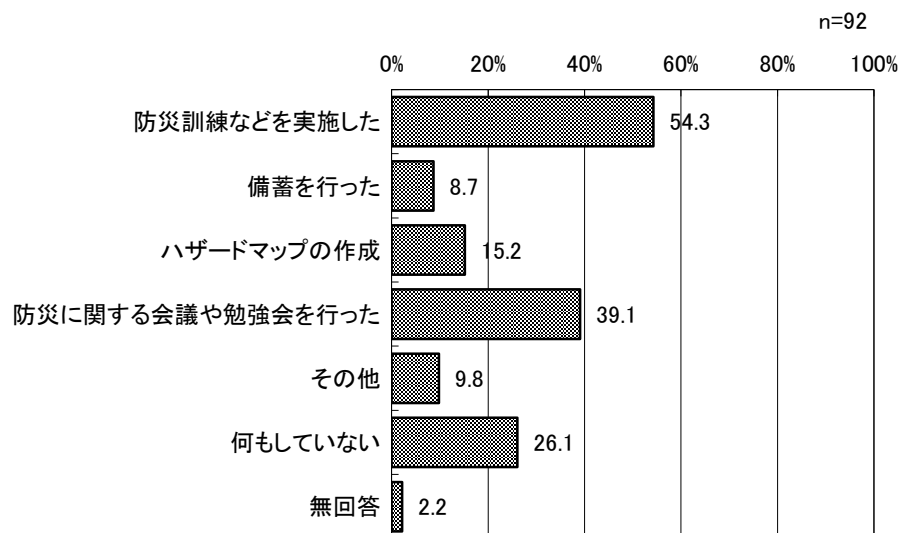


【特に心配することはない】



Q 3. 貴会が行っている取り組みがありましたら、あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

行っている取り組みがあるかでは、「防災訓練などを実施した」(54.3%)が最も高く、次いで「防災に関する会議や勉強会を行った」(39.1%)の順となっている。
また、「何もしていない」(26.1%)と回答した自治会の割合も高くなっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、回答のあった全ての自治会で何らかの取り組みをおこなっており、特に「防災訓練などの実施」(66.7%)、「防災に関する会議や勉強会の実施」(55.6%)は半数以上が実施しており、全体（「防災訓練などの実施」(54.3%)、「防災に関する会議や勉強会の実施」(39.1%)）と比べて高くなっている。

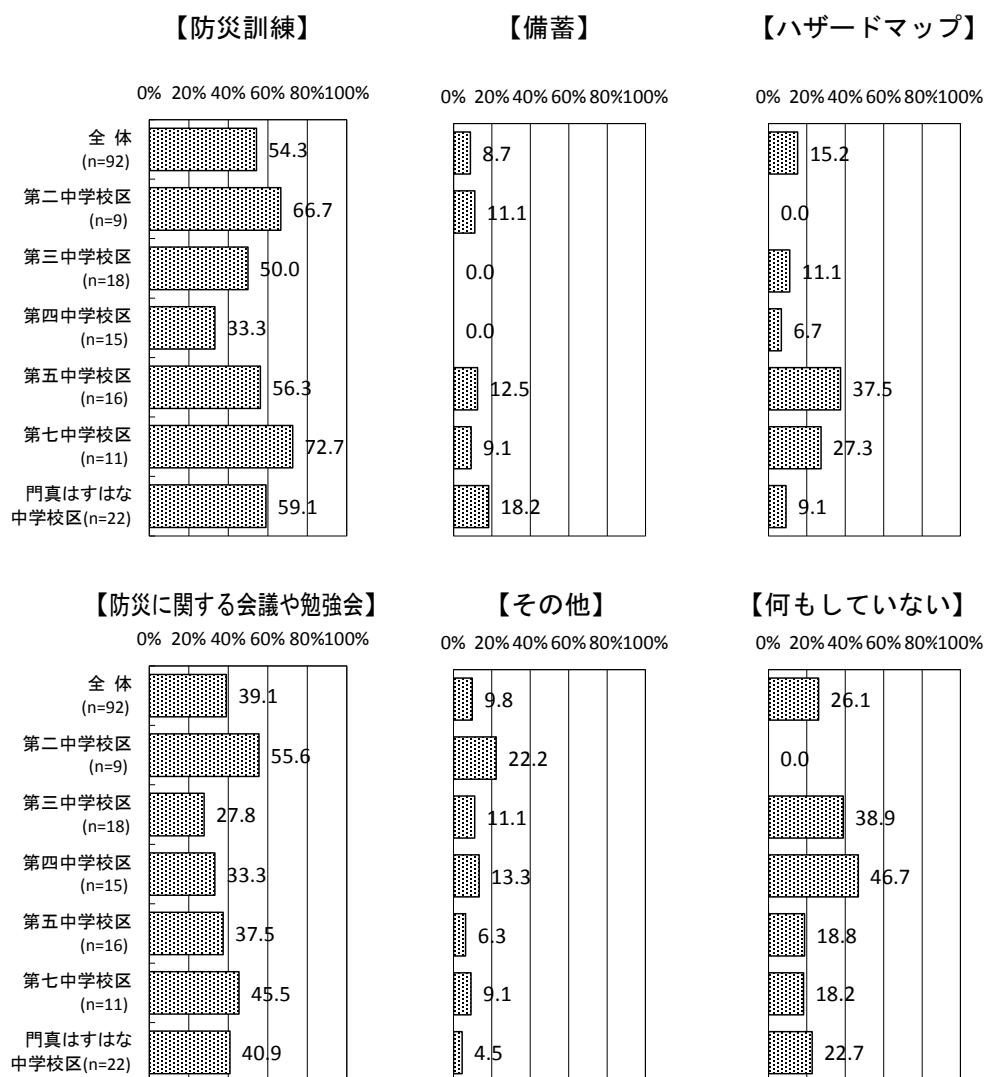
「第三中学校区」では、回答のあった全ての自治会で「備蓄の実施」が行われていなかった。また、「何もしていない」(38.9%)が全体（26.1%）と比べて高くなっている。

「第四中学校区」では、回答のあった全ての自治会で「備蓄の実施」が行われていなかった。また、「防災訓練の実施」(33.3%)が全体（54.3%）と比べて低くなっている。

「第五中学校区」では、「ハザードマップの作成」(37.5%)が全体（15.2%）と比べて高くなっている。

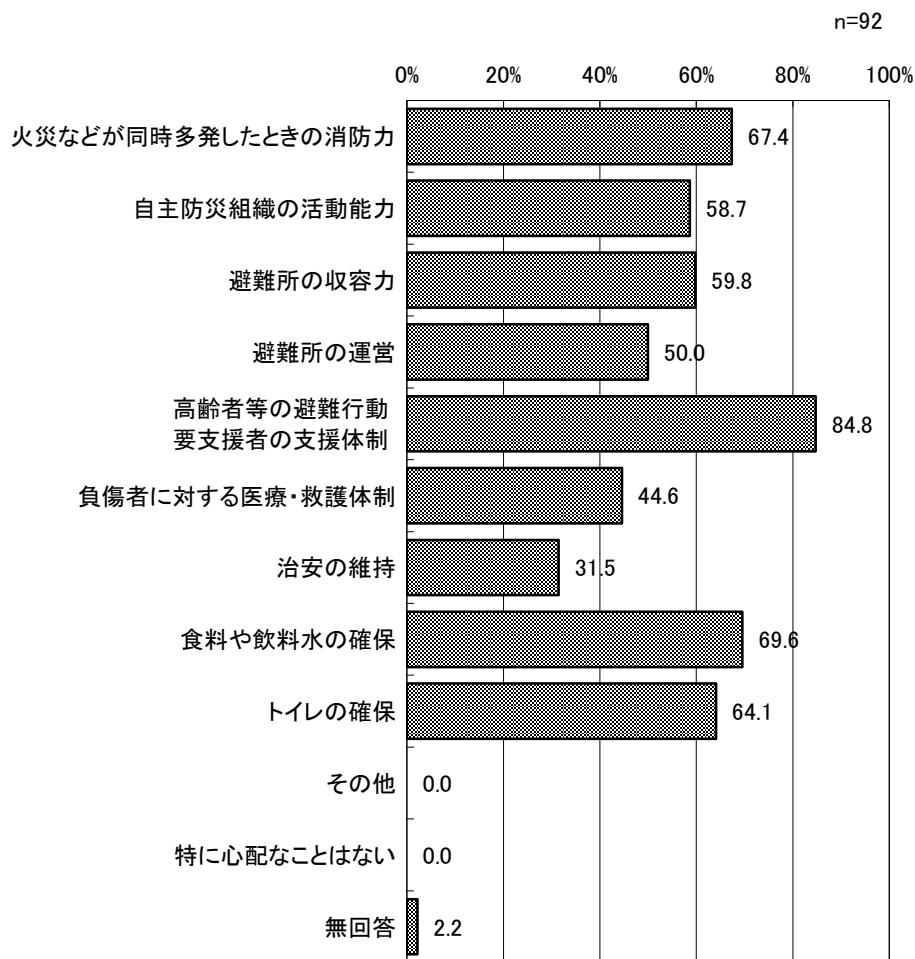
「第七中学校区」では、「防災訓練の実施」(72.7%)が全体（54.3%）と比べて高くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、「備蓄の実施」(18.2%)が全体（8.7%）と比べて高くなっている。



Q 4. 災害発生後の対応における地域での心配な点は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

災害発生後の対応における地域での心配な点は、「高齢者等の避難行動要支援者の支援体制」（84.8%）が最も高く、次いで「食料や飲料水の確保」（69.6%）、「火災などが同時多発したときの消防力」（67.4%）の順となっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、ほぼ全ての災害で全体よりも高くなっており、特に「負傷者に対する医療・救護体制」（66.7%）、「治安の維持」（55.6%）、「トイレの確保」（88.9%）が全体（「負傷者に対する医療・救護体制」（44.6%）、「治安の維持」（31.5%）、「トイレの確保」（64.1%））と比べて高くなっている。

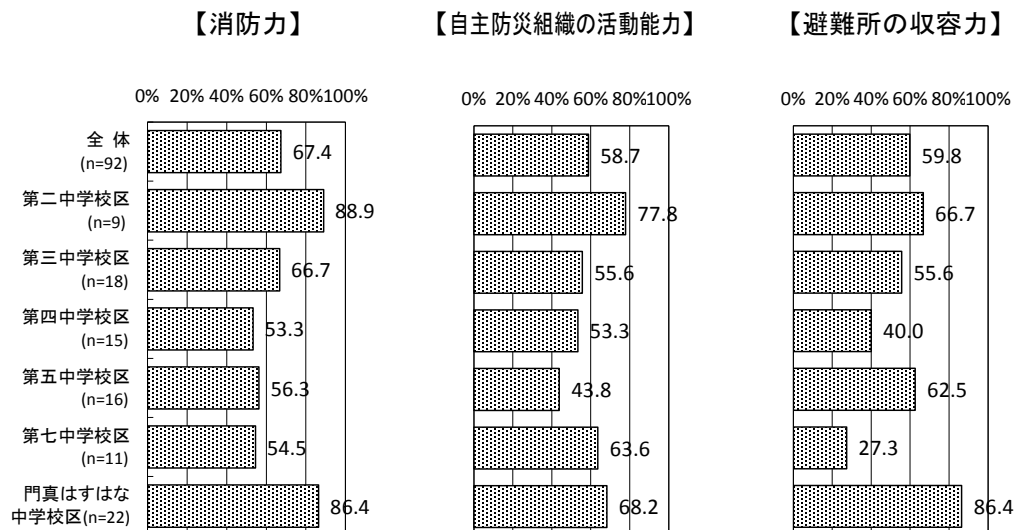
「第三中学校区」では、「治安の維持」（16.7%）が全体（31.5%）と比べて低くなっている。

「第四中学校区」では、「火災などが同時多発したときの消防力」（53.3%）や「避難所の収容力」（40.0%）が全体（「火災などが同時多発したときの消防力」（67.4%）、「避難所の収容力」（59.8%））と比べて低くなっている。

「第五中学校区」では、「食料や飲料水の確保」（50.0%）や「トイレの確保」（43.8%）が全体（「食料や飲料水の確保」（69.6%）や「トイレの確保」（64.1%））と比べて低くなっている。

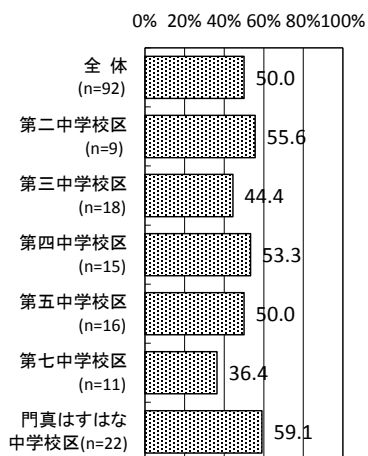
「第七中学校区」では、「避難所の収容力」（27.3%）が全体（59.8%）より低くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、「火災などが同時多発したときの消防力」（86.4%）が全体（67.4%）と比べて高くなっている。

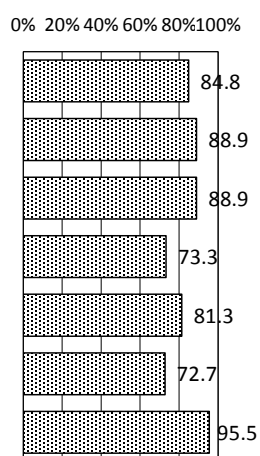


自治会用アンケート解析結果

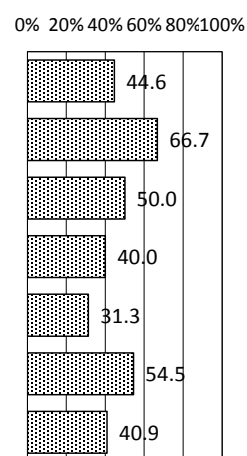
【避難所の運営】



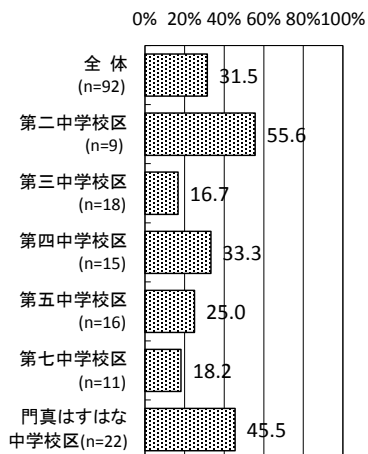
【避難行動要支援者の支援体制】



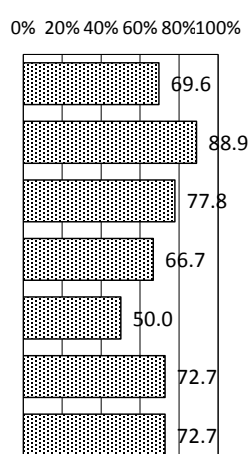
【医療・救護体制】



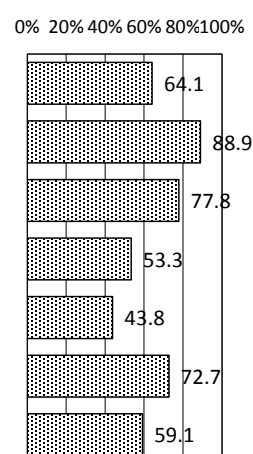
【治安の維持】



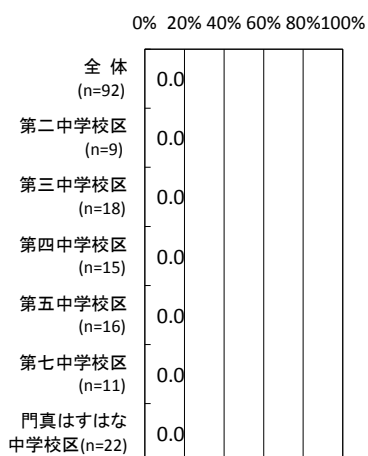
【食料や飲料水の確保】



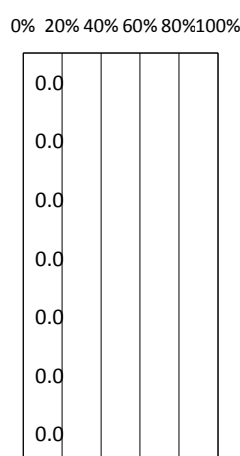
【トイレの確保】



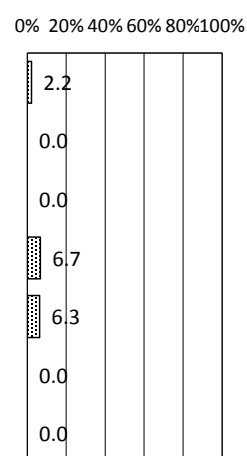
【その他】



【特に心配なことはない】



【無回答】



「防災意識の状況（Ｑ１からＱ４まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
古い家（文化や３階建）の耐震率は低いと思う。 住民の把握が仕切れていない（個人情報だとして記入してもらえない）。
江端自治会役員には元消防員が多数いるので、災害の対応はあまり心配いらない。
災害は対岸の火事の如くに思っている方が多いように思われる。 自助・共助の意識がうすいと思う。
企画はするが人は集まらない。
自治会員と非会員の線引き、及び扱い。
当地域では道路が狭く、緊急車両が入れない所が多くある。
最近の異常気象及び近い将来に発生が予想される南海地震等に関して、何の対応も出来ておらず、町内会員の高齢化に伴なりその対応が不安です。
地区の避難所指定「門真小学校」１校で本当に対応できるのか？心配です。収容能力、人員、etc
当自治会では、一人住まいの方が多いので、避難所は声かけあって行かなくてはなりませんね。
防災は自治会活動の中心にすべきものである。 個々各人の防災意識とその準備は当然のこととして、広域的なとりくみが求められることから、校区自治連合の取り組み強化が急務である。
１ 火災など同時に多発したときの消防力（簡易消火のホースが古いために使用出来ない。 ５ 高齢者等の避難行動の支援体制。 ８ 食料及び飲料水の確保（市の食料、飲料水等が少ないではないか。各校区及び自治会に確保をする様にして下さい）。 ９ トイレの確保。
Ｑ３～Ｑ８、災害時の避難場所が無い。 市指定の古川橋小学校へは、古川は越さなければならない。
中心拠点となる横地公会堂は老朽化が進んでおります。 又、大和田小学校の避難場所も低地帯にあります。
わが市としては直接の津波被害が無いものと思っていたが、ハザードマップによると淀川の水位は門真市よりも高く、津波の逆流現象によっては堤防の決壊などで被害を受ける可能性が大である。
災害内容によっては避難場所を決める必要あり、検討中。
近くに避難場所が無く、その確保が心配である。
自治会にて備蓄の必要性はあるのですか？

自治会用アンケート解析結果

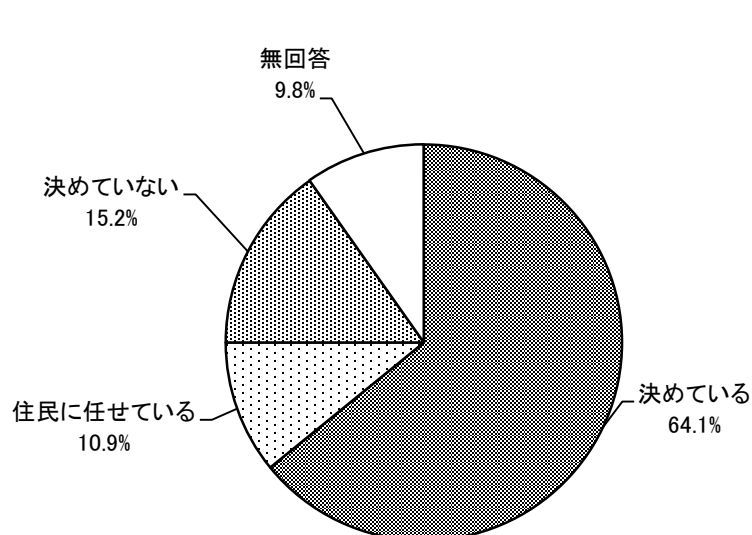
意 見
もっと市からの情報が欲しい。
特にない。
二次災害。
市備蓄倉庫の拡充。水、食料、毛布等。
ご近所の皆さんと一緒に避難行動を心がける。
Q 4 に関しては不安だが、Q 4 - 3 では地元企業との話はできているのか？
避難場所が遠い。
緊急の防災についての意識を高める事が大切と思っています。 市役所危機管理課様のご支援を宜しくお願い致します。
ハザードマップの作成（避難経路など）地域ごとにあれば助かる。
門真市として年 1 回位の防災訓練が必要ではと思われる。 避難行動要支援者及び要配慮者の支援活動について知識及び訓練が不十分で、どの様にしたら良いのかわからない。
M 6 から 7 の大地震に伴う災害は大きな不安。 火災、避難通路、場所、食料、飲料水 etc 淀川は近年護岸工事が進み、洪水は大丈夫と思う。 津波による淀川への遡上は情報によると枚方、樟葉ぐらいまでは影響がありそうだが大したことはないらしい。
[門真市地震ハザードマップー平成 20 年 3 月作成][門真市洪水ハザードマップー平成 19 年 3 月作成]保存版を見ただけです。 災害時用備蓄物資一覧表平成 26 年 4 月作成]もらっただけです。

■避難を予定する避難所

Q 5. 貴会として、住民が避難する一時避難地・避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。

住民が避難する一時避難地・避難所を決めているかでは、「決めている」（64.1%）が最も高く、次いで「決めていない」（15.2%）、「住民に任せている」（10.9%）の順となっている。

また、一時避難地名、避難所名ともに、小学校が多く挙げられている。



【 一時避難地名一覧 】

自治会名	一時避難地名
済堂	自治会館
御堂南	古川橋小学校
北岸和田府住	四宮小学校
野里町東地区	野里上野口
ネオコーポ門真東	古川橋小学校
北岸和田	弁天池公園
門真上島住宅	各戸
西小路	茨田公園
島頭東	なみはや高校、脇田小学校
本町第一	本町自治会館
石原中	門真みらい小学校
常称寺町	古川橋小学校
東岸和田	公園、学校
本町西	市住本町団地
石原北町会	門真みらい小学校
三ツ島南	中野興産
門真市舟田町東	沖校区沖小舟田東
門真団地中央	自治会館
常盤町	大和田小学校
宮前町	宮前町自治会館
泉町	旧北小学校
末広速見	速見町
柳田町	柳田町
上三ツ島	二島小学校
松葉町	門真市中町
下三ツ島	決めていない
門真市栄町	栄町公園
新橋町第三	柳町
柳町	門真小学校
月出町	市指定の公園等
中町	門真市中町
幸福町	幸福公園
下馬伏	第3公園
市住本町団地	本町市住児童公園

【 自治会別避難所名一覧 】

自治会名	避難所名
済堂	四宮小学校
御堂南	保健福祉センター
野里町東地区	上野口小学校校庭
西打越	五月田小学校
北岸和田	東小学校、第五中学校
門真プラザ分譲住宅	門真小学校
門真上島住宅	萱島生野病院
島頭東	府立門真なみはや高等学校、脇田小学校
五月田町協栄	五月田小学校
本町第一	門真小学校
常称寺町	古川橋小学校
石原西町会	門真みらい小学校
東岸和田	マンション・ビル会社
本町西	門真小学校
石原北町会	門真みらい小学校
三ツ島南	二島小学校
門真市舟田町東	沖小学校、第二中学校
沖南	沖小学校
門真団地中央	脇田小学校
千石南	脇田小学校、及び公園
五月田中央	五月田小学校
宮野町	自治会館、公園
野里町西	上野口小学校
舟田町北	沖小学校
沖町	第二中学校
宮前町	四宮小学校もしくは北巢本小学校
泉町	門真はすはな中学校
下馬伏住宅	脇田小学校、第四中学校
門真南	砂子小学校
巢本・北巢本町	四宮小学校
末広速見	速見小学校
若葉	第三中学校
柳田町	府立門真西高等学校、第三中学校
北巢本	北巢本小学校
浜町北	門真みらい小学校
古川町	古川橋小学校
江端西	東小学校

自治会用アンケート解析結果

自治会名	避難所名
垣内町	門真みらい小学校、門真はすはな中学校
松葉町	門真はすはな中学校
上野口町南	上野口小学校
下三ツ島	二島小学校
門真市栄町	門真小学校
新橋町第三	門真小学校
月出町	門真みらい小学校、門真はすはな中学校
上島頭	南部市民センター
桑才	二島小学校、第七中学校
中町	門真はすはな中学校
幸福町	わからない
下馬伏	府立門真なみはや高等学校
千石東	脇田小学校

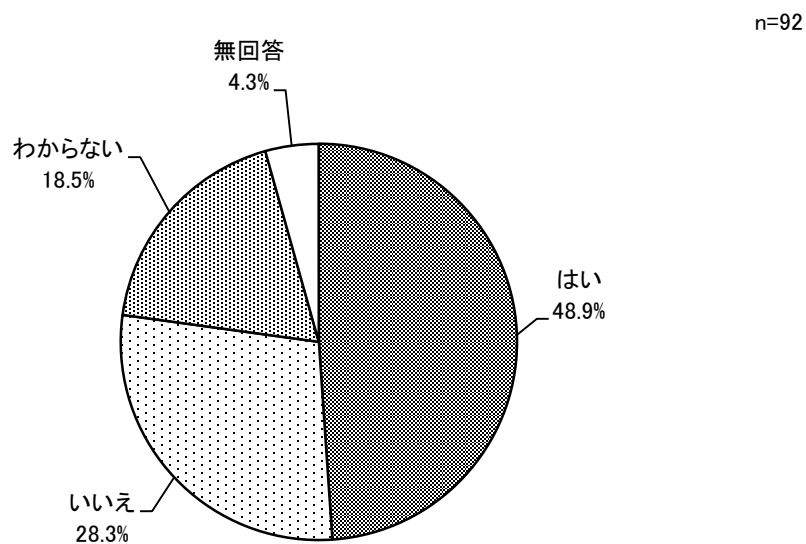
【 避難所別自治会名一覧 】

避難所		自治会数	自治会名
門真小学校		6	門真プラザ分譲住宅、本町第一、本町西、栄町、新橋町第3、柳町
古川橋小学校		4	御堂南、ネオコーポ門真東、常称寺町、古川町
速見小学校		1	末広速見
門真みらい小学校		6	石原中町会、石原西町会、石原北町会、垣内町、月出町、浜町北
門真はすはな中学校		5	泉町、垣内町、松葉町、中町、月出町
大和田小学校		1	常盤町
上野口小学校		3	野里町東、上野口町南、野里町西
北巢本小学校		2	宮前町、北巢本
第三中学校		2	若葉、柳田町
府立門真西高等学校		1	柳田町
二島小学校		4	三ツ島南、上三ツ島、下三ツ島、桑才
四宮小学校		3	北岸和田府住、宮前町、巢本・北巢本町
沖小学校		3	舟田町東、沖南、舟田町北
脇田小学校		5	島頭東、門真団地中央、千石南、下馬伏住宅、千石東
五月田小学校		3	西打越、五月田町協栄、五月田中央
東小学校		3	北岸和田、江端西、東岸和田
砂子小学校		1	門真南
第二中学校		2	舟田町東、沖町
第四中学校		2	済堂、下馬伏住宅
第五中学校		2	北岸和田、東岸和田
第七中学校		1	桑才
府立門真なみはや高等学校		2	島頭東、下馬伏
門真市民プラザ		0	
合計		62	(複数指定自治会：10)
市指定外	萱島生野病院	1	上島住宅
	自治会館	1	宮野町
	南部市民センター	1	上島頭

※一部の自治会で、複数の避難所を設定

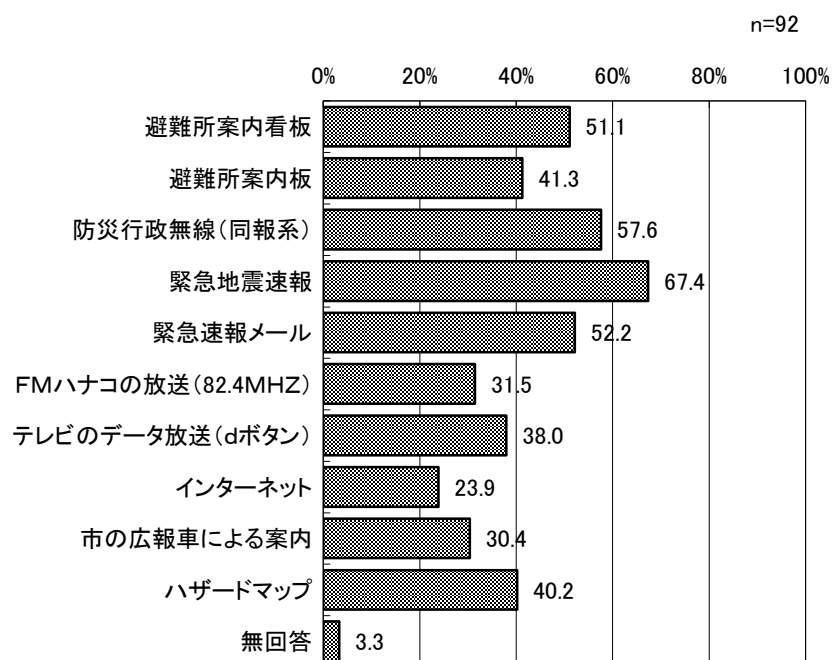
Q 6. 市の避難所等の情報について、貴会から住民に回覧板などで周知されていますか。

市の避難所等の情報について、住民に回覧板などで周知しているかでは、「はい」(48.9%)、「いいえ」(28.3%)、「わからない」(18.5%)の順となっている。



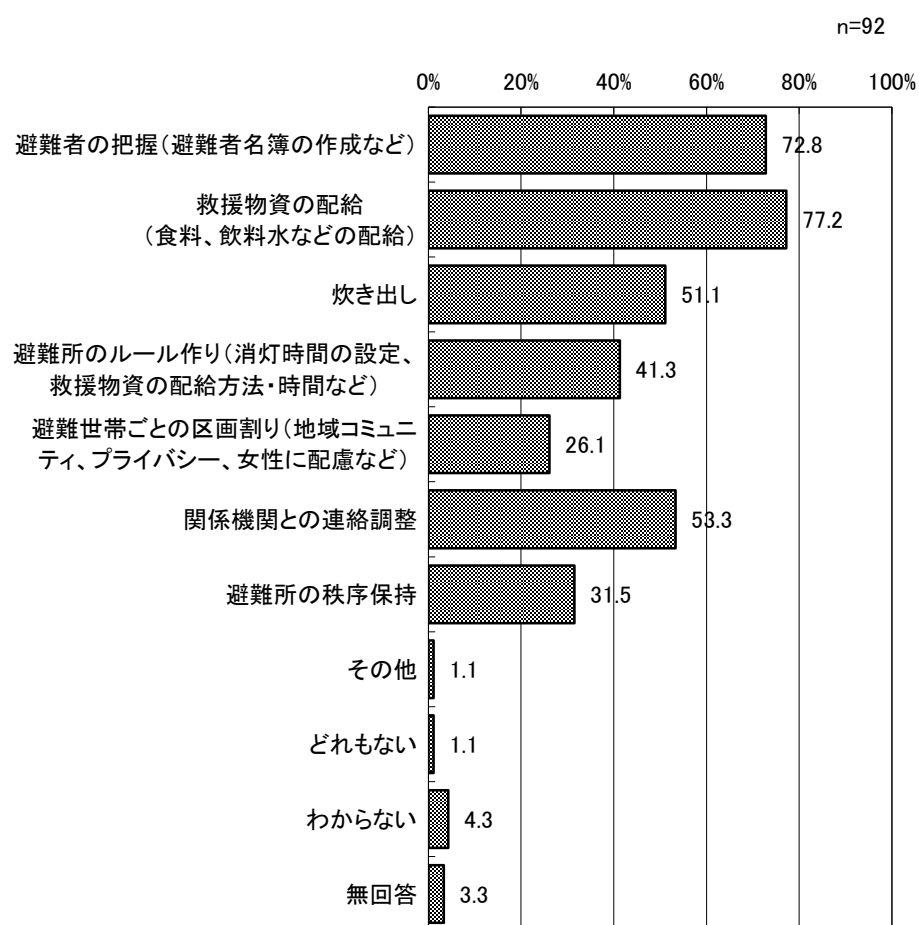
Q 7. 災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。(複数回答可)

災害時に行政などが提供する情報伝達手段について、知っているものは、「緊急地震速報」(67.4%) が最も高く、次いで「防災行政無線(同報系)」(57.6%)、「緊急速報メール」(52.2%) の順となっている。



Q 8. 避難所の運営は、避難者自らと自治会の方々が主体となって行っていただくことになります。市が避難所を開設した場合に、貴会ではどのような活動ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

市が避難所を開設した場合に、どのような活動ができるかでは、「救援物資の配給（食料、飲料水などの配給）」（77.2%）が最も高く、次いで「避難者の把握（避難者名簿の作成など）」（72.8%）、「関係機関との連絡調整」（53.3%）の順となっている。



「避難を予定する避難所（Ｑ５からＱ８まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
小学校の位置が低く校内に水がつかる。
自治会館内で都市ガスが使用できない時の為、自治会館のガスはプロパンを使用できる用にプロパンガスを使用。
今回 11／9 に上小にて楽しく理解できる防災訓練として、防災ピクニックと称して行う予定である。
案内看板が見づらい。もっと大きめに。
Ｑ８の内容は出来る、出来ないにかかわらず実施しなければならないが、色々な人が口出しすると混乱をまねく指揮・指示が明確となるようあらかじめ決めておく必要があり、避難場所にＡ１用紙に臨時組織を提示する事が重要。 ※福島原発事故で、東電本社／国行政と現場のやり取りで、本部の運営機能が未熟で、矢継ぎ早の指示、問い合わせが乱発され現場が混乱した。混乱時こそヘッドは１人、サポート数名で固めて運用する事が重要。混乱時は自分を優先に行動するため、色々な人が都合だけを自分の問題にすりかえて発言する→混乱のもと。
避難所内での自治会員及び非会員との区別。
ハザードマップの入手方法。
「市の避難所」とあるが、門真市の避難所やハザードマップは脆弱性が伴うので利用しないようにと周知している。 避難所に行くとルート上に中央環状線があり、その上を走る近畿自動車道の倒壊や停電時の無信号道を横断するなど極めて現実的ではない事に加えて、海拔ゼロ地域を避難をする事も含めてまったくハザードマップとして機能しておらずまことに残念でない。 災害時想定ぐらいはしっかりやってもらいたいと強く願う。
弱者（老人、子供）等の避難はすべての方に対応は出来ない。
町内の会員さんは避難所がどこなのか判然としていないと思われ、役所の指導のもと、全会員さんに周知徹底したものです。
当自治会は、連合に所属していないので、不利益な扱いを受けないか心配です。
現状、避難所におけるルール作りは全くないに等しい。 体制・役割・責任分担を日常的に明確にしていくべき。
夜間の避難所の開設は、五月田小学校の場合、行政か学校のだれが開くのか？ 市役所として、五月田校区全体を五月田小学校にするのか区割はどの様に考えておられるか？
案内看板等の表示数が少ないため、市民には避難所を知らない人が多い。

意 見
屋外スピーカーの音量が無いため、聞こえ悪い。
横地公会堂の老朽化。 大和田小学校の低地帯にあること。
過去に火災による被災者支援を会館にて行った経験から、どの程度の支援をすべきかで悩んだ事があり、なかなか難しいものと感じている。 市の対応などの支援がどうしても必要であると思う。
砂子小学校が避難場所に指定されているにもかかわらず、具体的なマニュアルがありません。又、備蓄もされていないので意味がありません。 「絵にかいたモチ」と申し上げたら言い過ぎでしょうか。
自治会未加入宅の対応が難しいのでは。
自治会に入っていないマンションがあります。
北小学校も廃校となり、避難所が遠くなったので、早い目の避難指示が必要と思われる。
複数の自治会が集合するので調整が難しい。
自治会としては、全員加入であれば把握できるが現・退会・加入したくない（かかわりたくない、自分だけ良かったら良いという考えの方）あり？ 自治会としては差別したくないのですが、今後の対策をどうするか？考えて説明するか？入会してくれたら回覧など回して防災の知識が大事だと思います？
門真市からの情報、資料等をもっと提供してほしい 自治会は衰退しているが住人は防災に対しては大変関心がある。 市→自治会→住人のネットワーク強化を。
特にない。
避難所案内看板がない（身近に）。
避難所までの（特に高齢者、病人 etc）行く方法、それを介助する方法は？
Q 8. 炊き出しの用具はあるが、プロパンガスが必要。用意できるか不明。
避難場所のわかる地図がほしい（その場所の受付可能人数とかも）。
避難場所がせまい。行くまでに車の交通数が多くキケン。
門真小学校以外で、新橋町第三自治会会員住民に近い市立公民館・保証協会の公的建物も準指定にして頂きたいとお願い致します。
避難所の収容人数及び電気・ガス・水道等のインフラについて理解しておらず、どの様に統制がとれるのかが不明。
系統だった段取りは出来ていない。 町民は割りと無関心であり、行政側で具体的な対応訓練計画が必要。 自治会では「緊急持ち出し袋」のあっせん程度。 如何に関心度を高めるかが課題。 生活基本条例の中学校毎の委員会の議題も総括的ではなく、これ 1 本に絞るべきではと思う。

自治会用アンケート解析結果

意 見
合同訓練をしていないので未知である。
自治会退会者多発により、現状なりゆきになる。
事前に避難所の運営について専門知識者との打合せ・相談が必要と思います。 我が自治会の中で勉強会を実施して下さい。

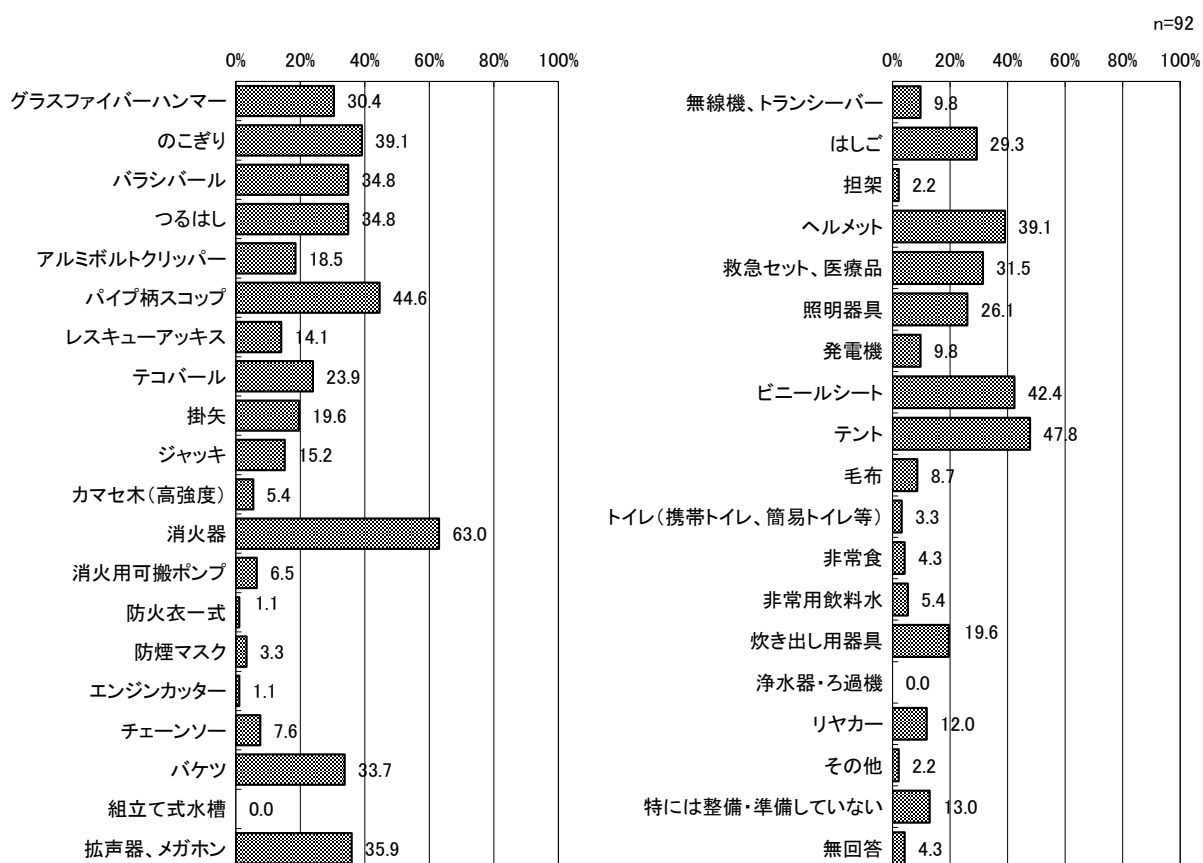
■自治会での備蓄状況

Q 9. 貴会では、どのような防災資機材や防災用品を整備・準備していますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。（複数回答可）

また、今後、整備・準備を特に重視したい防災資機材や防災用品は何ですか。あてはまるもののうち、5つまで□をつけてください。

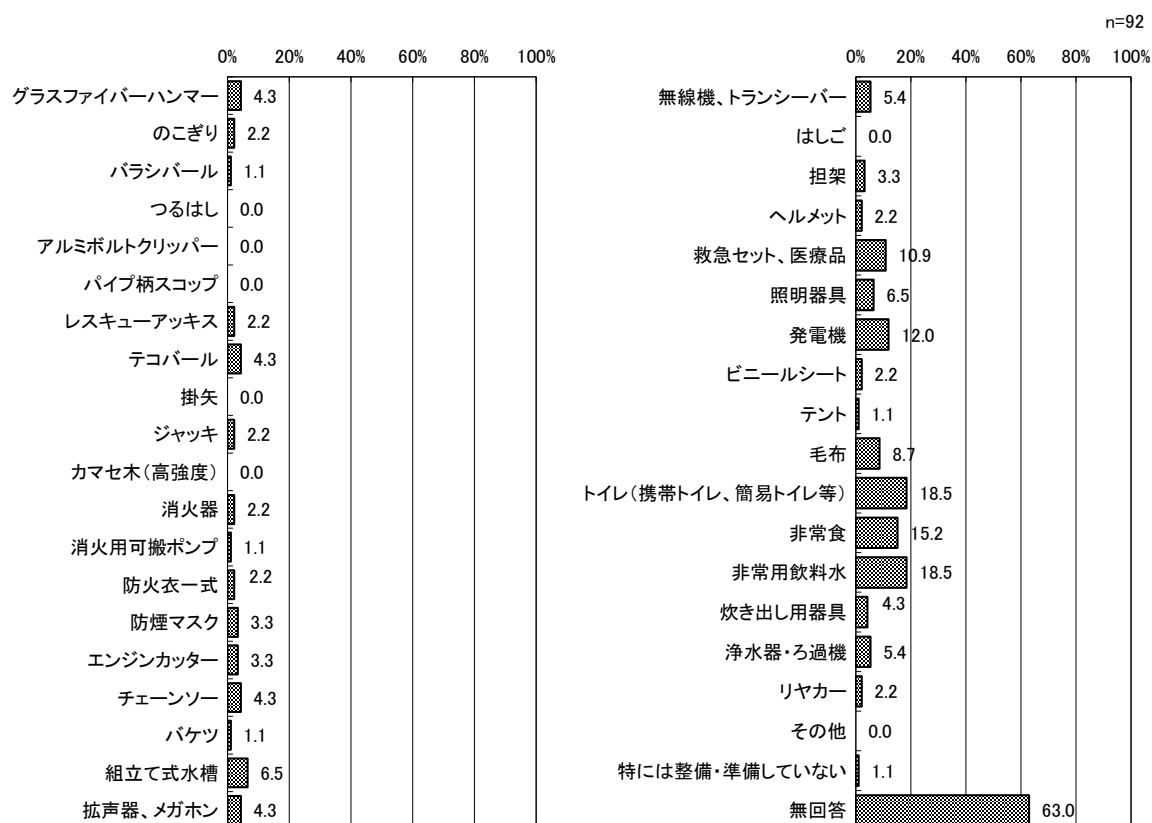
【 整備・準備している防災用品 】

どんな防災資機材や防災用品を整備・準備しているかでは、「消火器」(63.0%) が最も高く、次いで「テント」(47.8%)、「パイプ柄スコップ」(44.6%) の順となっている。



【 今後、整備・準備したい防災用品 】

どんな防災資機材や防災用品を今後、整備・準備したいかでは、上位5つまでを挙げると、「トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ等）」、「非常用飲料水」がともに18.5%で最も高く、次いで「非常食」（15.2%）、「発電機」（12.0%）、「救急セット、医療品」（10.9%）の順となっている。



「自治会での備蓄状況（Ｑ９）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
置き場所がない。私個人として準備している物がある。
自治会へ防災グッズを市から配布してもらいたい。
食糧の備蓄なし、飲料水のみ。
次年度より防災用品の予算をとっていきたい。
備蓄する場所がない。
当自治会は門真都市開発（株）と協議で進める。 Ｑ９の内容も共同で打合せチェックした。 よってすべての項目を独自で保有していない。※門真都市開発ビル(株)は門真プラザの管理会社。
自治会では特に用意を行っていない。
備蓄品を保管する場所がない。 私が行政の人間であれば、寝屋川水系の盛土道路の一角を保管場所として利用申請します。
個々の自治会の非常食等の備蓄は管理が出来ないので対応は困難と思う。
我が自治会は防災資材や防災用具はほとんどありません。 必要品は購入しますので、役所指導の許に御教示下さい。
必要を感じているが、内容の取りあつかい方が分らない。
備蓄については、置き場が無いのが問題。
バーナー。プロパンガス。
道具を使用した訓練が必要。
備蓄場所が無い。防災資機材の保管場所。
備蓄・準備品といっても自治会で特に考えていない現状です。 便利な世の中でもあり、いつでも手に入るとの考えからです。 それ以上の災害では自治会では対応しかねます。
自治会には備蓄する場所がないので、今年からわずかではありますが、毎年防災グッズを各家庭に配ることにしました。
備蓄するスペースがない。
市から自治会に対してもっと情報、資料の提供を。
特にない。
防災資機材、防災用品等全てなし、また保管場所もなし。
特には防災資機材や防災用品として整備、準備はしていない。
市から支給された防災用具のみです。あとは消防団が持っている品です。
他に色々用意はしたいが、自治会の予算に限りあり。

自治会用アンケート解析結果

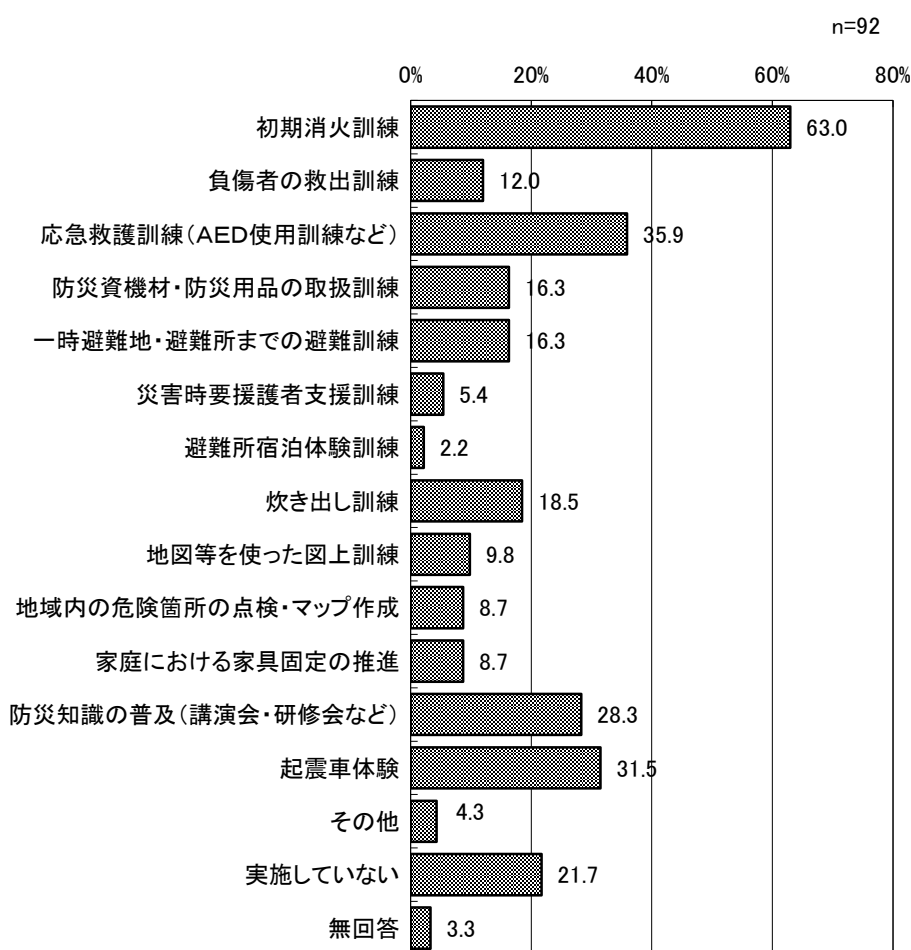
意 見
毛布及びカセットコンロを上記以外にも整備・準備をしたいと思います。
防災用具を準備しても何日、どの様に使用するのかなどの役割分担も出来ていないお手上げの状態。 70～80 才男子女性役員では無理。
いつもお世話になっております。 一部自治会あて道具の貸し出しをしている（行政より）全自治体に渡っていない。
どこまで自治会で用意すべきかが判断できない。

■防災訓練の実施状況

Q10. 過去3年間で実施した防災訓練や防災活動として行ったものについて、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

過去3年間で実施した防災訓練や防災活動として行ったものでは、「初期消火訓練」が63.0%で他と比べて高く、次いで「応急救護訓練（AED使用訓練など）」（35.9%）、「起震車体験」（31.5%）の順となっている。

また、「実施していない」（21.7%）と回答した自治会の割合も高くなっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（55.6%）、「炊き出し訓練」（33.3%）、「起震車体験」（55.6%）が全体（「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（35.9%）、「炊き出し訓練」（18.5%）、「起震車体験」（31.5%））と比べて高くなっている。

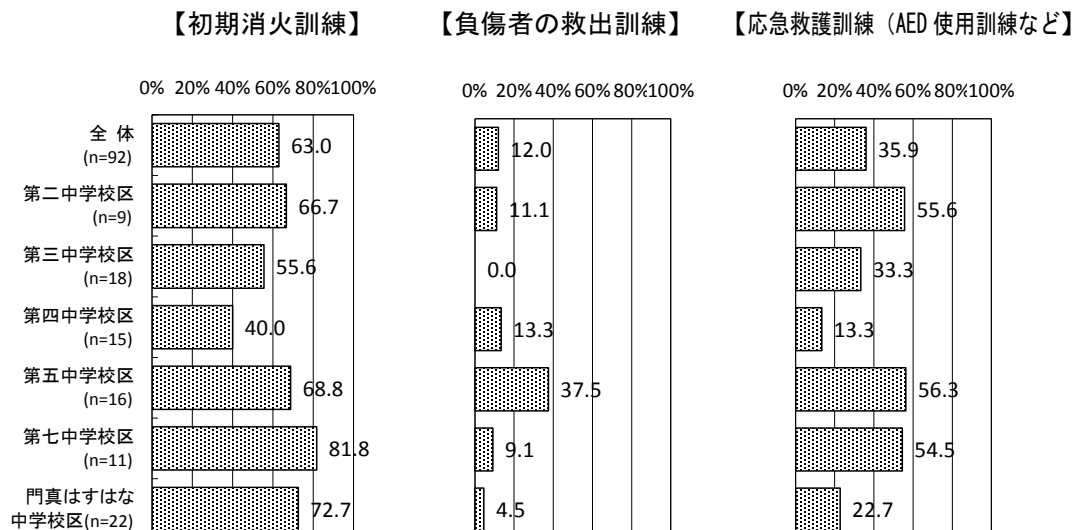
「第三中学校区」では、「実施していない」（33.3%）が全体（21.7%）と比べて高く、「炊き出し訓練」（0.0%）が全体（18.5%）と比べて低くなっている。

「第四中学校区」では、「実施していない」（46.7%）が全体（21.7%）と比べて高く、「初期消火訓練」（40.0%）や「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（13.3%）、「防災知識の普及（講演会・研修会など）」（6.7%）が全体（「初期消火訓練」（63.0%）、「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（35.9%）、「防災知識の普及（講演会・研修会など）」（28.3%））と比べて低くなっている。

「第五中学校区」では、「負傷者の救出訓練」（37.5%）や「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（56.3%）が全体（「負傷者の救出訓練」（12.0%）、「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（35.9%））と比べて高く、「実施していない」（6.3%）が全体（21.7%）と比べて低くなっている。

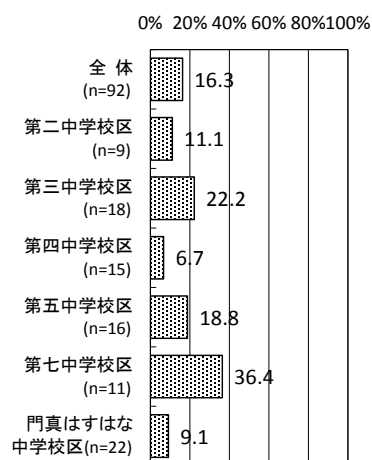
「第七中学校区」では、「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（54.5%）や「防災資機材・防災用品の取扱訓練」（36.4%）、「起震車体験」（72.7%）が全体（「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（35.9%）、「防災資機材・防災用品の取扱訓練」（16.3%）、「起震車体験」（31.5%））と比べて高く、「実施していない」（9.1%）が全体（21.7%）より低くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、ほぼ全項目で全体よりも低くなっており、特に「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（22.7%）や「一時避難地・避難所までの避難訓練」（4.5%）が全体（「応急救護訓練（ＡＥＤ使用訓練など）」（35.9%）、「一時避難地・避難所までの避難訓練」（16.3%））と比べて低くなっている。

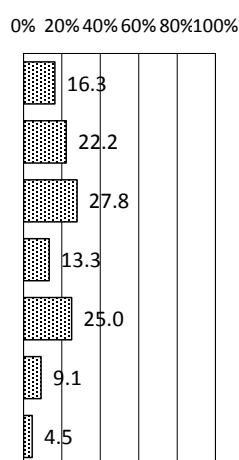


自治会用アンケート解析結果

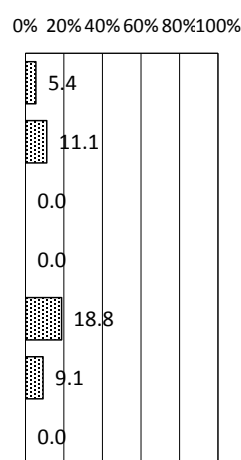
【防災資機材等の取扱訓練】



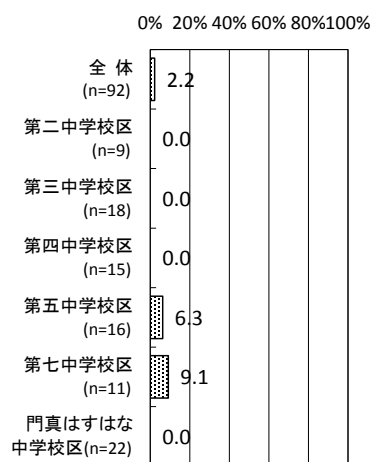
【避難訓練】



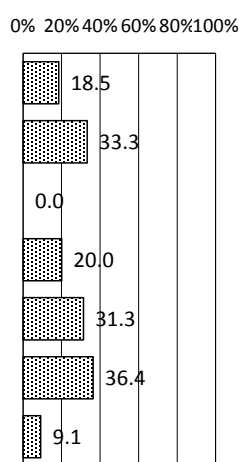
【災害時要援護者支援訓練】



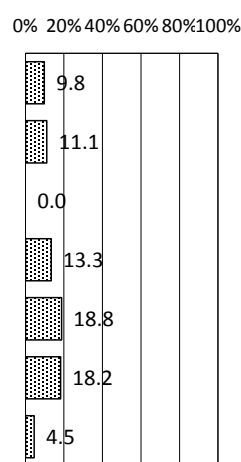
【避難所宿泊体験訓練】



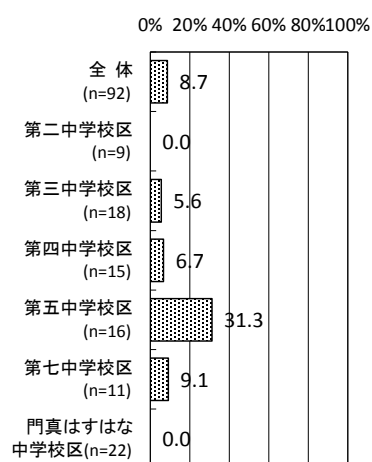
【炊き出し訓練】



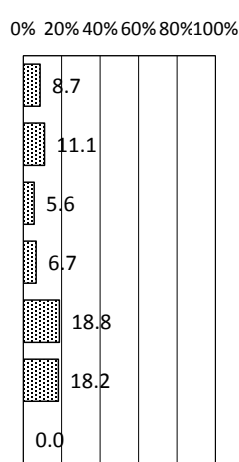
【図上訓練】



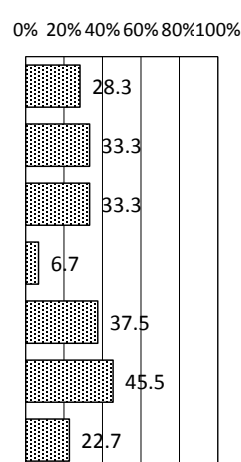
【危険箇所の点検・マップ作成】



【家具固定の推進】

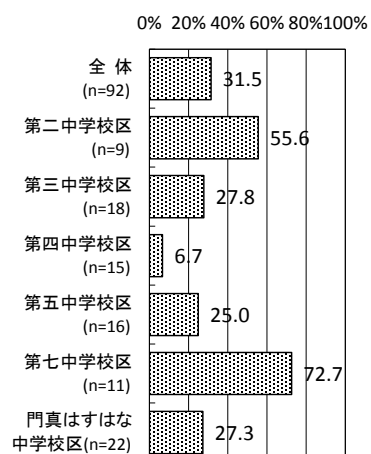


【防災知識の普及】

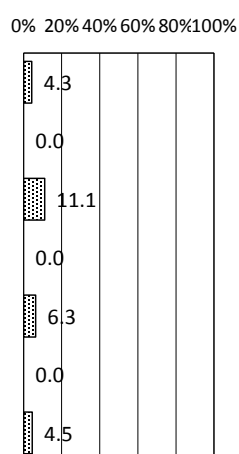


自治会用アンケート解析結果

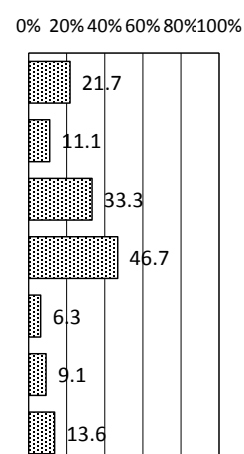
【起震車体験】



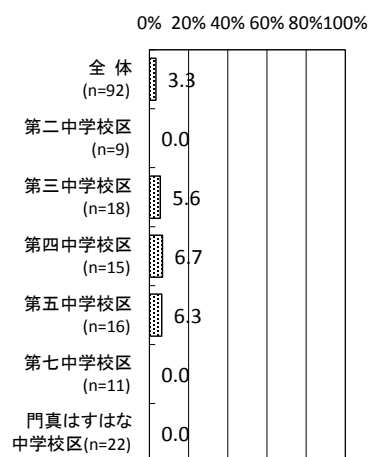
【その他】



【実施していない】

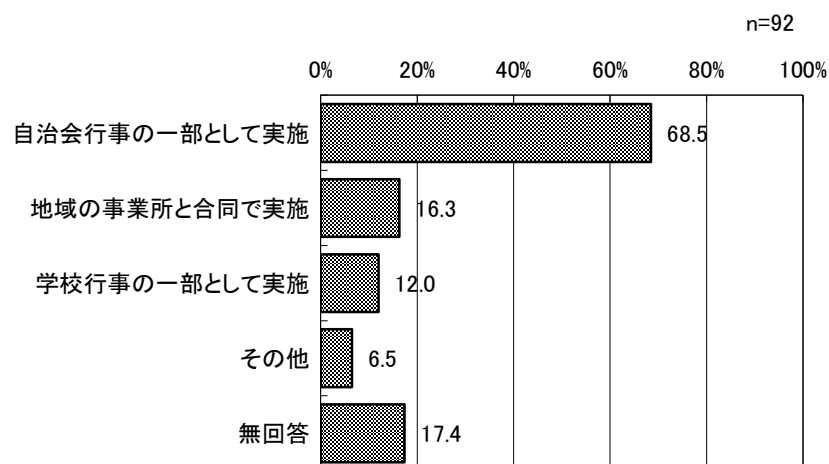


【無回答】



Q11. 防災訓練の実施形態は次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

防災訓練の実施形態では、「自治会行事の一部として実施」（68.5%）が他と比べて高く、次いで「地域の事業所と合同で実施」（16.3%）、「学校行事の一部として実施」（12.0%）の順となっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、「自治会行事の一部」（88.9%）や「学校行事の一部」（22.2%）が全体（「自治会行事の一部」（68.5%）、「学校行事の一部」（12.0%））と比べて高くなっている。

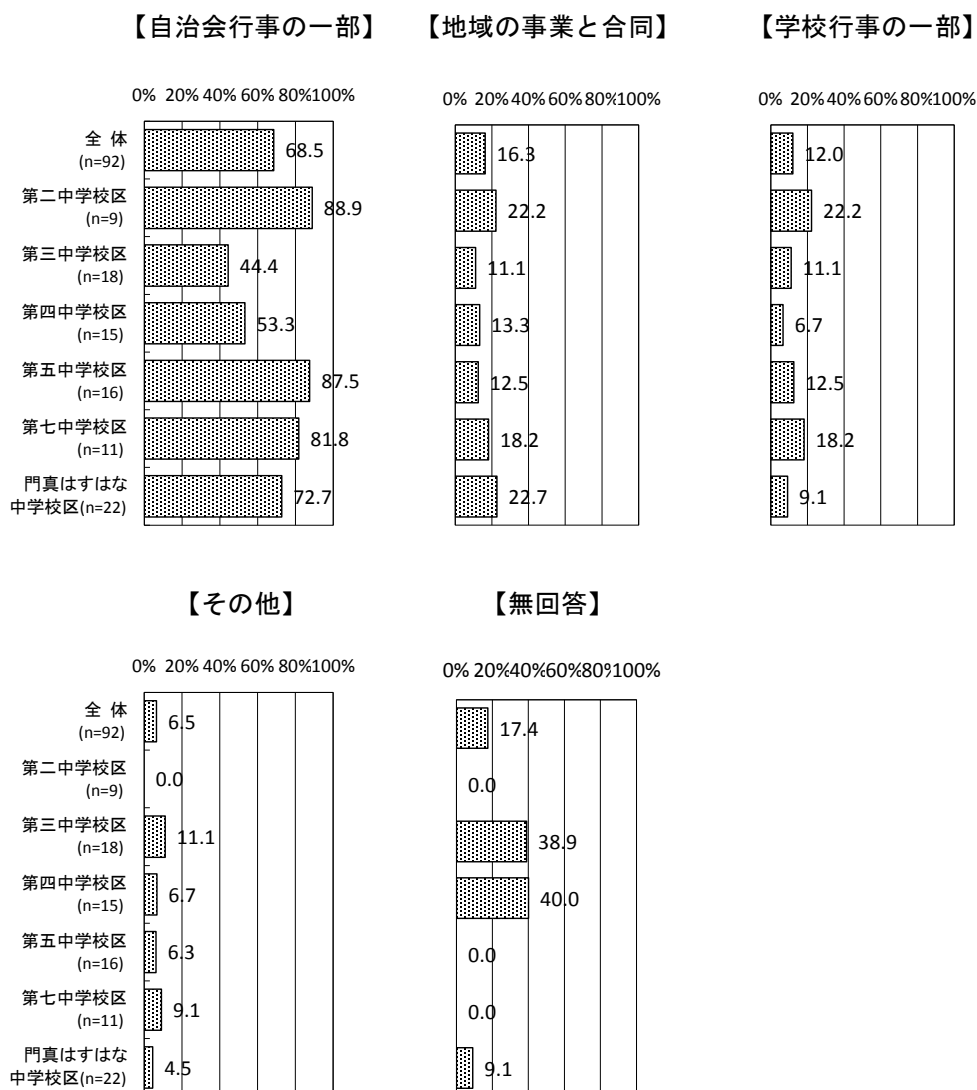
「第三中学校区」では、「自治会行事の一部」（44.4%）が全体（68.5%）と比べて低くなっている。また、無回答（38.9%）が全体（17.4%）と比べて高くなっている。

「第四中学校区」では、「自治会行事の一部」（44.4%）が全体（68.5%）と比べて低くなっている。また、無回答（40.0%）が全体（17.4%）と比べて高くなっている。

「第五中学校区」では、「自治会行事の一部」（87.5%）が全体（68.5%）、と比べて高くなっている。

「第七中学校区」では、「自治会行事の一部」（81.8%）が全体（68.5%）、と比べて高くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、ほぼ全項目で全体と同じ割合（±10%未満）となっている。



「防災訓練の実施形態（Q10 からQ11 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

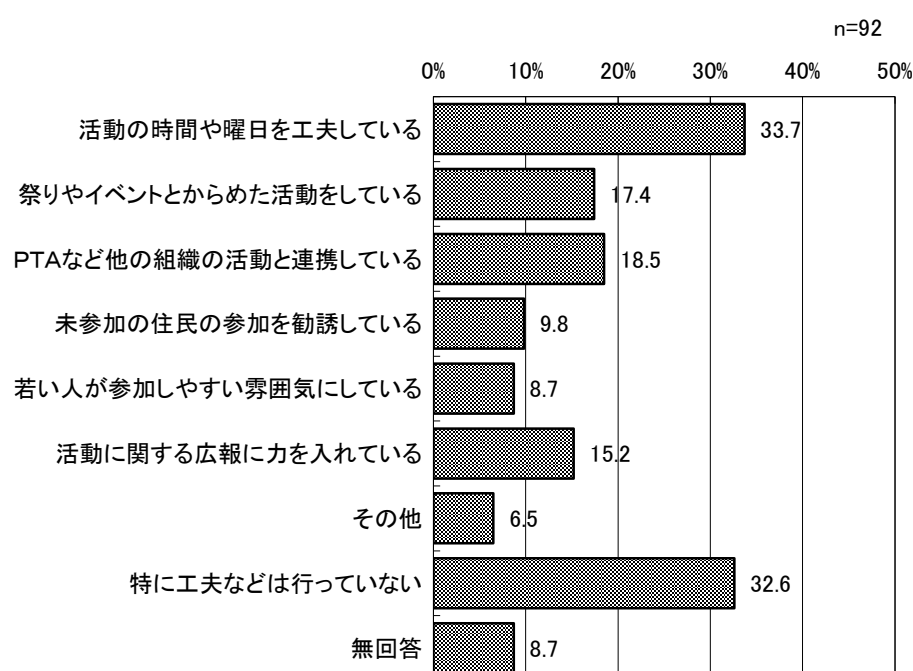
【 回答一覧 】

意 見
実動訓練は困難である。 図上訓練の充実を計るより手はないように思う。
災害発生時はたじろぐだけで、個人として何も出来ず又防災訓練を体験していなければ実践は不可能であり、ぜひ定期的な訓練を計画して下さい。
炊き出しは被災者、支援者とも現代的ではないと思う。 ほっかほっか弁当、市販の飲食物で対応する方が価値的に思います。
小学校校区でしてほしい。
訓練の実施を考えないといけないと思う。
防災訓練は自治会単位でなく、地域全体で行うなら必要あり。 市－地域－自治会－住人のネットワークが必要。
特にない。
防災訓練はすべて参加することにしておりますが、その時点での参加者の都合により、あまり期待できません。
防災訓練は11月に門真小学校区全体でやっている。
自治会役員会議において、更に防災に対する意識を高めていきたいと思います。
2年に1回、校区で防災訓練を実施。
新旧世帯の交流会、町内清掃活動、防犯活動、運動会、秋季太鼓台 等は活発にしているが、防災関係はあまり出来ていない。 正直どこから何から手をつけていいかわからない。
各自治会合同にて実施訓練を行うことについて推進するように。

Q12. 防災訓練において住民参加のために行っている工夫や働きかけがありますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

防災訓練において住民参加のために行なっている工夫や働きかけがあるかどうかでは、「活動の時間や曜日を工夫している」（33.7%）が最も高くなっている一方で、「特に工夫などを行っていない」（32.6%）も高くなっている。

また、その他の工夫や働きかけでは、「PTAなど他の組織の活動と連携している」（18.5%）、「祭りやイベントとからめた活動をしている」（17.4%）、「活動に関する広報に力を入れている」（15.2%）などがある。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」では、「祭りやイベントとからめた活動をしている」（44.4％）が全体（17.4％）と比べて高くなっている。

「第三中学校区」では、「PTAなど他の組織の活動と連携している」（50.0％）が全体（18.5％）と比べて高くなっている。

「第四中学校区」では、「未参加の住民の参加を勧誘している」（20.0％）が全体（9.8％）と比べて高くなっている。

「第五中学校区」では、「活動の時間や曜日を工夫している」（50.0％）が全体（33.7％）、と比べて高くなっている。

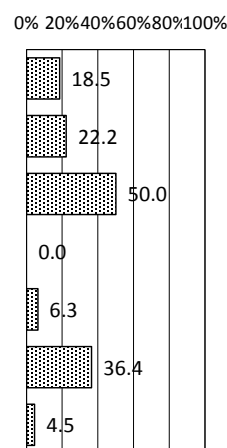
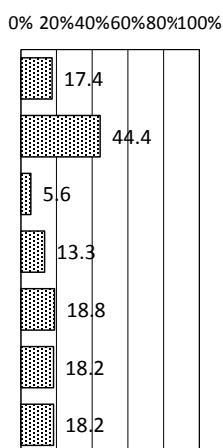
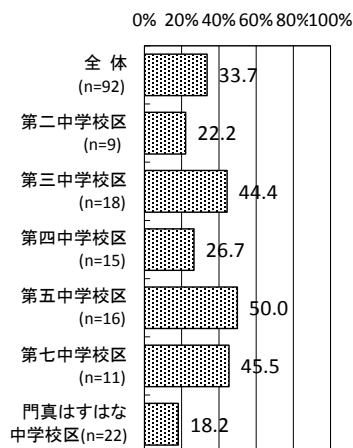
「第七中学校区」では、「活動に関する広報に力を入れている」（45.5％）が全体（15.2％）、と比べて高くなっている。

「門真はすはな中学校区」では、「活動の時間や曜日を工夫している」（18.2％）や「PTAなど他の組織の活動と連携している」（4.5％）が全体（「活動の時間や曜日を工夫している」（33.7％）、「PTAなど他の組織の活動と連携している」（18.5％））と比べて低くなっている。

【活動の時間や曜日を工夫】

【イベント等とからめた活動】

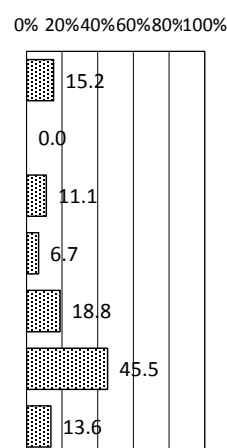
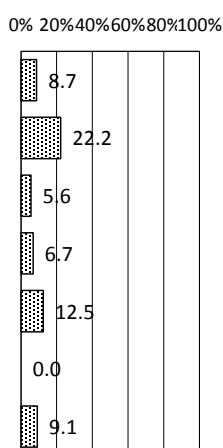
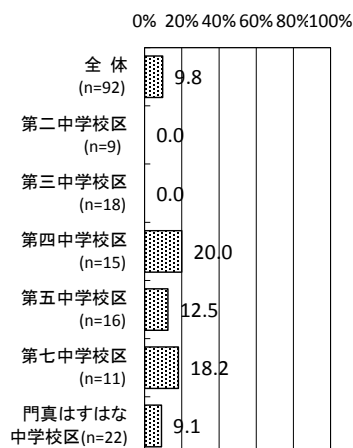
【他の組織の活動と連携】



【未参加の住民の参加を勧誘】

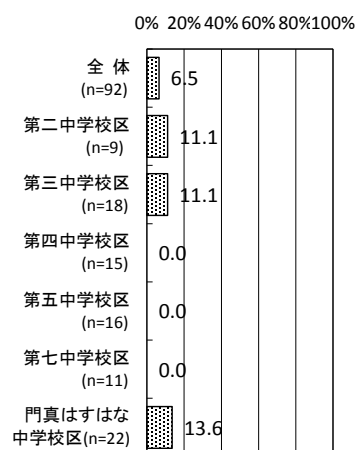
【若い人が参加しやすい雰囲気】

【広報に力を入れる】

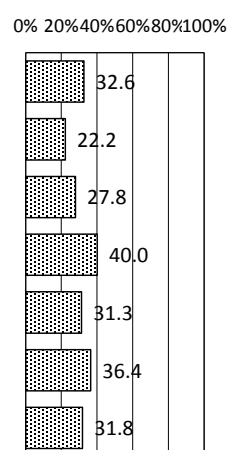


自治会用アンケート解析結果

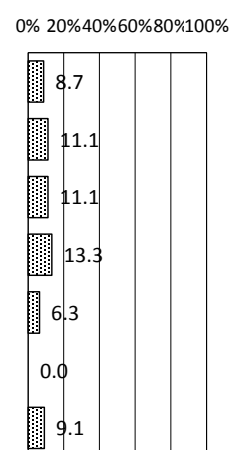
【その他】



【工夫はしていない】

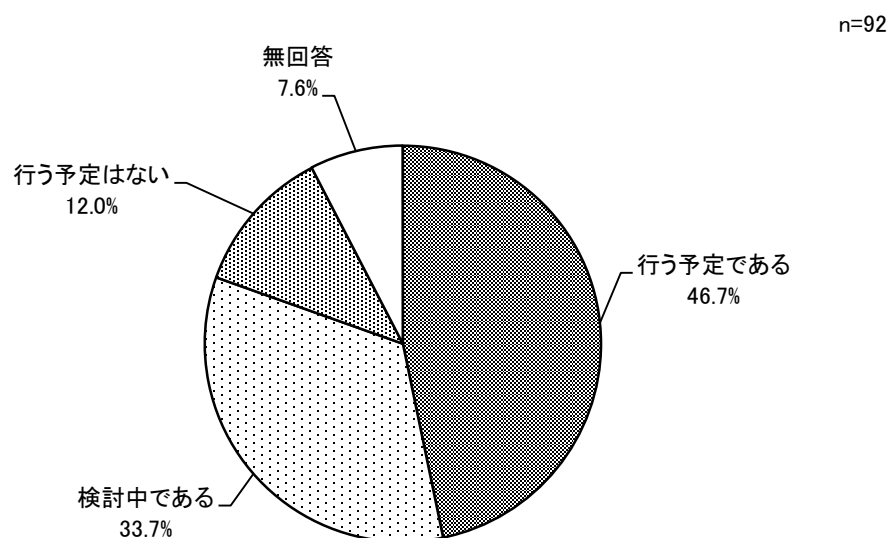


【無回答】



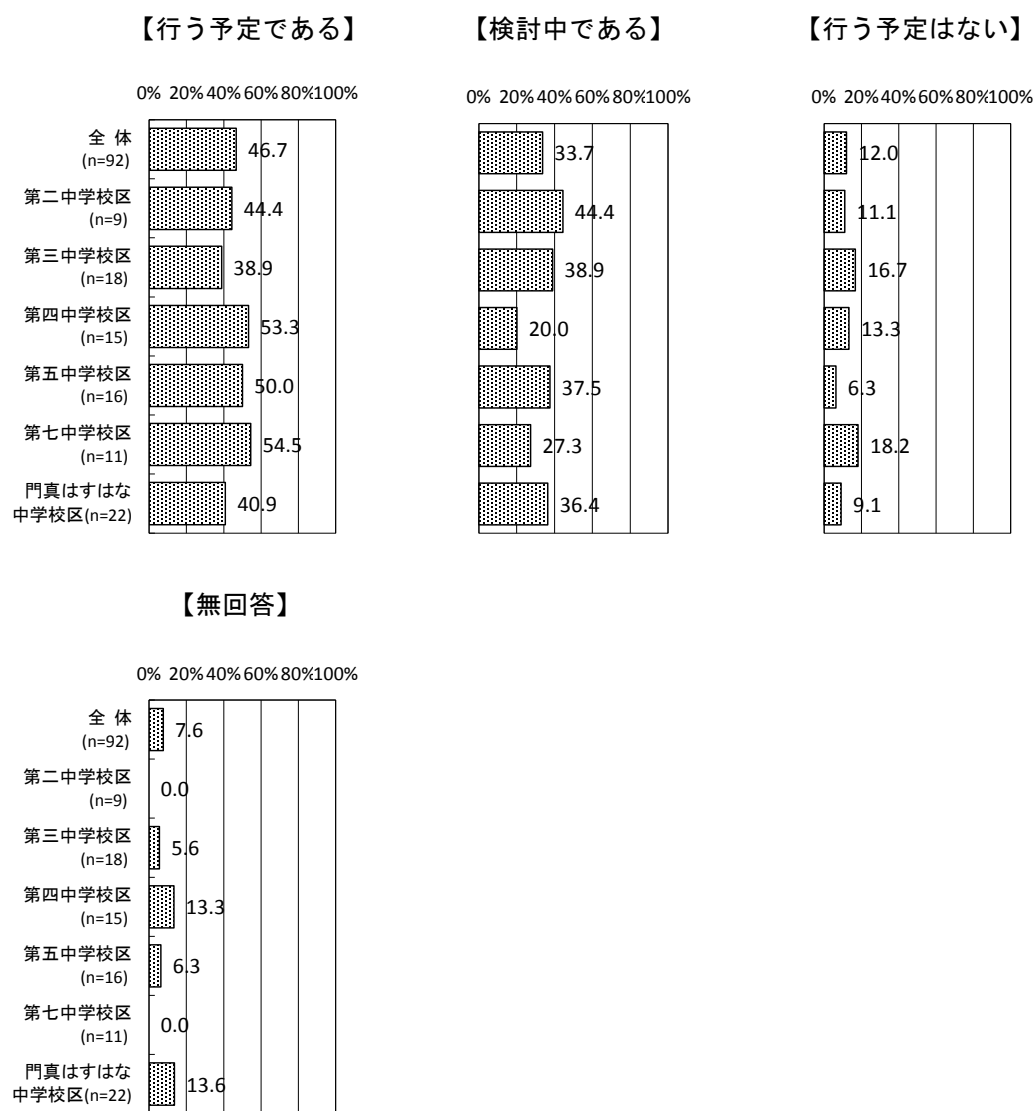
Q13. 災害時には貴会として会員の安否確認を行う予定ですか。

災害時には自治会として会員の安否確認を行う予定かどうかでは、「行う予定である」(46.7%) が最も高く、次いで「検討中である」(33.7%)、「行う予定はない」(12.0%)の順となっている。



■ 住所別（中学校区別）

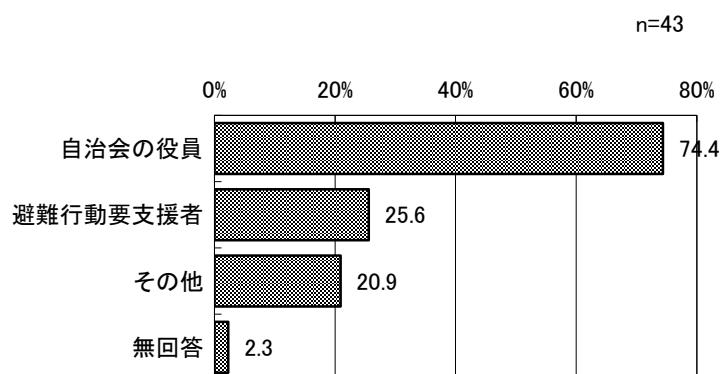
住所別にみると、「第四中学校区」、「第五中学校区」、「第七中学校区」では、半数以上の自治会で「行う予定である」となっている。



Q13ー 1. 安否確認は誰を対象として行う予定ですか。

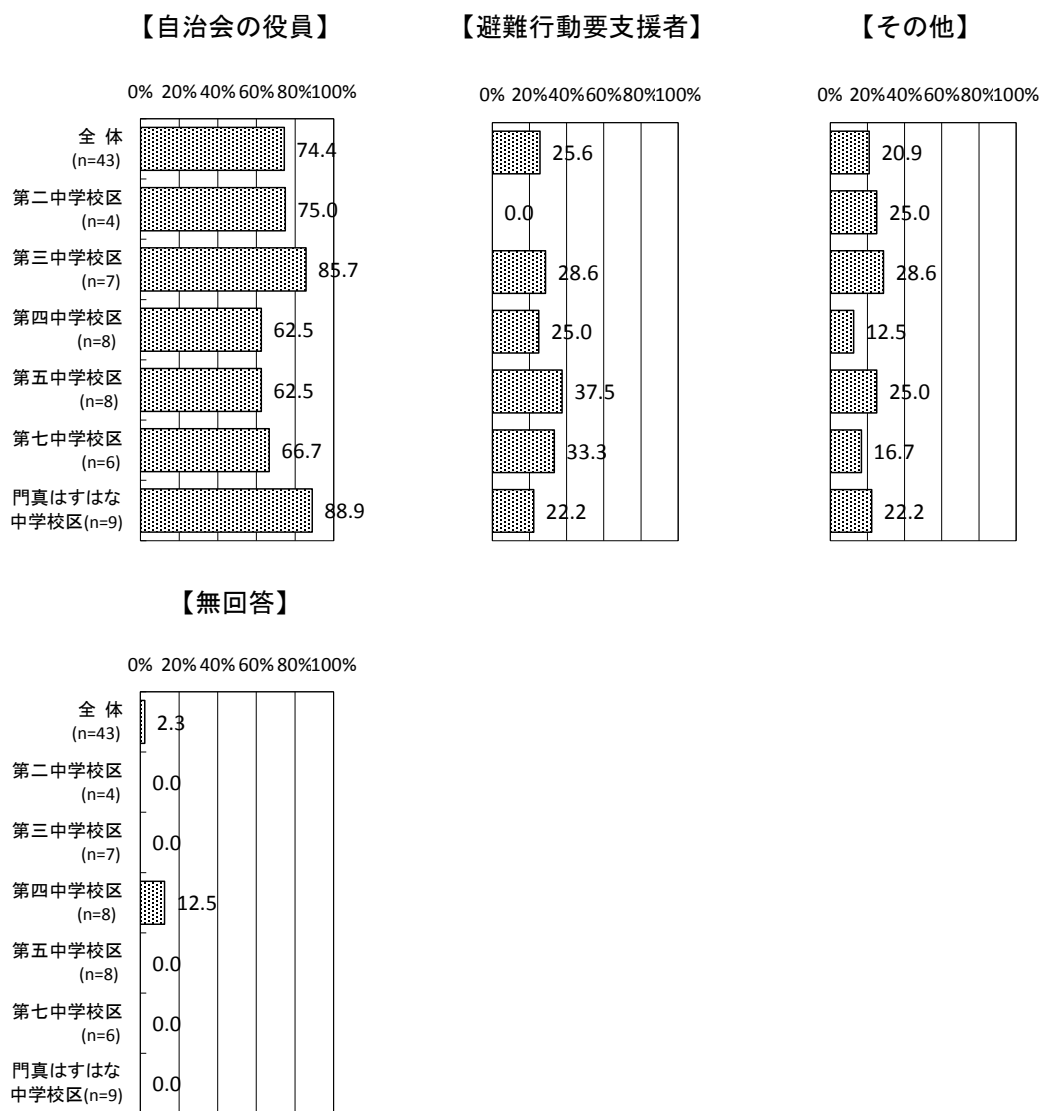
※Q13で「1. 行う予定である」と回答した方のみ（複数回答で集計）

安否確認は誰を対象として行う予定かどうかでは、「自治会の役員」（74.4%）が「避難行動要支援者」（25.6%）、「その他」（20.9%）を大きく上回っている。



■ 住所別（中学校区別）

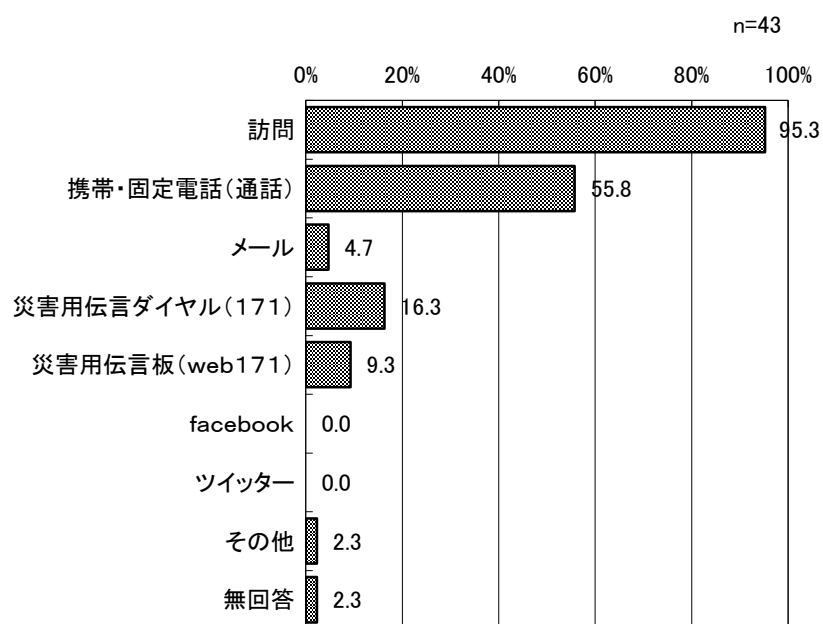
住所別にみると、「第二中学校区」では、「避難行動要支援者」の安否確認は0.0%となっている。



Q13ー2. 安否確認はどのような方法で行う予定ですか。

※Q13で「1. 行う予定である」と回答した方のみ（複数回答で集計）

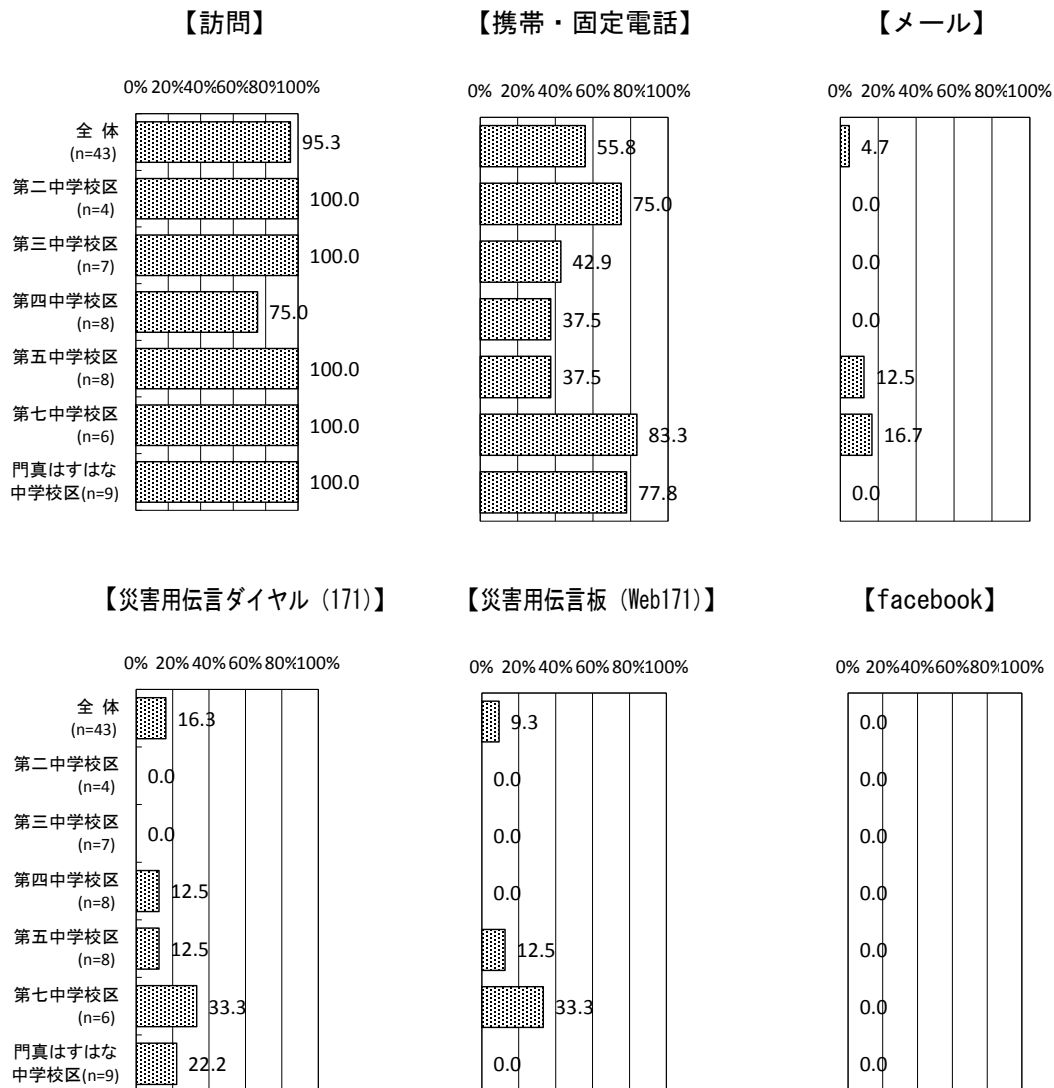
安否確認はどのような方法で行う予定かどうかでは、「訪問」（95.3%）が他と比べて高く、次いで「携帯・固定電話（通話）」（55.8%）、「災害用伝言ダイヤル（171）」（16.3%）の順となっている。



■ 住所別（中学校区別）

住所別にみると、「第二中学校区」、「第七中学校区」、「門真はすはな中学校区」では、「携帯・固定電話（通話）」（「第二中学校区」（75.0%）、「第七中学校区」（83.3%）、「門真はすはな中学校区」（77.8%））を利用する割合が、他の中学校区と比べて高くなっている。

また、「第七中学校区」では、「災害用伝言ダイヤル（171）」（33.3%）や「災害用伝言板（Web171）」（33.3%）を利用する割合が、他の中学校区と比べて高くなっている。

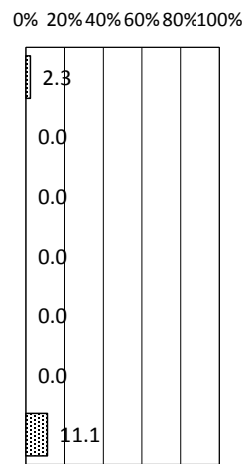


自治会用アンケート解析結果

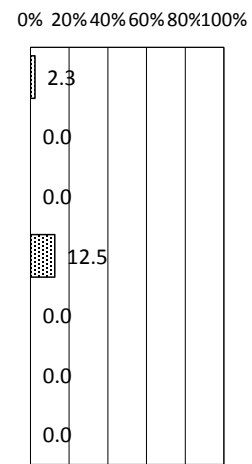
【ツイッター】



【その他】



【無回答】



「防災訓練の実施状況（Q12 から Q13－2 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

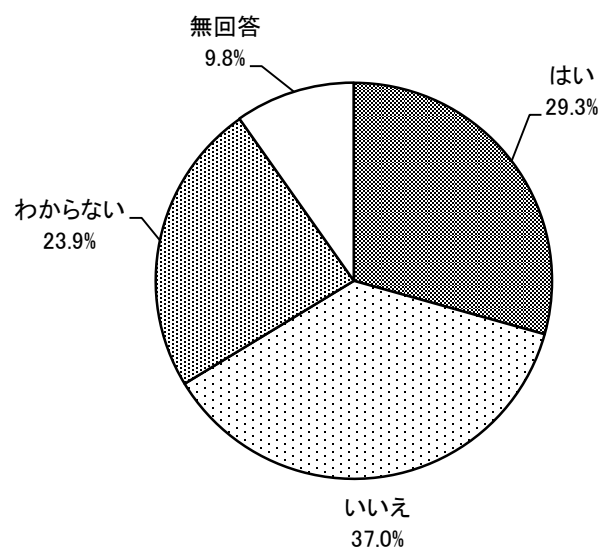
意 見
自治会役員を通じて各班長を通じて行うつもり。
自治会に未加入の住民は名前や家族構成すらわからない。
安否確認はまず自分自身の安全確保が第一優先であり、その後避難行動、要支援者への対応になると思われ、自分自身の安全確保が避難方法等の訓練が不可欠と判断します。
会員、役員の連絡、情報集め。
安否確認もたった 30 軒弱ですから、全員対象で問題ないと思います。
五月田校区はH27. 2. 16 に防災訓練を実施予定。 自治連が行っている、自転車カバー等と安全会と同じにと考えましたが、無理な様なので、日時を考える必要がある。
個人情報で難しい点がある。
市からの情報、資料をもっと提供してほしい。
特にない。
自治会として安否確認はすべきであると思いますが、非常に難しい問題だと思います（精度が問題）。
電気が止まればおしまいです。
自治会員の安否確認は実施したいが、災害時にどれだけの事が出来るのか不明。 災害発生時の状況によって、自治会役員との連絡が取れるのか不明であり十分な対応が可能かどうか？
自治会役員・民生委員は高齢者であり、スーパーマンではない。 まず自分の安全確保が第一で、机上論だけではやっていけない。 小さなことから出来ることからやっていくしかないと考えています。
今年 4 月から自治会長として行動しておりますが、防災訓練として前回からの引き継ぎもしていないし聞いたこともないです。

■身近な避難行動要支援者の把握状況、支援状況

Q14. 貴会として、災害時に援助が必要となる身体障がい者や高齢者などの避難行動要支援者を把握していますか。（名簿や地図による把握など）

災害時に援助が必要となる身体障がい者や高齢者などの避難行動要支援者を把握しているかでは、「いいえ」（37.0%）、「はい」（29.3%）、「わからない」（23.9%）の順となっている。

n=92

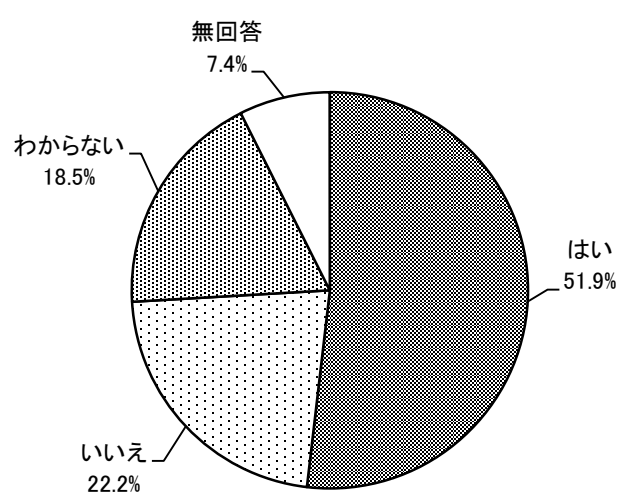


Q14ー 1. 避難行動要支援者を避難させる場合の方法を具体的に考えていますか。

※Q14で「1.はい」と回答した方のみ

避難行動要支援者を避難させる場合の方法を具体的に考えているかでは、「はい」(51.9%)が最も高く、次いで「いいえ」(22.2%)、「わからない」(18.5%)の順となっている。

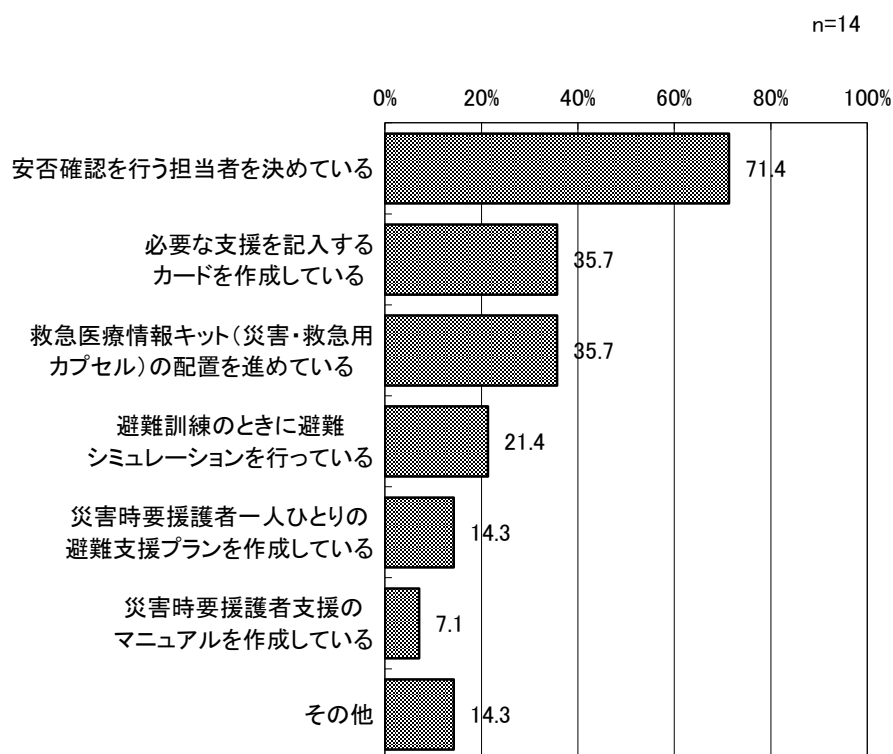
n=27



Q14－２．具体的にどのような方法ですか。

※Q14－１で「１.はい」と回答した方のみ（複数回答で集計）

避難行動要支援者を避難させる方法では、「安否確認を行う担当者を決めている」（71.4%）が最も高く、次いで「必要な支援を記入するカードを作成している」（35.7%）、「救急医療情報キット（災害・救急用カプセル）の配置を進めている」（35.7%）の順となっている。

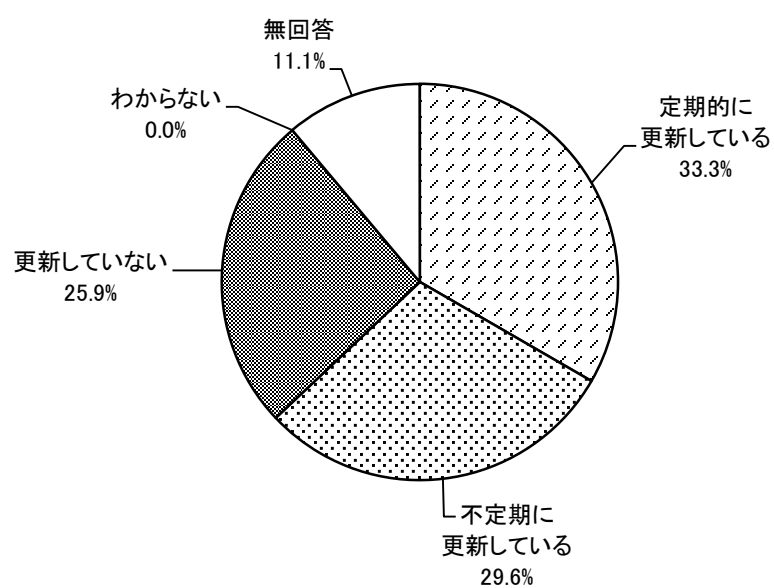


Q14－ 3. 避難行動要支援者の情報は定期的に更新していますか。

※Q14で「1.はい」と回答した方のみ

避難行動要支援者の情報は定期的に更新しているかでは、「定期的に更新している」(33.3%)が最も高く、次いで「不定期に更新している」(29.6%)、「更新していない」(25.9%)の順となっている。

n=27

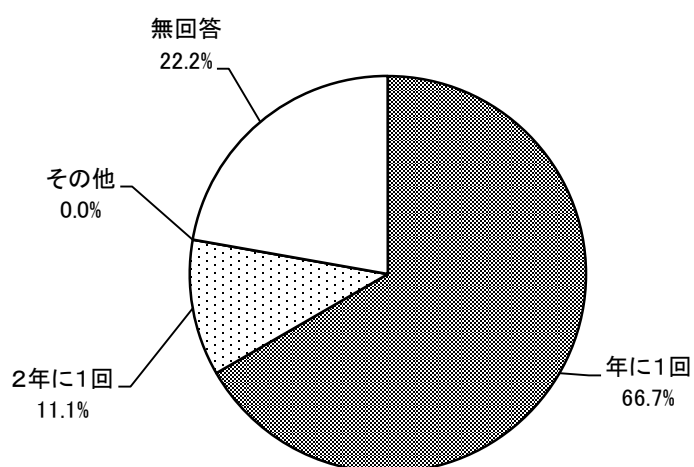


【 避難行動要支援者の情報の更新頻度 】

※Q14－3で「1. 定期的に更新している」と回答した方のみ

避難行動要支援者の情報の更新頻度では、「年に1回」(66.7%) が最も高く、次いで「2年に1回」(11.1%) の順となっている。

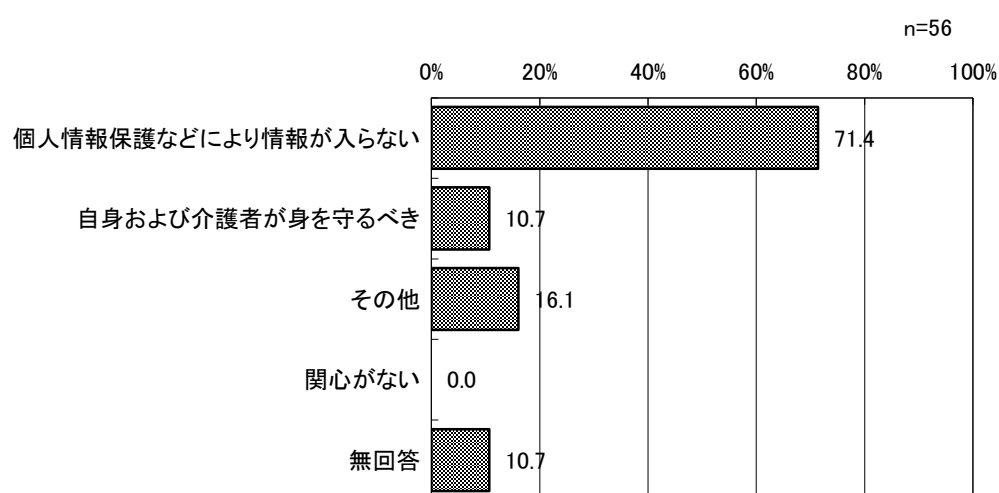
n=9



Q14ー4. 避難行動要支援者を把握していない理由を教えてください。

※Q14で「2.いいえ」、「3.わからない」と回答した方のみ
(複数回答で集計)

避難行動要支援者を把握していない理由では、「個人情報保護などにより情報が入らない」(71.4%)、「その他」(16.1%)、「自身および介護者が身を守るべき」(10.7%)の順となっている。



「身近な避難行動要支援者の把握状況、支援状況（Q14からQ14-4まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

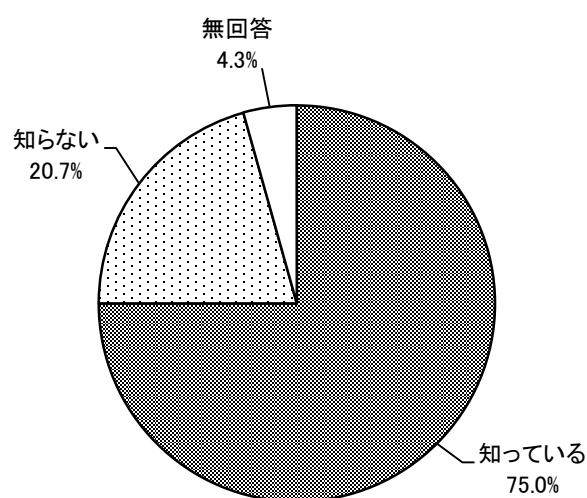
意 見
自治会の支部長と班長に一任している。
高齢者が多いためむずかしい。
要支援者の把握はなかなか情報収集が困難である。 丁寧な説明をして介護認定の必須項目にすべきだと思う。
個人情報保護法等の法律がある為、把握出来ない。
やはり災害がないから知らない又不要では大きな問題であり、他地区での見本等があればぜひ導入したいものです。
自治会として組織化の検討もしていない。 個人情報保護がいつも手かせ・足かせになっている。
たった 30 軒弱なので、今更確認できないというか、だいたい把握しています。
自治会ではQ14-2-2の様に作成して、責任者及び会長が名簿を保管している。 又、福祉委員が、1人暮らしの方、病人の方に月1回は、巡回をしている。
宮野町には、800 世帯以上を有している為、把握するのは困難。
民生委員は把握している。自治会に反映していない。
個人（会長として）的にはある程度把握しているつもりですが、名簿等には無理があると思う。
特にない。
近所の人には知っているが、何百人となればわからない。その時に会った人から救出したい。
個人情報保護のため支援してあげたくてもできない。
民生委員を兼務していたので大略理解しているつもりですが、「個人情報保護法」が壁になっているため、実行はなかなか難しいですよ。ある程度行政力がなければ。
運搬する機動力が足りない。自動車、車いす他。

■防災行政無線について

Q15. 市では、市内 40 箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。

市が災害情報を迅速に知らせる防災行政無線を整備していることを知っているかでは、「知っている」(75.0%) が「知らない」(20.7%) を大きく上回っている。

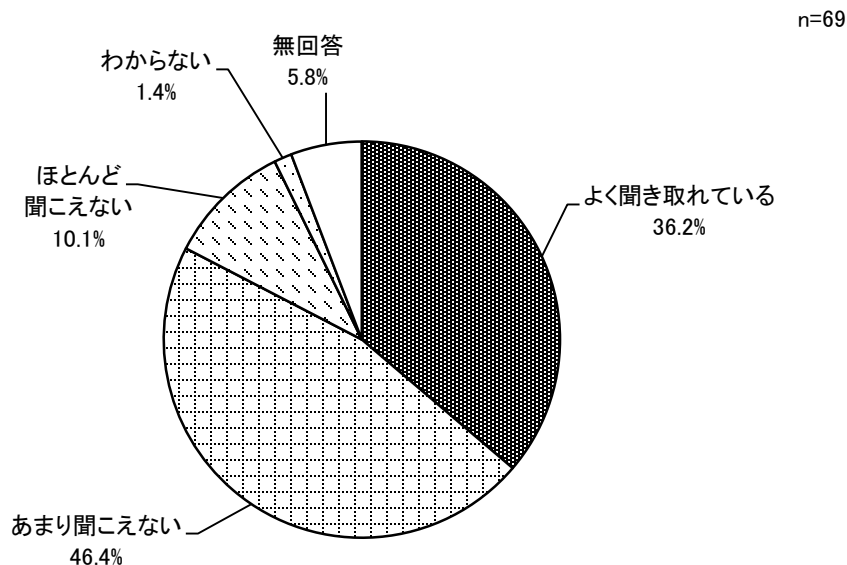
n=92



Q15－ 1. 防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

※Q15で「1.知っている」と回答した方のみ

防災行政無線の音声は聞き取りやすいかでは、「あまり聞こえない」（46.4％）が最も高く、「よく聞き取れている」（36.2％）との差は10ポイント以上ある。



【 「よく聞き取れている」と回答した自治会 】

自治会名				
元町	御堂南	幸福町西	ネコポ 門真東	門真上島住宅
西小路	常称寺町	朝日町	千石南	宮前町
泉町	上馬伏	南野口	末広速見	若葉
柳田町	北巢本	浜町北	上三ツ島	垣内町
下三ツ島	一番町	上島頭	桑才	中町
下馬伏				

【 「あまり聞こえない」と回答した自治会 】

自治会名				
北岸和田府住	野里町東地区	西打越	北岸和田	下島町
島頭東	五月田町協栄	本町第一	石原中	東岸和田
舟田町東	沖南	五月田中央	石原東町会	野里西
舟田町北	門真南	東北島	材コーポ 門真東2番街	東田町
江端西	コーポ 千石管理組合	松葉町	上野口町南	岸和田
栄町	島頭南	柳町	月出町	府営三ツ島住宅
脇田町	幸福町	市住本町団地		

【 「ほとんど聞こえない」と回答した自治会 】

自治会名				
葎島荘園	本町西	石原北	三ツ島南	沖町
末広町	新門真住宅	新橋町第三		

「防災行政無線（Q15 からQ15－1まで）」について、平常時の放送時間帯や放送内容などご意見がありましたらご記入ください。

【 回答一覧 】

意 見
江端には防災行政無線や屋外スピーカーは付いていない。
風の向によってあまり聞こえない。
個人宅用の貸出なども含めて音量の確保に努めてもらいたい。
緊急時は最初にサイレン等の通知が必要。
定期的に災害発生時の音色＋放送内容を決めて試験放送をして下さい。 例）ウーンウーン（高い音色で）60 秒後、震度も強い揺れがあり、身の安全を確保して下さい。等です！
放送の声・・・しゃべり方が早口ではなれた所では何を言っているかわからない。
放送内容・・・毎日同じ事言っていますね。
市へ放送用スピーカーの取り付けを依頼したが返事なし。 隣の朝日町と共同のスピーカー（会館は背中合わせ）を付ける事も一つの案。
窓を閉め切っていると聞えない。
防災行政無線の音声は最近移設され聞いたことがない。
あまり聞こえなく、内容がわかりにくい。
特にない。
風向きによって聞き取れない時がある。
平常時音声大きい。
放送する人の言葉のスピードが早すぎる。 市役所で呼び出しする位、ゆっくり正確に放送してもらえることを希望する。
場所により聞こえない住民もいる。
門真小学校から下校時間を知らせる放送内容は聞いた事があります。 新橋町第三自治会内には是非とも設置して頂きたい。
屋内にいますと放送内容等がよく聞こえない。 屋外でも音声が反影しているのかあまり内容等については理解しにくい。
自治会の危険時のマイク設備として利用させてもらいたい。

Ⅱ 防災談話で実施したアンケート（市実施）

1. アンケート実施概要

1-1 目的

市が独自に実施したアンケートは、地域防災計画を改定するに当たるうえで参考とすることを目的として実施された。

1-2 対象者及び回収枚数

アンケートは、市が実施した防災談話時に、以下の対象者及び団体に対して配布を行うとともに、その場で回収を行った。

表-13 アンケート実施概要

実施日	アンケート対象者	回収数
平成 25 年 5 月 11 日	柳町老人会	28
平成 25 年 10 月 19 日	下馬伏自治会	26
平成 25 年 10 月 20 日	大池町周辺住民	25
平成 25 年 11 月 9 日	上野口南自治会女性部	39
平成 25 年 11 月 13 日	大阪樟蔭女子大学	9
平成 25 年 11 月 22 日	大阪国際大学	24
平成 26 年 3 月 26 日	速見小学校・門真小学校区内住民	16
平成 26 年 6 月 1 日	門真小学校区地域住民	29
合 計		196

1-3 アンケートの内容・設問設定

アンケートの設問の内容については、下表のとおりであり、全設問が自由記入であった。

なお、アンケート調査結果票については、資料編に添付した。

表-14 アンケート設定設問

設問番号	設問内容
1	地震・風水害に対して、どんな備えをしていますか。
2	長期間の避難所生活には、どんな配慮・ルールが必要ですか。
3	どのような防災情報に興味、関心がありますか

2. 主なアンケート結果概要

アンケートの主な結果概要は以下のとおり。

【設問 1】

地震・風水害に対して、どんな備えをしていますか

例：家具の固定、非常持出品の準備、避難所の位置確認、排水溝の掃除など

主な結果概要
・ 非常持出品の準備
・ 水や食料の備蓄
・ 避難所の位置確認
・ 風呂や洗濯機に水をためている
・ 家具の固定、背の低い家具への変更
・ 排水溝の清掃
・ 保険への加入

【設問 2】

長期間の避難所生活には、どんな配慮・ルールが必要ですか

例：更衣室・授乳スペース、消灯時間のルール化、外国語の表記など

主な結果概要	
・ プライベート空間の確保	・ 更衣室
・ 食事のルール	・ トイレ、風呂の使い方や衛生面
・ 障がい者、高齢者等への配慮	・ 自助、共助、公助
・ 消灯時間のルール	・ 音（声、物音）、におい
・ 医療体制	・ 女性への配慮（女性部屋、授乳スペースの確保等）
・ ペット	・ 備蓄（水、食料、毛布等）
・ 情報の開示	・ 冷暖房
・ 外国人への配慮	・ 自治会等で事前のルール決め
・ 防犯	・ 1人あたりのスペース

【設問3】

どのような防災情報に興味、関心がありますか

主な結果概要
・ 非常持出品を販売している店舗の情報
・ 避難場所、避難路、避難時期
・ 被災予測情報（地震、津波等）
・ 地域の情報（気象、災害、ライフライン状況等）
・ 災害発生状況（台風、水害、火災等）
・ 災害発生時に市等から伝達される情報の内容
・ 防災グッズ
・ 被災時の支援、補助金
・ 市等が実施している防災対策

【その他意見】

主な結果概要
・ 市役所への非常持出品販売ブースの設置
・ 迅速で詳細な被害情報の伝達
・ 避難所が遠くて困る
・ 各地区での避難所の指定
・ 門真市内全域の下水化
・ 3日分の備蓄品は持って逃げられない
・ 視覚障がい者でもわかるマップ

Ⅲ 資料編

(1) 市民用アンケート調査票

地域防災計画の改定に係るアンケートへのご協力をお願い

平素は何かと門真市の市政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

門真市では平成 26 年度～27 年度の 2 ヶ年にわたって、門真市地域防災計画の改定を行う予定としており、今回の改定は地域防災計画の大幅な見直しを行うとともに、市民の方々や自治会、事業所・施設様の意見を取り入れた計画としたいと考えております。

本アンケート調査は、地域防災計画の改定に必要な基礎データを収集するための調査です。本調査は、全 2,700 通で市民、自治会、事業所・施設の皆様を対象に実施させて頂いております。回答結果につきましては、秘密を厳守し集計処理させていただきますので、ご理解頂きますよう重ねてお願いいたします。

平成 26 年 8 月

門真市総務部危機管理課

（ご記入にあたって）

1. 質問には、必ずあて名の方ご自身がお答えください。
2. ご回答は、調査票の該当する番号に○印をつけてください。
3. このアンケートにご回答された内容を他の目的に使用することはありません。
4. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて **9月16日（火）** までにご投函ください。

※返信していただくのは、調査票のみで結構です。

5. 本アンケートに関しましてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

（お問い合わせ先）

門真市総務部危機管理課 担当：森井、谷本

TEL 06-6902-1231（代表）

FAX 06-6902-4935

（アンケート調査委託業者：アンケート返信先）

国際航業株式会社 西日本事業本部 第一技術部 防災グループ



■防災に関する意識

(複数回答可)

-

1. 地震（建物倒壊、家具転倒、屋外被災、地震火災）
2. 津波
3. 火災
4. 河川のはん濫
5. 内水はん濫（下水のはん濫）
6. 竜巻、突風、台風など風による災害
7. 原子力災害（放射能）
8. その他（
9. 特になし
10. わからない

1. ある
2. ない
3. わからない

Q 3-1 ^

233

↓
Q 3 - 1. 話し合った内容について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 心構えについて
2. 避難の方法、時期、場所について
3. 保存食料・飲料水について
4. 非常持ち出し品について
5. 家族や親族との連絡手段について
6. 家屋の安全度について
7. 地域の災害危険箇所について
8. 過去に起きた居住地域の災害について
9. 過去に起きた居住以外の地域の災害について
10. その他（)
11. わからない



Q 4. あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 避難所の位置を確認している
2. 実際に避難所まで行き、避難経路も確認している
3. 家族との連絡方法を決めている
4. 家族が落ち合う場所を決めている
5. 特に何もしていない
6. その他（)

Q 5. 災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 避難所案内看板
2. 避難所案内板
3. 防災行政無線（同報系）
4. 緊急地震速報
5. 緊急速報メール
6. FMハナコの放送（82.4MHz）
7. テレビのデータ放送（dボタン）
8. インターネット
9. 市の広報車による案内
10. ハザードマップ



防災行政無線屋外スピーカー

【緊急地震速報とは・・・】

緊急地震速報とは、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。

【緊急速報メールとは・・・】

緊急速報メールとは、緊急地震速報に加えて国や自治体が発信する「災害・避難情報」や「津波警報」などを携帯電話へ発信するサービスのことです。

次頁に続きます

Q 6. 東日本大震災以降、地震に対する国や府の被害想定が見直され、南海トラフ地震の想定もされています。府の想定では、市域でも震度6弱程度の想定がされていますが、巨大地震災害で被災することについてどのように感じていますか。

- 1. すぐにでも来て被災すると思う
⇒ “1”と答えた方は Q 6 - 1 もお答えください。
- 2. 将来被災すると思う
⇒ “2”と答えた方は Q 6 - 1 もお答えください。
- 3. 自分は被災しないと思う
- 4. わからない

Q 6 - 1. 被災した場合、どのような危険があると思いますか。

- 1. 命の危険がある
- 2. 大けが、やけど
- 3. 軽いけが
- 4. 危険はない
- 5. 知らない

「防災に関する意識（Q 1 から Q 6 - 1 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■被害軽減策の実施状況

（防災訓練）

Q 7. 過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがありますか。

- 1. 参加した
- 2. 参加したかったが参加できなかった
⇒ “2”と答えた方は Q 7 - 1 もお答えください。
- 3. 参加しなかった
⇒ “3”と答えた方は Q 7 - 1 もお答えください。



Q 7 - 1. 参加しなかった理由は何ですか。

- 1. 予定が入っていた
- 2. 面倒だった
- 3. 訓練当日の体調がすぐれなかった
- 4. 体が不自由なため
- 5. 訓練の実施を知らなかった
⇒ “5”と答えた方は Q 7 - 2 もお答えください。
- 6. 訓練が実施されていない
⇒ “6”と答えた方は Q 7 - 2 もお答えください。
- 7. その他（)



Q 7 - 2 へ

次頁に続きます

↓
Q 7 - 2. 防災訓練が実施された場合もしくは 実施を知った場合は参加すると思いますか。

1. 参加すると思う
2. たぶん参加すると思う
3. どちらともいえない
4. 参加しないと思う



(建物耐震化や家具転倒防止策など)

Q 8. あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。あてはまるものを全てあげてください。(複数回答可)

1. 消火器や水をはったバケツを準備している
2. いつも風呂の水をためおきしている
3. 家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している
4. 耐震性のある家に住んでいる(耐震補強工事をした)
5. 自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険(地震被害を補償する共済を含む)に加入している
6. 感震ブレーカー(揺れを感知して電気を止める器具)を設置している
7. その他()
8. 特に何もしていない
9. わからない

Q 9. 地震で火災が多く発生した場合には、消防隊が不足すること考えられます。到着が遅れる場合に、地震火災による被害を最小限に抑えるために必要だと思うことは何ですか。(2つまで回答可)

1. 家庭内での初期消火活動(火災発生の抑制)
2. 近隣住民の協力による消火活動
3. 消防団の活動
4. 自主防災組織の活動
5. 他の消防機関の応援(他府県の消防機関など)
6. その他()
7. わからない



Q10. 市では古い住宅の耐震診断の助成をしていますが、利用していますか。

1. 利用した
2. 利用していないが、今後利用したい
3. 利用していない(理由)

「被害軽減策の実施状況(Q 7からQ10 まで)」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■非常時持出品、備蓄物資の準備状況

Q11. あなたの家では災害時のために、持出品の準備や備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 保存食料を準備している ⇒ “1”と答えた方は Q11-1 もお答えください。
2. 飲料水を準備している ⇒ “2”と答えた方は Q11-2 もお答えください。
3. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している
4. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している
5. 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している
6. 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している
7. 食料に配慮の必要な人用の食料（食物アレルギー対応など）を準備している
8. その他（)
9. 特に何も準備していない

Q11-1. ご自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせるとお考えですか。

1. 1～2日
2. 3～4日
3. 5～6日
4. 7日以上



Q11-2. ご自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。ご家族1人あたり1日3リットルで計算してください。

1. 1～2日
2. 3～4日
3. 5～6日
4. 7日以上



「非常時持出品、備蓄物資の準備状況（Q11 からQ11-2 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■行政に求める支援策、情報提供

Q12. あなたは、**普段**防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいと思いますか。あてはまるもの全てあげてください。（複数回答可）

1. 学校での教育
2. 防災訓練・避難訓練
3. 防災に関する展示会やシンポジウム
4. 公民館や図書館で行う防災に関する講座やセミナー
5. 大学の教授など専門家の講演会
6. 市や国、府、消防などで配布するパンフレット
7. インターネット
8. 市のホームページ、広報紙
9. 自治会などの会合や知人・友人等との会話
10. テレビやラジオ
11. 新聞や雑誌
12. その他（)
13. 特にない
14. わからない



Q13. あなたがお住まいになっている地域で、**普段**災害の危険性に関する情報や災害対策に役立つ情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 居住地域で過去に災害が発生した場所を示す地図
2. 自宅がある場所での被災実績
3. 災害時の避難所・避難経路
4. 災害を受ける危険度を示した地図（ハザードマップなど）
5. 街中の災害情報に関する標識類
6. 学校や社会福祉施設、医療機関などの公共的施設の耐震性
7. 災害時に提供される情報の内容、入手先、利用方法
8. 災害時に必要となる気象や雨量などに関する用語の解説
9. その他（)
10. 特にない
11. わからない

次頁に続きます

Q14. あなたがお住まいの地域で、災害時に提供される情報について、あなたが現在より充実してほしいものは何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 震度・雨量・特別警報などの情報
2. 地域の危険箇所
3. 一時避難地・学校の被害状況
4. 交通機関の運行状況
5. 道路の開通・規制状況
6. 自治体による避難勧告や避難指示など
7. 避難所（災害時に一定の期間避難生活をする施設）の開設状況
8. 家族や知人の安否
9. けが人や救急患者の受入れ病院
10. 救援物資が受け取れる場所の情報など
11. ガソリンなど燃料を給油できる場所の情報
12. ライフラインの復旧見通し
13. その他()
14. 特にない
15. わからない



Q15. あなたは、現在、防災全般に関する知識や情報を何によって入手していますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌・書籍
5. 国や地方公共団体などのパンフレット
6. 防災訓練・避難訓練
7. 防災に関する展示会・講演会・セミナー・シンポジウムなど
8. 防災情報のホームページ・アプリなどの情報
9. ツイッター・facebook などの情報
10. 地域の会合
11. 防災士
12. 勤務先・通学先
13. 家族・知人
14. その他()
15. 特にない
16. わからない



【防災士とは・・・】

防災士とは、自助・互助・協働を原則として、防災の意識・知識・技能をもっていと認められた人で、社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつ、そのために十分な意識・知識・技能を有するものとして、NPO 法人日本防災士機構が認定した人たちです。

次頁に続きます

Q16. 地域の自主防災力を高めるためには、何が最も重要だと考えますか。
(3つまで回答可)

1. 日頃からの近隣のコミュニケーションづくり
2. 地域独自の防災マップの作成
3. 地域ぐるみの実践的な防災訓練の実施
4. 地域自主防災組織の充実
5. 防災リーダー研修の充実
6. 資機材の充実
7. 備蓄物資の充実
8. その他()
9. 特にない
10. わからない



「行政に求める支援策、情報提供（Q12 から Q16 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■提供可能な支援

Q17. 地域で大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要になった場合、あなたなら何ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 病人、高齢者の避難の手助け
2. 乳幼児の避難の手助け
3. 外国人の避難の手助け
4. 火災が発生したときの初期消火
5. 負傷者（下敷きになった人など）の救出
6. 負傷者の救護（応急手当など）
7. 負傷者の搬送
8. 食料・備蓄の提供
9. 井戸水の提供
10. その他()
11. そのときになってみないとわからない
12. 何もできない



次頁に続きます

「提供可能な支援（Q17）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■ 身近な避難行動要支援者に対する支援

Q18. 避難行動要支援者に対する支援について、災害時の市による活動のほかに、重要な活動主体は何だと思えますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 民生委員児童委員
2. 消防署
3. 消防団
4. 警察
5. 自治会等
6. ボランティア組織等
7. 福祉・介護事業者
8. 企業等の自主組織
9. 個人一人ひとり
10. その他（ ）
11. わからない

【避難行動要支援者とは・・・】

要配慮者のうち、生活の基盤が自宅にあり、かつ災害が発生し、又は発生するおそれのある場合に自ら避難することが著しく困難である方をいいます。

【要配慮者とは・・・】

高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦など特に配慮が必要な方をいいます。
以前は「災害時要援護者」と呼んでいましたが、法律の改正に伴い、名称を変更しました。

次頁に続きます

Q19. 災害時に避難する際、近所に避難行動要支援者がいた場合に、その方の避難を手助けすることができると思いますか。

1. できると思う ⇒ “1”と答えた方は Q19-1 もお答えください。
2. 他の人と一緒にあればできると思う ⇒ “2”と答えた方は Q19-1 もお答えください。
3. 呼びかけがあればできると思う ⇒ “3”と答えた方は Q19-1 もお答えください。
4. 自分や家族の避難が精いっぱい、他の人の支援はできない
5. 状況がどうであれ支援はできない
6. わからない
- 



Q19-1. 避難の手助けの具体的な内容を教えてください。

1. 一緒に避難する
2. 玄関先から避難するよう声かけをする
3. その他（

「身近な避難行動要支援者に対する支援（Q18 からQ19－1まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■良好な避難所生活環境の確保に向けた方策

Q20. あなたは、避難する一時避難地、避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。

1. 決めている（一時避難地名： 避難所名： ）
 2. 一時避難地だけ決めている（一時避難地名： ）
 3. 避難所だけ決めている（避難所名： ）
 4. 決めていない
 5. 一時避難地や避難所に避難するつもりはない

【一時避難地とは・・・】

余震などの二次災害に備えて一時的に自主避難できる場所のことです。



【避難所とは・・・】

災害時に自宅が倒壊した場合や、水や電気等が使用できない場合に、一定期間生活を送る施設のことです。

次頁に続きます

Q21. 自宅に大きな被害がない場合や避難指示区域に指定されていない場合、避難所に避難しますか。

1. 避難所へ避難する
2. 避難所へ避難しない ⇒ “2”と答えた方は Q21-1 もお答えください。

Q21-1. 避難所へ避難しない理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 避難所が遠すぎるから
2. どこが避難所なのか知らないから
3. 避難所ではプライバシーが守られないから
4. 避難所よりも自宅のほうが安全だから
5. 避難所が衛生面で心配だから
6. 避難の際、途中の道に危険なところがあるから
7. 避難の際、混乱による危険が予想されるから
8. 自宅で備蓄物資をもとに生活するから
9. 食料のみ避難所にもらいに行くから
10. 市外の親類や知人などの家に避難するから
11. 自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから
12. 家族に高齢者や病人がいるから
13. 精神的、肉体的な疲労・影響が大きいと思うから
14. その他（



Q22. 市は被災者がどこの避難所にも避難できるように、避難先を固定していないことについてどう思いますか。

1. 固定は不要だと思う
2. 校区毎に決めてもらいたい
3. 町別に具体的に決めてもらいたい
4. その他（

Q23. 避難先から自宅に戻ると考える最大のきっかけは何ですか。

【風水害の場合】

1. 雨がやんだとき
2. 風がやんだとき
3. 河川の水位が下がったとき
4. 周囲の人が自宅に戻ったとき
5. 避難勧告が解除されたとき
6. その他 ()

【地震の場合】

1. 電気が復旧したとき
2. ガスが復旧したとき
3. 水道が復旧したとき
4. 電話が復旧したとき
5. 周囲の人が自宅に戻ったとき
6. 避難勧告が解除されたとき
7. 余震が少なくなったとき
8. 自宅建物が応急危険度判定で安全（調査済）とされたとき
9. その他（ ）

次頁に続きます

Q24. 避難所において最も充実してほしいことは何ですか。（3つまで回答可）

1. 被災情報の提供
2. 救援情報の提供
3. 安否情報の提供
4. 食料・飲料水の提供
5. 衣料・日用品の提供
6. 高齢者等要援護者への支援
7. 女性、子どもへの配慮
8. 睡眠・安息の場の提供
9. プライバシーの確保
10. 傷病を治療する救護活動
11. 健康相談等の保健活動
12. 着替えや授乳場所の提供
13. トイレ
14. お風呂
15. ペットのケア
16. その他（
17. 特にない



「良好な避難所生活環境の確保に向けた方策（Q20 から Q24 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■防災行政無線について

Q25. 市では、市内40箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。

1. 知っている ⇒ ” 1 ” と答えた方は Q25-1 もお答えください。
2. 知らない

Q25-1. 防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

1. よく聞き取れている
2. あまり聞こえない
3. ほとんど聞こえない
4. わからない



防災行政無線
屋外スピーカー

次頁に続きます

「防災行政無線（Q25 から Q25－1 まで）」について、平常時の放送時間帯や放送内容などご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■質問は終わりですが、最後にあなたのことについてお答えください。

問 1 性別

1. 男性 2. 女性

問 2 年齢

1. 10 代 2. 20 代 3. 30 代 4. 40 代 5. 50 代 6. 60 代 7. 70 代
8. 80 代 9. 90 代 10. 100 歳以上

問 3 住所

1. 朝日町	2. 泉町	3. 石原町	4. 一番町
5. 大字打越	6. 打越町	7. 江端町	8. 大池町
9. 大橋町	10. 大倉町	11. 沖町	12. 垣内町
13. 上野口町	14. 上島町	15. 大字北島	16. 北島町
17. 岸和田 1 丁目	18. 岸和田 2 丁目	19. 岸和田 3 丁目	20. 岸和田 4 丁目
21. 北岸和田 1 丁目	22. 北岸和田 2 丁目	23. 北岸和田 3 丁目	24. 北巢本町
25. 大字桑才	26. 桑才新町	27. 幸福町	28. 寿町
29. 栄町	30. 五月田町	31. 大字三番	32. 小路町
33. 新橋町	34. 常称寺町	35. 下島町	36. 四宮 1 丁目
37. 四宮 2 丁目	38. 四宮 3 丁目	39. 四宮 4 丁目	40. 四宮 5 丁目
41. 四宮 6 丁目	42. 城垣町	43. 下馬伏町	44. 島頭 1 丁目
45. 島頭 2 丁目	46. 島頭 3 丁目	47. 島頭 4 丁目	48. 末広町
49. 巢本町	50. 千石東町	51. 千石西町	52. 月出町
53. 堂山町	54. 常盤町	55. 殿島町	56. 中町
57. 大字野口	58. 野里町	59. 浜町	60. 速見町
61. 東江端町	62. 東田町	63. 大字蔦島	64. 舟田町
65. 古川町	66. 深田町	67. 本町	68. 松葉町
69. 松生町	70. 御堂町	71. 三ツ島 1 丁目	72. 三ツ島 2 丁目
73. 三ツ島 3 丁目	74. 大字三ツ島	75. 南野口町	76. 宮野町
77. 宮前町	78. 向島町	79. 元町	80. 柳町
81. 柳田町	82. 大字横地	83. 脇田町	

次頁に続きます

問5 職業

1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 学生 5. パート・アルバイト
6. 無職 7. その他()

問6 居住形態（家族構成）

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 家族（子どもと同居）
4. 家族（親と同居） 5. 家族（親と子どもと同居） 6. 家族（子どもと孫と同居）
7. 兄弟姉妹と同居 8. その他（

問 7 避難行動要支援者の有無

1. 本人 2. 家族にいる 3. 家族にいない

問 8 住居の状況

1. 一戸建て 2. マンション 3. アパート 4. その他 ()

問 9 住居の建築年

1. 昭和 56 年より前 2. 昭和 56 年以降 3. 不明

【耐震設計基準の改正について】

昭和56年に、宮城県沖地震（昭和53年）を踏まえて耐震設計基準が大幅に改正され、**新耐震設計基準が導入**されました。

この新耐震設計基準による建築物は、阪神大震災においても被害が少なかったとされています。

問 10 住居の築年数

1. 築 20 年以上 2. 築 10 年以上～20 年未満 3. 築 5 年以上～10 年未満
4. 築 5 年未満 5. 不明

問 11 所属している自治会

1. 所属している自治会名 () 2. 所属していない

質問はこれで終わりです。**空欄**になっている箇所はございませんでしょうか。
また、**○のつけ忘れ**、あるいは**○のつけすぎ**はございませんでしょうか。
恐れ入りますが、**もう一度ご確認ください**。



※ご協力ありがとうございました。この調査票のみ返信用の封筒に入れて投函してください

(2) 事業所・施設用アンケート調査票

地域防災計画の改定に係るアンケートへのご協力のお願い

平素は何かと門真市の市政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

門真市では平成 26 年度～27 年度の 2 ヶ年にわたって、門真市地域防災計画の改定を行う予定としており、今回の改定は地域防災計画の大幅な見直しを行うとともに、市民の方々や自治会、事業所・施設様の意見を取り入れた計画としたいと考えております。

本アンケート調査は、地域防災計画の改定に必要な基礎データを収集するための調査です。本調査は、全 2,700 通で市民、自治会、事業所・施設の皆様を対象に実施させて頂いております。回答結果につきましては、秘密を厳守し集計処理させていただきますので、ご理解頂きますよう重ねてお願いいたします。

平成 26 年 8 月

門真市総務部危機管理課

（ご記入にあたって）

1. 質問には、必ず事業所・施設の代表者様もしくは代理の方がお答えください。
2. ご回答は、調査票の該当する番号に○印をつけてください。
3. このアンケートは事業所様、高齢者福祉施設様、私立幼稚園・保育園様、障がい者施設様等に送付させていただいております。そのため、回答欄の内容が回答者様のお立場に合致しない場合があるかと思えます。その場合は、お手数をおかけしますが回答者様のお立場に読み替えていただき、ご回答ください。
4. このアンケートにご回答された内容を他の目的に使用、または他の機関に譲渡することはありません。
5. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて **9 月 16 日（火）** までにご投函ください。
※返信していただくのは、調査票のみで結構です。
6. 本アンケートに関しましてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

（お問い合わせ先）

門真市総務部危機管理課 担当：森井、谷本

TEL 06-6902-1231（代表）

FAX 06-6902-4935

（アンケート調査委託業者：アンケート返信先）

国際航業株式会社 西日本事業本部 第一技術部 防災グループ



地域防災に関するアンケート調査票【事業所・施設】

はじめに、差し支えなければ貴事業所名をご記入ください。

事業所名	
------	--

■防災に関する意識

Q 1. 自然災害によってもたらされる次の被害のうち、貴事業所等が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 地震
2. 津波
3. 火災
4. 河川のはん濫
5. 内水はん濫（下水のはん濫）
6. 竜巻、突風、台風など風による災害
7. 原子力災害（放射能）
8. 具体的にイメージしたことがない
9. その他（ ）
10. わからない



Q 2. 災害に対する貴事業所全体の意識として、以下の①～④のそれぞれについて、最も当てはまる番号を1つずつ○で囲んでください。

	そう 思う	う や や そう 思	い え な い	ど ち ら と も	思 わ な い	あ ま り そ う	い そ う 思 わ な
①将来、事業の継続を妨げるような災害が発生すると思う	1	2	3	4	5		
②防災に取り組むことは企業としての責務である	1	2	3	4	5		
③災害対策費用（耐震工事費、改修費、地震保険料、新型インフルエンザの対策費等）をあまりかけたくない	1	2	3	4	5		
④国や自治体の防災施策の推進に協力したい	1	2	3	4	5		

「防災に関する意識（Q 1 から Q 2 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■被害軽減策の実施状況

Q 3. 貴事業所は、災害発生時の対応などを取り決めた、文書化された防災計画（法定の防火計画を除く）または文書化された行動マニュアル（災害発生時の社員の行動指針や役割分担を取り決めたもの）を策定していますか。

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1. 策定済み | ⇒ “1” と答えた方は Q 3 - 1 もお答えください。 |
| 2. 策定中 | ⇒ “2” と答えた方は Q 3 - 1 もお答えください。 |
| 3. 策定する予定 | ⇒ “3” と答えた方は Q 3 - 1 もお答えください。 |
| 4. 策定するかどうか検討中 | |

Q 3 - 1. 防災計画または行動マニュアルの策定に際し、想定した災害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 地震
2. 風水害
3. 雪害
4. 火災
5. 新型インフルエンザ
6. 情報システムの重大な障害発生
7. その他（



)

Q 4. 貴事業所ではどのような防災対策を実施しましたか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

（事業所のハード面の防災対策の状況）

	実施済み	実施予定	予定なし
建物の耐震診断	1	1	1
建物の耐震補強・改修	2	2	2
生産ライン（機械設備等）の耐震化	3	3	3
建物における外壁の補強	4	4	4
ガラスの飛散防止	5	5	5
屋外看板等の落下防止	6	6	6
事業所内の什器・設備・機械等の固定	7	7	7
通信回線のバックアップ、データのバックアップ	8	8	8
自家発電装置の設置	9	9	9
廊下等の段差の解消・手すり設置	10	10	10
その他①（	11	11	11
その他②（	12	12	12
その他③（	13	13	13
その他④（	14	14	14

次頁に続きます

(事業所のソフト面での防災対策の状況)

	実施済み	実施予定	予定なし
従業員への防災教育・講習	1	1	1
防災対策マニュアルの策定	2	2	2
緊急連絡網等の連絡体制の整備	3	3	3
消火訓練実施	4	4	4
避難訓練の実施	5	5	5
保有機材を用いた救出訓練	6	6	6
安否確認訓練の実施	7	7	7
応急手当訓練の実施	8	8	8
一時避難地等の避難先の従業員への周知	9	9	9
行政との協定の締結	10	10	10
近隣事業所との連携	11	11	11
近隣住民の防災組織との連携	12	12	12
その他① ()	13	13	13
その他② ()	14	14	14
その他③ ()	15	15	15
その他④ ()	16	16	16

Q 5. 貴事業所では、災害用に食料等の備蓄を行っていますか。あてはまるものを全てあげてください。(複数回答可)

1. 照明
2. 飲料水
3. 食料
4. 携帯ラジオ
5. 毛布
6. 簡易トイレ
7. 暖房器具
8. 発電機
9. 燃料
10. 食料に配慮の必要な人用の食料 (食物アレルギー対応など)
11. その他 ()
12. 備蓄は行っていない

⇒ “2” と答えた方は Q 5 - 1 もお答えください。

⇒ “3” と答えた方は Q 5 - 2 もお答えください。

Q 5 - 1. 貴事業所で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか。従業員または利用者 1 人あたり 1 日 3 リットルで計算してください。

1. 1 ～ 2 日
2. 3 ～ 4 日
3. 5 ～ 6 日
4. 7 日以上



Q 5 - 2 へ

次頁に続きます

Q7-1. 業務継続のための具体的な取り組み状況について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. データベース等のバックアップについて、遠距離で安全な場所への保管
2. 営業・生産拠点等の分散化
3. 営業遂行のために必要な予備電源の確保
4. 災害発生後に実施する諸設備における点検票の整備
5. 業務継続に必要な記録や文書類の保全対策
6. 顧客や取引先のリストの整備、適切な保管
7. 部品やサービスを調達する取引先の分散化、または代替業者のリストアップ
8. 緊急に必要な業務上の資機材・物資の調達方法の確立
9. 業務再開のために必要な緊急輸送や緊急車両の燃料の確保
10. その他（

Q7-2. 策定した理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. リスクマネジメントの一環として
2. 企業の社会的責任（CSR）や情報提供活動の観点から
3. 過去の災害、事故の経験から
4. 親会社・グループ会社等の要請から
5. 市役所等の行政の要請から
6. 入所者本人や家族の要請から
7. 国や自治体、業界団体のガイドライン等を見て
8. 国内の取引先の要請から
9. 災害対策基本法、消防法等の法令・規制上等の要求から
10. 業界団体の要請から
11. 企業イメージ向上のため
12. 海外の取引先の要請から
13. 株主の要請から
14. 国や自治体、NPO、業界団体等が主催する講習会・セミナーを受講して
15. 新聞、雑誌、書籍等を見て
16. 耐震診断の実施結果から
17. 国や自治体のホームページを見て
18. コンサルティング企業からの勧めにより
19. 企業のホームページを見て
20. 銀行・債権者の要請から
21. 策定にかかった経費への優遇措置（BCPローン、格付融資等）の存在を知って
22. その他（ ）

Q 7 - 3 ~ Q 7 - 4 ^

↓
Q 7－3. 策定時の問題点・課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 策定に必要なスキル・ノウハウがない
2. 部署間の連携が難しい
3. 策定する人手を確保できない
4. サプライチェーン内での調整が難しい
5. 重要業務の絞込みが難しい
6. B C Pに対する現場の意識が低い
7. 策定の費用の確保が難しい
8. バックアップシステムの構築が難しい
9. B C Pの内容に関する情報が不足している
10. 代替オフィス等の対策費用が高い
11. 同業他社との相互協力関係の構築が難しい
12. B C Pに対する経営層の意識が低い
13. 法令、規制等の順守義務との整合が難しい
14. ガイドライン等に自組織の業種に即した例示がない
15. 税制優遇措置などの財務手当支援が不十分
16. B C Pに関する地方自治体の相談窓口がわからない
17. B C Pに関するコンサルティング企業等の相談窓口がわからない
18. 民間のB C P支援サービスが不十分
19. その他()
20. 特にない

Q 7－4. 未策定の理由は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。(複数回答可)

1. 策定に必要なスキル・ノウハウがない
2. 法令、規制等の要請がない
3. 策定する人手を確保できない
4. 策定の費用が確保できない
5. 策定の効果が期待できない
6. 経営層がB C Pの重要性を認識していない
7. 親会社・グループ会社等の要請がない
8. 市役所等の行政からの要請がない
9. 顧客、取引先からの要請がない
10. 入所者本人や家族からの要請がない
11. 代替オフィス等の対策経費が確保できない
12. 災害とは無縁であると考えている
13. ガイドライン等に自組織の業種に即した例示がない
14. 策定に際して地方自治体の相談窓口が分からない
15. 国や地方自治体の入札要件にない
16. 策定に際してコンサルティング企業等の相談窓口が分からない
17. 策定する必要性を感じない
18. その他()



「業務継続計画等の策定状況 (Q 7からQ 7－4まで)」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■社員、顧客の安全確認方法

Q 8. 貴事業所で従業員や入所者等を対象に実施・参加している訓練等について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 初期消火訓練
2. 負傷者の救出訓練
3. 応急救護訓練（A E D使用訓練など）
4. 防災資機材・防災用品の取扱訓練
5. 一時避難地・避難所までの避難訓練
6. 避難行動要支援者訓練
7. 避難所宿泊体験訓練
8. 炊き出し訓練
9. 地図等を使った図上訓練
10. 地域内の危険箇所の点検・マップ作成
11. 防災知識の普及（講演会・研修会など）
12. 店舗等で営業時間中の顧客の避難誘導訓練
13. 起震車体験
14. その他（
15. 特になし



)

Q 9. 社員と会社との安否確認の手段は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 携帯・固定電話（通話）
2. メール
3. 災害用伝言ダイヤル（171）
4. 災害用伝言板（web171）
5. facebook
6. ツイッター
7. その他（



)

【災害用伝言ダイヤル（171）とは・・・】

災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板のことです。

【災害用伝言板（web171）とは・・・】

災害用伝言板（web171）は、インターネットを利用して被災地の方の安否確認を行う伝言板です。

次頁に続きます

Q10. 地震災害が発生した場合、貴事業所の社員が避難する場所はどこに指定していますか。

1. 行政により指定されている一時避難地・広域避難地・避難所
2. 自社の事務所
3. 自社の駐車場・広場など
4. その他()
5. 特に指定していない

「社員、顧客の安全確認方法（Q8からQ10 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■帰宅困難者対策

Q11. 貴事業所の社員で帰宅困難者の発生が予想されますか。

1. 予想される
2. いないと思う
3. わからない

【帰宅困難者とは・・・】

大災害で公共交通機関が止まった際、勤務先や通学先から自宅までの距離があり、徒歩での帰宅が難しい人。内閣府は、自宅まで20キロ以上の全員を帰宅困難者としています。帰宅困難者が大量発生した場合、集団転倒のほか、火災に巻き込まれたり、建物からの落下物に当たったりして二次的な死傷者が出るおそれがあります。

Q12. 貴事業所では災害が発生したときに従業員に対してどのように対応しますか。

1. 全員帰宅させる
2. 災害後の対応に必要な人員を残して帰宅させる
3. 近隣の者は帰宅させ、その他は事業所内に待機させる
4. 原則的に、全員事業所内に待機させる
5. その他()



次頁に続きます

Q13. 地震等の発生により鉄道等が運行停止した場合、あなたの会社では、むやみに移動を開始せず、施設内で待機する等、一斉帰宅の抑制について、取り決めをしていますか。

1. している
2. していない
3. わからない

⇒” 1 ” と答えた方は Q13-1 もお答えください。

Q13-1. 具体的にどんな取り決めをしていますか。(自由記述)

【回答欄】

Q14. 貴事業所で実施している帰宅支援対策はありますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 徒歩帰宅マップの作成・配布
2. 徒歩帰宅に関する従業員への教育
3. 徒歩帰宅訓練への参加促進（または実施）
4. 災害時の時差帰宅の推進
5. 災害時帰宅支援ステーション等に関する情報提供
6. その他（
7. 実施していない

【災害時帰宅支援ステーションとは・・・】

災害時の徒歩帰宅者を支援するために「水道水」、「トイレ」、「道路情報などの情報」の提供をしていただける店舗を『災害時帰宅支援ステーション』といいます。

支援サービスが可能な店舗では、店舗入口付近にステッカーを掲出しています。



ステーション
ステッカー

「帰宅困難者対策（Q11 から Q14 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■行政に提供可能な支援、物資

Q15. 災害発生時、行政に対する支援・協力についてどのように考えていますか。

- 1. 積極的に支援したい ⇒”1”と答えた方は Q15-1 もお答えください。
- 2. 自社の状況にもよるが、できる限り支援したい ⇒”2”と答えた方は Q15-1 もお答えください。
- 3. 自社のことで手一杯で支援は考えていない
- 4. わからない

Q15-1. 行政に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

- 1. 避難場所の提供
- 2. モノの提供（自社の設備、備品等の提供）
- 3. 商品の提供 ⇒（具体的商品名）
- 4. 人の提供（従業員等の派遣）
- 5. 業務に係る協力（道路復旧、援助物資の保管・仕分け、配送等）
- 6. 義援金の提供
- 7. 災害発生前に協定の締結
- 8. その他（）
- 9. わからない

「行政に提供可能な支援、物資（Q15 から Q15-1 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■地域に提供可能な支援、物資

Q16. 貴事業所周辺の地域住民とはどのような連携・協力をしていますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

- 1. 近隣住民と日頃から親しくしている
- 2. 自治会等が主催する防災訓練に参加している
- 3. 自治会活動への協力
- 4. 祭、イベント等への参加
- 5. その他（）
- 6. 何もしていない



次頁に続きます

Q17. 災害発生時、地域に対する支援・協力についてどのように考えていますか。

- 1. 積極的に支援したい ⇒ ”1” と答えた方は Q17-1 もお答えください。
- 2. 自社の状況にもよるが、できる限り支援したい ⇒ ”2” と答えた方は Q17-1 もお答えください。
- 3. 自社のことで手一杯で支援は考えていない
- 4. わからない

Q17-1. 地域に対してどのような支援・協力が可能と考えられますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

- 1. 避難場所の提供
- 2. モノの提供（自社の設備、備品等の提供）
- 3. 商品の提供 ⇒（具体的商品名）
- 4. 人の提供（従業員等の派遣）
- 5. 業務に係る協力（道路復旧、援助物資の保管・仕分け、配送等）
- 6. 義援金の提供
- 7. その他（）
- 8. わからない

Q18. 周辺地域との災害時の連携・協力を進める上で、問題や課題は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

- 1. 人的な余裕がない
- 2. 資金的な余裕がない
- 3. 日常的に地域とのつながりが全くない
- 4. 地域連携・協力に対する優先順位が低い
- 5. どのように連携・協力したらよいか分からない
- 6. 連携・協力は必要ないとする
- 7. すでに連携あるいは協力関係にある
- 8. その他（）

「地域に提供可能な支援、物資（Q16 からQ18 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■行政に求める支援策

Q19. 以下のうち、貴事業所が通常時に活用したい支援施策について、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. B C P 策定支援
2. 資金支援
3. 人的支援
4. 情報提供
5. その他 ()
6. 特になし

「行政に求める支援策（通常時または災害時）（Q19）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

質問はこれで終わりです。**空欄**になっている箇所はございませんでしょうか。
また、**○のつけ忘れ**、あるいは**○のつけすぎ**はございませんでしょうか。
恐れ入りますが、**もう一度ご確認ください**。



※ご協力ありがとうございました。この調査票のみ返信用の封筒に入れて投函してください

(3) 自治会用アンケート調査票

地域防災計画の改定に係るアンケートへのご協力のお願い

平素は何かと門真市の市政にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

門真市では平成 26 年度～27 年度の 2 ヶ年にわたって、門真市地域防災計画の改定を行う予定としており、今回の改定は地域防災計画の大幅な見直しを行うとともに、市民の方々や自治会、事業所・施設様の意見を取り入れた計画としたいと考えております。

本アンケート調査は、地域防災計画の改定に必要な基礎データを収集するための調査です。本調査は、全 2,700 通で市民、自治会、事業所・施設の皆様を対象に実施させて頂いております。回答結果につきましては、秘密を厳守し集計処理させていただきますので、ご理解頂きますよう重ねてお願いいたします。

平成 26 年 8 月

門真市総務部危機管理課

（ご記入にあたって）

1. 質問には、必ず自治会の会長様もしくは代理の方がお答えください。
2. ご回答は、調査票の該当する番号に○印をつけてください。
3. このアンケートにご回答された内容を他の目的に使用することはありません。
4. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて **9 月 16 日（火）** までにご投函ください。

※返信していただくのは、調査票のみで結構です。

5. 本アンケートに関しましてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

（お問い合わせ先）

門真市総務部危機管理課 担当：森井、谷本

TEL 06-6902-1231（代表）

FAX 06-6902-4935

**（アンケート調査委託業者：アンケート返信先）**

国際航業株式会社 西日本事業本部 第一技術部 防災グループ

地域防災に関するアンケート調査票【自治会】

はじめに、貴自治会名をご記入ください

自治会名	
------	--

■防災意識の状況

Q 1. 自然災害によってもたらされる次の被害について、貴会が被災した場合に当てはめて具体的に想像したことがありますか。関心のあるものを全てあげてください。

(複数回答可)

1. 地震
2. 津波
3. 火災
4. 河川のはん濫
5. 内水はん濫（下水のはん濫）
6. 竜巻、突風、台風など風による災害
7. 原子力災害（放射能）
8. 具体的にイメージしたことがない
9. その他（)
10. わからない



Q 2. 災害が発生した場合の地域での心配な被害は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 地震（建物倒壊、家具転倒、屋外被災、地震火災）
2. 津波
3. 火災
4. 河川のはん濫
5. 内水はん濫（下水のはん濫）
6. 竜巻、突風、台風など風による災害
7. 原子力災害（放射能）
8. 液状化現象
9. 建物の倒壊
10. ガスなどの危険物の爆発
11. ブロック塀や自動販売機の転倒
12. 建物等からの落下物（看板、窓ガラスなど）
13. エレベーターの停止（閉じ込め）
14. 道路や鉄道機関の被害や混乱
15. 駅などでの帰宅困難者の滞留
16. その他（)
17. 特に心配なことはない

次頁に続きます

Q 3. 貴会が行っている取り組みがありましたら、あてはまるものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 防災訓練などを実施した
2. 備蓄を行った
3. ハザードマップの作成
4. 防災に関する会議や勉強会を行った
5. その他()
6. 何もしていない



Q 4. 災害発生後の対応における地域での心配な点は何ですか。あてはまるものを全てあげてください。(複数回答可)

1. 火災などが同時多発したときの消防力
2. 自主防災組織の活動能力
3. 避難所の収容力
4. 避難所の運営
5. 高齢者等の避難行動要支援者の支援体制
6. 負傷者に対する医療・救護体制
7. 治安の維持
8. 食料や飲料水の確保
9. トイレの確保
10. その他()
11. 特に心配なことはない

【避難行動要支援者とは・・・】

要配慮者のうち、生活の基盤が自宅にあり、かつ災害が発生し、又は発生するおそれのある場合に自ら避難することが著しく困難である方をいいます。

【要配慮者とは・・・】

高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦など特に配慮が必要な方をいいます。
以前は「災害時要援護者」と呼んでいましたが、法律の改正に伴い、名称を変更しました。

「防災意識の状況（Q 1 から Q 4 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■避難を予定する避難所

Q5. 貴会として、住民が避難する一時避難地・避難所を決めていますか。決めている場合はその避難所名も書いてください。

1. 決めている(一時避難地名: 避難所:)
2. 住民に任せている
3. 決めていない

Q 6. 市の避難所等の情報について、貴会から住民に回覧板などで周知されていますか。

1. はい
2. いいえ
3. わからない

Q 7. 災害時に行政などが提供する次の情報伝達手段について、知っているものを全てあげてください。
(複数回答可)

1. 避難所案内看板
2. 避難所案内板
3. 防災行政無線（同報系）
4. 緊急地震速報
5. 緊急速報メール
6. FMハナコの放送（82.4MHz）
7. テレビのデータ放送（dボタン）
8. インターネット
9. 市の広報車による案内
10. ハザードマップ



防災行政無線屋外スピーカー

【緊急地震速報とは・・・】

緊急地震速報とは、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予想し、可能な限り素早く知らせる情報のことです。

【緊急速報メールとは・・・】

緊急速報メールとは、緊急地震速報に加えて国や自治体が発信する「災害・避難情報」や「津波警報」などを携帯電話へ発信するサービスのことです。

次頁に続きます

Q 8. 避難所の運営は、避難者自らと自治会の方々が主体となって行っていただくことになります。市が避難所を開設した場合に、貴会ではどのような活動ができると思いますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 避難者の把握（避難者名簿の作成など）
2. 救援物資の配給（食料、飲料水などの配給）
3. 炊き出し
4. 避難所のルール作り（消灯時間の設定、救援物資の配給方法・時間など）
5. 避難世帯ごとの区画割り（地域コミュニティ、プライバシー、女性に配慮など）
6. 関係機関との連絡調整
7. 避難所の秩序保持
8. その他（）
9. どれもない
10. わからない

「避難を予定する避難所（Q 5 から Q 8 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

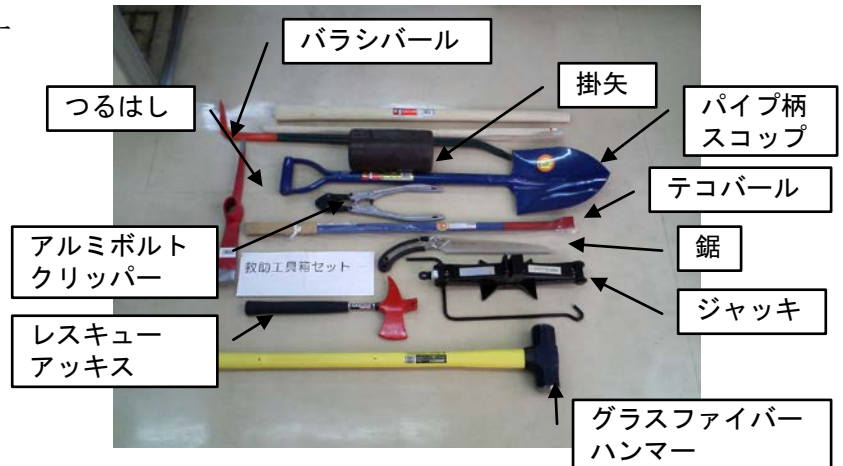
次頁に続きます

■自治会での備蓄状況

Q 9. 貴会では、どのような防災資機材や防災用品を整備・準備していますか。あてはまるものの全てに○をつけてください。（複数回答可）

また、今後、整備・準備を特に重視したい防災資機材や防災用品は何ですか。あてはまるもののうち、5つまで口をつけてください。

- 1 グラスファイバーハンマー
- 2 のこぎり
- 3 バラシバール
- 4 つるはし
- 5 アルミボルトクリッパー
- 6 パイプ柄スコップ
- 7 レスキューアックス
- 8 テコバール
- 9 掛矢
- 10 ジャッキ
- 11 カマセ木（高強度）
- 12 消火器
- 13 消火用可搬ポンプ
- 14 防火衣一式
- 15 防煙マスク
- 16 エンジンカッター
- 17 チェーンソー
- 18 バケツ
- 19 組立て式水槽
- 20 拡声器、メガホン
- 21 無線機、トランシーバー
- 22 はしご
- 23 担架
- 24 ヘルメット



- 25 救急セット、医療品
- 26 照明器具
- 27 発電機
- 28 ビニールシート
- 29 テント
- 30 毛布
- 31 トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ等）
- 32 非常食
- 33 非常用飲料水
- 34 炊き出し用器具
- 35 浄水器・ろ過機
- 36 リヤカー
- 37 その他（ ）
- 38 特には整備・準備していない

「自治会での備蓄状況（Q 9）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■防災訓練の実施状況

Q10. 過去3年間で実施した防災訓練や防災活動として行ったものについて、あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 初期消火訓練
2. 負傷者の救出訓練
3. 応急救護訓練（AED使用訓練など）
4. 防災資機材・防災用品の取扱訓練
5. 一時避難地・避難所までの避難訓練
6. 災害時要援護者支援訓練
7. 避難所宿泊体験訓練
8. 炊き出し訓練
9. 地図等を使った図上訓練
10. 地域内の危険箇所の点検・マップ作成
11. 家庭における家具固定の推進
12. 防災知識の普及（講演会・研修会など）
13. 起震車体験
14. その他（
15. 実施していない



Q11. 防災訓練の実施形態は次のうちどれにあてはまりますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 自治会行事の一部として実施
2. 地域の事業所と合同で実施
3. 学校行事の一部として実施
4. その他（

「防災訓練の実施形態（Q10 からQ11 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

Q12. 防災訓練において住民参加のために行っている工夫や働きかけがありますか。あてはまるものを全てあげてください。（複数回答可）

1. 活動の時間や曜日を工夫している
2. 祭りやイベントとからめた活動をしている
3. PTAなど他の組織の活動と連携している
4. 未参加の住民の参加を勧誘している
5. 若い人が参加しやすい雰囲気になっている
6. 活動に関する広報に力を入れている
7. その他（
8. 特に工夫などは行っていない

次頁に続きます

Q13. 災害時には貴会として会員の安否確認を行う予定ですか。

1. 行う予定である ⇒“1”と答えた方は Q13-1、Q13-2 もお答えください。
2. 検討中である
3. 行う予定はない

Q13-1. 安否確認は誰を対象として行う予定ですか。

1. 自治会の役員
2. 避難行動要支援者
3. その他()

Q13-2. 安否確認はどのような方法で行う予定ですか。

1. 訪問
2. 携帯・固定電話（通話）
3. メール
4. 災害用伝言ダイヤル（171）
5. 災害用伝言板（web171）
6. facebook
7. ツイッター
8. その他()



【災害用伝言ダイヤル（171）とは・・・】

災害用伝言ダイヤルは、地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板のことです。

【災害用伝言板（web171）とは・・・】

災害用伝言板（web171）は、インターネットを利用して被災地の方の安否確認を行う伝言板です。

「防災訓練の実施状況（Q12 からQ13-2 まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

次頁に続きます

■身近な避難行動要支援者の把握状況、支援状況

Q14. 貴会として、災害時に援助が必要となる身体障がい者や高齢者などの避難行動要支援者を把握していますか。（名簿や地図による把握など）

- 1. はい ⇒” 1 ” と答えた方は Q14-1、Q14-3 もお答えください。
- 2. いいえ ⇒” 2 ” と答えた方は Q14-4 もお答えください。
- 3. わからない ⇒” 3 ” と答えた方は Q14-4 もお答えください。

【避難行動要支援者とは・・・】

要配慮者のうち、生活の基盤が自宅にあり、かつ災害が発生し、又は発生するおそれのある場合に自ら避難することが著しく困難である方をいいます。

【要配慮者とは・・・】

高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊産婦など特に配慮が必要な方をいいます。
以前は「災害時要援護者」と呼んでいましたが、法律の改正に伴い、名称を変更しました。

Q14-1. 避難行動要支援者を避難させる場合の方法を具体的に考えていますか。

- 1. はい ⇒” 1 ” と答えた方は Q14-2 もお答えください。
- 2. いいえ
- 3. わからない

Q14-2. 具体的にどのような方法ですか。

- 1. 安否確認を行う担当者を決めている
- 2. 必要な支援を記入するカードを作成している
- 3. 救急医療情報キット（災害・救急用カプセル）の配置を進めている
- 4. 避難訓練のときに避難シミュレーションを行っている
- 5. 災害時要援護者一人ひとりの避難支援プランを作成している
- 6. 災害時要援護者支援のマニュアルを作成している
- 7. その他（



救急医療情報キット

【救急医療情報キット（災害・救急用カプセル）とは・・・】

病気や災害時に救急隊員などが自宅にかけつけた際、迅速かつ適切に救急医療活動が受けられるよう、緊急連絡先やかかりつけ医療機関、持病、服薬内容などの医療情報などを記入した情報シートと診察券、健康保険証の写しなどをキットに入れて、冷蔵庫に保管しておくものです。

Q14-3. 避難行動要支援者の情報は定期的に更新していますか。

- 1. 定期的に更新している ⇒ 1. 年に1回 2. 2年に1回 3. その他
- 2. 不定期に更新している
- 3. 更新していない
- 4. わからない

Q14-4へ

次頁に続きます



Q14-4. 避難行動要支援者を把握していない理由を教えてください。

1. 個人情報保護などにより情報が入らない
2. 自身および介護者が身を守るべき
3. その他()
4. 関心がない

「身近な避難行動要支援者の把握状況、支援状況（Q14 からQ14-4まで）」について、ご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

■防災行政無線について

Q15. 市では、市内40箇所に設置している屋外スピーカーを通じて、災害情報を迅速にお知らせする、防災行政無線を整備しています。このことをご存知ですか。

1. 知っている ⇒ ”1” と答えた方は Q15-1 もお答えください。
2. 知らない



Q15-1. 防災行政無線の音声は聞き取りやすいですか。

1. よく聞き取れている
2. あまり聞こえない
3. ほとんど聞こえない
4. わからない



防災行政無線
屋外スピーカー

「防災行政無線（Q15 からQ15-1まで）」について、平常時の放送時間帯や放送内容などご意見がありましたらご記入ください。

【自由記入欄】

質問はこれで終わりです。空欄になっている箇所はございませんでしょうか。
また、○のつけ忘れ、あるいは○のつけすぎはございませんでしょうか。
恐れ入りますが、もう一度ご確認ください。



※ご協力ありがとうございました。この調査票のみ返信用の封筒に入れて投函してください

(4) 送付用封筒印刷見本



(5) 返信用封筒印刷見本

 料金受取人払郵便	6 6 0 8 7 9 0
尼崎局 承認 7099	尼崎市西長洲町一丁目一番十五号
差出有効期間 平成26年10月 31日まで (切手不要)	国際航業株式会社 西日本事業本部 第一技術部防災グループ 門真市地域防災計画の改定に係るアンケート調査担当 行
アンケート調査票在中	
	

y0910N3

(6) 御礼兼督促用はがき記載内容

地域防災計画の改定に係るアンケートにご協力を

平素から門真市の市政に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、門真市では、地域防災計画の大幅な見直しを行うとともに、市民の皆様の意見を取り入れるために全2,700通で市民の皆様を対象に調査を実施させて頂いております。

先日、郵送で調査票を送付させていただきましたが、ご返送いただきましたでしょうか。すでにご回答くださいました方には、心から御礼申し上げます。

もし、まだお手元にございましたら、大変お忙しいところ恐れ入りますが、早急にご記入の上、同封の返信用封筒にてご返信をお願いいたします。

また、この調査に関してのご質問は、門真市総務部危機管理課までお問い合わせ下さい。

平成 26 年 9 月

門真市総務部危機管理課

担当：森井、谷本

〒571-8585 門真市中町 1-1

電話 06-6902-1231 (代表)